# 取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。

# PRIUS

TOYOTA

| | | |
|---|---|---|
| イラスト目次 | **イラスト**から検索 | |
| 安全・安心のために | お客様に**必ずお読みいただきたいこと**<br>（主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置） | 1 |
| 走行に関する情報表示 | 走行に関する情報を表示する計器類の見方<br>（主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ） | 2 |
| 運転する前に | ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整<br>（主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ） | 3 |
| 運転 | 運転に必要な操作やアドバイス<br>（主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた） | 4 |
| 室内装備・機能 | 室内装備の使い方など<br>（主な項目：エアコン・収納装備の使い方） | 5 |
| お手入れのしかた | 車のお手入れ・メンテナンスの方法<br>（主な項目：内装・外装の手入れ、ランプの交換） | 6 |
| 万一の場合には | 故障したときや、緊急時などの対処<br>（主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処） | 7 |
| 車両情報 | 車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報<br>（主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧） | 8 |
| さくいん | **症状**から検索 | |
| | **音**から検索 | |
| | **アルファベット**で検索 | |
| | **五十音**で検索 | |

知っておいていただきたいこと.....6
本書の見方.....11
検索のしかた.....12
イラスト目次.....14

## 1 安全・安心のために

### 1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....26
安全なドライブのために.....27
シートベルト.....29
SRS エアバッグ.....32
排気ガスに対する注意.....38

### 1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....40
チャイルドシート.....41

### 1-3. コネクティッドサービス
T-Connect エントリー（22）.....55

### 1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴.....72
ハイブリッドシステムの注意.....77

### 1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....83
オートアラーム.....84

## 2 走行に関する情報表示

### 2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯.....88
計器類.....92
マルチインフォメーションディスプレイ.....98
エネルギーモニター／燃費画面.108

## 3 運転する前に

### 3-1. キー
キー.....114
デジタルキー.....117

### 3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア）120
バックドア.....126
スマートエントリー＆スタートシステム.....137

### 3-3. シートの調整
フロントシート.....143
リヤシート.....144
ヘッドレスト.....146

### 3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....149
インナーミラー.....150
デジタルインナーミラー.....151
ドアミラー.....159

### 3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ.....161

### 3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能.....164
マイセッティング.....168

## 4 運転

### 4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....175
荷物を積むときの注意.....182

### 4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ.....183
EV ドライブモード.....187
トランスミッション.....189
方向指示レバー.....193
パーキングブレーキ.....194
ブレーキホールド.....197

### 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ.....200
AHB（オートマチックハイビーム）.....203
リヤフォグランプ.....206

ワイパー＆ウォッシャー..... 207

## 4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 211

## 4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）..... 213

Toyota Safety Sense..... 215

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 222

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 231

LCA（レーンチェンジアシスト）..... 236

LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 240

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 245

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 251

発進遅れ告知機能..... 253

RSA（ロードサインアシスト）.. 254

レーダークルーズコントロール. 257

クルーズコントロール..... 266

ドライバー異常時対応システム. 269

ITS Connect..... 271

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 278

後方車両接近告知..... 284

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）..... 286

後方車両への接近警報..... 290

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）..... 292

安心降車アシスト..... 294

クリアランスソナー..... 298

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 307

RCD（リヤカメラディテクション）..... 312

PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 316

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 321

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 324

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 325

プラスサポート（販売店装着オプション）..... 327

トヨタチームメイト アドバンストパーク..... 332

ドライブモードセレクトスイッチ..... 365

運転を補助する装置..... 367

## 4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 373

寒冷時の運転..... 375

# 5 室内装備・機能

## 5-1. エアコンの使い方

オートエアコン..... 380

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター.. 387

## 5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 390

## 5-3. 収納装備

収納装備一覧..... 393

ラゲージルーム内装備..... 397

## 5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 400

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム..... 410

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは..... 418

# 6 お手入れのしかた

## 6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 422

内装の手入れ..... 426

### 6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 429
ガレージジャッキ..... 431
ウォッシャー液の補充..... 432
タイヤについて..... 433
タイヤ空気圧について..... 435
エアコンフィルターの交換..... 436
駆動用電池冷却用吸入口の清掃. 438
電子キーの電池交換..... 441
ヒューズの点検・交換..... 443
外装のランプの交換..... 446

## 7 万一の場合には

### 7-1. まず初めに

故障したときは..... 448
非常点滅灯（ハザードランプ）... 449
発炎筒..... 449
車両を緊急停止するには..... 450
水没・冠水したときは..... 451

### 7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 453
警告灯がついたときは..... 458
警告メッセージが表示されたときは
..... 464
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 472
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 482
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 489
キーをなくしたときは..... 490
電子キーが正常に働かないときは
..... 491
補機バッテリーがあがったときは
..... 493
オーバーヒートしたときは..... 498
スタックしたときは..... 503

## 8 車両情報

### 8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 506

### 8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧. 512

### 8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 526

## さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 528
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 530
アルファベット順さくいん..... 532
五十音順さくいん..... 534

# 知っておいていただきたいこと

## 本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

## 不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

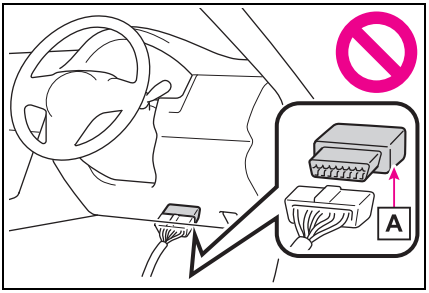
## サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

## 故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。




## 車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

### ■ コンピュータに記録されるデータ ※1

※1 グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数、アクセルペダルの操作状況、ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・カメラの画像）※2

※2 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

### ■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

### ■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます。）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術、商品開発、品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

## T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

## イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

## RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム
● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

## 保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

## プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.327）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

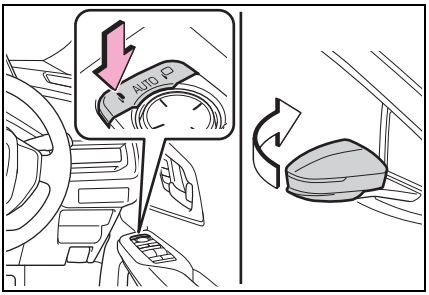
# 本書の見方

**本書で使用している、記号について説明します。**

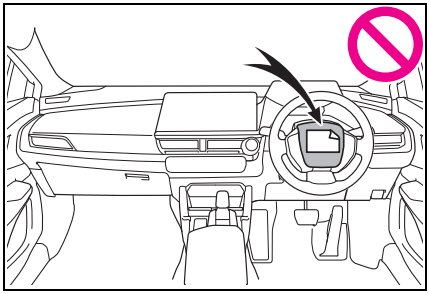
## 本文の記号について

| 記号 | 意味 |
|---|---|
| | 警告：<br>お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。 |
| | 注意：<br>お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。 |
| 1 2 3... | 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。 |
| | 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。 |

## イラスト上の記号について




| 記号 | 意味 |
|---|---|
| | 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。 |
| | フタが開くなど、操作後の作動を示しています。 |



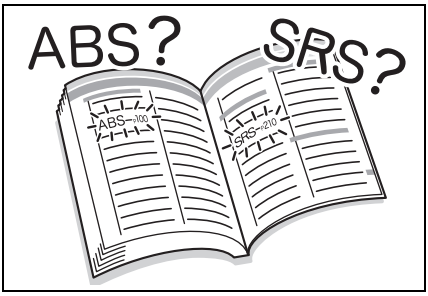
| 記号 | 意味 |
|---|---|
| | 説明の対象となるもの・場所を示しています。 |
| | **してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでください**という意味です。 |

## 検索のしかた

### ■ 名称から探す

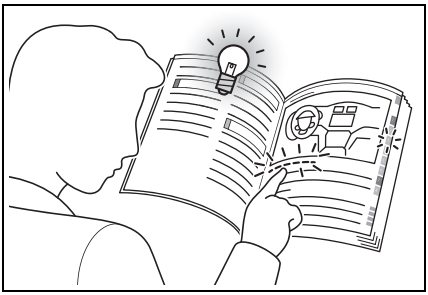
●五十音順さくいん：→P.534

●アルファベット順さくいん：→P.532




### ■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14



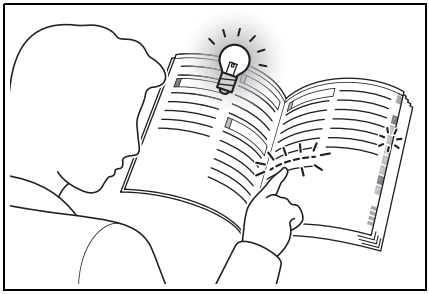
### ■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.528

●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.530

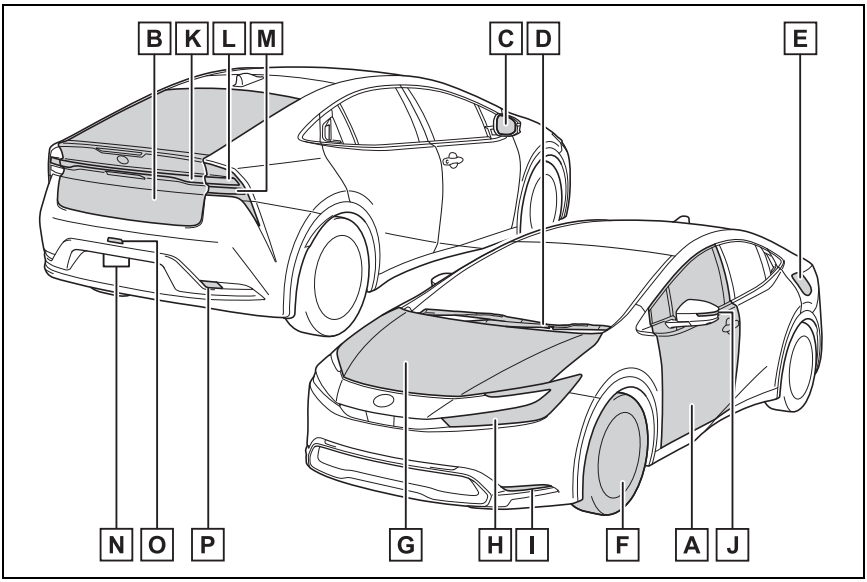
### ■ タイトルから探す

●目次：→P.2



# イラスト目次

## ■外観





**A ドア ..... P.120**

施錠／解錠 ..... P.120, 123

ドアガラスの開閉 ..... P.161

メカニカルキーでの施錠／解錠 ..... P.491

警告メッセージ ..... P.464

**B バックドア ..... P.126**

施錠／解錠 ..... P.127

車内から開ける★ ..... P.129

車外から開ける ..... P.128, 129

警告メッセージ ..... P.464

**C ドアミラー ..... P.159**

鏡面の角度調整 ..... P.159

ミラーの格納 ..... P.160

曇りを取る（ミラーヒーター）★ ..... P.381

**D ワイパー ..... P.207**

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ ..... P.384
洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー装着車）..... P.423

**E 給油口 ..... P.211**
給油方法 ..... P.211
燃料の種類・燃料タンク容量 ..... P.506

**F タイヤ ..... P.433**
サイズ・空気圧 ..... P.510
冬用タイヤ・タイヤチェーン ..... P.375
点検・ローテーション ..... P.433
パンク時の対処 ..... P.472, 482

**G ボンネット ..... P.429**
開け方 ..... P.429
エンジンオイル ..... P.507
オーバーヒート時の対処 ..... P.498
警告メッセージ ..... P.464

**走行に関わる外装のランプ**
（交換について：P.446）

**H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・フロント方向指示灯 ..... P.193, 200**

**I 薄暮灯★ ..... P.200**

**J サイド方向指示灯 ..... P.193**

**K 尾灯★ ..... P.200**

**L 尾灯・制動灯 ..... P.200**

**M リヤ方向指示灯 ..... P.193**

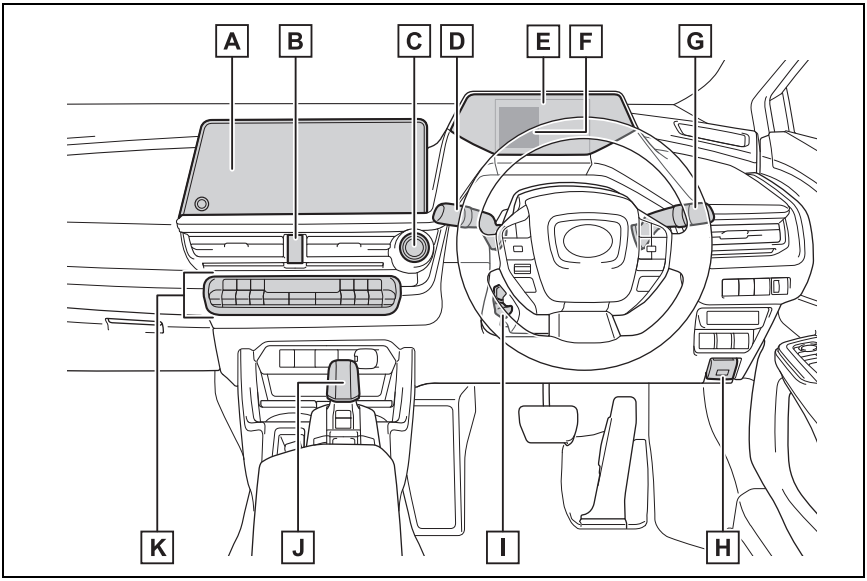
**N 番号灯 ..... P.200**

**O リヤフォグランプ★ ..... P.206**

**P 後退灯**
シフトポジションを R にする ..... P.189

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■インストルメントパネル





**A オーディオ ※**

音楽を聴く ※

電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

**B 非常点滅灯スイッチ ..... P.449**

**C パワースイッチ ..... P.183**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ ..... P.183

ハイブリッドシステムの緊急停止 ..... P.450

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 ..... P.489

警告メッセージ ..... P.464

**D ワイパー＆ウォッシャースイッチ ..... P.207**

冬季の注意 ..... P.376

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ ..... P.384

洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー装着車） ..... P.423

ウォッシャー液の補充 ..... P.432

**E メーター ..... P.92**
見方・明るさの調整 ..... P.92, 96
警告灯／表示灯 ..... P.88
警告灯点灯時の対処 ..... P.458

**F マルチインフォメーションディスプレイ ..... P.98**
表示内容 ..... P.98
エネルギーモニター ..... P.108
警告メッセージ表示時の対処 ..... P.464

**G 方向指示レバー ..... P.193**
**ランプスイッチ ..... P.200**
ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・尾灯・番号灯 ..... P.200
リヤフォグランプ★ ..... P.206

**H ボンネット解除レバー ..... P.429**

**I ハンドル位置調整レバー ..... P.149**

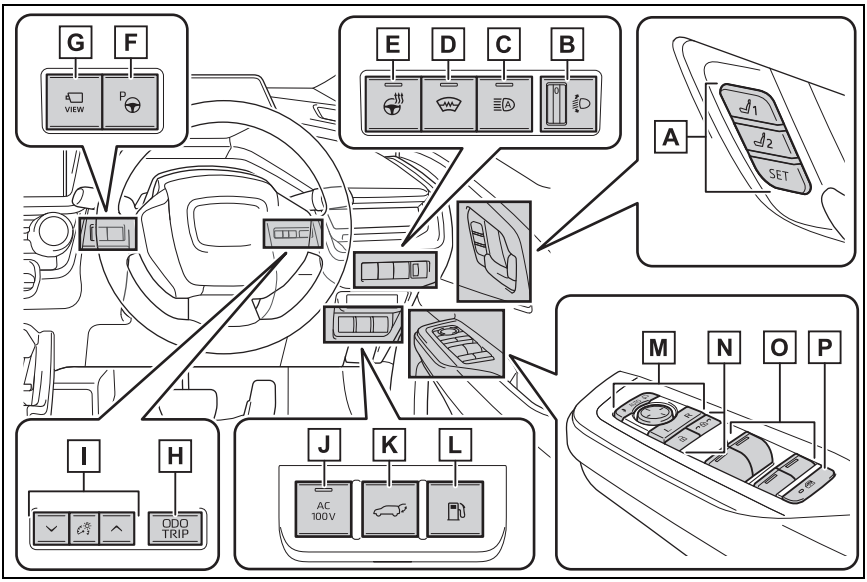
**J シフトレバー ..... P.189**
シフトポジションの切りかえ ..... P.190
けん引時の注意 ..... P.453

**K オートエアコン ..... P.380**
操作方法 ..... P.380
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） .. P.381
シートヒーター★ ..... P.388
シートベンチレーター★ ..... P.388

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

## ■スイッチ類





A ポジションメモリースイッチ★ ..... P.165

B 手動光軸調整ダイヤル ..... P.203

C オートマチックハイビームスイッチ ..... P.203

D ウインドシールドデアイサースイッチ★ ..... P.384

E ステアリングヒータースイッチ★ ..... P.388

F アドバンストパークメインスイッチ★ ..... P.340

G カメラスイッチ★ ※

H ODO TRIP スイッチ ..... P.96

I メーター照度調整スイッチ ..... P.96

J AC100V スイッチ★ ..... P.410

K パワーバックドアスイッチ★ ..... P.129

L 給油扉オープナースイッチ ..... P.211

M ドアミラースイッチ ..... P.159

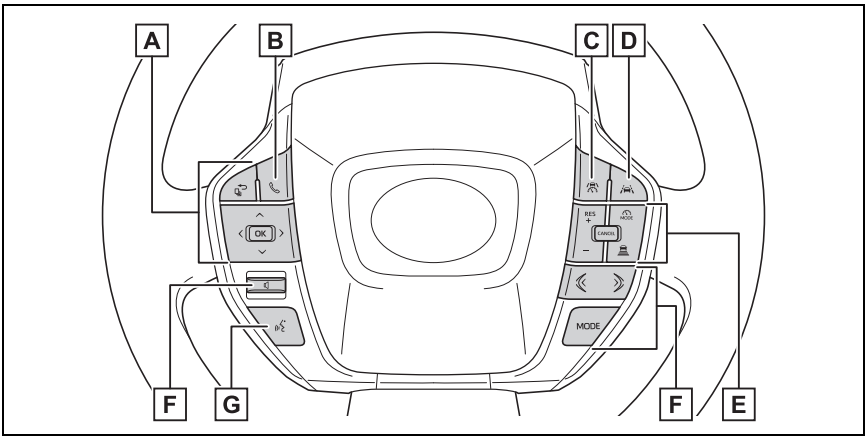
N ドアロックスイッチ ..... P.123

O パワーウインドウスイッチ ..... P.161

P ウインドウロックスイッチ ..... P.163

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。




A メーター操作スイッチ ..... P.98

B 電話スイッチ ※ ..... P.409

C 走行支援スイッチ ..... P.260, 266

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ ..... P.231

E クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール ..... P.257

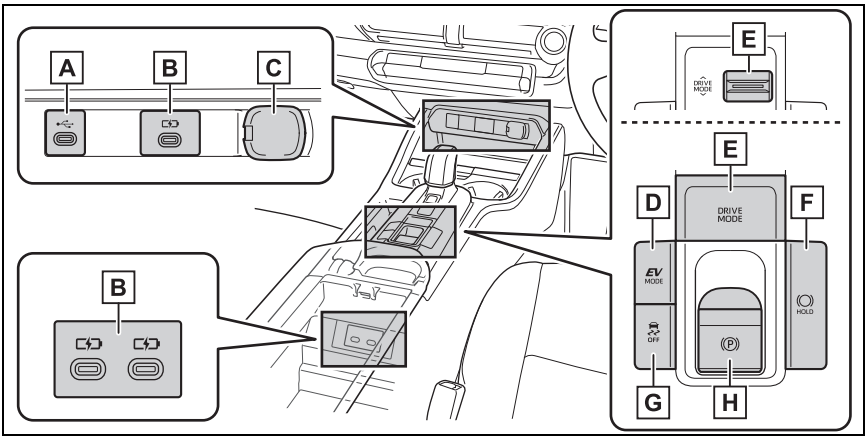
クルーズコントロール ..... P.266

F オーディオスイッチ ※ ..... P.409

G トークスイッチ★ ※

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マルチメディア装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。




A USB 入力端子★ ※

B 充電用 USB Type-C 端子 ..... P.401

C アクセサリーソケット ..... P.400

D EV ドライブモードスイッチ ..... P.187

E ドライブモードセレクトスイッチ ..... P.365

F ブレーキホールドスイッチ ..... P.197

G VSC OFF スイッチ ..... P.368

H パーキングブレーキスイッチ ..... P.194

かける・解除する ..... P.194

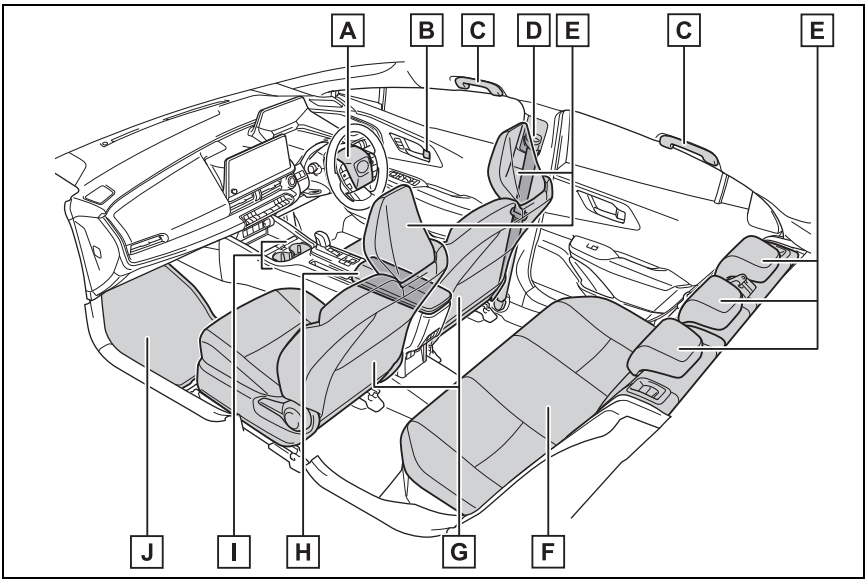
冬季の注意 ..... P.376

警告ブザー・警告メッセージ ..... P.196, 195, 458

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

## ■室内





A SRS エアバッグ ..... P.32

B ロックレバー ..... P.123

C アシストグリップ ..... P.407

D シートベルト ..... P.29

E ヘッドレスト ..... P.146

F リヤシート ..... P.144

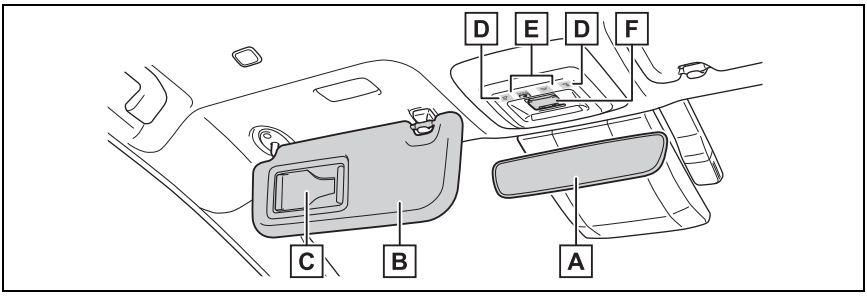
G フロントシート ..... P.143

H コンソールボックス ..... P.394

I カップホルダー ..... P.395

J フロアマット ..... P.26

## ■天井





A インナーミラー★ ..... P.150

デジタルインナーミラー★ ..... P.151

B サンバイザー ※1 ..... P.400

C バニティミラー ..... P.400

D パーソナルランプ ※2 ..... P.391

E インテリアランプ ..... P.391

F ヘルプネットボタン ※3 ..... P.58


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.43）

※2図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3マルチメディア装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

# 安全・安心のために

～必ずお読みください～

1


## 1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に ..... 26

安全なドライブのために ..... 27

シートベルト ..... 29

SRS エアバッグ ..... 32

排気ガスに対する注意 ..... 38

## 1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは ..... 40

チャイルドシート ..... 41

## 1-3. コネクティッドサービス

T-Connect エントリー（22）... 55

## 1-4. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 ..... 72

ハイブリッドシステムの注意 ..... 77

## 1-5. 盗難防止装置

イモビライザーシステム ..... 83

オートアラーム ..... 84

## 運転する前に

**お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。**

### 点検整備

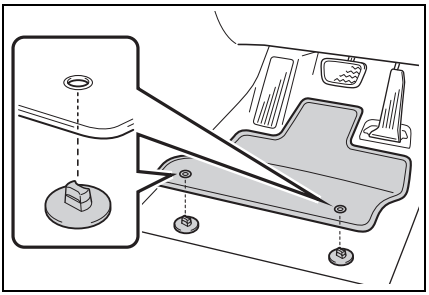
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

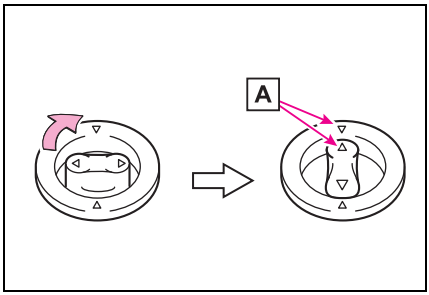
### フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する




△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

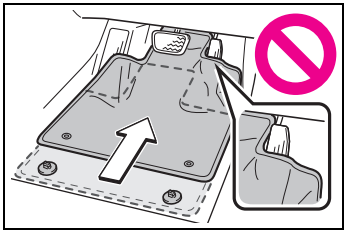
**■運転席にフロアマットを敷くとき**

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

**警告**

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

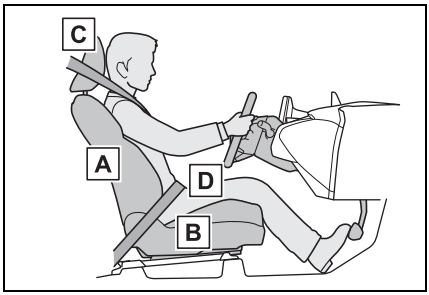


●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

## 安全なドライブのために

**安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。**

### 正しい運転姿勢をとるには




A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.143）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.143）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.146）

D シートベルトを正しく着用する（→P.30）

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

## シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.30）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.41）

## ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）★・ドアミラーを正しく調整してください。（→P.150, 151, 159）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## シートベルト

**走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。**

### ⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■シートベルトの着用について**

●全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる

●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る

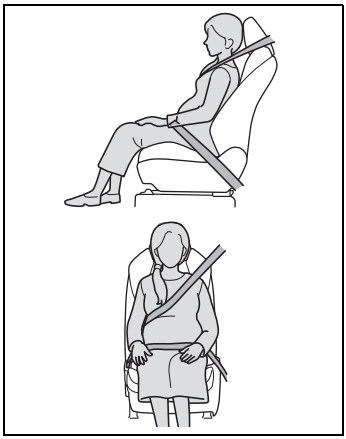
●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

**■妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

**■お子さまを乗せるとき**

→P.51

**■シートベルトの損傷・故障について**

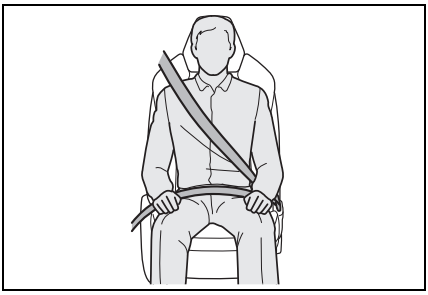
●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

**警告**

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

## 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

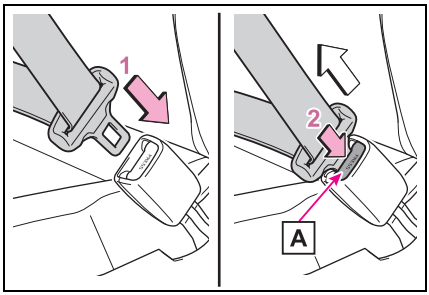
**知識**

**■お子さまのシートベルトの使い方**

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.41)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

## 着け方・はずし方




1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

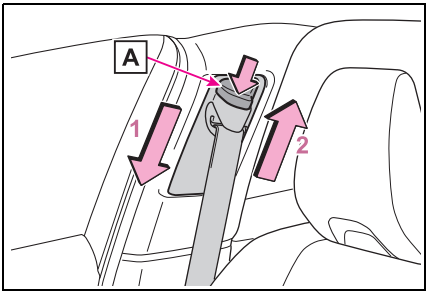
2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押す

**知識**

**■シートベルトロックの解除方法**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

## シートベルトの高さ調節（フロント席）




1 解除ボタンA を押しながら、アジャスターを下げる

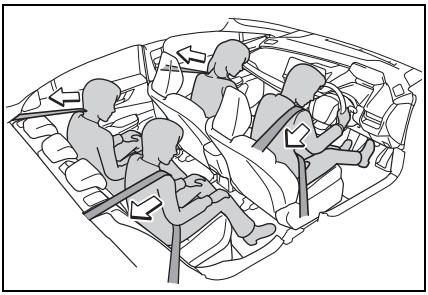
2 解除ボタンA を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

## シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



### 知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

### 警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

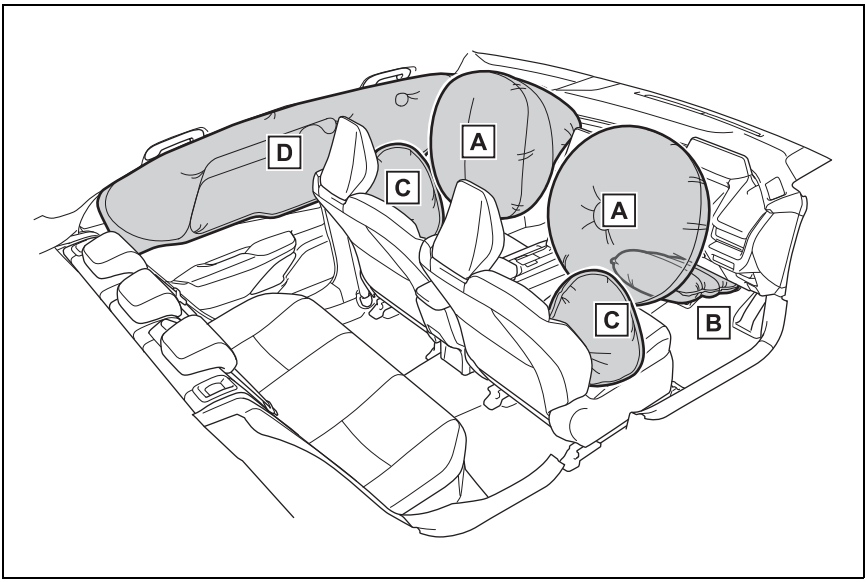
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# SRS エアバッグ

**SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。**

## SRS エアバッグシステム

### ■ SRS エアバッグの配置




A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ
運転者の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.81）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.368）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.390）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.449）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱書」を参照してください。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS ニーエアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・シートベルトプリテンショナー

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

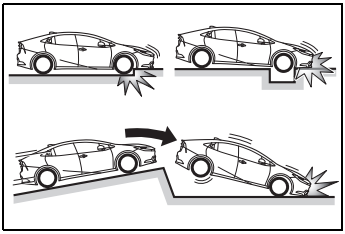
■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

●車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

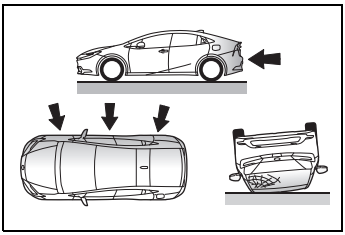
■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS ニーエアバッグ
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

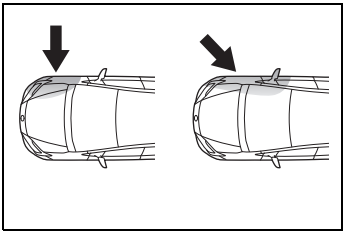


■SRS エアバッグが作動しないとき

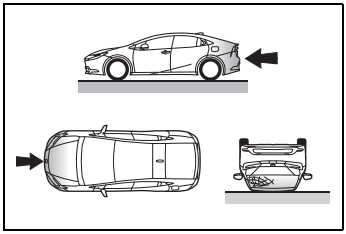
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



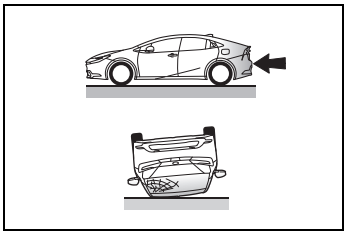
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

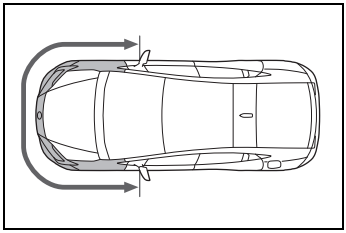


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

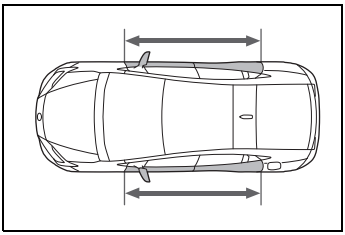
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ

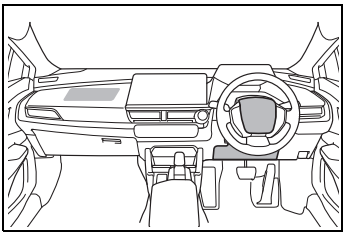


●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

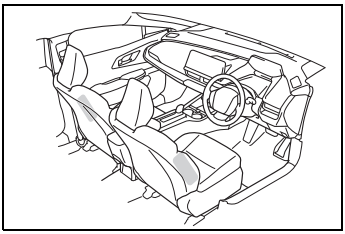
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



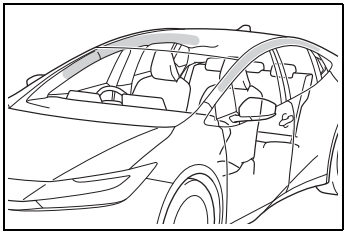
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



**警告**

**■SRS エアバッグについて**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

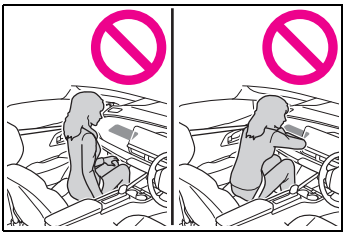
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.41)

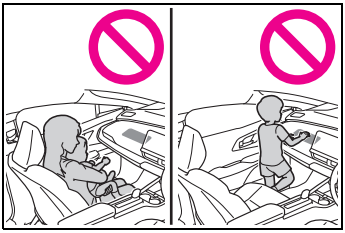
**警告**

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



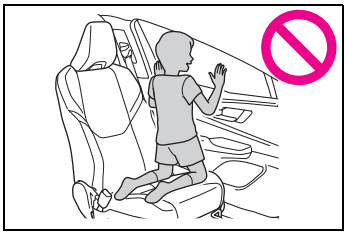
●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

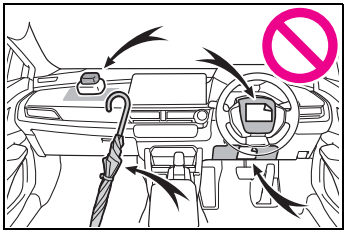


●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

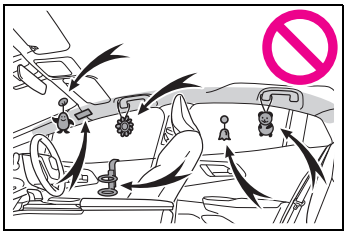
●ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く →P.474）



●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

**警告**

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

**■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
  - ハンドル
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - シート
  - シート表皮
  - フロントピラー
  - センターピラー
  - リヤピラー
  - ルーフサイドレール
  - フロントドアパネル
  - フロントドアトリム
  - フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
  - フロントフェンダー
  - フロントバンパー
  - 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
  - グリルガード
  - 除雪装置
  - ウインチ
- サスペンションの改造

**警告**

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

## 排気ガスに対する注意

**排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。**

**警告**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■走行中の留意事項**

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

**■駐車するとき**

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。

●長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**警告**

**■排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

## お子さまを乗せるときは

**お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。**

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.41）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.125）・ウインドウロックスイッチ（→P.163）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

**警告**

**■お子さまを乗せるとき**

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.41）

## チャイルドシート

**ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。**

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
  トヨタ販売店で購入することができます。

### 目次

知っておいていただきたいこと：P.41

チャイルドシートを使用するときは：P.42

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.45

チャイルドシートの取り付け方法：P.49

・ シートベルトで固定する：P.50

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.52

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.53

### 知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  （→P.45）

**警告**

**■お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

**警告**

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

**■チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.45）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

## チャイルドシートを使用するときは

### ■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

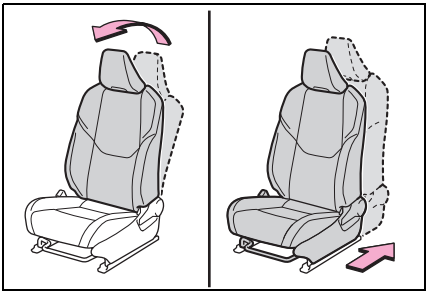
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



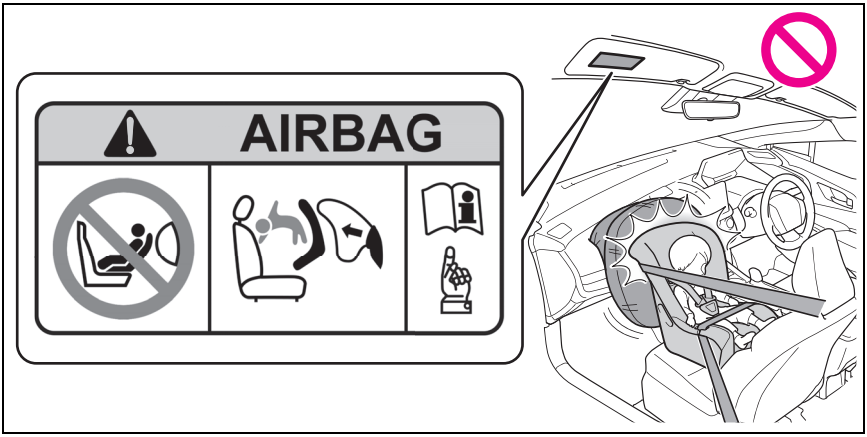
**警告**

**■チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

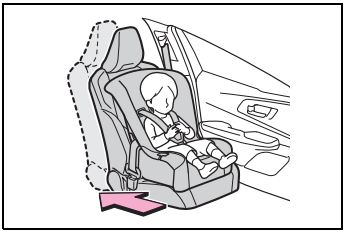
● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

**警告**

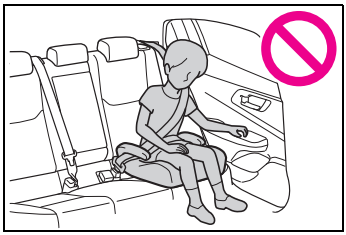



**警告**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

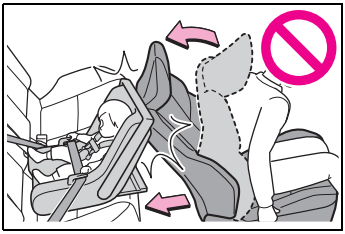


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

**警告**

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

## シート位置別チャイルドシートの適合性について

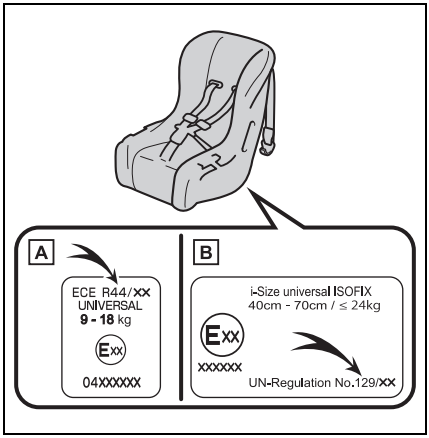
### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.46）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.48）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。




法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク※2

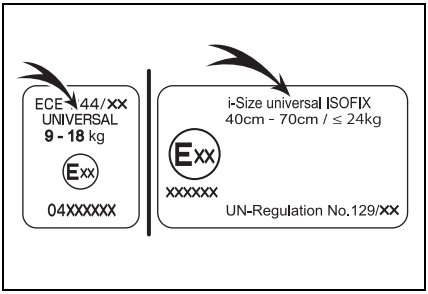
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク※2

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

**2** チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

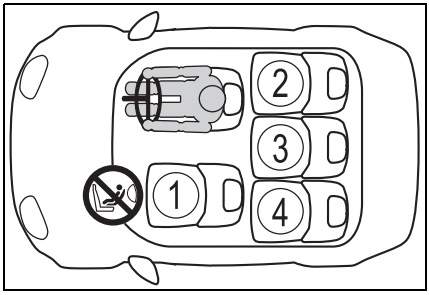
・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」




※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

## ■ シート位置別チャイルドシートの適合性




| | |
|---|---|
| 1<br>※1, 2, 3 | UF |
| 2<br>※3 | U L |
| 3<br>※3 | U |
| 4<br>※3 | U L |

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.48）に記載されたチャイルドシートに適しています。

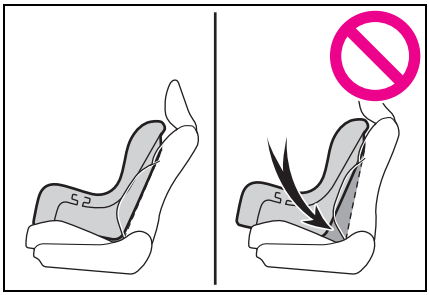
i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

## ■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

| 着座位置 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| シート位置の番号 | ① | ② | ③ | ④ |
| ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無） | 有<br>前向きのみ | 有 | 有 | 有 |
| アイサイズ着座位置（有／無） | 無 | 有 | 無 | 有 |
| 搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2） | × | × | × | × |
| 搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3） | × | R1, R2X, R2, R3 | × | R1, R2X, R2, R3 |
| 搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3） | × | F2X, F2, F3 | × | F2X, F2, F3 |
| 搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3） | × | B2, B3 | × | B2, B3 |

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができ

ます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

| 治具 | 使用の向き・形状・大きさ |
|---|---|
| F3 | 全高前向きチャイルドシート |
| F2 | 低型前向きチャイルドシート |
| F2X | 低型前向きチャイルドシート |
| R3 | 大型うしろ向きチャイルドシート |
| R2 | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R2X | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R1 | うしろ向きチャイルドシート |
| L1 | 左向き寝台式チャイルドシート |
| L2 | 右向き寝台式チャイルドシート |
| B2 | ジュニアシート |
| B3 | ジュニアシート |

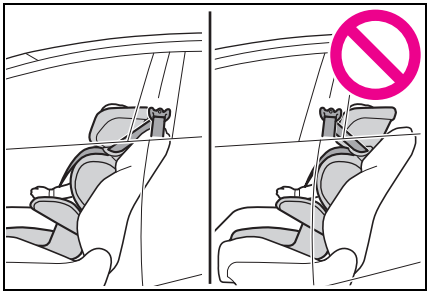
## ■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

| 推奨チャイルドシート | 適応範囲 | 搭載する向き | 着座位置 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ |
| トヨタ純正 NEO G-Child baby | 体重：～ 13kg | 後向き | × | ○ | × | ○ |
| | 体重：9 ～ 18kg | 前向き | × | ○ | × | ○ |
| トヨタ純正 NEO G-Child i-Size | 身長：～ 83cm（体重：～ 13kg） | 後向き | × | ○ | × | ○ |
| | 月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg） | 前向き | × | ○ | × | ○ |
| トヨタ純正 ジュニアシート | 体重：15 ～ 36kg | 前向きのみ | × | ○ | × | ○ |

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着すること

を確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

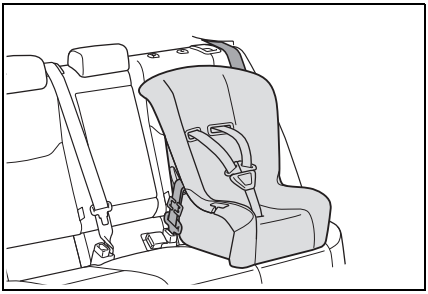
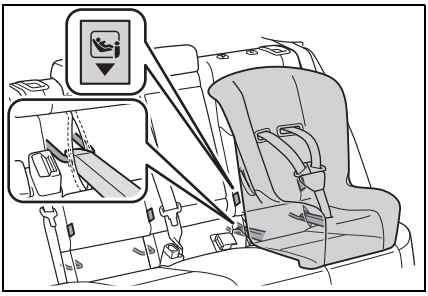
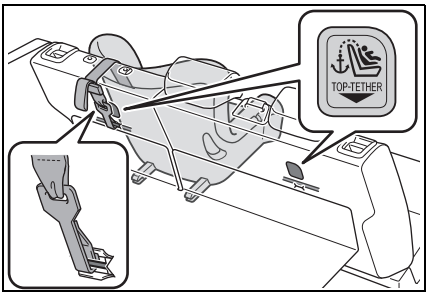
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

## チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

| 固定方法 | | ページ |
|---|---|---|
| シートベルトで固定する |  | P.50 |
| ISOFIX ロアアンカレッジで固定する |  | P.52 |
| テザーベルトを固定する |  | P.53 |

## チャイルドシートをシートベルトで固定する

### ■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.45, 46）

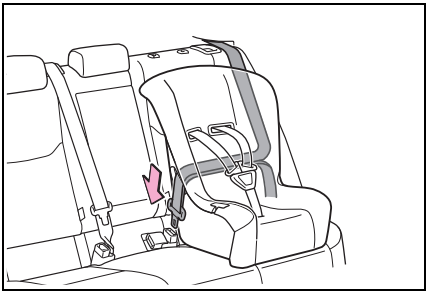
1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.42）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合

は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.146）

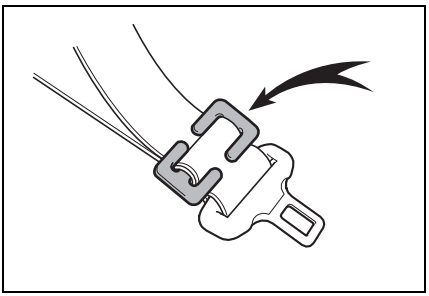
**3** チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



**4** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



**5** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.51）

## ■ チャイルドシートの取りはずし

### バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

**⚠ 警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

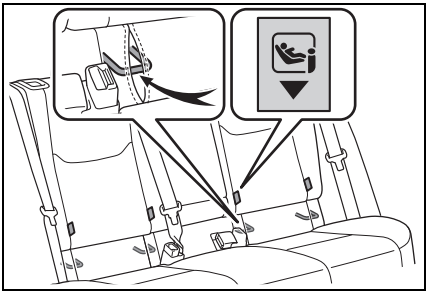
**警告**

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

### ■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



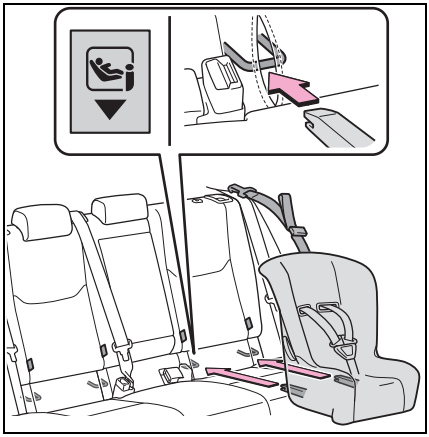
### ■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.45, 46）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.146）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.51）

**警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

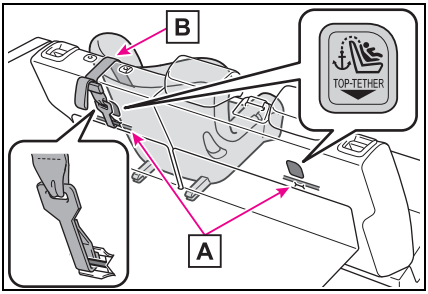
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## トップテザーアンカレッジを使用する

### ■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



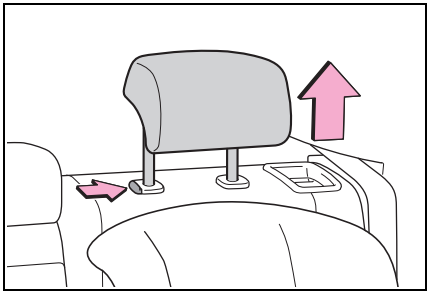

A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

### ■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

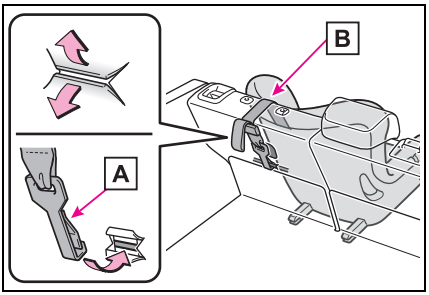
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください（→P.146）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.51）
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してくだ

さい。




A フック

B テザーベルト

**警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

## T-Connect エントリー（22）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ここでは、T-Connect エントリー（22）について記載しています。**
**マルチメディア装着車は、「マルチメディア取扱書」を参照してください。**

**T-Connect を利用するには、別途利用手続きをしていただく必要があります。**

### T-Connect について

T-Connect は DCM （Data Communication Module）を介してお車がお客様と常につながることにより、安心・安全・快適なカーライフをサポートするトヨタ専用のコネクティッドサービスです。

#### ■ T-Connect サービス

ご利用可能な T-Connect サービスは、T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご覧ください。

### 安全にご利用するため注意すること

T-Connect をご利用になるときは、次の注意事項を必ずお守りの上、正しくお使いください。

#### ■ 消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。寿命による交換時期は、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯（赤点滅）でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

**⚠ 警告**

**■T-Connect をご利用になるときは**

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

### 通信機器について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

#### ■ 通信モジュール（DCM）について

車両に装着した通信モジュール（DCM）で通信を行います。ご利用には T-Connect 利用申込みが必要です。通信費は T-Connect 利用料金に含まれます。利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

リコール情報などのお車に関する大切なお知らせをトヨタまたは

トヨタ販売店からリモートメンテナンスメールによりお送りするため、T-Connect の利用契約の有無にかかわらず、通信を行う場合があります。

## 通信モジュール（DCM）について

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、ルーフ後部とインストルメントパネルに設置されています。

**警告**

**■ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

## データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。
次の点をご理解の上、正しくお使いください。

- 通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
  サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
  なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。
- 次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。
  - ・トンネルの中にいるとき
  - ・地下駐車場にいるとき
  - ・山奥などの通信圏外にいるとき
  - ・回線が混雑しているなど、発信規制中のとき
- 通信モジュール（DCM）の回線維持期間経過後に T-Connect を新たにご契約いただく場合、通信モジュール（DCM）の回線を接続するための費用が必要になることがありますので、あらかじめご了承ください。
- この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
  （その場合には事前にご連絡します）

**知識**

**■データ取得について**

T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

## T-Connect を契約するには

T-Connect をご利用いただくには T-Connect 契約が必要となります。

### ■ 新規契約を行うには

- 新車購入時：購入時にトヨタ販

売店でお申し込みできます。初度登録から 5 年間無料でご利用いただけます。※

デジタルキー★は、初度登録から 3 年間無料でご利用いただけます。

※ 初度登録日より 60ヵ月点検（車検）月の末日までが無料期間です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 中古車購入時：トヨタ販売店、または T-Connect の WEB 申し込みサイト（https://tconnect.jp/webregist_tsc/）でお申し込みできます。

### ■ 継続契約を行うには

契約の更新月が近付くとトヨタコネクティッド株式会社よりお知らせが届きます。そちらに記載の手続き方法に従って契約の更新を行うことができます。

## T-Connect を利用するには

ご利用の際には各サービスの使用方法、留意事項を確認の上ご利用ください。

### ■ ご利用の前に

ヘルプネットの手動保守点検を行ってください。手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

### ■ 各サービスを使うには

● ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）（→P.58）

● デジタルキー★ （→P.118）

● リモートメンテナンスサービス （→P.70）

上記以外のサービスの使用方法はスマートフォンアプリのヘルプ、もしくは T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご確認ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ WEB サイト

● トヨタ公式サイト

T-Connect サービスの概要などを確認することができます。

・ URL：https://toyota.jp/tconnectservice/

・ QR コード：

● My TOYOTA サイト

T-Connect の契約情報の確認、オプションの契約などを行うことができます。

・ URL：https://toyota.jp/member/mytoyota/

・ QR コード：

■ スマートフォンアプリ

● My TOYOTA+ アプリ

お車の燃料残量や走行距離の確認、マイカーサーチの各サービスなどを利用することができます。

・URL：https://toyota.jp/spapp/mytoyota/qrlink/

・QR コード：

● デジタルキーアプリ

オプションサービスのデジタルキーをご利用いただけます。（→P.117）

## T-Connect を解約する

お車を手放す場合など、T-Connect を解約する際は WEB サイトまたは T-Connect サポートセンターから行うことができます。

■ WEB サイトから解約するには

My TOYOTA サイトにログインして解約手続きをしてください。

URL：https://toyota.jp/member/mytoyota/

■ T-Connect サポートセンターから解約するには

T-Connect サポートセンターに連絡して解約してください。

全国共通・フリーコール：

0800-500-6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

必ず契約者本人から、次の情報を準備して、ご連絡ください。

● 自動車検査証（車検証）

## ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話接続し、車内からの通報救援要請を補助支援するシステムです。

さらに、あおり運転などのトラブルのときでも、警察へ状況に応じて通報します。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

知識

●いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。

●事故発生時以外でも、エアバッグが作動したときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通

報を終了してください。

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、サービスの利用契約をしていない状態でも緊急通報可能状態として表示することがあります。

⚠注意

●ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

## サービス開始と解約について

ヘルプネットは、T-Connect を申込みの上、ヘルプネットの手動保守点検を正常に完了してからご利用いただけます。手動保守点検は必ず契約者本人で行うようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect 利用契約を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

## 緊急通報について

緊急通報は、利用開始操作の完了後に利用できる機能です。

### ■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

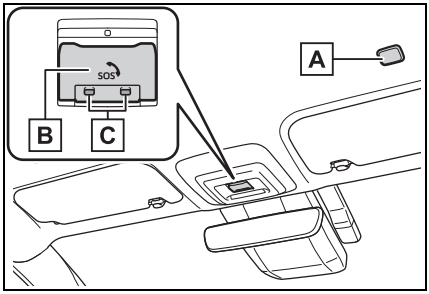
### ■ ドライバー異常時対応システム作動による自動通報

ドライバー異常時対応システム作動によってお車が自動停車すると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

### ■ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

## 各部の名称とはたらき




A マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

B ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするとき、またはヘルプネットの利用開始操作をするときに押し

ます。

C 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。
（→P.66）

**警告**

**■ヘルプネットを安全にご利用いただくために**

●安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。

●本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

●次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・携帯電話サービスエリア外で使用している

・関連機器（ヘルプネットスイッチパネル・マイク・スピーカー・通信モジュール・アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している

・T-Connect が未契約、または契約期限が切れている

・手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

●緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

**警告**

- 緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

**注意**

- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 次の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：－ 20 ℃～＋ 60 ℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

## ヘルプネットをお使いになる前に

ヘルプネットは、手動保守点検を実施してからご利用ください。

1 手動保守点検を行い、次の点を確かめる

- 通信が正常に始まる
- 通話ができる
- 通報位置が正しい（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

2 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確かめる

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないときは、再度、手動保守点検をしてください。

**警告**

●次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。

・通信が始まらない

・通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う

・通話できない

●手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

## 緊急通報をする

### ■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

お客様からの応答がない場合には意識不明と判断し、オペレーターがお客様に代わって速やかに救急車の手配を要請します。

4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

5 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

6 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

7 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

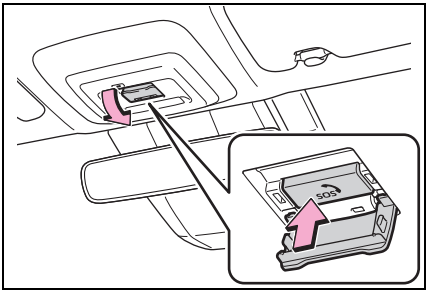
### ■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

パワースイッチが ACC または ON のとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確認する

2 ヘルプネットスイッチパネルを開き、ヘルプネットボタンを押す




3 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

4 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

5 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、ヘルプネットセンターのオペレーターは、通報者の要請に基づき警察、消防などに接続します。通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

6 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

7 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

8 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

9 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

**警告**

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。
- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

**警告**

・携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。

・緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

**知識**

●緊急通報中に音声案内が流れているあいだは、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。

●誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。ただし、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

## ヘルプネットの保守点検をする

### ■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

（株）日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

### ■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

● 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）

● ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

**1** できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

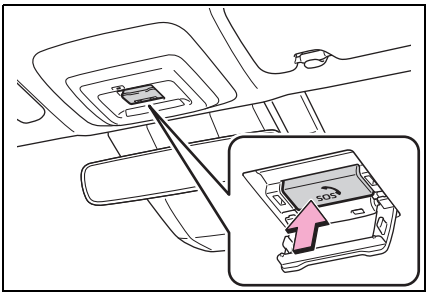
**2** ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く

**3** パワースイッチを OFF にする

**4** パワースイッチを ACC または ON にする

**5** ヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯がともに点灯し

たら、すぐにヘルプネットボタンを約 10 秒間押し続ける




**6** ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

**7** ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、次の確認が実施される

- 車両の現在地
- 手動保守点検をしていること
- ヘルプネットセンターに会員登録されていること

**8** データ通信完了後、通話モードになる

**9** マイクを通して、ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。
「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。

**10** 通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯が点滅を終了します。

**警告**

- 手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度手動保守点検をやりなおしてください。
- 手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

**注意**

- 自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

・手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

注意

・手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやりなおしてください。携帯電話サービスエリア内でやりなおしても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

## ヘルプネットスイッチパネルの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯でお知らせします。

| 表示灯 | | 動作状態 | 対処法 |
|---|---|---|---|
| 緑 | 赤 | | |
| 点灯 | 消灯 | 動作中のとき<br>(携帯電話サービスエリア内) | 緊急通報を利用できます。 |
| 消灯 | 点灯 | 動作中のとき<br>(携帯電話サービスエリア外) | 緊急通報できません。携帯電話サービスエリア内に移動して使用してください。 |
| | | 関連機器に異常があるとき<br>(携帯電話サービスエリア内) | 携帯電話サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。<br>トヨタ販売店にご相談ください。 |
| 点滅 | 消灯 | 緊急通報中のとき | 緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。 |
| | | 手動保守点検中のとき | 手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。 |

| 表示灯 | | 動作状態 | 対処法 |
|---|---|---|---|
| 緑 | 赤 | | |
| 消灯 | 点滅 | 緊急通報に失敗したとき | 約 10 秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。（→P.62） |
| | | 自動保守点検を何回も連続して失敗したとき（携帯電話サービスエリア外） | 携帯電話サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。（→P.64）それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。 |
| | | 手動保守点検に失敗したとき | 約 10 秒後に表示が変化します。携帯電話サービスエリア内に移動してから、再試行してください。（→P.64） |
| | | 関連機器に異常があるとき | いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。 |
| | | ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき | トヨタ販売店で交換してください。 |
| 点灯 | 点灯 | パワースイッチを ON にしたとき（約 5 秒間） | 20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。 |
| | | 関連機器に異常があるとき | |
| 消灯 | 消灯 | ヘルプネットサービスの契約が切れているとき | T-Connect サービスを契約してください。（→P.57） |
| | | 関連機器が動作していないとき | パワースイッチを ACC または ON にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。 |
| | | 手動保守点検をしていないとき | 手動保守点検を行います。（→P.64） |

**警告**

●表示灯が次のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

・ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける

・ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く

・携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く

・ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります

## 緊急通報できない場合について

次のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出ることがあります。

### ■ T-Connect 利用契約の不成立または消滅

● 未契約のとき

● 契約が締結できないとき

● 契約の解除が実施されたとき

● 契約が終了したとき

### ■ ヘルプネット利用登録の不成立

● 未登録の場合

● 手動保守点検※ を完了していない場合

● 登録情報が更新されていない場合

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

### ■ 関連機器の異常による通信不能

● 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル・マイク・スピーカー・通信モジュール・アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障

● 補機バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など

● 車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

### ■ 緊急通報センターシステムの位置評定エラー

GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われないまたは誤差が大きいとき

ヘルプネットは、GPS から位置情報を取得しています。

### ■ ヘルプネットセンター／T-Connect センターシステムの異常による通信不能

● センターシステムの故障など

● センターの火災などによる、センターシステムの損傷

■ **ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能**

● 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア外に、登録車両が位置するとき

● 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき

● 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき

● 本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき

● 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

■ **緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止**

● センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき

● 大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

■ **その他の要因**

手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

## 故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

| 症状 | 考えられること | 処置 |
|---|---|---|
| ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しない | 手動保守点検※が正常に完了していない | 手動保守点検※をする（→P.64） |

| 症状 | 考えられること | 処置 |
|---|---|---|
| 緊急通報できない | パワースイッチを ACC または ON にした直後の点検中ではありませんか | 緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。（→P.62） |
| | 電波状態は良好ですか | 電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。（→P.64） |
| | 携帯電話のサービスエリア外で使用していませんか | |
| | 携帯電話回線が混雑している | しばらくしてから、または電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。（→P.64） |
| パワースイッチを OFF にしても、ヘルプネットスイッチパネルの赤または緑の表示灯が点滅し続けた | 緊急通報中ではありませんか | 「緊急通報を終了しました」という音声案内が流れてから約 60 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。 |
| ハイブリッドシステム始動後、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯が両方共に点灯しない | T-Connect 利用契約がされていますか | T-Connect の利用契約をする（→P.56） |

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

**⚠ 警告**

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

## リモートメンテナンスサービスについて

お車の状態に関する情報を T-Connect センターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

車両に OBD(On-Board Diagnostic) Ⅱ通信を行う機器を接続している場合、正しくサービスが行えない場合があります。

### ■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、My TOYOTA サイトまたは専用のスマホアプリにメールでご連絡します。また、電話から、その場でトヨタ販売店への入庫予約を行うことができます。

### ■ e ケア

● ヘルスチェックレポート ※

エンジンオイル量、電子キーのバッテリー等について My TOYOTA+ アプリまたは My TOYOTA サイトで確認できます。また、トヨタ販売店からはお車か

ら発信される情報をもとに最適なメンテナンスのアドバイスが受けられます。

※ サービスのご利用には、リモートメンテナンス店の登録が必要です。登録したリモートメンテナンス店を変更する場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

## 通信モジュール（DCM）についての情報

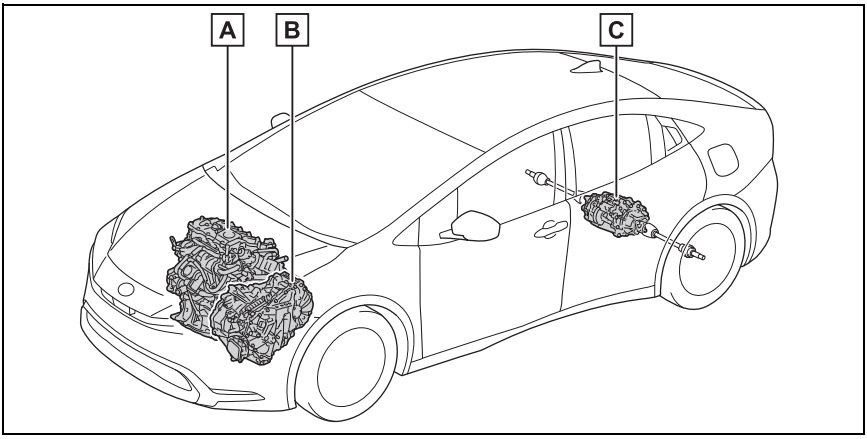
・通信モジュール(DCM)は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。
・通信モジュール(DCM)を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

# ハイブリッドシステムの特徴

**ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。**

## システムの構成部品

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



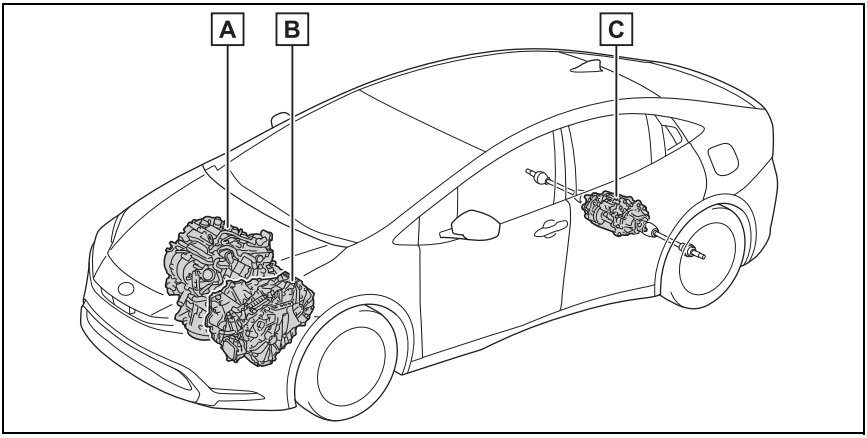

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

▶ M20A-FXS エンジン搭載車




イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

■ **停車時・発進時・低速走行時**

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P.74）

■ **通常走行時**

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ **急加速時**

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ **減速時・制動時（回生ブレーキ）**

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

■**回生ブレーキについて**

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトポジションが D または B で走行

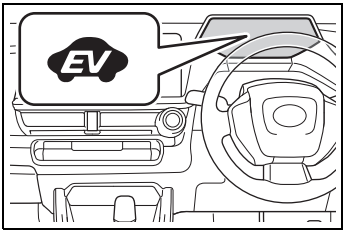
中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

EV インジケーターの作動／非作動を設定できます。（→P.102）




■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

※状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.495

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。
安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●車両リヤシート下から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■**メンテナンスや修理・廃車について**

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

## 車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。

知識

■**車両接近通報装置について**

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■**マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検してください」が表示されたとき**

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

## 先読みエコドライブ（ナビゲーションシステム装着車）※

※ メーカーオプション

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

● T-Connect ナビゲーションシステム装着車：

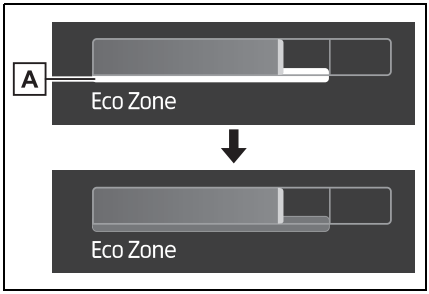
先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

● エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット装着車：

先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ **先読み減速支援**

● ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.99）の「アクセル操作の目安」（A）の表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。




● アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

■ **先読み SOC（駆動用電池残量）制御**

ナビゲーションシステムでのルー

ト案内中、電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

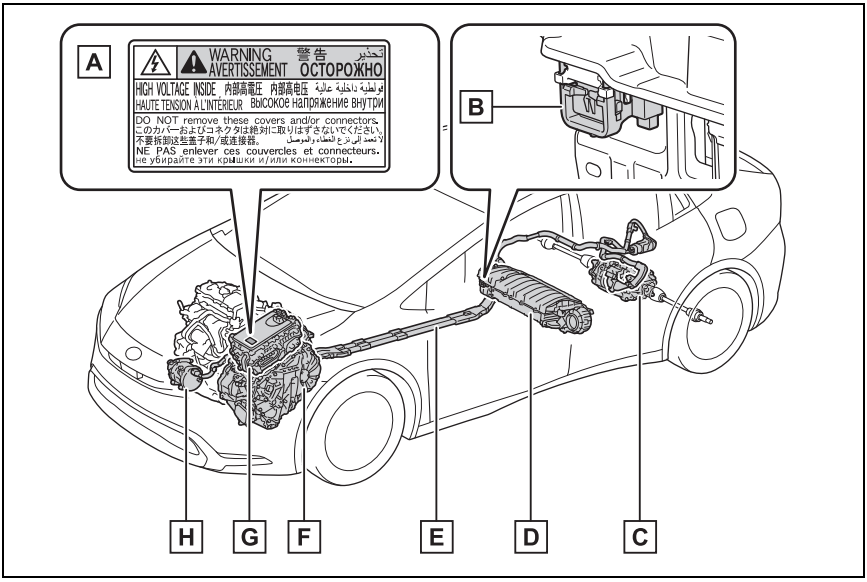
- 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。
- 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

# ハイブリッドシステムの注意

**ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。**

## システムの構成部品

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車




イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B サービスプラグ

C リヤ電気モーター（4WD 車）

D 駆動用電池

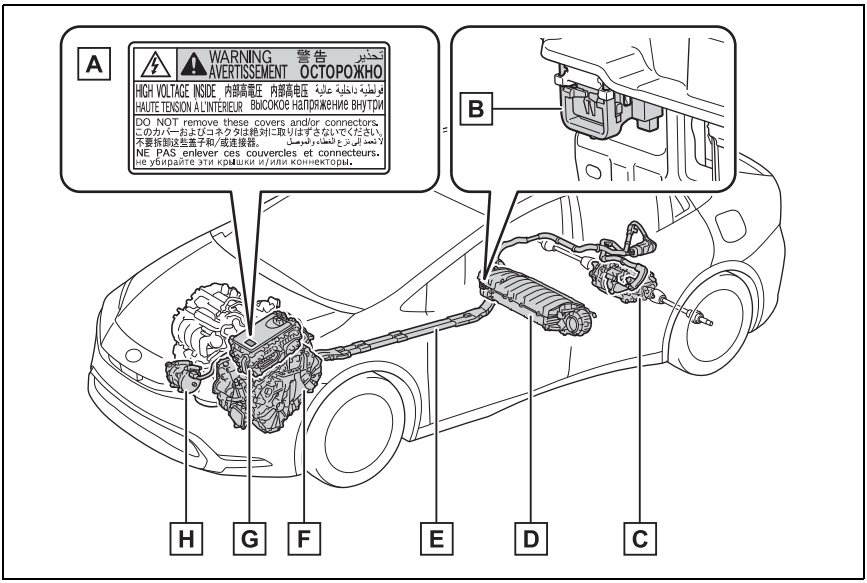
E 高電圧ケーブル（オレンジ色）

F フロント電気モーター

G パワーコントロールユニット

H エアコンコンプレッサー

▶ M20A-FXS エンジン搭載車




イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B サービスプラグ

C リヤ電気モーター（4WD 車）

D 駆動用電池

E 高電圧ケーブル（オレンジ色）

F フロント電気モーター

G パワーコントロールユニット

H エアコンコンプレッサー

## 知識

### ■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.463）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 8.6L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

**警告**

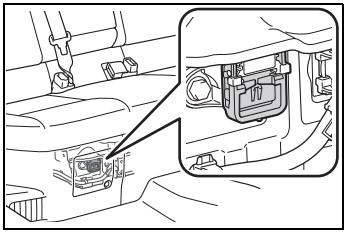
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

**警告**

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.453）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

**■駆動用電池について**

●この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

**警告**

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

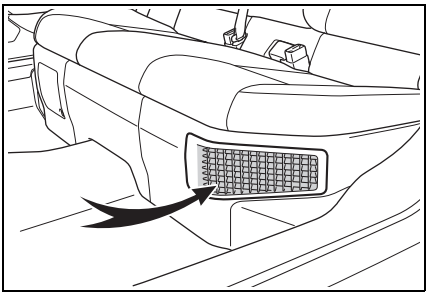
**■駆動用電池について**

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。

誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

## 駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（左側）には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



**注意**

**■駆動用電池冷却用の吸入口について**

●シートカバー・荷物・カーペットなどで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

●吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。（→P.438）

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P.438 を参照してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、吸入口やフィルターの目づまりが考えられます。
P.438 を参考に吸入口の清掃を行ってください。

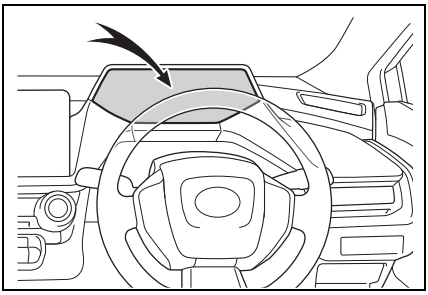
## 緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

## 警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。
警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■**警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

## イモビライザーシステム

**キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。**

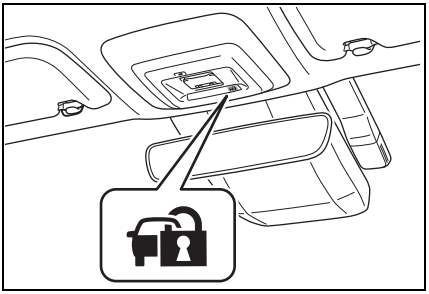
**車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。**

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

### システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

**■メンテナンスについて**

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

**■システムが正常に作動しないとき**

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

**■イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

## オートアラーム

**オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。**
**オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。**

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

T-Connect をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールやスマートフォンアプリでお知らせすることができます。
マルチメディア装着車：詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

### オートアラームを設定／解除／停止する

#### ■ ドアを施錠する前の確認

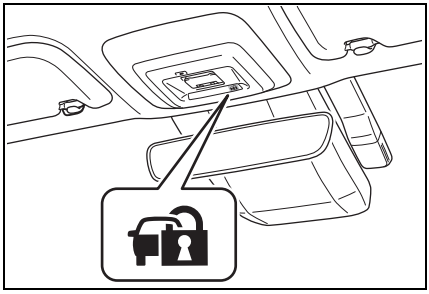
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

#### ■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



#### ■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

**■オートアラームの設定について**

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

**■メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

**■T-Connect（ご契約のお客様のみ）**

●うっかり通知機能によって、施錠のし

忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れなどを、ご指定のEメールアドレスやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

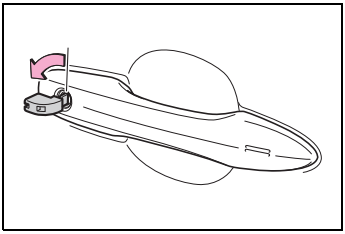
●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

詳しくは、P.55（マルチメディア非装着車）または別冊「マルチメディア取扱書」（マルチメディア装着車）を参照してください。

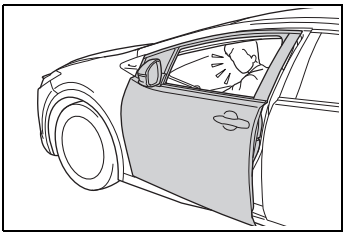
### ■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーでドアを解錠したとき

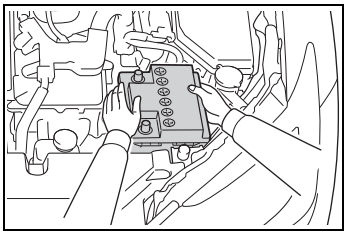


●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき

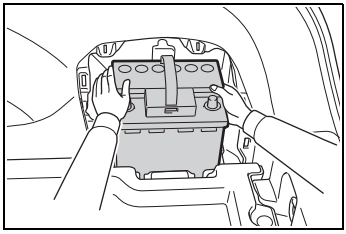


●施錠後、バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.493）

▶2ZR-FXE エンジン搭載車



▶M20A-FXS エンジン搭載車



### ■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

### ■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

注意

■**オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

# 走行に関する情報表示

2

## 2-1. 計器の見方

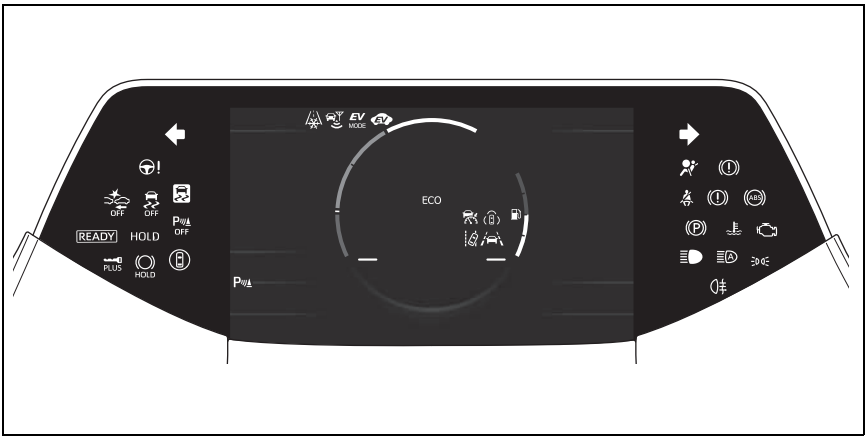
警告灯／表示灯 ..... 88
計器類..... 92
マルチインフォメーションディスプレイ ..... 98
エネルギーモニター／燃費画面 ..... 108

# 警告灯／表示灯

**メーター・ドアミラー・オーバーヘッドコンソールパネルの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。**

## メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。




## 警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.458）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.458）

充電警告灯 ※2（→P.458）

高水温警告灯（→P.458）

油圧警告灯 ※2（→P.459）

ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.459）

エンジン警告灯 ※1（→P.459）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.459）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.459）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.460）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.460）

PCS 警告灯 ※1（→P.460）

（橙色）
LTA 表示灯（→P.460）

（橙色）
LDA 表示灯（→P.460）

（橙色）
PDA 表示灯（→P.460）

（橙色）
クルーズコントロール表示灯（→P.461）

（橙色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.461）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.461）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※3（→P.462）

スリップ表示灯 ※1（→P.462）

ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.462）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.462）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.463）

燃料残量警告灯（→P.463）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.463）

リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※4（→P.463）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※4 オーバーヘッドコンソールパネルに表示されます。

**警告**

**■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

## 表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.193）

尾灯表示灯（→P.200）

ハイビーム表示灯（→P.202）

AHB 表示灯（→P.203）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.206）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※1（→P.183）

（白色）
LTA 表示灯（→P.234）

（緑色）
LTA 表示灯（→P.234）

（橙色点滅）
LTA 表示灯（→P.234）

（緑色）
LDA 表示灯（→P.243）

（橙色点滅）
LDA 表示灯（→P.243）

LDA OFF 表示灯 ※2
（→P.243）

（白色）
PDA 表示灯（→P.249）

（緑色）
PDA 表示灯（→P.249）

（白色）
クルーズコントロール表示灯
（→P.266）

（緑色）
クルーズコントロール表示灯
（→P.266）

（白色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.257）

（緑色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.257）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※2, 3（→P.299）

クリアランスソナー検知表示灯 ※8（→P.298）

（点滅）
スリップ表示灯 ※4
（→P.368）

VSC OFF 表示灯 ※2, 4
（→P.368）

PCS 警告灯 ※2, 4
（→P.222）

運転支援情報表示灯 ※2, 4
（→P.279, 294, 308, 313, 317）

BSM ドアミラーインジケーター★ ※5（→P.279）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※4（→P.197）

ブレーキホールド作動表示灯 ※4（→P.197）

セキュリティ表示灯 ※6
（→P.83, 84）

READY インジケーター
（→P.183）

低温表示灯 ※7（→P.95）

ITS Connect アイコン★
（→P.271）

ITS Connect アイコン★
（→P.271）

ITS Connect アイコン★
（→P.271）

プラスサポート表示灯★
（→P.328）

EV インジケーター（→P.74）

パーキングブレーキ表示灯
（→P.194）

EV ドライブモード表示灯
（→P.187）

エコドライブモード表示灯
（→P.365）

スポーツモード表示灯★
（→P.365）

CUSTOM カスタムモード表示灯★ ※9（→P.365）

POWER パワーモード表示灯★（→P.365）

制動灯表示灯（→P.91）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2システムが OFF のときに点灯します。

※3クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※4作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※5ドアミラーに表示されます。

※6オーバーヘッドコンソールパネルに表示されます。

※7外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※8マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車

※9マルチメディア装着車

## 知識

### ■BSM ドアミラーインジケーターについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

作動確認のため BSM 機能 ／ RCTA 機能を ON にしたとき（→P.280, 308）インジケーターが点灯します。システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

### ■制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

### ■クリアランスソナー OFF 表示灯について（マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車）

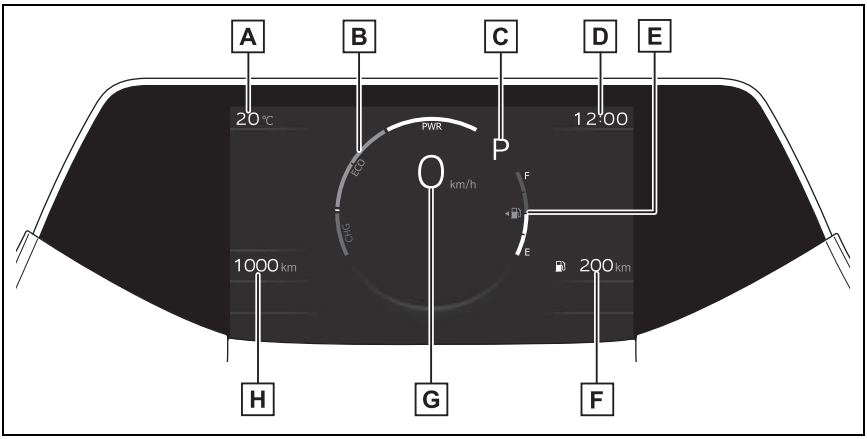
シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能が自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

# 計器類

## 走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

### メーターの表示について

▶ メーターリング中央時




A 外気温（→P.95）

B ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.94）

C シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→P.189）

D 時計（→P.97）

E 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

F 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.94）

G スピードメーター

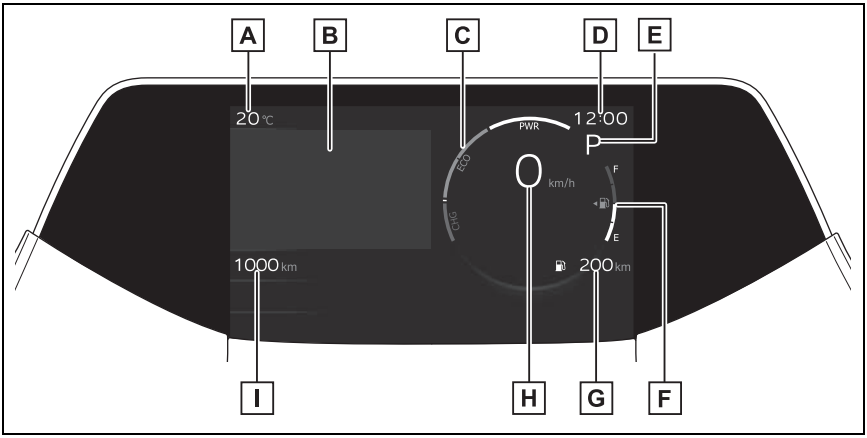
車両の走行速度を示します。

## H オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

▶ メーターリング移動時




## A 外気温（→P.95）

## B マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.98）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.464）

## C ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.94）

## D 時計（→P.97）

## E シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→P.189）

## F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

## G 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.94）

### H スピードメーター

車両の走行速度を示します。

### I オドメーター／トリップメーター

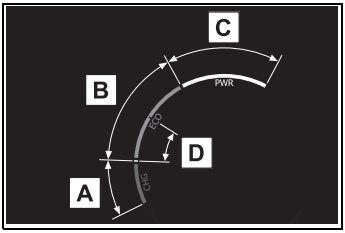
オドメーター：
走行した総距離を表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

## 知識

**■メーター・ディスプレイの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■ハイブリッドシステムインジケーターについて**




A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

D ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- READYインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはB以外のとき

**■航続可能距離について**

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.95）
- 「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 ODO TRIP スイッチ（→P.96）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3 パワースイッチを OFF にする
4 ODO TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

●外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に⚠が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■オープンソースソフトウェアについて

Copyright (c) 2009-2018 ARM Limited.

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

**警告**

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

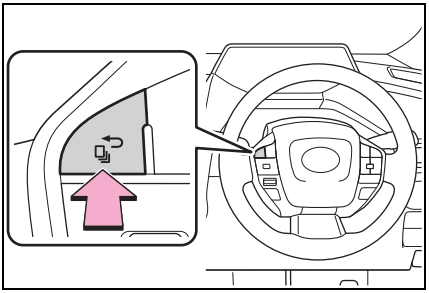
注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.498）

## メーター表示の切りかえ

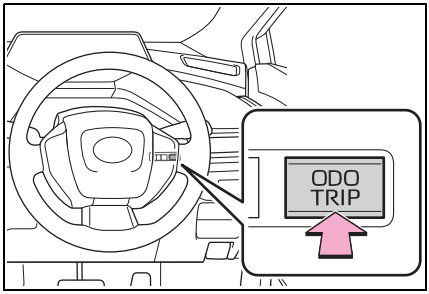
マルチインフォメーションディスプレイの表示／非表示を切り替えることができます。



## ODO TRIP スイッチの操作について

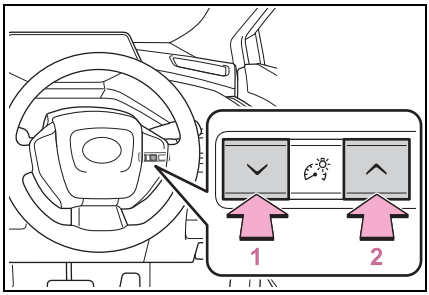
ODO TRIP スイッチを押すごとに、オドメーター／トリップメーター A ／トリップメーター B の順に表示が切りかわります。

トリップメーターの表示中にスイッチを押し続けると、走行距離が 0 にもどります。




## メーター照度を調整するには

メーター照度を調整できます。




1 暗くする

2 明るくする

知識

■メーター照度調整について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

●昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

●夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

■音声対話サービスでのオドメーター／トリップメーター操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、オドメーター・トリップメーターの表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、「マルチメディア取扱書」を参照してください。

## 時計を操作するには

▶ マルチメディアディスプレイ非装着車

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、「時計設定」画面を表示することで、時計に関する次の設定を変更できます。

- 分を 00 にする
- 12 時間表示／24 時間表示の切りかえ
- 時刻の調整

### ■ 分を 00 にするには

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して「時計設定」を選択する

「時計設定」画面の表示中にメーター操作スイッチのOKを押すと、分を 00 に合わせることができます。

- 0 ～ 29 分は切り下げられます。

（例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります）

- 30～59分は切り上げられます。

（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります）

### ■ 時刻を調整するには

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して「時計設定」を選択する

3 「時計設定」画面の表示中にメーター操作スイッチのOKを押し続ける

4 メーター操作スイッチの＜または＞を押して「12H」／「24H」・「時」・「分」のいずれかの項目を選択する

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して表示内容を変更する

設定が完了したら、↩を押して前の画面にもどします。

▶ マルチメディアディスプレイ装着車

マルチメディアディスプレイから、時計の設定を変更できます。

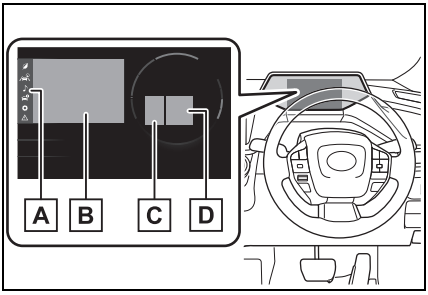
詳しくは「マルチメディア取扱書」を参照してください。

# マルチインフォメーションディスプレイ

**マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。**

## 画面の見方

マルチインフォメーションディスプレイには、次の情報が表示されます。




A メニューアイコン（→P.99）

B 情報表示部

メニューアイコンを切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。

また、車両の状況に応じて、各種の注意喚起やアドバイスなどが割り込み表示されます。

C RSA（ロードサインアシスト）表示

RSA（ロードサインアシスト）が作動しているとき、認識した標識を表示します。（→P.254）

D 運転支援システム情報表示部（→P.101）

知識

■**マルチインフォメーションディスプレイの作動条件**

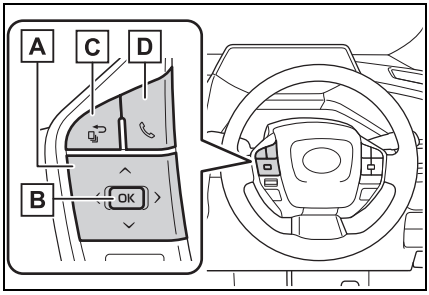
パワースイッチが ON のとき

■**液晶ディスプレイについて**

（→P.95）

## 表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。




A ∧／∨：メニューの切りかえ・ページの切りかえ・カーソル移動

＜／＞：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定

長押し：リセット・詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる／メーターリングの移動

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムに関しては「マル

チメディア取扱書」を参照してください。

**警告**

**■走行中の警告**

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

## メニューアイコン一覧

メーター操作スイッチを操作してアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

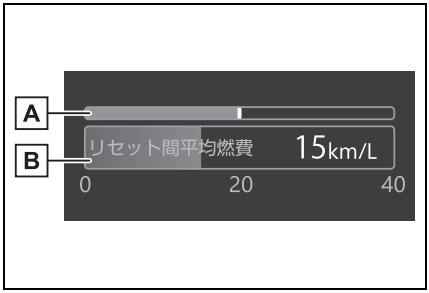
項目によっては状況に応じて自動で表示されます。

| アイコン | 表示される画面 |
|---|---|
| | 走行情報表示画面（→P.99） |
| | 運転支援システム情報表示画面（→P.101） |
| | オーディオ連携画面（→P.101） |
| | 車両情報表示画面（→P.101） |
| | 設定画面（→P.102） |
| | 警告メッセージ表示画面（→P.107） |

## 走行情報表示画面について

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

### ■ 燃費グラフ




**A** 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

**B** 平均燃費

始動後・リセット間・給油後のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

画面の「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。

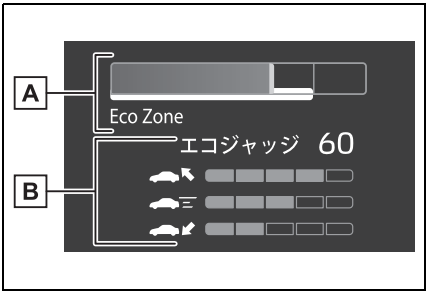
※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 始動後平均燃費は、ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

※3 リセット間平均燃費の表示中にOKを押し続けると、リセットされます。

### ■ エコアクセルガイド／エコジャッジ

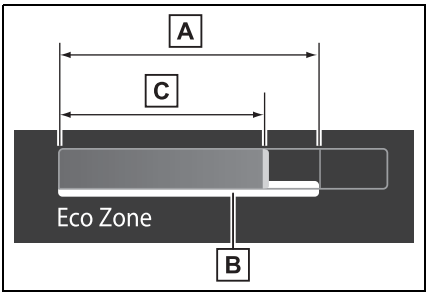
走行状況に適したアクセル操作の目安や、走行状況を評価して採点結果を表示します。




A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイドの見方




A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B アクセル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

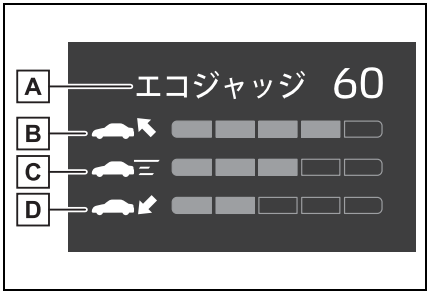
C 現状のアクセル開度

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

● エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。




A 採点結果

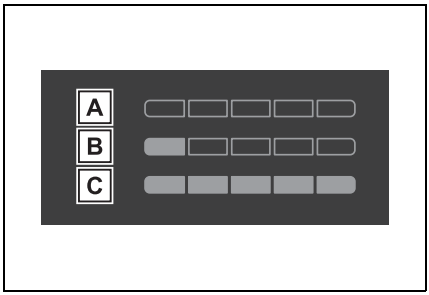
B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

走行中は 3 つの走行状況がそれぞれのアイコンで表示されます。

各採点項目のゲージは、それぞれ次の意味を示しています。




A 未評価

B 評価が低い

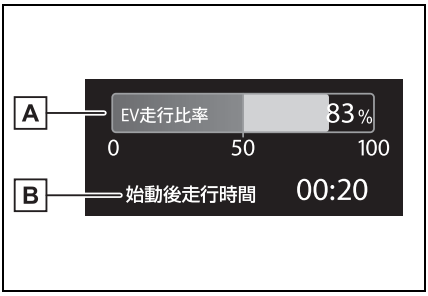
C 評価が高い

発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されませ

ん。

エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

### ■ 始動後走行時間／ EV 走行比率




A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

知識

**■エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件**

次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

- ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
- レーダークルーズコントロールを使用しているとき

## 運転支援システム情報表示画面について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.231）
- LCA（レーンチェンジアシ スト）★（→P.236）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）→P.240）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.245）
- レーダークルーズコントロール（→P.257）
- クルーズコントロール（→P.266）
- ITS Connect★（→P.271）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- 目的地案内
- コンパス

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## オーディオ連携画面について★

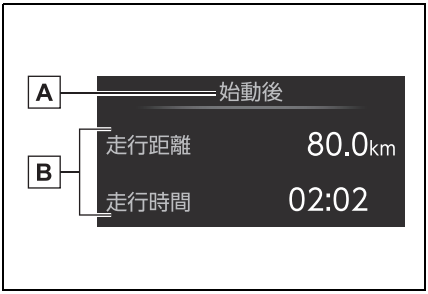
オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 車両情報表示画面について

### ■ ドライブインフォメーション

表示される数値は参考として利用してください。




A ドライブインフォタイプ

B ドライブインフォ項目

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを⚙から選択して表示させることができます。(→P.106)

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後

・距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

・走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

・平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

● リセット間

・距離：リセット後の走行距離を表示 ※

・走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※

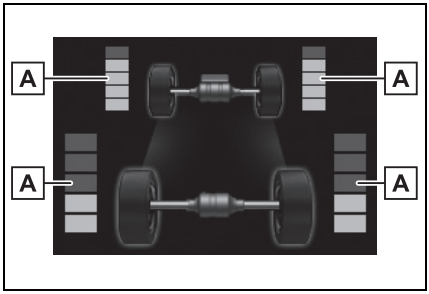
・平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチのOKを長押しします。

■ エネルギーモニター

→P.108

■ 4WD 作動状態表示（4WD 車）




A 駆動力表示

0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

## 設定画面について

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの∧または、∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能の ON ／ OFF やブザー音量などを設定する項目では、OKを押すたびに機能の ON ／ OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、OKを押し続けることで、設定画面を表

示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

**3** 設定が完了したら、メーター操作スイッチの を押す

### ■ 時計※（→P.97）

時計の設定を変更することができます。

※ マルチメディア非装着車のみ

### ■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.240）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

レーンディパーチャーアラートの作動／非作動を変更することができます。

● 低車速支援

低車速支援機能の作動／非作動を変更することができます。

● 警報手段

警報の手段を変更することができます。

● 警報タイミング

車線逸脱警報機能の作動タイミングを変更することができます。

### ■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.278）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

ブラインドスポットモニターの作動／非作動を変更することができます。

● 支援タイミング

接近車両の検知を知らせるタイミングを変更することができます。

● 明るさ

ドアミラーインジケーター（→P.279）の明るさを変更することができます。

● ブザー警報

ブラインドスポットモニター作動時のブザー警報の作動／非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.222）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

プリクラッシュセーフティの作動／非作動を変更することができます。

● 警報タイミング

衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

### ■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.245）

● 機能の ON ／ OFF

プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動を変更することができます。

● 支援感度

ブレーキやハンドル操作を支援する感度を変更することができます。

● SA（操舵アシスト）機能の ON ／ OFF

操舵アシストの作動／非作動を変更することができます。

● DA（減速アシスト）機能の ON ／ OFF

減速アシストの作動／非作動を変更する

ことができます。

● OAA（障害物先読みアシスト）機能の ON ／ OFF

障害物先読みアシストの作動／非作動を変更することができます。

### ■ クリアランスソナー（→P.298）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

クリアランスソナーの作動／非作動を変更することができます。

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションが R のときは、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切りかえることができません。

● 音量

RCTA★、RCD★、クリアランスソナー機能作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.307）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

RCTA 機能の作動／非作動を変更することができます。

● 音量

RCTA、RCD★、クリアランスソナー機能作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ 後方車両接近告知★

● 機能の ON ／ OFF

後方車両接近告知の作動／非作動を変更することができます。

● 支援タイミング

後方車両接近告知の作動タイミングを変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.312）

RCD 機能の作動／非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.316）

パーキングサポートブレーキ機能の作動／非作動を変更することができます。

### ■ SEA（安心降車アシスト）★（→P.294）

● 機能の ON ／ OFF

安心降車アシスト機能の作動／非作動を変更することができます。

● 感度

車両／自転車を検知する感度を変更することができます。

● ミラー点灯の ON ／ OFF

ドアミラーインジケーターの作動／非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 周辺車両接近時サポート★

周辺車両接近時サポートの作動／非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.254）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

ロードサインアシストの作動／非作動を変更することができます。

● 告知手段

最高速度・赤信号・車両進入禁止の各標識を認識したときの警報方法をそれぞれ変更することができます。

● 告知車速

最高速度標識の認識時、標識が示す制限速度に対して警報を実施する超過速度を変更することができます。

■ クルーズ（→P.257）

次の設定を変更することができます。

● 加速度設定

設定した車速への加速度を変更することができます。

● 速度設定

設定速度の変化量を変更することができます。（→P.260）

● ガイド文言表示

ガイド文言の表示／非表示を変更することができます。

● カーブ速度抑制

カーブ速度抑制の設定を変更することができます。

■ 車両設定

● 休憩提案（→P.242）

LDA の休憩提案機能の作動／非作動を変更することができます。

● LCA（レーンチェンジアシスト）★（→P.236）

レーンチェンジアシストの作動／非作動を変更することができます。

● ITS Connect ★（→P.271）

ITS Connect の設定を変更することができます。

● クルーズ（ITS）★（→P.263）

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動／非作動を変更することができます。

● FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★（→P.251）

フロントクロストラフィックアラートの設定を変更することができます。

● 発進遅れ告知（→P.253）

発信遅れ告知の設定を変更することができます。

● 後退速度抑制（→P.181）

後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）の作動／非作動を変更することができます。

● PBD（パワーバックドア）★（→P.129）

次の設定を変更することができます。

・機能

パワーバックドアの作動／非作動を変更することができます。

・開位置調節

パワーバックドアが全開したときの停止

位置を変更することができます。

・音量

パワーバックドア作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● リヤシートリマインダー（→P.124）

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を変更することができます。

● マイセッティング※（→P.168）

・設定

マイセッティングの設定を変更することができます。

・機能の ON ／ OFF

マイセッティングの作動／非作動を変更することができます。

※ マルチメディア非装着車のみ

## ■ 表示設定

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位の単位を選択することができます。

● メータータイプ

ハイブリッドシステムインジケーター（→P.94）の作動／非作動を変更することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● （走行情報表示画面設定）

次の設定を変更することができます。

・HV システムインジケーター

エコアクセルガイド（→P.99）の作動／非作動を変更することができます。

・燃費グラフ

燃費グラフ（→P.99）に表示する平均燃費の種類を選択することができます。

● （オーディオ設定）★

画面の表示・非表示を変更することができます。

● （車両情報表示画面設定）

・表示コンテンツ

画面の表示・非表示を変更することができます。

4WD（4WD 車のみ）：

4WD 作動状態表示（→P.102）の表示・非表示を変更することができます。

・ドライブインフォタイプ

ドライブインフォメーション（→P.101）に表示する項目の種類を「始動後」・「リセット間」から選択することができます。

・ドライブインフォ項目選択

ドライブインフォメーション画面の上段・下段に表示する項目を「平均車速」・「走行距離」・「走行時間」から、それぞれ選択することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示／非表示を、項目ごとに変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■設定画面の操作について

●設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。
・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

## 警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.464）

## 提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

### ■ パワーバックドア★機能の ON 切り替え提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（⚙でパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

### ■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

知識

■カスタマイズ機能

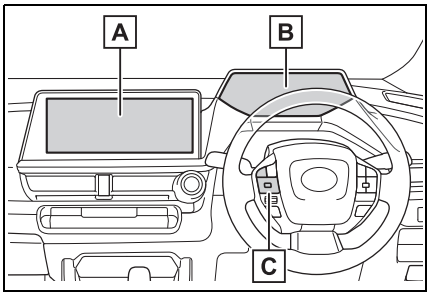
提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.513）

## エネルギーモニター／燃費画面★

**ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイ★に表示します。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### システムの構成部品




A マルチメディアディスプレイ★

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチを使用して

マルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターを表示させる

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.98 を参照してください。

▶ マルチメディアディスプレイ★

メインメニューの にタッチし、サブメニューの “エネルギーフロー” にタッチする

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

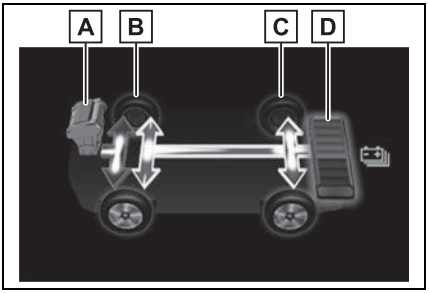
矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ




図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

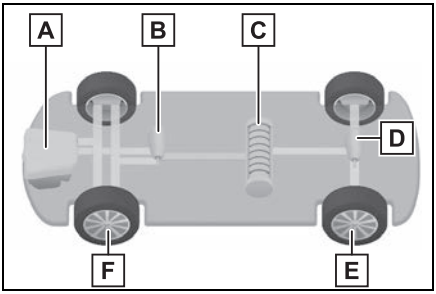
B フロントタイヤ

C リヤタイヤ ※

D 駆動用電池

※ FF 車は C への矢印は表示されません。

▶ マルチメディアディスプレイ★




図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロント電気モーター

C 駆動用電池

D リヤ電気モーター（4WD 車のみ）

E リヤタイヤ ※

F フロントタイヤ

※ FF 車は E への矢印は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

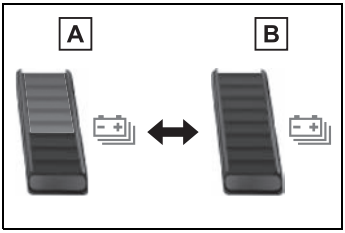
### ■駆動用電池の表示について

駆動用電池の残量に応じて、8 段階で表

示されます。

●図は例として、マルチインフォメーションディスプレイで説明します。

●実際の表示内容とは異なる場合があります。




A 少ない

B 多い

■駆動用電池の残量警告について

●シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

## 燃費画面の見方（マルチメディア装着車）

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

### ■ 画面を表示させるには

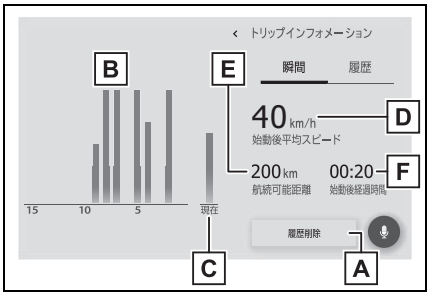
メインメニューの にタッチし、サブメニューの “トリップインフォメーション” にタッチする

### ■ 瞬間燃費画面の見方

瞬間燃費画面以外が表示されたときは、“瞬間” にタッチします。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。




A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D ハイブリッドシステム始動後平均車速

E 航続可能距離

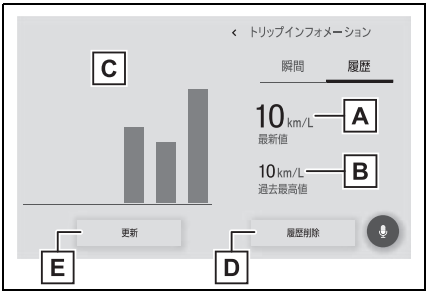
F ハイブリッドシステム始動後経過時間

### ■ 燃費履歴画面の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“履歴” にタッチします。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。




A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

## 知識

### ■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”にタッチすると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

### ■燃費データをリセットするには

“履歴削除”にタッチすると、燃費データがリセットされます。

### ■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、燃費や航続可能距離などの情報を確認することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

### ■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

# 運転する前に

3


## 3-1. キー

キー ..... 114

デジタルキー ..... 117

## 3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア） ..... 120

バックドア ..... 126

スマートエントリー＆スタートシステム ..... 137

## 3-3. シートの調整

フロントシート ..... 143

リヤシート ..... 144

ヘッドレスト ..... 146

## 3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル ..... 149

インナーミラー ..... 150

デジタルインナーミラー ..... 151

ドアミラー ..... 159

## 3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ ..... 161

## 3-6. お好み設定

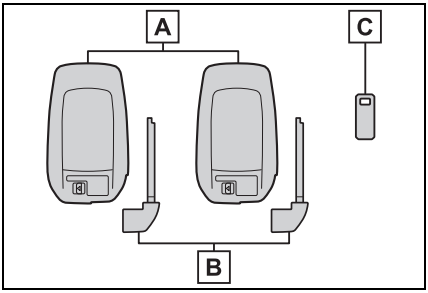
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 ..... 164

マイセッティング ..... 168

# キー

## キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。




A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.137）
・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

**■航空機に乗るとき**

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

**■電池の消耗について**

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.138）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→P.441）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.121）

**■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき**

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパ

ワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→P.441）

■電池の交換方法

→P.441

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

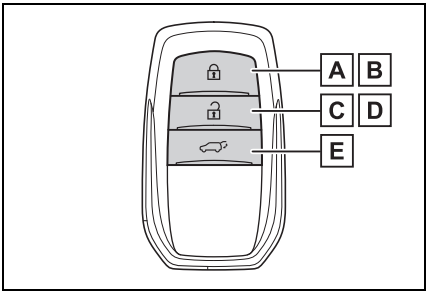
→P.491

■電子キーを紛失したとき

→P.490

## ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。




A 全ドアを施錠する（→P.120）

B ドアガラスを閉める ※（→P.120）

C 全ドアを解錠する（→P.120）

D ドアガラスを開く ※（→P.120）

E パワーバックドア★を開閉する（→P.129）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

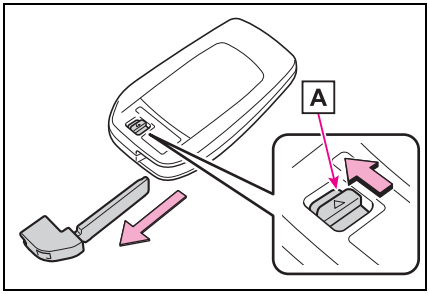
## メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、

### 解除レバーA をスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.491）




知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.490

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

## デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。**
**また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。**

**本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。**

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：

### ■デジタルキーの取り扱い

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

知識

### ■QR コード

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

### ■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

## デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

## デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

・ スマートフォンが故障した場合
・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
・ スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。
削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。

● サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。

● デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。
万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてくださ

い。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、パワーバックドアのクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能★、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

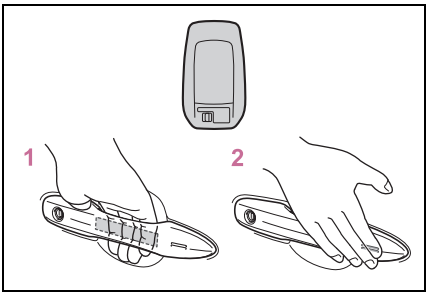
# ドア（フロントドア・リヤドア）

**スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。**

## 車外から解錠／施錠するには

### ■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。




**1** ドアハンドルを握って解錠する

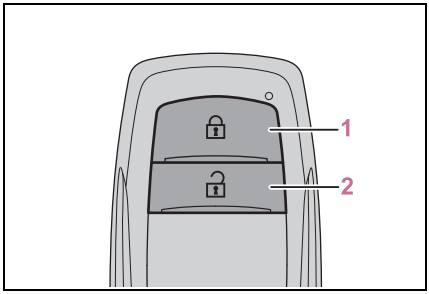
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

**2** ドアハンドル表面のロックセンサー（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

### ■ ワイヤレス機能を使用する




**1** 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

**2** 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

**■降車オートロック機能 ※**

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

**1** 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

**2** 電子キーの作動範囲内（→P.138）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

**3** 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.122）

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。

この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア★閉作動中降車オートロック機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーバックドアの閉作動中※1にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※2

※1バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

※2トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

● ドアを施錠・解錠する

●ハイブリッドシステムを始動する

■接近時オートアンロック機能※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

●すべてのドアが閉まっている

●すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえ操作は、車内または車から約1m以内の範囲で実施してください。

**1** パワースイッチをOFFにする

**2** キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または（パワーバックドア装着車のみ）のいずれかを約5秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと5秒以上間隔をあけてから手順**2**を行ってください）

| マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音 | 解錠できるドア |
|---|---|
| <br>車外：“ピピッ”（3回） | 運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 |
| | 助手席のドアハンドルを握ると全ドア解錠 |
| <br>車外：“ピピッ”（2回） | フロントドアのドアハンドルを握ると全ドア解錠 |

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解

錠し、ドアを開閉してください。

（ 🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.84）

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

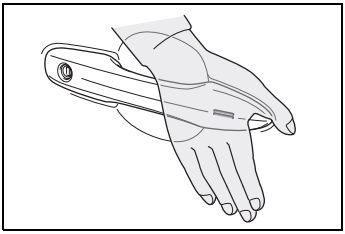
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

●スマートエントリー＆スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた

●ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.85）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.139

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.491）

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.441）

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.491）

■カスタマイズ機能

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.512）

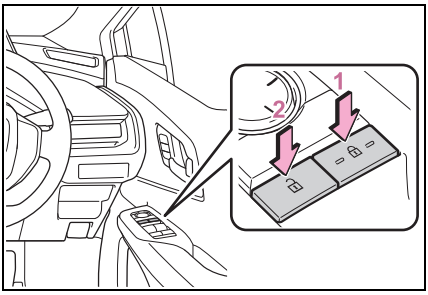
**警告**

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

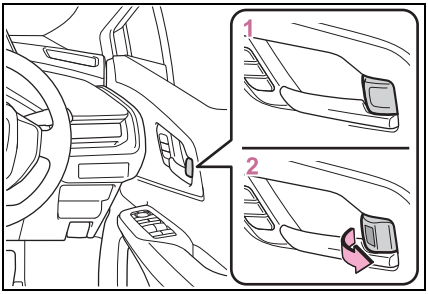
## 車内から施錠／解錠するには

### ■ ドアロックスイッチを使用する




1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

### ■ ロックレバーを使用する




1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

**■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき**

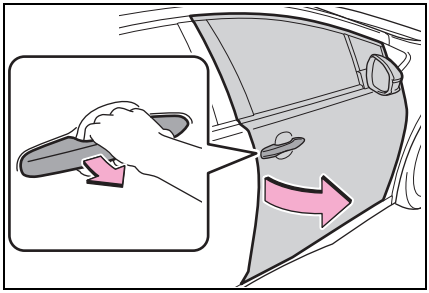
1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

## 車外からドアを開けるには

### ■ フロントドアを開ける

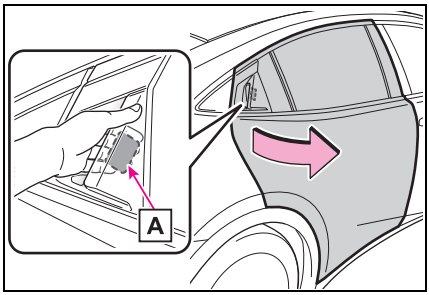
ドアを解錠し、ドアハンドルを引いて開ける



### ■ リヤドアを開ける

ドアを解錠し、ドアハンドルのドア開スイッチ A を押してドアを開ける

ドアハンドル裏面のドア開スイッチ A を確実に押してください。




知識

**■リヤドアのドア開スイッチが作動する条件**

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- 車速が 4km/h 未満のとき
- ドアが解錠されているとき

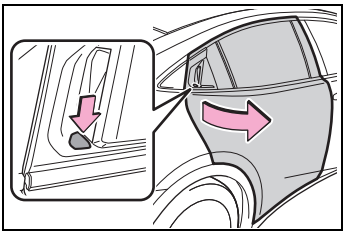
■リヤドアのドア開スイッチが作動しないとき

次のことを確認してください。

●補機バッテリーがあがっていないこと

●ドアが解錠されていること

ドア開スイッチを押してもドアが開かないときは、手動操作ボタンを押してドアを開けることができます。ドアが開くまで、確実にボタンを押し込んでください。



■寒冷時にリヤドアの手動操作ボタンを使用するとき

寒冷時に手動操作ボタンが凍結していると、通常より操作が重くなることがあります。

■車両が衝撃を受けたとき

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、約 10 秒間リヤドアのドア開スイッチが作動しなくなることがあります。その場合は、手動操作ボタンを使用してください。

■短時間にリヤドアのドア開スイッチ操作を繰り返したとき

モーターの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。しばらくするともとの状態にもどります。

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

パワースイッチを OFF にしてからリヤドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した

●ハイブリッドシステムが作動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■カスタマイズ機能

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

**警告**

**■事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

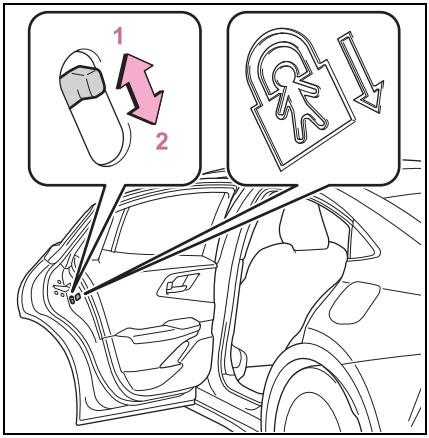
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

**■ドアを開閉するときの留意事項**

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

## チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。




1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

**■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドア開スイッチを押すと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドア開スイッチを押してください。

## バックドア

**バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。**

### 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■走行する前に**

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

**■走行中の留意事項**

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

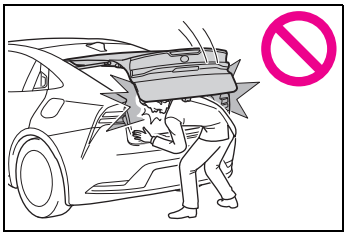
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

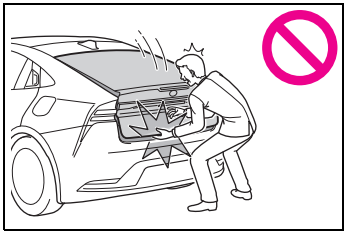
●パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



**警告**

●パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●パワーバックドア非装着車：バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

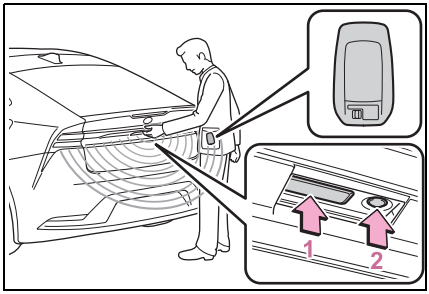
●バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.129）、またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.135）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●パワーバックドア非装着車：バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

## 車外から解錠／施錠するには

### ■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。




**1** 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

**2** 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

### ■ ワイヤレス機能を使用する

→P.120

知識

**■作動の合図**

→P.122

**■解錠操作のセキュリティ機能**

→P.122

## 車内から施錠／解錠するには

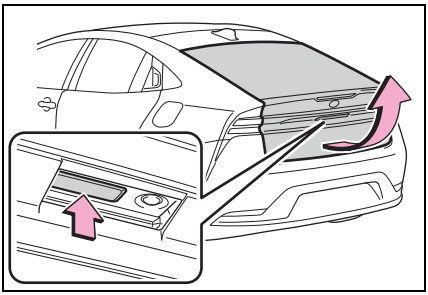
### ■ ドアロックスイッチを使用する

→P.123

## バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

### ■ 開ける

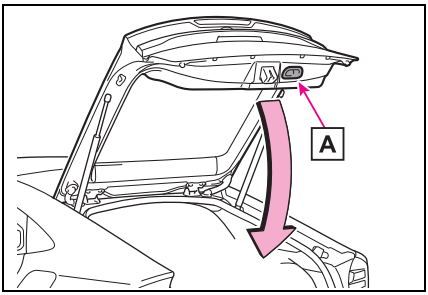
バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



### ■ 閉める

バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドル A を持って、横方向に力をかけないように引き下げます。




知識

### ■ラゲージルームランプ

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

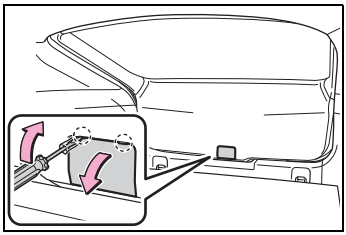
●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

### ■バックドアが開かないとき

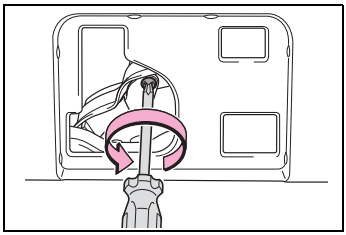
バックドアのロックを内側から解除することができます。

**1** カバーをはずす

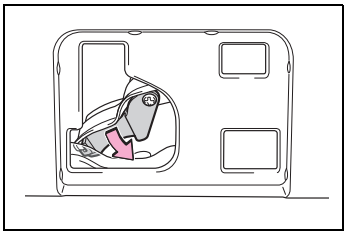
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



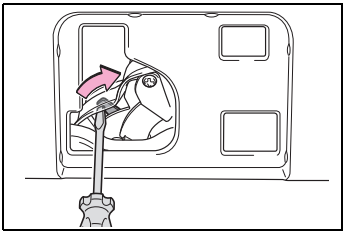
**2** ネジをゆるめる



**3** カバーをまわす



**4** レバーを押す

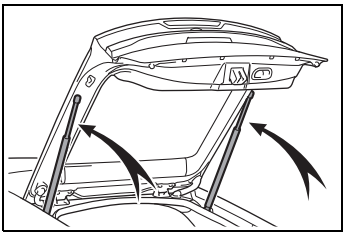


5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

## バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

### ■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

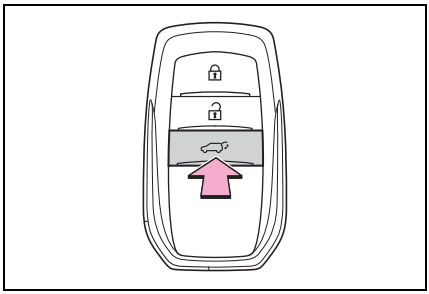
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。※

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



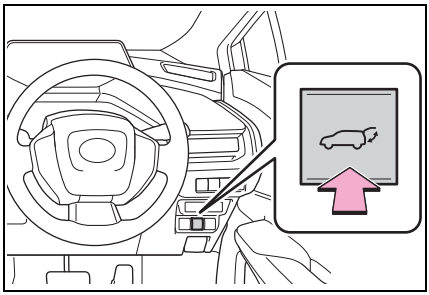
### ■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



## ■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

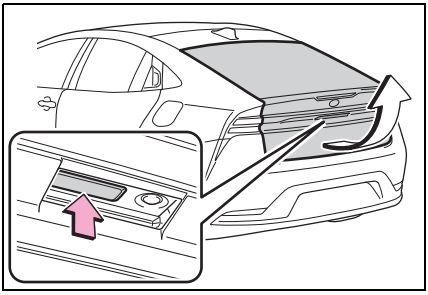
### ● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。

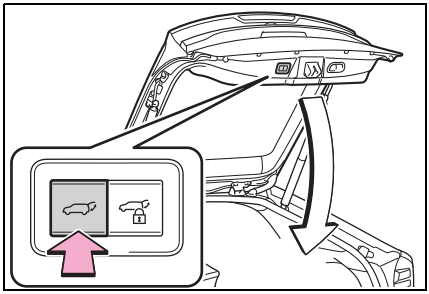


### ● 閉じる

バックドア下部の スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

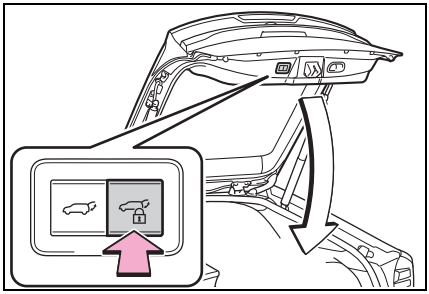
バックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度 スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



### ● バックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）

**1** バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部の スイッチを押す

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的に鳴り、クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



**2** ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠され

ると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、再びクローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

● バックドアを閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ&ロック機能）※

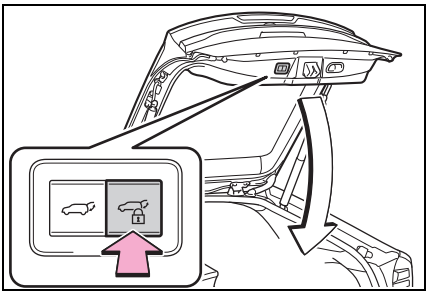
※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部の

スイッチを押す

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.122）

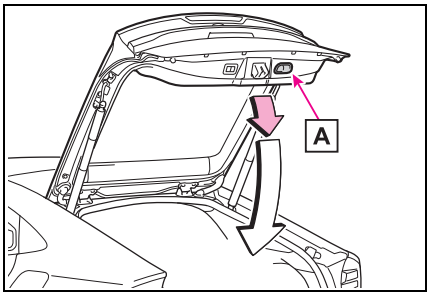
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。



## ■ バックドアハンドルを使用して閉じる

### バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げる

ブザーが鳴りバックドアクローズアシスト機能（→P.132）が作動し、バックドアが自動で閉まります。




### 知識

**■ラゲージルームランプ**

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

**■バックドアイージークローザー**

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

**■パワーバックドアの作動条件**

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●パワーバックドアの作動が ON のとき（→P.105）

●バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドア

オープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。(→P.130)

●パワースイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。
・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトポジションが P の位置にある

■パワーバックドアの作動について

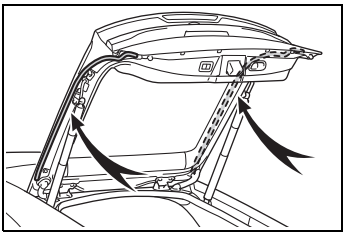
●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■予約ドアロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う(→P.120)、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う(→P.120)

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。(→P.122)

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動の設定が ON のとき

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●バックドア以外のすべてのドアが閉じているとき

●ブレーキペダルを踏んでいない

●パワースイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■**クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が正常に作動しない状況**

次のような状況では作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

■**クローズ＆ロック機能 ※ の作動条件**

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●バックドア以外のドアがすべて閉じているとき

●パワースイッチが OFF のとき

■**クローズ＆ロック機能※が正常に作動しない状況**

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチを押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の スイッチを押したとき

●パワーバックドア下部の スイッチから離れた位置から押したとき

■**補機バッテリーを再接続したとき**

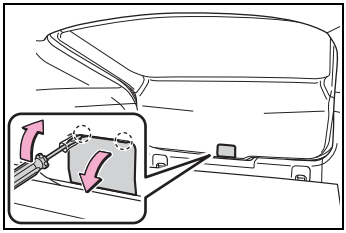
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■**バックドアが開かないとき**

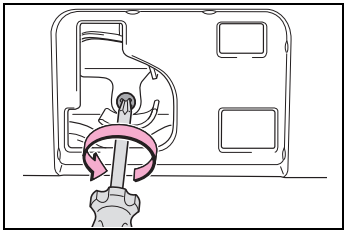
バックドアのロックを内側から解除することができます。

**1** カバーをはずす

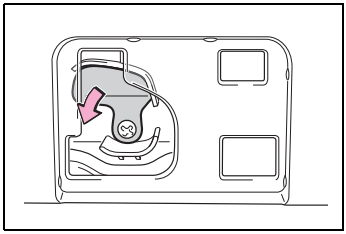
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



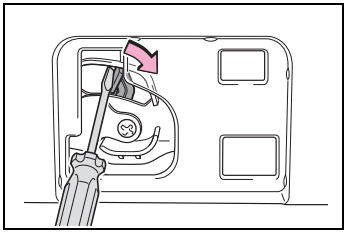
**2** ネジをゆるめる



**3** カバーをまわす



4 レバーを押す



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

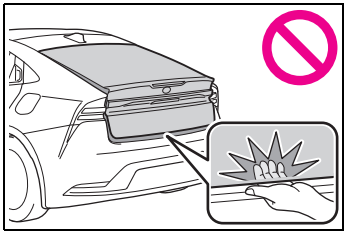
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

**警告**

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動条件（→P.131）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

**警告**

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

**■挟み込み防止機能**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

**■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能について**

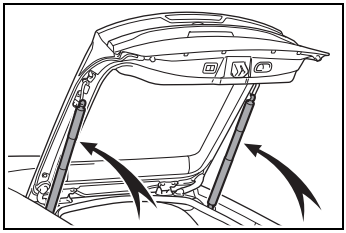
バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

**注意**

**■スピンドルユニットについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

**■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために**

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

注意

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.132）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能※について

※トヨタ販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことを作動の合図でお知らせします。（→P.122）

車から離れるときは、作動の合図を確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

## パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から“車両設定”を選択し、“PBD”を選択することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.102）

パワーバックドアの設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙での設定操作が必要です。

## バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

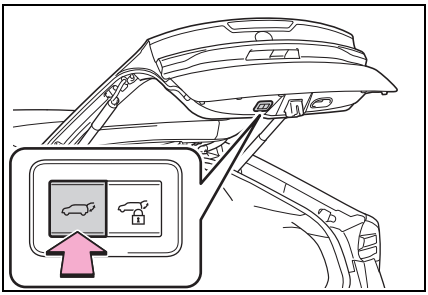
1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.129）

2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その

位置でバックドアが停止します。

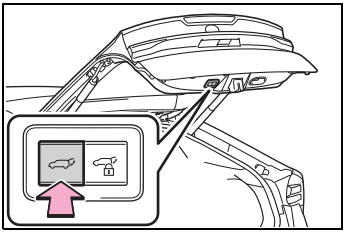


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部の スイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.102）

バックドア下部の スイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

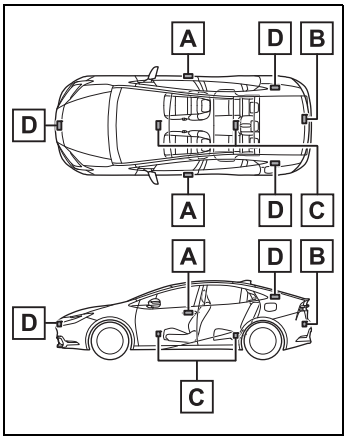
## スマートエントリー&スタートシステム

**電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。**

- ドアを解錠・施錠する（→P.120）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.127）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.183）

知識

■アンテナの位置



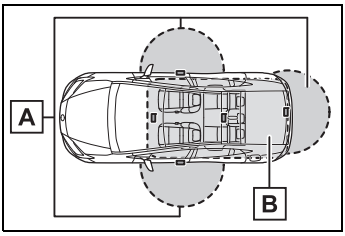

A 車外アンテナ（フロントドア）

B 車外アンテナ（バックドア）

C 車室内アンテナ

D 車外アンテナ（アドバンストパークリモート機能装着車）

■作動範囲（電子キーの検知エリア）




A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴るとき

| 状況 | 対処方法 |
|---|---|
| いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした | 全ドアを閉めたあと、再度施錠する |

●車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

| 状況 | 対処方法 |
|---|---|
| 運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた） | パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める |

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。
・車の周辺に一定時間電子キーを放置した。
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

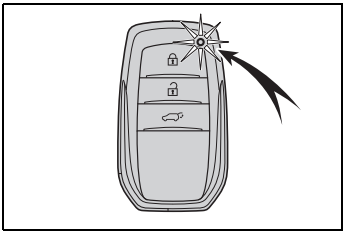
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。
この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.116）

また、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.492 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、または

リヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.138）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

### ■降車オートロック機能 ※1 についてご留意いただきたいこと

※1 トヨタ販売店での設定変更が必要です。

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.121）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子

キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア★閉作動中も含む ※2）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドア（パワーバックドア★閉作動中も含む ※2）を開閉してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.121）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.121）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.121）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※2パワーバックドア★閉作動中降車オートロック機能（→P.121）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.515）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.138）

### ■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

### ■電子キーが正常に働かないときは

●ドアの施錠・解錠（→P.491）

●ハイブリッドシステムの始動（→P.492）

### ■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.515）

カスタマイズ機能でスマートエントリー

＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.116, 491）
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.492
- ハイブリッドシステムの停止：→P.185

**警告**

**■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.137）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

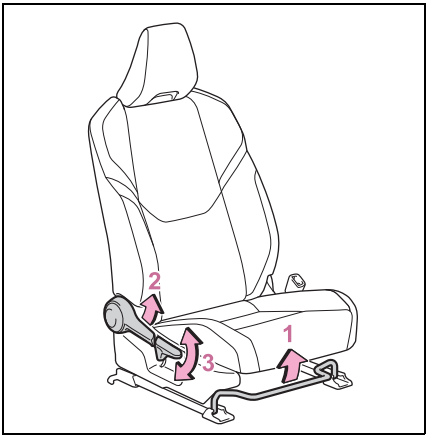
## フロントシート

**シートの前後・上下位置などの調整ができます。**

**正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。****（→P.27）**

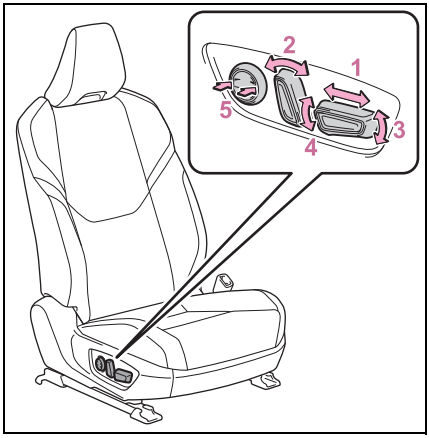
### 調整するには

▶ マニュアルシート装着車




1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ 運転席パワーシート装着車




1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整
4 シート全体の上下調整
5 腰部前後調整（ランバーサポート）

知識

**■シートを調整するとき**

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

**■パワーイージーアクセスシステム★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、運転席が動きます。（→P.164）

**警告**

**■シートを調整するとき**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

**警告**

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

**■リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# リヤシート

**レバーの操作で、背もたれを倒すことができます。**

## 背もたれを倒すには

### ■ 背もたれを倒す前に

**1** 車を安全な場所に駐車する

パーキングブレーキをかけ（→P.194）、シフトポジションを P にします。（→P.190）

**2** フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P.143）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

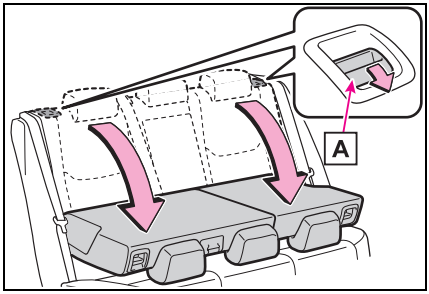
**3** リヤシートのヘッドレストを下げる（→P.146）

**4** リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（装着車のみ：→P.407）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

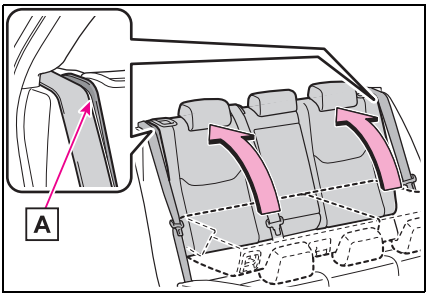
### ■ 背もたれを倒す

ロック解除レバー A を引きながら、背もたれを倒す



## ■ 背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイド A にかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。




### ⚠ 警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

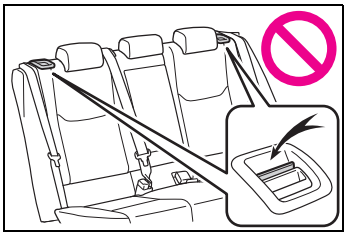
**■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは**

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

**■背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

# ヘッドレスト

**ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。**

**警告**

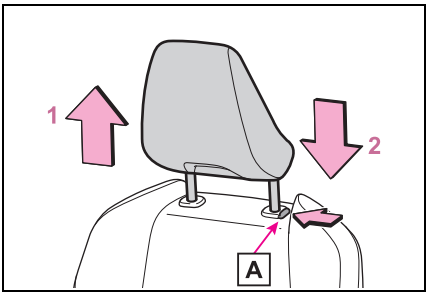
**■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

## 上下調整するには

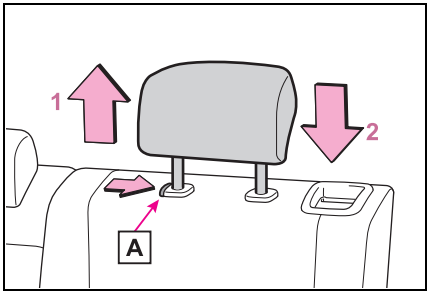
### ■ フロント席




1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

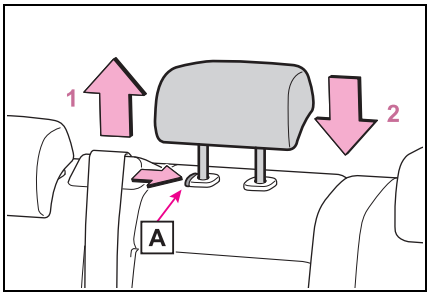
### ■ リヤ席（左右席）




1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

### ■ リヤ席（中央席）



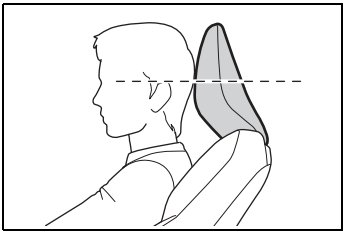

1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

**知識**

**■ヘッドレストの高さについて（フロント席）**

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

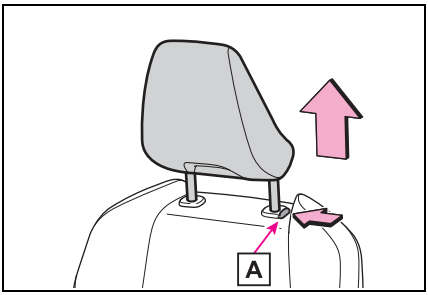
## ヘッドレストを取りはずすには

### ■ フロント席・リヤ席（中央席）

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げる

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.143）

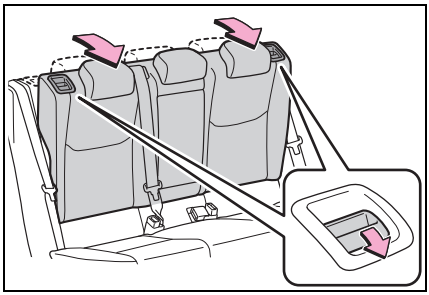
イラストはフロントシートで代表しています。



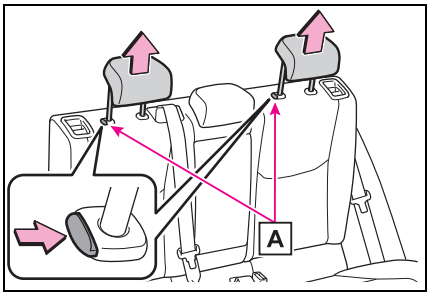

### ■ リヤ席（外側席）

1 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタン A を押しながら、ヘッドレストをはずす



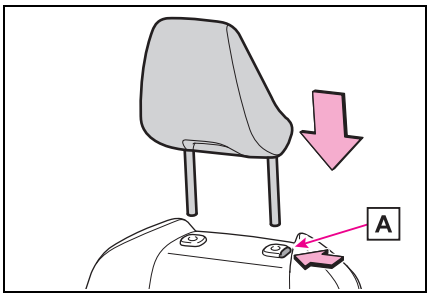

## ヘッドレストを取り付けるには

### ■ フロント席・リヤ席（中央席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。

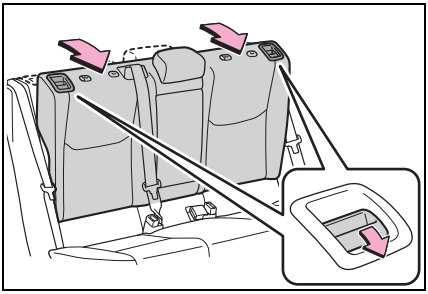
イラストはフロントシートで代表しています。



■ リヤ席（外側席）

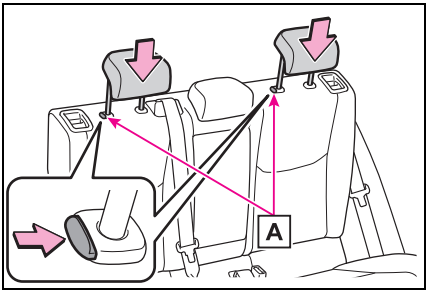
1 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

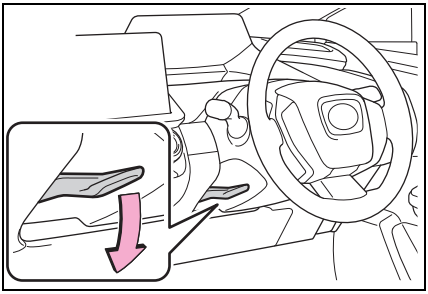
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



# ハンドル

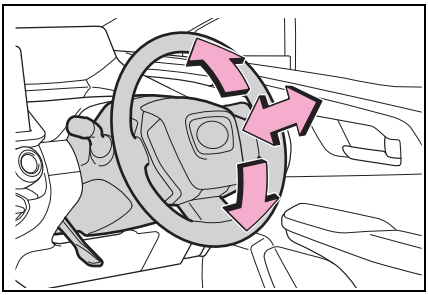
## 調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



**警告**

**■走行中の留意事項**

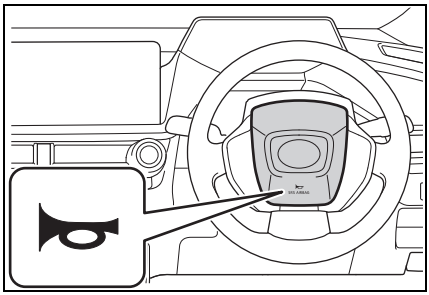
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

## ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



## インナーミラー★

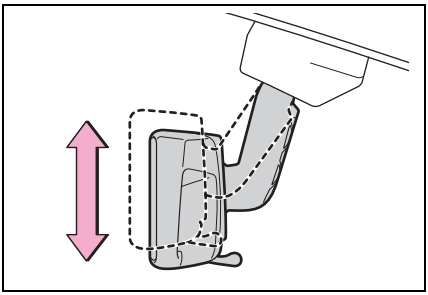
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ミラーの位置を調整することができます。**

### 上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



**警告**

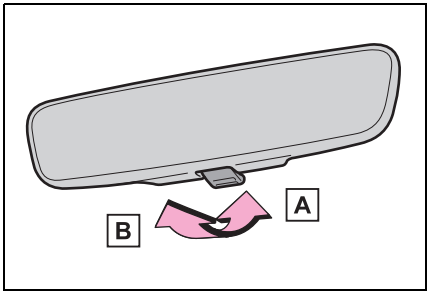
**■走行中の留意事項**

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### 防眩機能を使うには

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。




A 通常使用時

B 防眩時

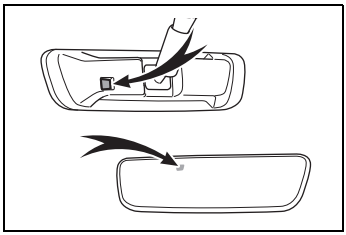
▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

知識

**■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）**

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



## デジタルインナーミラー★

**車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。**

**切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。**

**ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。**

**また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。**

**ドライブレコーダー装着車：車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。**
**詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■デジタルインナーミラーをお使いになる前に**

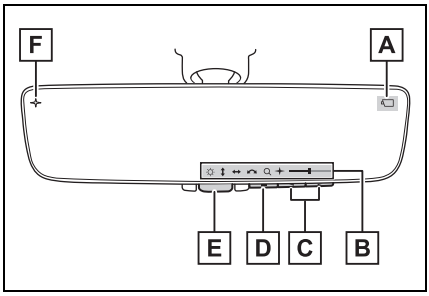
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.153）

・光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

### 各部の名称




**A** カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

**B** アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.153）・調整ゲージが表示されます。

**C** 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

**D** メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

**E** 切りかえレバー

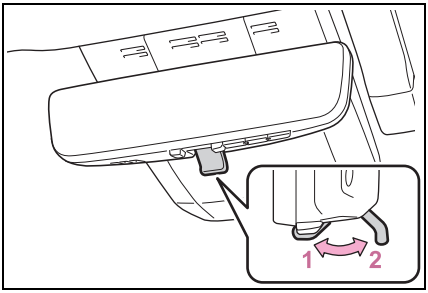
デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

**F** デジタル防眩モードインジケーター

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。（→P.153）

## モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。




**1** デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

**2** 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

### 知識

**■デジタルミラーモードの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

**■デジタルミラーモードについて**

●カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、カメラ洗浄用のウォッシャー（→P.207）を作動させてください。それでも見えにくい場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード★を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

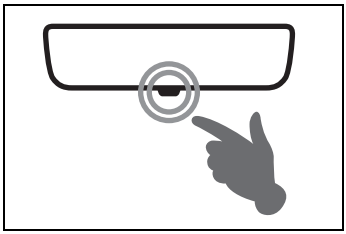
●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■システムに異常が発生したとき**

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切りかえレバーを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

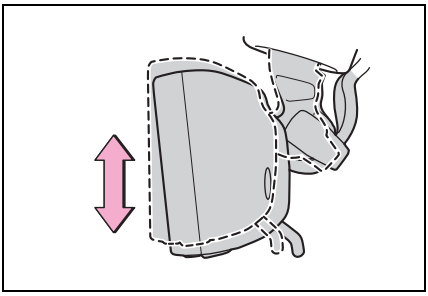


## 調整するには

### ■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

光学ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

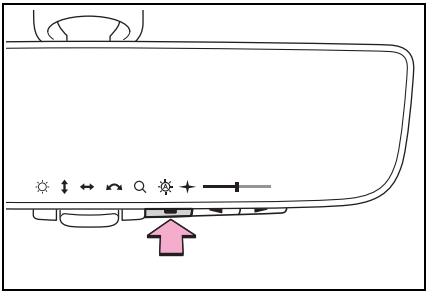


### ■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

**1** メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



**2** メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

**3** ▬ または ▬ を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

| 調整アイコン | 設定内容 |
|---|---|
| ☼ | ディスプレイの明るさを調整することができます。 |
| ↕ | ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。 |
| ↔ | ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。 |
| ↻ | ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。 |
| 🔍 | ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。 |
| Ⓐ | 自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※<br>ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。<br>パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。 |
| ✦ | デジタル防眩モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。<br>ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。 |

※ 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定

できます。

### ■ 自動防眩機能の ON ／ OFF 切りかえ（光学ミラーモード）

光学ミラーモードの自動防眩機能の ON ／ OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、光学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

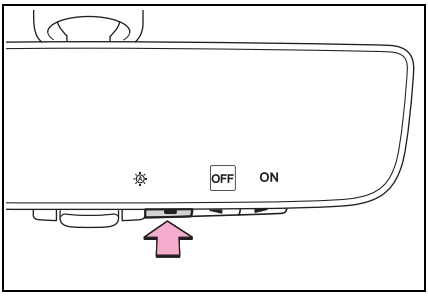
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.153

▶ 光学ミラーモード使用時

**1** メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。




**2** ▬ または ▬ を押して、自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

知識

**■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）**

●約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

●ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。

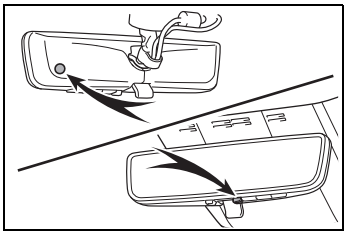
●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

●デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。

●ドライブレコーダー装着車：デジタル防眩モードを ON にすると、夜間のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

**■センサーの誤作動防止**

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



**警告**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■走行中の留意事項**

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

**■安全にお使いいただくために**

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

## お手入れについて

### ■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

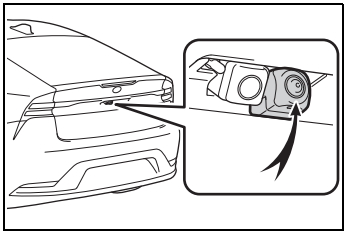
### ■ カメラのお手入れについて

カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、カメラ洗浄用のウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。（→P.207）

**知識**

**■カメラについて**

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



**■ウォッシャー液によるカメラ洗浄について**

●カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがありますので、周囲の状況に注意して運転してください。

●カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。この場合、光学ミラーモードに切りかえてください。

●カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。
この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。

●カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込

むものについては、洗浄することができません。

■冷却用のファンについて

デジタルインナーミラー内には、ミラー冷却用のファンがあります。デジタルインナーミラーの使用中は、冷却用のファンの音が聞こえることがあります。

注意

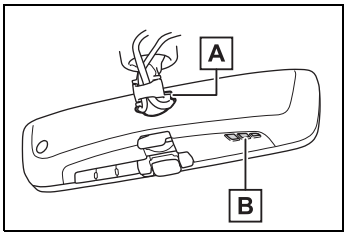
■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

●ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

●ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。

●ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。




A 排気口

B 吸気口

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。

・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

## 故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|---|---|
| ディスプレイに表示される映像が見にくい | ミラー表面が汚れている | 乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。 |
| | 強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった | 光学ミラーモードに切りかえてください。<br>（光があたっているときは、サンシェード★を閉めてください） |
| | ・夜間など暗いところで使用した<br>・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した<br>・カメラ付近の温度が高い、または低い<br>・外気温が低い<br>・雨天時など湿度が高い<br>・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった<br>・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した。<br>・排気ガスが映り込んでいる | 光学ミラーモードに切りかえてください。<br>（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください） |
| | カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している | ・カメラ洗浄用のウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。（→P.207）<br>・光学ミラーモードに切りかえてください。 |

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|---|---|
| ディスプレイに表示される映像がずれている | バックドアが完全に閉まっていない | バックドアを閉めてください。 |
| | カメラ部に強い衝撃が与えられた | 光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった | システムに異常が発生した | 光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| ディスプレイ上の が消灯した | | |
| ディスプレイ上に が表示された | デジタルインナーミラーの温度が非常に高い<br>（徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます） | ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。<br>（ミラーの温度が下がると が消えます）<br>ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 |
| 切りかえレバーが正常に作動しない | 切りかえレバーに異常が発生した | 光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。<br>（メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます） |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ドアミラー

**安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。**

知識

**■寒冷時にドアミラーを使用するとき**

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

**■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）**

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.381）

**警告**

**■走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

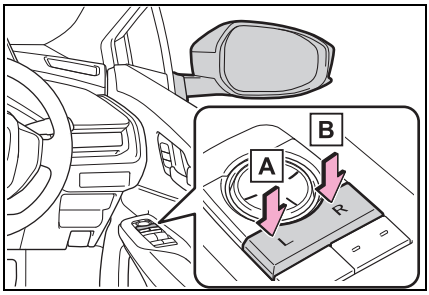
- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

**■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

### 調整するには

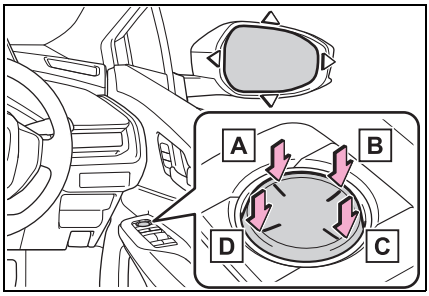
1 調整するミラーを選ぶ




A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す




A 上

B 右

C 下

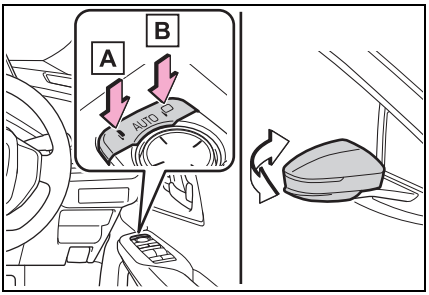
D 左

知識

**■鏡面調整の作動条件**

パワースイッチが ACC または ON のとき

## ドアミラーを格納するには




A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

**■カスタマイズ機能**

オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

**警告**

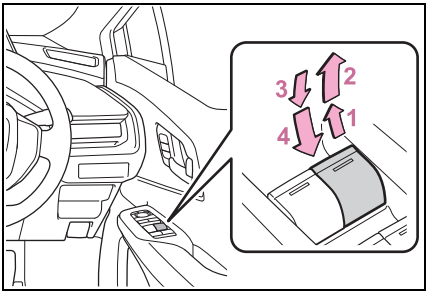
**■ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

# パワーウインドウ

## ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。




1 閉める

2 自動全閉 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■ハイブリッドシステム停止後の作動**

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

**■音声対話サービスでの操作について★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

**■挟み込み防止機能**

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

**■巻き込み防止機能**

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

**■ドアガラスを開閉することができないとき**

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

### ■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.491）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.120）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.84）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

### ■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

### ■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.517）

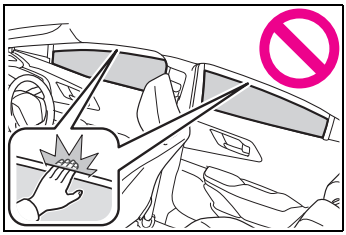
**⚠警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.163）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**警告**

**■挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

**■巻き込み防止機能**

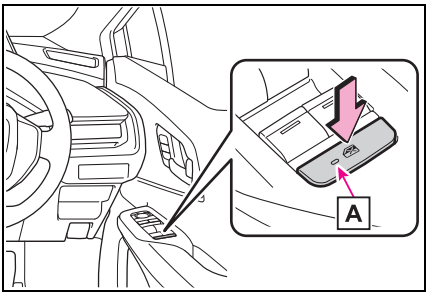
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

## 誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。




知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■補機バッテリーをはずしたとき**

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

## パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**自動で運転席を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。**

**マイセッティングが ON の場合：**

**ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3 パターン）とゲスト（1 パターン）を登録できます。**

**マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）**

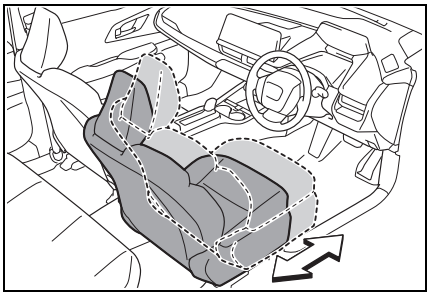
**マイセッティングが OFF の場合：**

**ドライビングポジションは、2 パターンまで登録できます。**

**ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）**

**マイセッティングについては、P.168 を参照してください。**

### 運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）



次のすべての操作を行ったとき、運転席が乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、運転席がもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

**■パワーイージーアクセスシステムの作動について**

●降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

●パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。

●降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■カスタマイズ機能

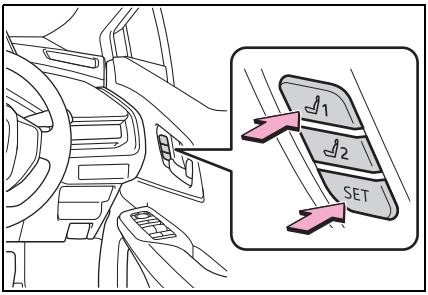
パワーイージーアクセスシステムによる設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.512）

## ドライビングポジションを登録する／呼び出すには（ポジションメモリー）

### ■ 登録方法

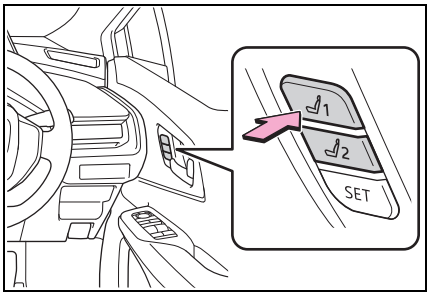
1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 運転席をお好みの位置に調整する
4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1、2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。




### ■ 呼び出し方法

1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 1、2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す




知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1、2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し（シフトポジションが P にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■登録できるシート位置（→P.143）

腰部調整（ランバーサポート）以外の位

置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

**警告**

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

## 電子キーにドライビングポジションを登録／呼び出し／解除をするには（メモリーコール機能）

### ■ マイセッティングが OFF の場合

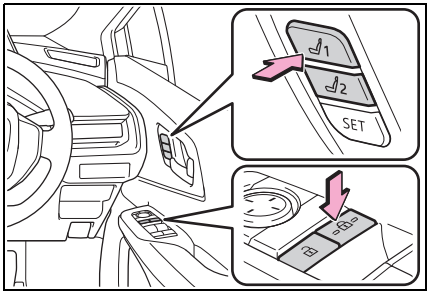
● 登録方法

お好みのポジションをあらかじめ 1、2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 登録させたいドライビングポジション（1、2）を呼び出す
4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。




● 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠してドアを開ける

運転席が登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートは動きません。

**2** パワースイッチを ACC または ON にするか、シートベルトを着用する

運転席が登録したドライビングポジションに動きます。

● 解除方法

**1** 解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉める

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

**2** シフトポジションが P にあることを確認する

**3** パワースイッチを ON にする

**4** SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

### ■ マイセッティングが ON（電子キーで個人を特定）の場合

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● 登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● 呼び出し方法

**1** マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

運転席が登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

**2** パワースイッチを ACC または ON にする

運転席が登録したドライビングポジションに動きます。

● 解除方法

マルチメディア非装着車：マイセッティングで運転者の登録内容を初期化する（→P.170）

マルチメディア装着車：詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

知識

**■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

**■挟み込み防止機能**

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

## マイセッティング

**電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。**

**あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。**

**マイセッティングには、運転者3 名分の設定を記憶することができます。**

**マルチメディア装着車：認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動切りかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。**

### 割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。（→P.137）

● デジタルキー★

スマートエントリー＆スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。（→P.117）

● Bluetooth® デバイス★

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続するこで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

電子キー検出して個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）★

個人が特定されたあとに、次の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

・電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開けます。

・デジタルキー★で個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムで解錠してドアを開けたとき

● マルチメディア設定★ ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときのマルチメディアシステムの設定を再生します。

● 車両設定 ※（マルチインフォメーションディスプレイ、マルチメディアディスプレイ★で設定できる項目）

個人が特定されると、前回パワースイッ

チを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 一部の設定項目を除く

## 電子キーの割り当て登録・削除（マルチメディア非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイで電子キーの割り当てを登録・削除します。

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.98 を参照してください。

### ■ 電子キーの割り当てを登録する（“新規キーを検出” 画面から登録）

1 割り当て登録する電子キーを車内に 1 個の状態にし、パワースイッチを ON にする

2 マルチインフォメーションディスプレイに “新規キーを検出” 画面が表示されたら、“はい” を選択し、OK を押す

電子キーがすでに割り当て登録済みの場合、“新規キーを検出” 画面は表示されません。

“今後表示しない” を選択すると “新規キーを検出” 画面は表示されなくなります。電子キーの割り当て登録はマルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から行ってください。

3 登録したい運転者または “（空き）” を選択し、OK を押す

4 手順 3 で “（空き）” を選択した場合、運転者名を入力し、OK を押す

メーター操作スイッチで入力します。

登録が完了すると、マルチインフォメーションディスプレイに “キー割当てを追加しました” が表示されます。

### ■ 電子キーの割り当てを登録する（マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から登録）

現在の運転者に電子キーを割り当て登録します。

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙から “車両設定” を選択し、“マイセッティング” を選択する

2 “設定” を選択し、OK を押す

3 “キー割当て” を選択し、OK を押す

4 “追加” を選択し、OK を押す

5 割り当て登録する電子キーを車内に 1 個の状態にし、“キー検出開始” を選択し、OK を押す

登録が完了すると、マルチインフォメーションディスプレイに “キー割当てを追加しました” が表示されます。

### ■ 電子キーの割り当てを削除する

現在の運転者に割り当て登録されている電子キーをすべて削除します。

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙から “車両

設定” を選択し、“マイセッティング” を選択する

2 “設定” を選択し、OK を押す

3 “キー割当て” を選択し、OK を押す

4 “消去” を選択し、OK を押す

5 “はい” を選択し、OK を押す。

削除が完了すると、マルチインフォメーションディスプレイに “キー割当てを全て消去しました” が表示されます。

知識

■電子キーの割り当て登録について

●1 本の電子キーは、1 人の運転者のみに割り当て登録することができます。

●電子キーが車内にない場合、または複数本ある場合は正常に検出することができません。登録するときは、電子キーは車内に 1 本の状態にしてください。

●割り当てを削除するときは、登録されたすべての電子キーが削除されます。割り当てを 1 本ずつ削除することはできません。

## 運転者の登録名を変更する（マルチメディア非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイに表示する運転者名を変更することができます。

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.98 を参照してください。

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙から “車両設定” を選択し、“マイセッティング” を選択する

2 “設定” を選択し、OK を押す

3 “ドライバー名変更” を選択し、OK を押す

4 運転者名を入力し、“OK” を押す

メーター操作スイッチで入力します。

マルチインフォメーションディスプレイに入力した登録名が表示されます。

## 運転者の登録内容を初期化する（マルチメディア非装着車）

運転者の登録内容（ドライビングポジションなど）をすべて削除し、初期状態に戻します。

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.98 を参照してください。

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙から “車両設定” を選択し、“マイセッティング” を選択する

2 “設定” を選択し、OK を押す

3 “ドライバー初期化” を選択し、OK を押す

4 “はい” を選択し、OK を押す。

初期化が完了すると、マルチインフォメーションディスプレイに “ドライバーを初期化しました” が表示されます。

## 運転者を手動で切りかえる（マルチメディア非装着車）

運転を他の人に交代するときや、本人以外に割り当て登録された電子キーを車内に持ち込んだときは、運転者を手動で切りかえることができます。

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.98 を参照してください。

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙から “ 車両設定 ” を選択し、“ マイセッティング ” を選択する

2 “ 設定 ” を選択し、OK を押す

3 “ ドライバー切りかえ ” を選択し、OK を押す

4 切りかえたい運転者を選択し、OK を押す

5 “ 運転位置再生 ” 画面が表示されたら、“ はい ” を選択し、OK を押す。

“ ゲスト ” を選択したときは “ 運転位置再生 ” 画面は表示されません。

### 知識

**■ “ ゲスト ” モードについて**

- 納車時は認証デバイスが未登録です。登録されるまでは “ ゲスト ” モードとして作動します。
- 認証デバイスにより個人が特定されなかった場合は “ ゲスト ” モードとして作動します。
- “ ゲスト ” に電子キーの割り当て登録をすることはできません。

**■カスタマイズ機能**

マイセッティングの ON ／ OFF を切りかえることができます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

マイセッティングが OFF の場合は “ ゲスト ” モードとして作動します。

# 運転 4


## 4-1. 運転にあたって

運転にあたって ..... 175

荷物を積むときの注意..... 182

## 4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ ..... 183

EV ドライブモード ..... 187

トランスミッション..... 189

方向指示レバー ..... 193

パーキングブレーキ..... 194

ブレーキホールド ..... 197

## 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ ..... 200

AHB（オートマチックハイビーム） ..... 203

リヤフォグランプ ..... 206

ワイパー＆ウォッシャー..... 207

## 4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 ..... 211

## 4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）..... 213

Toyota Safety Sense ..... 215

PCS（プリクラッシュセーフティ） ..... 222

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 231

LCA（レーンチェンジアシスト） ..... 236

LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 240

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 245

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....251

発進遅れ告知機能.....253

RSA（ロードサインアシスト）254

レーダークルーズコントロール .....257

クルーズコントロール .....266

ドライバー異常時対応システム .....269

ITS Connect .....271

BSM（ブラインドスポットモニター）.....278

後方車両接近告知.....284

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）.....286

後方車両への接近警報 .....290

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）.....292

安心降車アシスト.....294

クリアランスソナー .....298

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....307

RCD（リヤカメラディテクション） .....312

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....316

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）.....321

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....324

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....325

プラスサポート（販売店装着オプション）.....327

トヨタチームメイト アドバンストパーク.....332

ドライブモードセレクトスイッチ
..... 365
運転を補助する装置..... 367

## 4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス
..... 373
寒冷時の運転 ..... 375

# 運転にあたって

**安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。**

## 安全に走行するには

### ■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.183

### ■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.194）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.195）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

### ■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.190）

### ■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.194）

パーキングブレーキがオートモードのときは、パワースイッチを OFF にすると、自動でパーキングブレーキは作動します。（→P.194）

3 シフトポジションを P にする（→P.190）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

### ■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.194）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.194）

知識

**■燃費をよくする走り方**

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.373）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→P.99）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

**警告**

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.450 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.189)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラー★・デジタルインナーミラー★の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：
オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

**■すべりやすい路面を運転するとき**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

## 警告

### ■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作しないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

### ■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

### ■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

### ■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

**警告**

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをＰにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

**■仮眠するとき**

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ブレーキをかけるとき**

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

**警告**

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

**■万一脱輪したとき（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意**

**■運転しているとき**

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

**■部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

**■走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.472, 482 を参照してください。

**■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

注意

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。
その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

## 急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

### ■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

### ■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ 速度抑制中 ” が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.368）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.368）

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.512）

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

## 荷物を積むときの注意

**安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。**

**警告**

**■積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

**■荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

**■荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## パワー（イグニッション）スイッチ

**電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。**

### ハイブリッドシステムを始動するには

**1** パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.194）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

**2** ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.190）

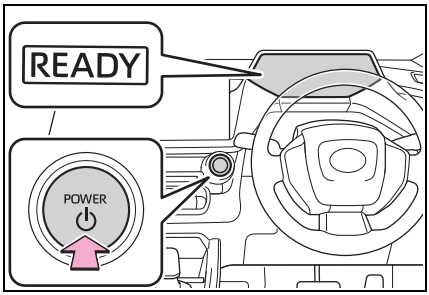
**3** パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。




**4** READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.327 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

**■パワースイッチ文字照明**

状況に応じて、次のようにパワースイッチ文字照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチが OFF のとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- パワースイッチが ACC または ON のときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.83）トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.492 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.123）はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いとき

●ハイブリッドシステム始動時にREADY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.74

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.493 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.114

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.139

■ご留意いただきたいこと

→P.139

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→P.82

■電子キーの電池交換

→P.441

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.492 を参照してください。

**警告**

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

## ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.194）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.190）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

**知識**

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

**警告**

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

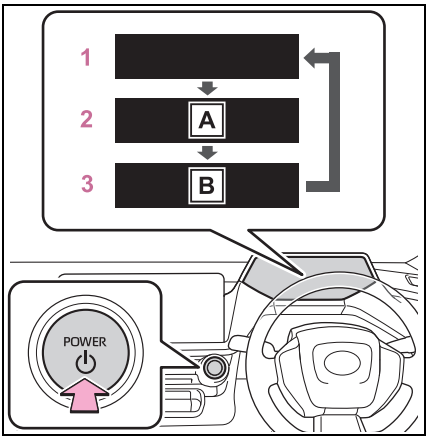
● 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.450）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

**警告**

- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、パワースイッチを短く確実に押してください。

## パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）




A アクセサリー

B パワー ON

**1** OFF

非常点滅灯が使用できます。

**2** ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。

メーターに “アクセサリー” が表示されます。

**3** ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに “パワー ON” が表示されます。

※ マルチメディアシステム装着車は、カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。（→P.518）

**知識**

**■ACC カスタマイズが “OFF” のとき（マルチメディアシステム装着車）**

- パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。（安心降車アシスト装着車）

**■自動電源 OFF 機能**

- シフトポジションが P にあるとき、約 20 分以上パワースイッチを ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないで

ください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メーターの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

## EV ドライブモード

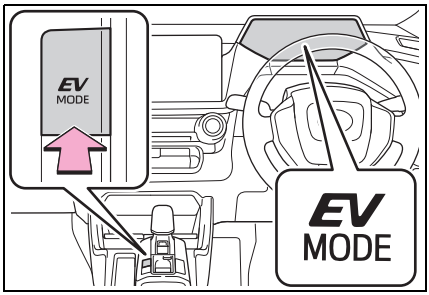
**EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。**

### EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。




知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき

炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき

長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき

エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.108）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

ただし、車両状態によっては EV ドライブモードが解除され、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどる場合があります。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき

エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.108）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

**警告**

■走行中は

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

# トランスミッション

## 目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

### シフトポジションの使用目的について

| シフトポジション | 目的および状態 |
|---|---|
| P | 駐車またはハイブリッドシステムの始動 |
| R | 後退 |
| N | 動力が伝わらない状態 |
| D | 通常走行※ |
| B | 急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき |

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDを使用してください。

知識

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモード※1またはスポーツモード※2にしても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

※1 2ZR-FXEエンジン搭載車

※2 M20A-FXSエンジン搭載車

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.181

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

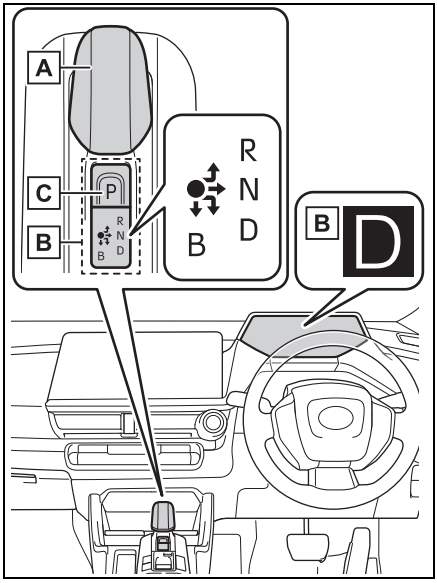
シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.465）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

## シフトポジションの切りかえ方法と表示について




### A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

B への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・B・R から P へ、または D・B から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

### B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

### C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

### 知識

**■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ**

●パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

**■P から他のシフトポジションに切りかえる**

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作

すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、B を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から B を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチが ON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポ

ジションがPに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.493を参照してください。

**警告**

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Pポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

**注意**

■シフトポジションの切りかえ操作について

PからP以外、およびP以外からPへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Pからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

## 自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションがPに切りかわるまでの間、自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持することができます。

1 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションをNに切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーをNの位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションがNのままハイブリッドシステムが停止します。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーショ

ンディスプレイに “N 保持中 解除するにはＰスイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください。
- 必ずハイブリッドシステムが始動している状態で操作してください。
  ハイブリッドシステム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

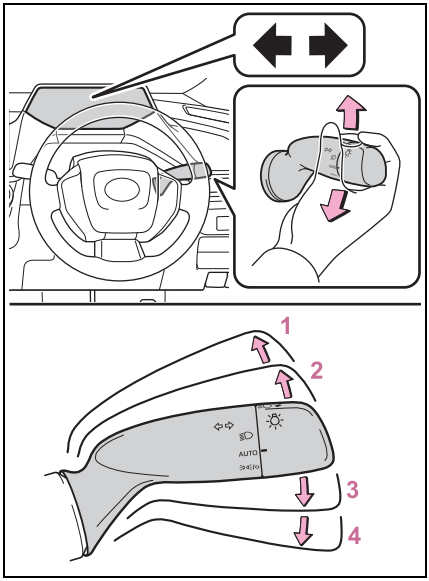
## 走行モードの選択

→P.365

# 方向指示レバー

## 操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。




**1** 左折

**2** 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

**3** 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

**4** 右折

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

トヨタ販売店で点検を受けてください。

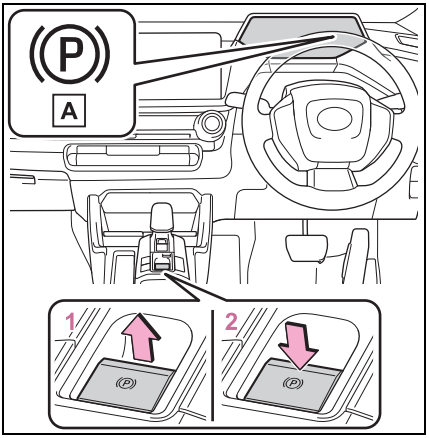
# パーキングブレーキ

**自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。**
**オートモードのときは、シフトポジションの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。**

## 操作のしかた

### ■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。




A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

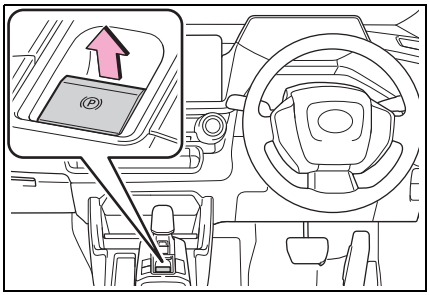
・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.195)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.463)

### ■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

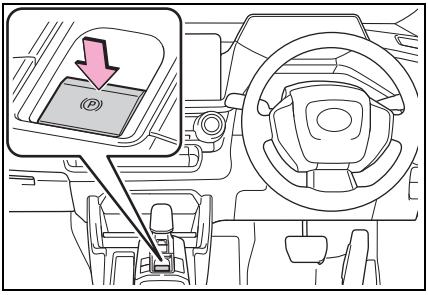
シフトポジションおよび P ポジ

ションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。
(→P.194)

### ■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。



知識

### ■パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

### ■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

### ■パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトポジションが P もしくは N 以外の位置にある

（アドバンストパーク装着車：アドバンストパーク作動中はシフトポジションが P のみ。）

- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

### ■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で 操作されました しばらく お待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で 停止しました” または “EPB 現在 使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.175

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P.458

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.376

**警告**

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。
車が動かないことを確認してください。

注意

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.493)

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

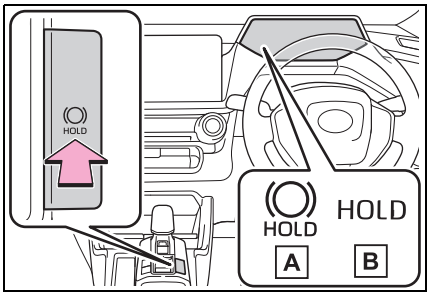
## ブレーキホールド

**シフトポジションがDでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。**

### システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。




知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

●マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB動作が途中で停止しました”や“EPB故障 販売店で点検して

ください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

●パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.194）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障 ブレーキを踏み 解除ください 販売店で点検” “BrakeHold 故障 販売店で 点検してください” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.462

**警告**

**■急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

**■すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

**注意**

**■駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

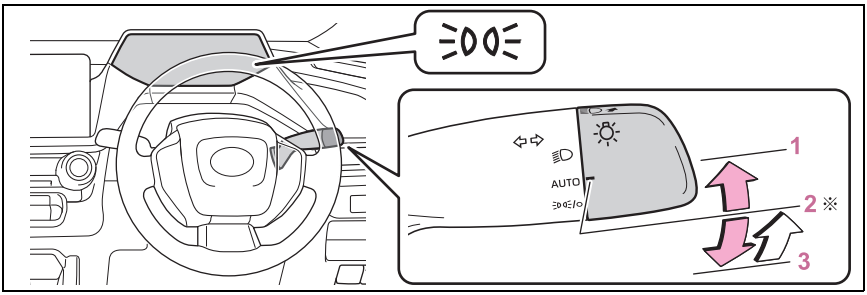
# ランプスイッチ

**自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。**

## 点灯／消灯のしかた

### ■ 点灯する

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。




※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へもどります。

| | 点灯状態 | |
|---|---|---|
| ポジション | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| 1 | ヘッドランプ・スモールランプが点灯 | |
| 2AUTO※1 | LED デイライト★（→P.201）が点灯 | ヘッドランプ・スモールランプが点灯 |
| 3 ※1 | スモールランプが点灯 | スモールランプが点灯 ※2 |

上記の表のスモールランプは、薄暮灯★・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

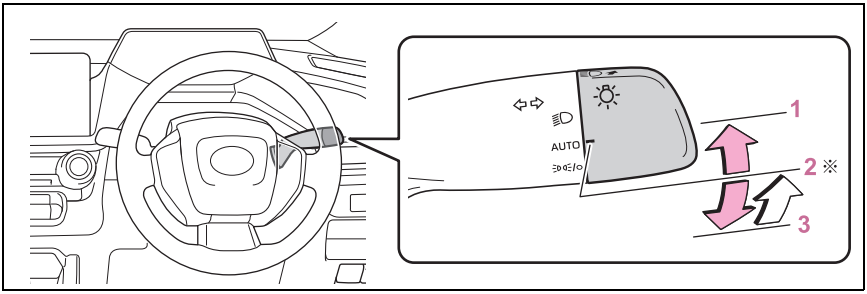
※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

### ■ 消灯する

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 または 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。




※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へもどります。

| | 点灯状態 | |
|---|---|---|
| ポジション | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| 3 | ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★（→P.201）が消灯 | ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※ |

上記の表のスモールランプは、薄暮灯★・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■LED デイライト機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

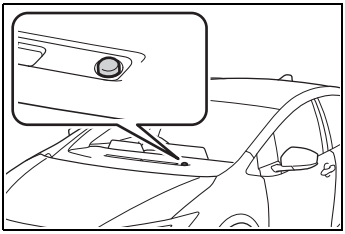
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除し、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にすると、すべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから⇒または⇒の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能（雨滴感知式ワイパー装着車）

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■マルチインフォメーションディスプレイに“ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

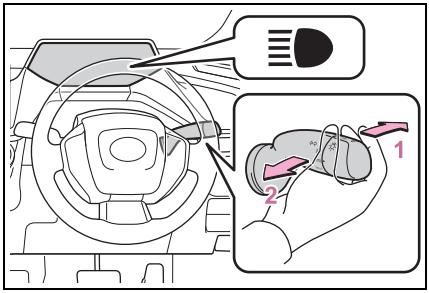
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

## ハイビームにするには




1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

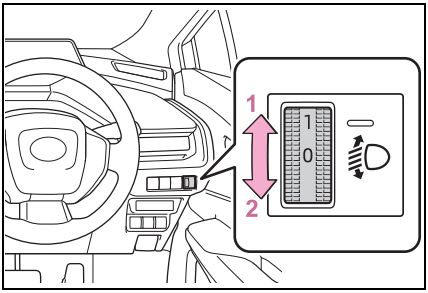
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

## 手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。




1 上向きに調整

2 下向きに調整

### ■ 目盛り設定の目安

| 乗員と荷物の条件 | | ダイヤル位置 |
|---|---|---|
| 乗員 | 荷物 | |
| 運転者 | なし | 0 |
| 運転者と助手席乗員 | なし | 0 |
| 全乗員 | なし | 1 |
| 全乗員 | ラゲージルーム満載時 | 2 |
| 運転者 | ラゲージルーム満載時 | 3 |

# AHB（オートマチックハイビーム）

**オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。**

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

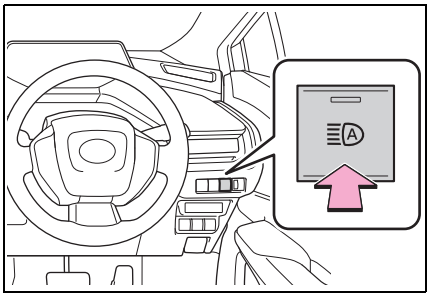
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

**■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

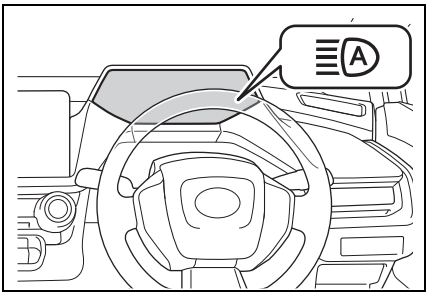
## オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき

・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.215
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

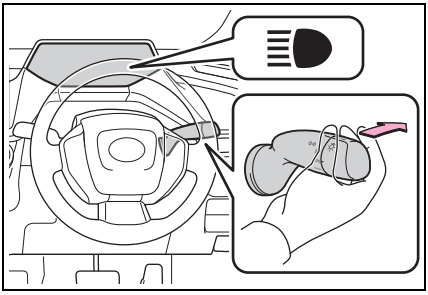
## 手動制御に切りかえるには

### ■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

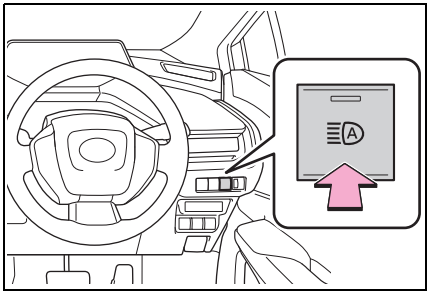


### ■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

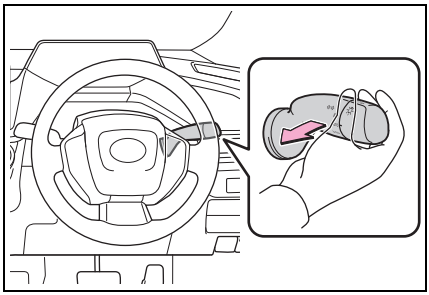


## 一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



## リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

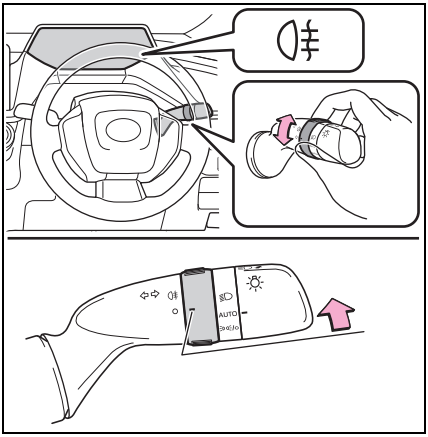
**雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。**

### 操作のしかた

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと　○　の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。




知識

**■点灯条件**

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

**■リヤフォグランプについて**

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

**■補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

## ワイパー&ウォッシャー

**レバー操作でワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。**

⚠注意

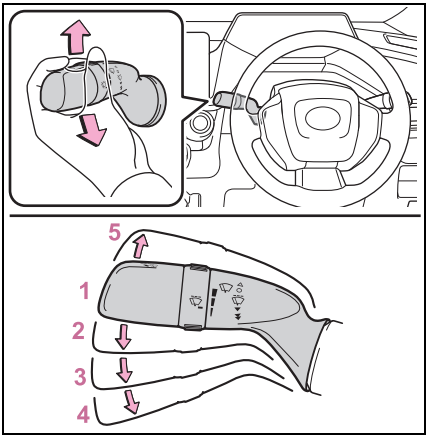
■**フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

### 操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー




1 ○ 停止

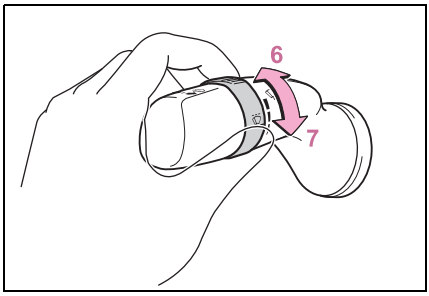
2 間欠作動

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

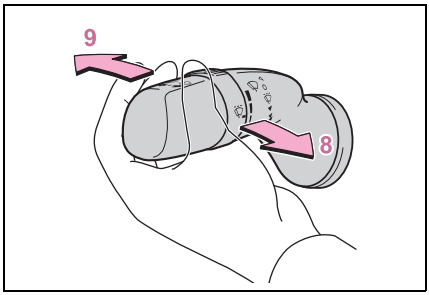
5 △ 一時作動

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。




6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 間欠ワイパーの作動頻度（減）




8 フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してフロントウインドウガラス洗浄用ウォッシャーが作動します。（ワイパーが数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません）

9 カメラ洗浄用のウォッシャー液を出す★

レバーを前方へ押すと次のカメラ洗浄用ウォッシャーが作動します。

・デジタルインナーミラーのカメラおよびドライブレコーダーの後方カメラ★（→P.155）

・バックガイドモニターのカメラ★※

・パノラミックビューモニターのバック

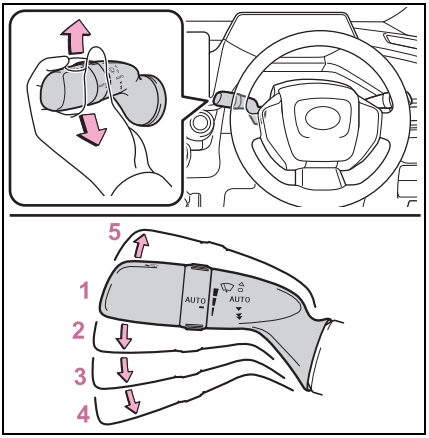
カメラ★※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

▶ 雨滴感知式ワイパー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。




1 ○ 停止

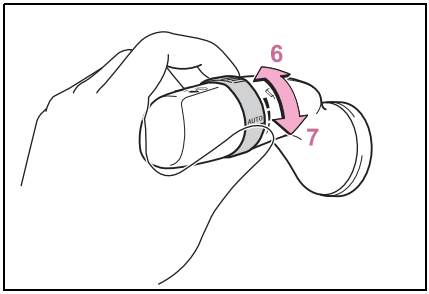
2 AUTO AUTO モード

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

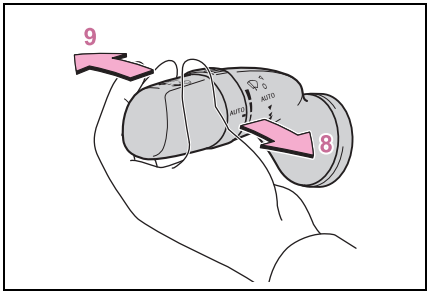
5 △ 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。




6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）




8 フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してフロントウインドウガラス洗浄用ウォッシャーが作動します。（ワイパーが数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません）

9 カメラ洗浄用のウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すと次のカメラ洗浄用ウォッシャーが作動します。

・デジタルインナーミラーのカメラおよびドライブレコーダーの後方カメラ（→P.155）

・パノラミックビューモニターのバックカメラ※

※ カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してく

ださい。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●ワイパーを 1 回のみ作動

●フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■車速による作動への影響

▶ 間欠時間調整式ワイパー装着車

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（間欠ワイパーの作動頻度が最大に調整されているときは、低速作動を続けます）

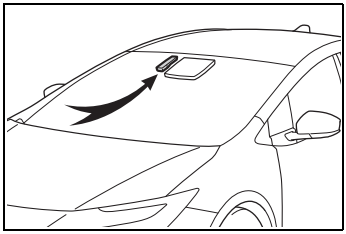
▶ 雨滴感知式ワイパー装着車

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチがONのときにワイパースイッチを AUTO にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または -15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■フロントドア開連動ワイパー停止機能（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モード選択中にシフトポジションが P にあり、ワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

**警告**

**■AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

**■フロントウインドウガラス洗浄用ウォッシャーを使用するときの警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

**■ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

**■ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

**■補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

# 給油口の開け方

## 給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

**■燃料の種類について**

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

**■バイオ混合ガソリンについて**

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

**警告**

**■給油するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

**注意**

**■給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

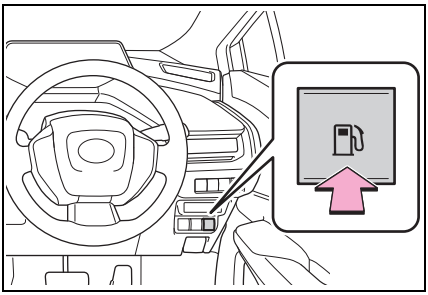
注意

●塗装が損傷する

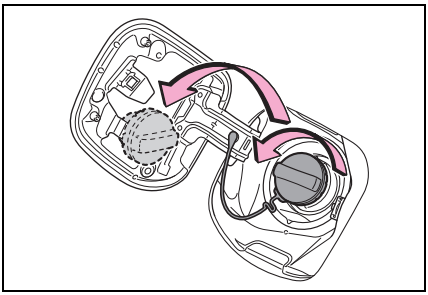
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

## 給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



知識

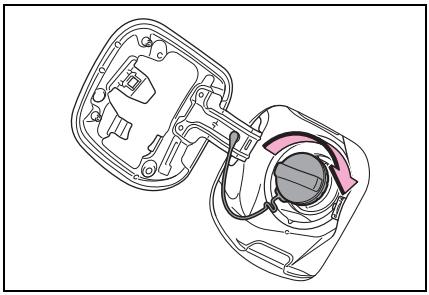
■給油扉が開かないとき

トヨタ販売店にご相談ください。

## 給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）

**T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。**

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

●Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

### Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.2 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

納車後にソフトウェア更新がされた場合は、ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

**■ご使用にあたっての留意事項**

●お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。

●T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

### 自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

納車後にソフトウェア更新をされた場合には、システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

#### ■ マルチメディアディスプレイでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

#### ■ 自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法を読む

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

https://manual.toyota.jp/replace.html?param=m47e40v.prius.2301.hev.vh

**2** 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

**■デジタル取扱説明書について**

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

## ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

**■ソフトウェアアップデートについて留意事項**

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※

・法規上の問題が発生したとき ※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

**■運転支援機能の更新通知で確認できること**

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

# Toyota Safety Sense

**Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。**

## ⚠警告

### ■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

### ■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

### ■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

**警告**

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

## 運転支援装置

### ■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.203

### ■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.222

### ■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.231

### ■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.240

### ■ LCA（レーンチェンジアシスト）★

→P.236

### ■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★

→P.251

### ■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.245

### ■ 発進遅れ告知機能

→P.253

### ■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.254

### ■ レーダークルーズコントロール

→P.257

### ■ クルーズコントロール

→P.266

### ■ ドライバー異常時対応システム

→P.269

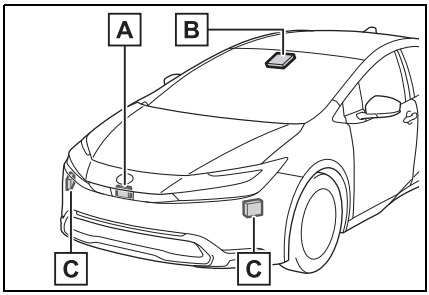
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

### ■ 周囲の状況を検出するセンサー

▶ フロント



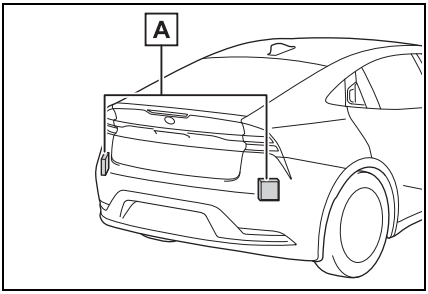

A 前方レーダー

B 前方カメラ

C 前側方レーダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤ




A 後側方レーダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

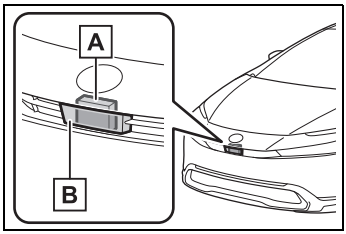
**■レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

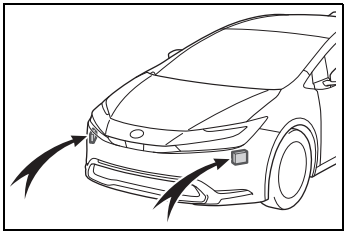
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。




A レーダー

B レーダー専用カバー

●前側方レーダー装着車：前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく



●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

**警告**

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

**■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて★**

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

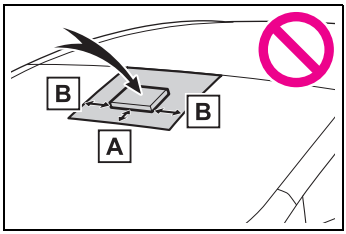
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない




A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

**警告**

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

**■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について**

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

**知識**

**■ご使用にあたっての留意事項**

コネクティッドナビ（ディスプレイオーディオ）装着車：以下の機能を継続して利用するためには、T-Connect 利用契約の更新が必要です。

- LCA（レーンチェンジアシスト）★

→P.236

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■センサーが正しく作動しないおそれがあるとき**

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が

弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

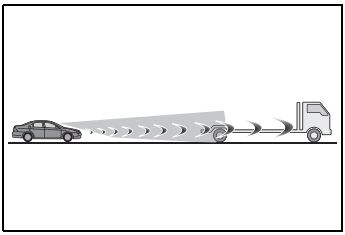
●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

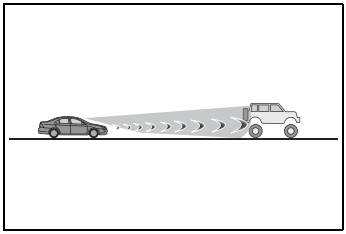
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高い

とき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■**車線を検知できないおそれがあるとき**

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

■**レーダーの取り扱い**

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■**システムの一部もしくは全てが作動しないとき**

●本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

●VSC、TRC 等の安全システムが作動時

●VSC、TRC 等の安全システムが OFF のとき

■**ブレーキの作動音や踏み応えの変化について**

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

## PCS（プリクラッシュセーフティ）

**進路上の作動対象（→P.222）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。**

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.231）

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→P.215

**■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

### システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車 ※

● 歩行者

● 自動二輪車 ※

● 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

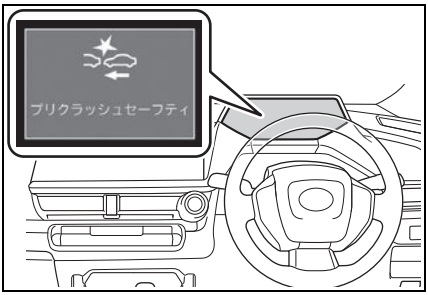
### 機能一覧

**■ 衝突警報**

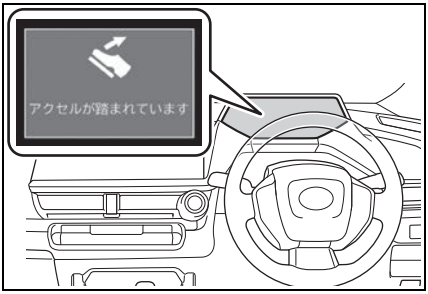
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。




アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。




### ■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

### ■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

### ■ 緊急時操舵支援

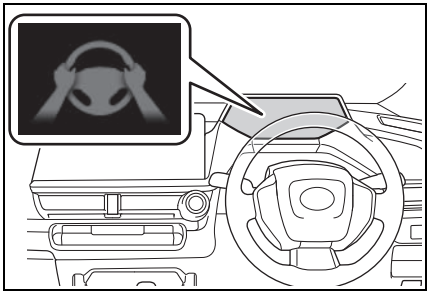
システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

アクティブ操舵機能装着車：運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

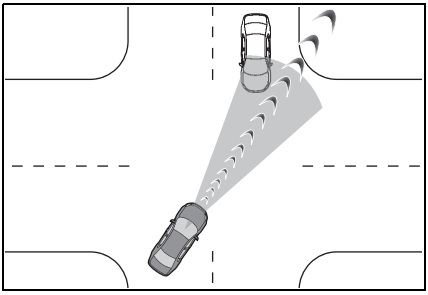


### ■ 交差点衝突回避支援（右左折）

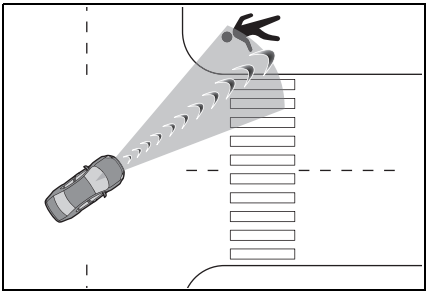
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



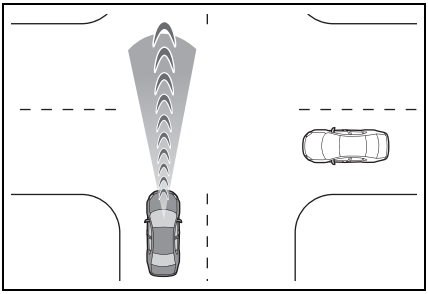
● 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ **交差点衝突回避支援（出合頭車両）**

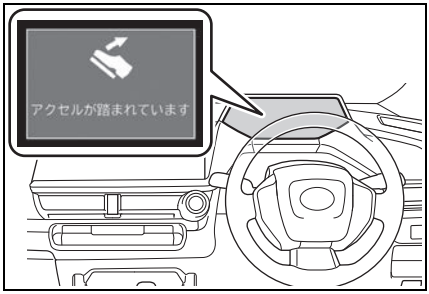
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ **低速時加速抑制**

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。




**警告**

■ **プリクラッシュブレーキについて**

● プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

● プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

● プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

**警告**

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

**■低速時加速抑制について**

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

**■緊急時操舵支援について**

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

**■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件**

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステム

が判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 先行車両、静止車両 | 約 5 ～ 180km/h | 約 5 ～ 180km/h |
| 対向車両 | 約 30 ～ 180km/h | 約 80 ～ 220km/h |
| 自転車 | 約 5 ～ 80km/h | 約 5 ～ 80km/h |
| 歩行者 | 約 5 ～ 80km/h | 約 5 ～ 80km/h |
| 先行自動二輪車、静止自動二輪車 | 約 5 ～ 180km/h | 約 5 ～ 80km/h |
| 対向自動二輪車 | 約 30 ～ 180km/h | 約 30 ～ 180km/h |

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 先行車両、静止車両 | 約 30 ～ 180km/h | 約 10 ～ 180km/h |
| 自転車 | 約 30 ～ 80km/h | 約 30 ～ 80km/h |
| 歩行者 | 約 30 ～ 80km/h | 約 30 ～ 80km/h |
| 先行自動二輪車、静止自動二輪車 | 約 30 ～ 180km/h | 約 10 ～ 80km/h |

●プリクラッシュブレーキ

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 先行車両、静止車両 | 約 5 ～ 180km/h | 約 5 ～ 180km/h |
| 対向車両 | 約 30 ～ 180km/h | 約 80 ～ 220km/h |
| 自転車 | 約 5 ～ 80km/h | 約 5 ～ 80km/h |
| 歩行者 | 約 5 ～ 80km/h | 約 5 ～ 80km/h |

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 先行自動二輪車、静止自動二輪車 | 約 5 ～ 180km/h | 約 5 ～ 80km/h |
| 対向自動二輪車 | 約 30 ～ 180km/h | 約 30 ～ 180km/h |

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車 | 約 40 ～ 80km/h | 約 40 ～ 80km/h |
| 先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車 | アクティブ操舵機能★：※ ～ 80km/h | アクティブ操舵機能★：※ ～ 80km/h |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

| 作動対象 | 自車速度 | 対向車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|---|
| 対向車両 | 約 5 ～ 40km/h | 約 5 ～ 75km/h | 約 10 ～ 115km/h |
| 歩行者 | 約 5 ～ 30km/h | — | 約 5 ～ 40km/h |
| 自転車 | 約 5 ～ 30km/h | — | 約 5 ～ 50km/h |
| 対向自動二輪車 | 約 5 ～ 40km/h | 約 5 ～ 75km/h | 約 10 ～ 115km/h |

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

▶前側方レーダー非装着車

| 作動対象 | 自車速度 | 相手車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|---|
| 車両、自動二輪車（側面） | 約 5 ～ 60km/h | ・自車速度以下<br>・約 40km/h 以下 | 約 5 ～ 60km/h |

▶前側方レーダー装着車

| 作動対象 | 自車速度 | 相手車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|---|
| 車両、自動二輪車（側面） | 約 5 ～ 60km/h | 約 50km/h 以下 | 約 5 ～ 60km/h |

自車速度が約 40km/h 以上のときは、相手車速度が約 40km/h 以下の場合しか作動しません。

相手車速度が自車速度以下の場合しか作動しません。

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁 | 約 0 ～ 15km/h | 約 0 ～ 15km/h |

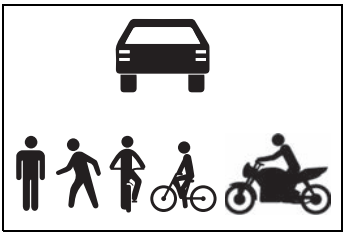
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・アクセルペダルを離す

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

**■作動対象の検出**

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



**■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

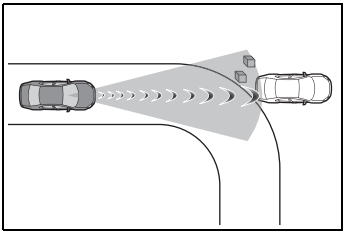
・作動対象などのすぐそばを通過するとき

・車線を変更して作動対象などを追いこすとき

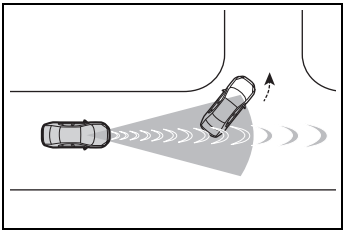
・作動対象などに急接近したとき

・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

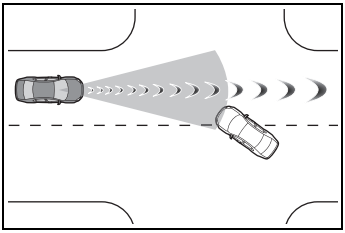
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



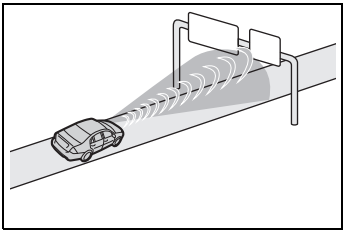
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



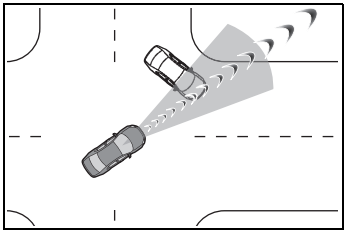
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



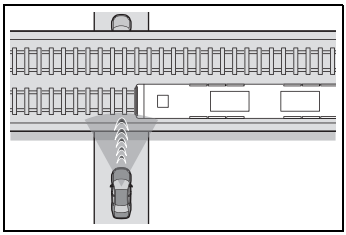
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



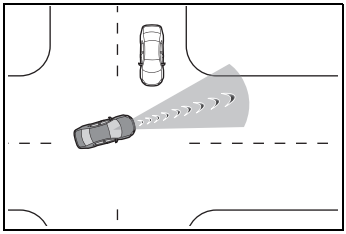
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路上方／下方を移動するものがあるとき



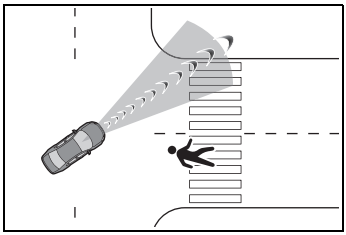
■**システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレー

ル・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき

・自車が壁に斜めに近づくとき

### PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.518）

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.518）

● アクティブ操舵機能非装着車：衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

● アクティブ操舵機能装着車：衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）のタイミングも変更されます。
“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が “早い” のタイミングで作動します。

## LTA（レーントレーシングアシスト）

### LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

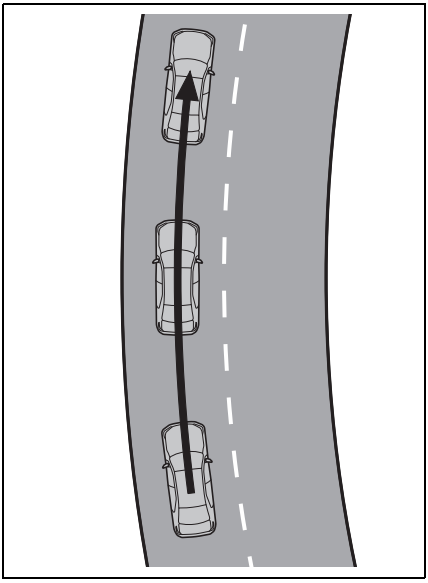
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

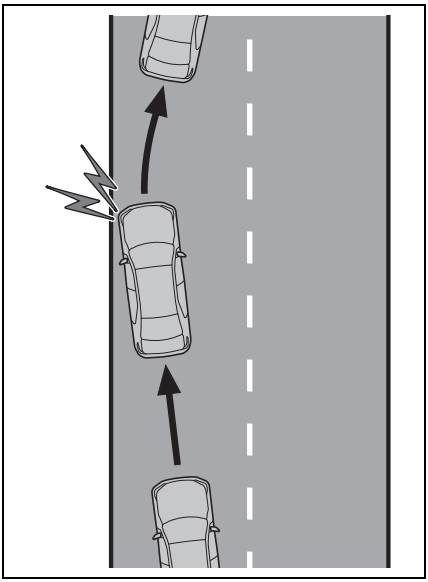
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



**警告**

**■LTA をお使いになる前に**

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

**■機能の作動条件**

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●システムが車線を認識しているとき、または先行車 / 周辺車の軌跡を認識しているとき

●レーダークルーズコントロールが作動しているとき

●車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●急カーブを走行していないとき

●一定以上の加減速がないとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.233）が行われていないとき

●車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.232）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

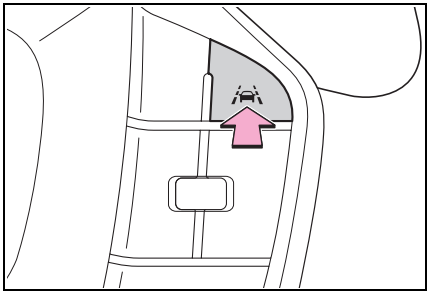
●LCA 装着車：次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●LCA 装着車：次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

## システムの ON ／ OFF を変更する

### LTA の ON ／ OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

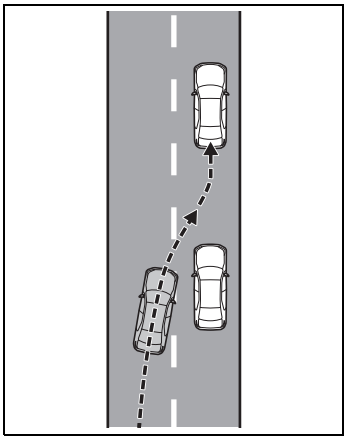


**警告**

**■機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



●先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

●先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）

●横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.221

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

## ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

| 表示灯 | 車線表示 | ステアリングアイコン | 状態 |
|---|---|---|---|
| 白色 | 灰色／白色 | 灰色 | LTA がスタンバイ中 |
| 緑色 | 緑色 | 緑色 | LTA が作動中 |
| 橙色点滅 | 橙色点滅 | 緑色 | 車両が点滅している側の車線から逸脱している |

# LCA（レーンチェンジアシスト）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

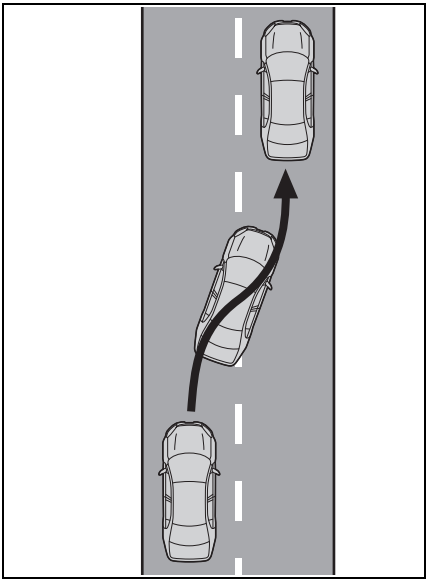
## LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



**警告**

**■LCA をお使いになる前に**

●LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

**■機能の作動条件**

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LTA が作動しているとき

●カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき

●自車速度が約 70 ～ 130km/h のとき

●システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき

●システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき

●車線を変更する先に車両が存在しないとき

●ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.233）が行われていないとき

●ハイブリッドシステム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の解除

次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●作動条件が満たされなくなった場合（→P.236）

●システムが車線を認識できなくなったとき

●方向指示レバーを 2 段目の位置（→P.237）へ操作したとき

●方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき

●運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.237）が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

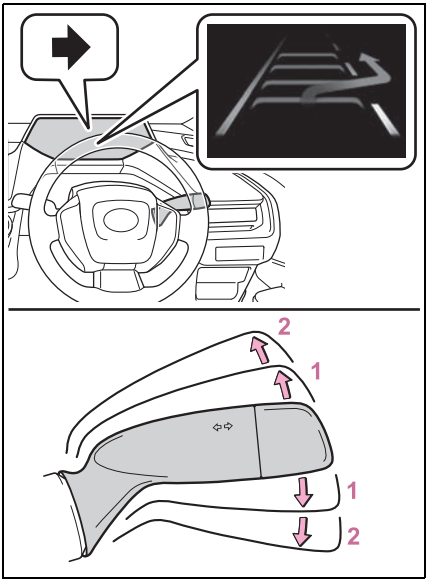
●次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

## LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。




1 1 段目：LCA 作動位置
2 2 段目：LCA 非作動位置

**警告**

**■LCA を使用してはいけない状況**

●片側 1 車線の道路を走行しているとき

●自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

## システムの ON ／ OFF を変更する

LCA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.519）

## ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

| LCA 表示 | ステアリングアイコン | 状態 |
|---|---|---|
| 灰色矢印／緑色線 | 緑色 | LCA がスタンバイ状態 |
| 青色矢印／白色線 | | LCA が作動中 |

| LCA 表示 | ステアリングアイコン | 状態 |
|---|---|---|
| | <br>灰色 | LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した |
| なし | <br>灰色 | LCA 作動中に車線を検知できなくなった |

# LDA（レーンディパーチャーアラート）

## 基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

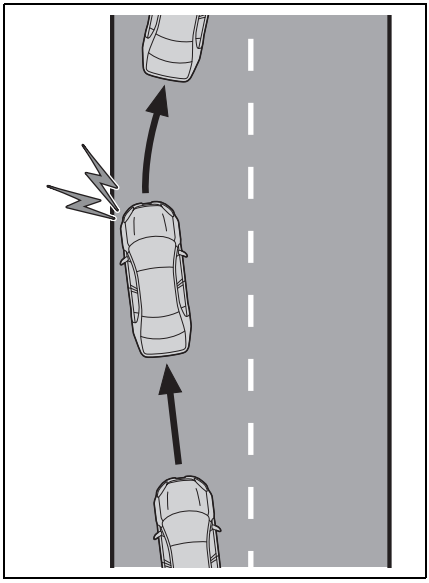
### ■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



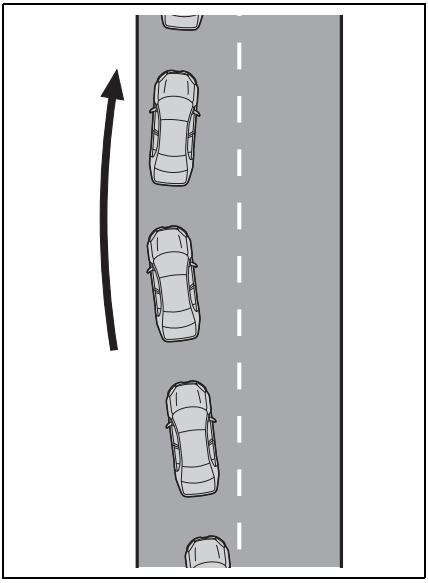
### ■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

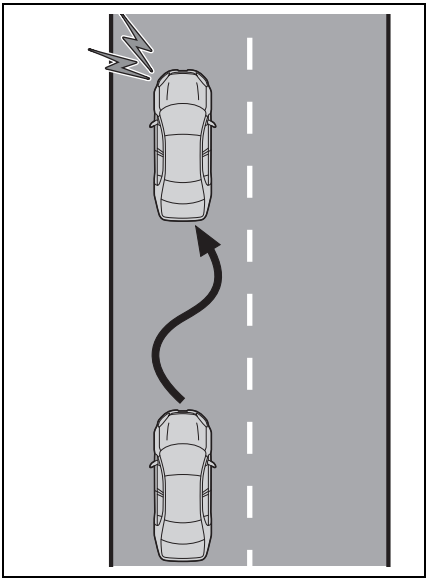
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



**警告**

**■LDA をお使いになる前に**

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

**■各機能の作動条件**

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

・車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき）

・システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・ VSC または TRC を OFF にしていない

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.241）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

## LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.519）

● カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。（→P.519）

**警告**

**■機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.221
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.221
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.215



## ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

| 表示灯 | 車線表示 | ステアリングアイコン | 状態 |
|---|---|---|---|
| OFF 橙色点灯 | 消灯 | 消灯 | システムが非作動 |
| 消灯 | 灰色 | 消灯 | システムが車線を認識していない |
| 消灯 | 白色 | 消灯 | システムが車線を認識している |
| 橙色点滅 | 橙色点滅 | 消灯 | 点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中 |

| 表示灯 | 車線表示 | ステアリングアイコン | 状態 |
|---|---|---|---|
| 緑色 | 緑色 | 緑色 | 点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中 |
| 橙色点滅 | 橙色点滅 | 緑色 | 点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中 |

## PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

**プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.246）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。**

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。

●プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.247）

●プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

●わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

**■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき**

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

## システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

| 機能 | 状況 | 作動内容 | 作動対象 |
|---|---|---|---|
| 障害物先読みアシスト | 道路を横断中の作動対象を検知したとき | 衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。 | ●歩行者<br>●自転車運転者 |
| | 道路脇の作動対象を検知したとき | 作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 | ●歩行者<br>●自転車運転者<br>●駐車車両 |
| | | ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。 | |
| 減速アシスト | 先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき | 車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。 | ●先行車<br>●自動二輪車 |
| | 自車前方にカーブを検出したとき | 前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。 | なし |
| | 信号のある交差点で右左折するとき | 右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。 | なし |
| 操舵アシスト | 車線を認識しているとき | 運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。 | なし |

知識

**■システムの作動車速**

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.221
・シフトポジションが P、R または N のとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。
・車速が約 15km/h 以下のとき
・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

**警告**

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.221

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

●作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

**警告**

- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

## プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.519）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.519）

## システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

| 表示 | 意味 |
|---|---|
| | ●白色：作動対象監視中<br>●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中 |
| <br> | 道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している |
| <br> | 道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している |
| | ●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している<br>●操舵支援が作動中 |
| | 先行車に対する減速支援が作動中 |
| | 適正な車間距離を確保するよう注意喚起している |
| | カーブに対する減速支援が作動中 |
| | 信号のある交差点に対する減速支援が作動中 |

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

## FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。**

### システムの制御

- 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。
- 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

・マルチインフォメーションディスプレイ

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

**■FCTA システムの作動条件**

システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ～ 60km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

**■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき**

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき

●自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき

●自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき

●自転車や歩行者が歩道を通行しているとき

●車両や歩行者が自車から遠ざかるとき

●交差車両が減速し停止するとき

●交差車両が自車直前で右左折するとき

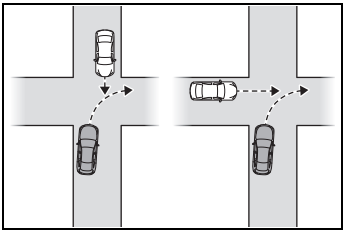
●歩行者が自車に接近するとき

●対向車が右左折するとき

●交差車両より先に自車が交差点を通過するとき

●信号待ち時に交差車両が接近するとき

●右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



●前方から車両が接近し、すれちがうとき

●後方から車両が接近し、追い抜かれるとき

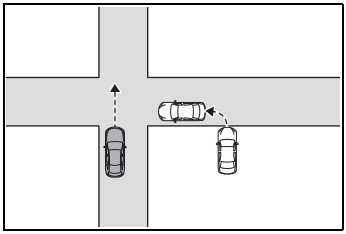
●自車が車両や歩行者と並走するとき

●自車側面に車両や歩行者が接近するとき

**■システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



●交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき

●交差車両が自車から遠方を交差するとき

●自車と交差車両のあいだに障害物があるとき

●複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.221

## FCTA の設定を変更する

● FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.520）

● カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。（→P.520）

## 発進遅れ告知機能

**先行車の発進または信号が青にかわった後、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。**

### 先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

### 信号切替り告知機能

信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

**■作動条件**

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

**■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況**

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

**■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき**

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

**■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき**

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や、看板と言った信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、自転車用の信号機の形状が自動車用と良く似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

### システムのON／OFFを変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.520）

### 発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.520）

## RSA（ロードサインアシスト）

**前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。**

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

**■RSA を使用してはいけない状況**

システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

**■機能が正常に作動しないおそれのある状況**

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

### ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制

限される場合があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

## 告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

・最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・一定以上の減速がないとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・一定以上のハンドル操作をしていないとき
・先行車がいないとき

■**告知機能が正常に作動しないおそれのある状況**

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

・右左折等により標識が検知できないとき
・信号機が矢印信号のとき
・信号機が点滅信号のとき
・信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・停止線に対し信号機が遠くにあるとき
・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

## ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

| | |
|---|---|
| | 最高速度 |
| | はみ出し通行禁止 |
| | 車両進入禁止 |
| | 転回禁止 |
| | 一時停止 |
| | 赤信号 |

● 車の仕様によっては、表示される標識が一か所に重複する場合があります。

### RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.520）

## レーダークルーズコントロール

**車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。**

**高速道路や自動車専用道路で使用してください。**

**警告**

■**安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.262

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

**警告**

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

**■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

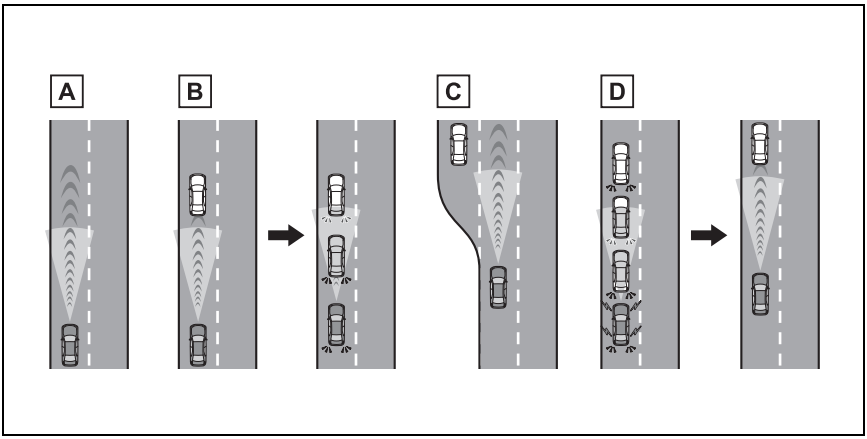
●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.219

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

## 基本機能




A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

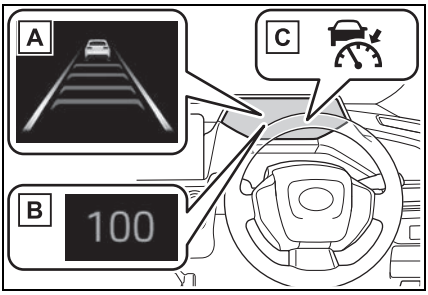
C 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：
先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RES スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

## システムの構成部品

### ■ メーター表示

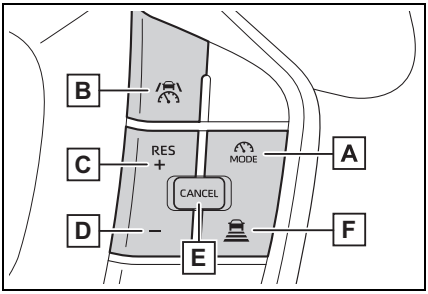



A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

### ■ 操作スイッチ




A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C ＋スイッチ、RES スイッチ

D −スイッチ

E キャンセルスイッチ

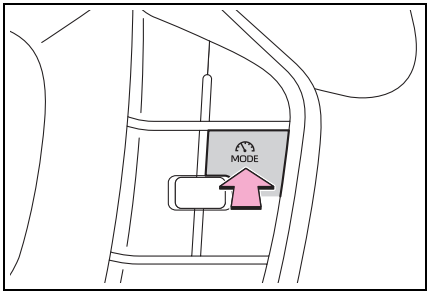
F 車間距離切りかえスイッチ

## レーダークルーズコントロールを使用する

### ■ 速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズコントロールを選択する

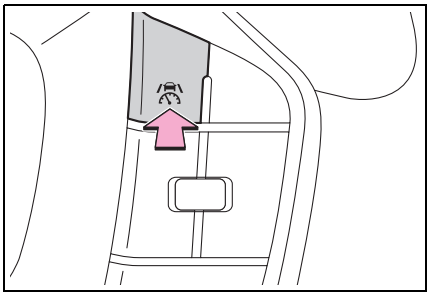
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。




2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

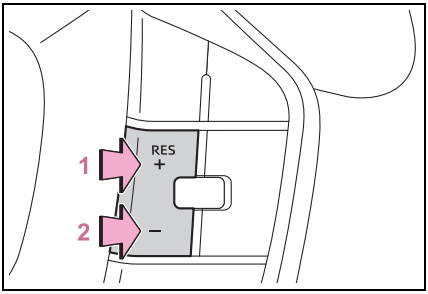


### ■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチま

たは－スイッチを押します。




1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

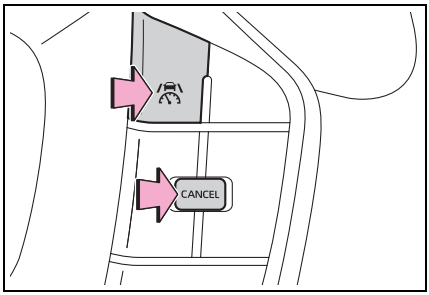
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 ＋スイッチを押す

### ■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

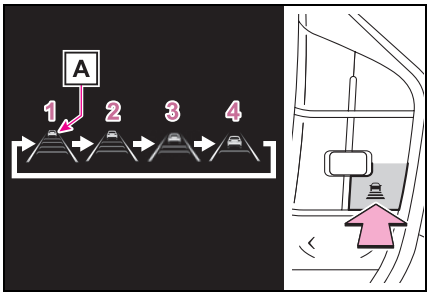



2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

### ■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。




| イラスト番号 | 車間距離 | 距離の目安（車速100km/h の場合） |
|---|---|---|
| 1 | 最長 | 約 70m |
| 2 | 長 | 約 60m |
| 3 | 中 | 約 45m |
| 4 | 短 | 約 30m |

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
・車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に RES スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.221

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.215

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.262）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

## 接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうなが

します。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

## カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

## 車線変更時の補助機能

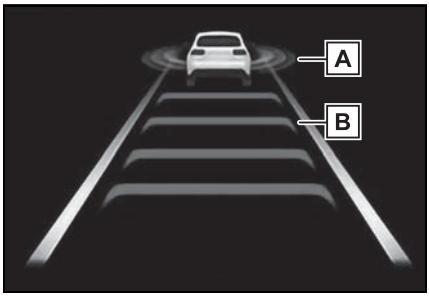
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

## 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。




A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

知識

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

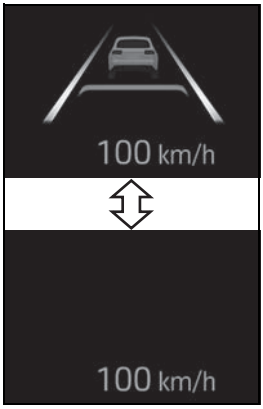
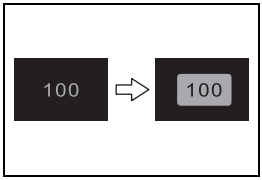
## レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.520）

## ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

| 表示灯 | マルチインフォメーションディスプレイ表示 | | 状態 |
|---|---|---|---|
| 白色 | | 設定車間距離：灰色 | レーダークルーズコントロール OFF |
| 緑色 | 100 km/h | 設定車間距離：青色<br>設定速度：緑色 | 定速走行 |

| 表示灯 | マルチインフォメーションディスプレイ表示 | | 状態 |
|---|---|---|---|
| 緑色 | | 設定車間距離：青色<br>設定速度：緑色<br>先行車：白色 | 追従走行 |
| 緑色 |  | 設定車間距離：橙色点滅<br>設定速度：緑色<br>先行車：橙色点滅 | 接近警報 |
| 緑色 | | 設定車間距離：灰色<br>設定速度：白色<br>先行車：灰色 | アクセルペダルによる加速中 |
| 緑色 |  | 設定速度：緑色反転表示 | 設定速度超過時 |
| 緑色 | | 設定車間距離：灰色<br>設定速度：白色<br>先行車：灰色 | 制御停車 |

# クルーズコントロール

**アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。**

**高速道路や自動車専用道路で使用してください。**

## 警告

**■安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

**■クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

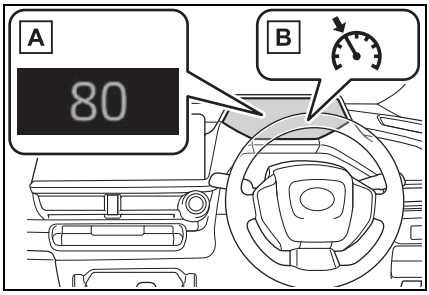
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.215

## システムの構成部品

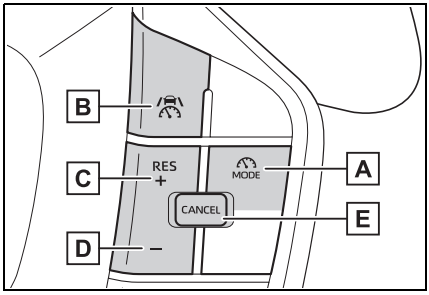
### ■ メーター表示




A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

### ■ 操作スイッチ




A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C ＋スイッチ、RES スイッチ

D −スイッチ

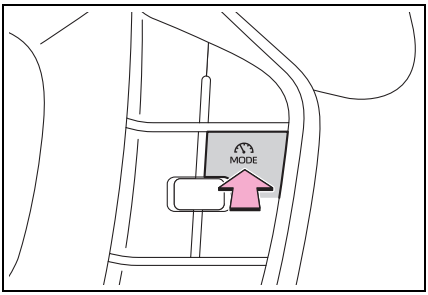
E キャンセルスイッチ

## クルーズコントロールを使用する

### ■ 速度を設定する

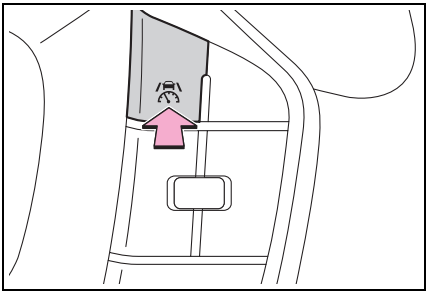
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。




2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

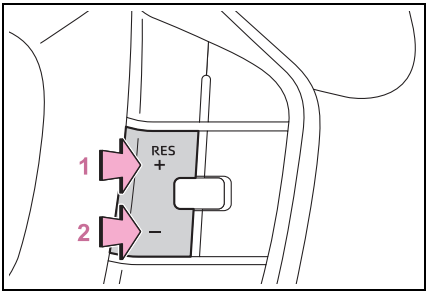
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ **設定速度をかえる**

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。




1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

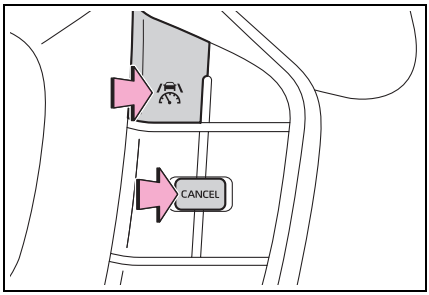
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 ＋スイッチを押す

■ **制御を解除する・復帰させる**

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。




2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

知識

■**クルーズコントロールの自動解除**

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.221

## ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

| 表示灯 | マルチインフォメーションディスプレイ表示 | | 状態 |
|---|---|---|---|
| 白色 | | なし | クルーズコントロール OFF |
| 緑色 | 100 km/h | 設定速度：緑色 | 定速走行 |
| 緑色 | 100 ⇨ 100 | 設定速度：緑色反転表示 | 設定速度超過時 |

## ドライバー異常時対応システム

**ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。**

**LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。**

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

### システム概要

本システムは４つの状態に分けられます。「警告１フェーズ」、「警告２フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

**■作動条件**

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

●自車速が約 50km/h 以上

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.221

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

## 警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

## 警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

異常状態から復帰するまでオーディオのミュート（消音）が継続します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

## 減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

## 停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊

急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

●LTA

●LCA★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

# ITS Connect★

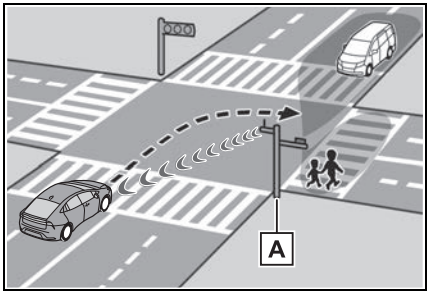
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。**

## ITS Connect の概要

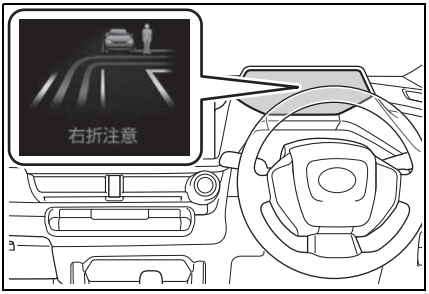
### ■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。




A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。




※DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

## ■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。
詳細は P.263 を参照してください。

### 知識

**■ITS Connect 機器に関する情報**

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。
このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1030
型式認定番号：10008

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

**■ITS Connect に関するお問い合わせについて**

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.276）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

**警告**

**■ITS Connect について**

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

**■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について**

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.274）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

**■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について**

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

**注意**

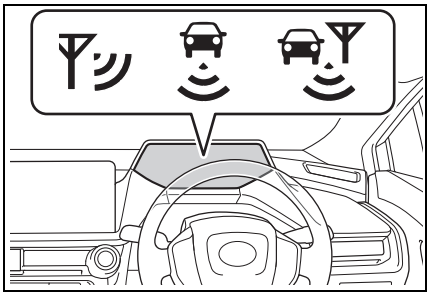
**■ITS Connect 機器取り扱いの注意**

・ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

・ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

## ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



| アイコン | 接続状態 |
|---|---|
| | 道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている |
| | 通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている |
| | 道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている |

## 割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）かつパノラミックビューモニター装着車：出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

### ■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

### ■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）※

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の

交通状況と異なる場合があります。

・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車がいないことを示すものではありません。

※ ナビゲーション付マルチメディア装着車

■ 出会い頭注意喚起 ※

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車は、低速走行中にも表示による注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。

・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車がいないことを示すものではありません。

※ ナビゲーション付マルチメディア装着車

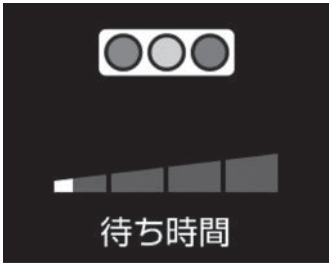
■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。




■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

■ **通信車両接近通知**

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

● 通信車両接近通知の使い方

・ 割込表示の通信車両接近通知を ON にしているときに、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示でお知らせします。

・ 割込表示の設定方法については、マルチインフォメーションディスプレイの表示設定（→P.106）を参照してください。

知識

■**交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について**

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■**システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・ トンネルや高架下を通過しているとき
・ ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
・ DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・ 他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向

車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

**■出会い頭注意喚起の通知感度について**

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車の出会い頭注意喚起の通知感度は、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

## 各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの車両設定から、次の機能の設定を変更することができます。（→P.102）

### ● 信号情報

次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※1（初期設定：ON）

・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内

### ● 道路環境情報

次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※1（初期設定：ON）

・右折時注意喚起

・出会い頭注意喚起 ※2, 3

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON ／ OFF を切りかえることができます。（初期設定：ON）

● 通知感度

次の機能の通知感度（高い／低い）を切りかえることができます。※4, 5（初期設定：高い）

・赤信号注意喚起

・右折時注意喚起

・出会い頭注意喚起 ※3, 6

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を切りかえることができます。（初期設定：ON）

※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※2FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車は、FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

※3ナビゲーション付マルチメディア装着車

※4各機能の通知感度を個別に変更することはできません。

※5「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※6FCTA（フロントクロストラフィックアラート）非装着車

## BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。**

**警告**

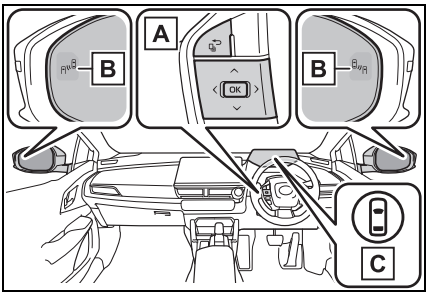
■**安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

## システムの構成部品




A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

**■ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

**■ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

**■カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。
(→P.512)

**■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて**

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSF078

C5-001

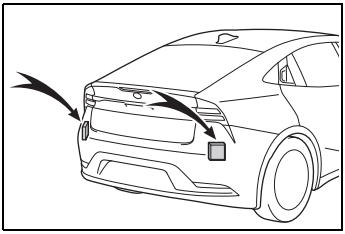
**警告**

**■システムを正しく作動させるために**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

**警告**

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.282）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。
塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談下さい。

## ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

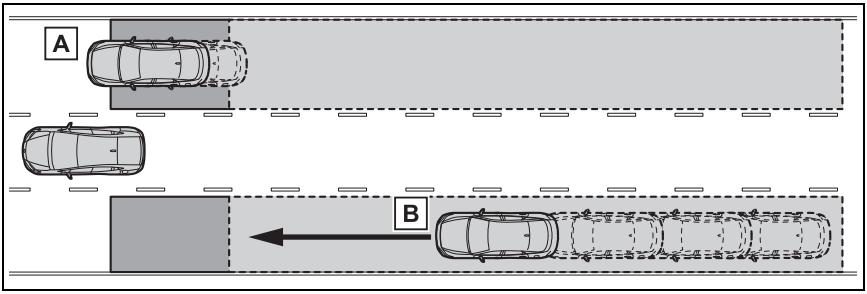
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.89）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

## ブラインドスポットモニターの作動

### ■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

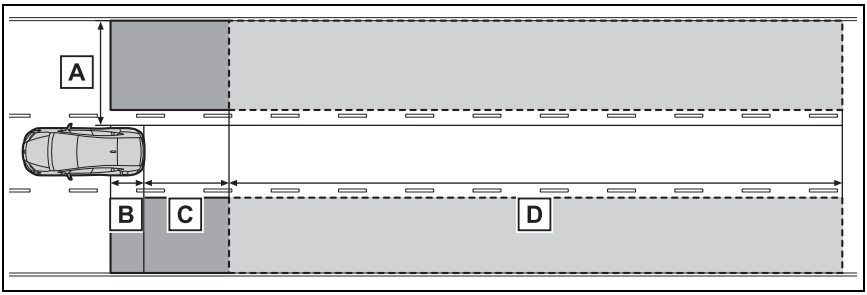



A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

### ■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。




検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※2

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※3

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車が追い越される場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※3自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

## ■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細についてはP.240 を参照してください。

知識

### ■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 10km/h 以上のとき

### ■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

### ■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

### ■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

●方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき

●大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき ※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

### ■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

## 後方車両接近告知★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**後方車両接近告知は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。**

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

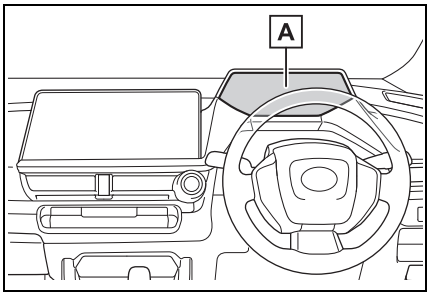
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■システムを正しく作動させるために**

→P.279

### システムの構成部品




A メーター／ブザー

・後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。
・後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえます。

### 後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

### 知識

**■ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

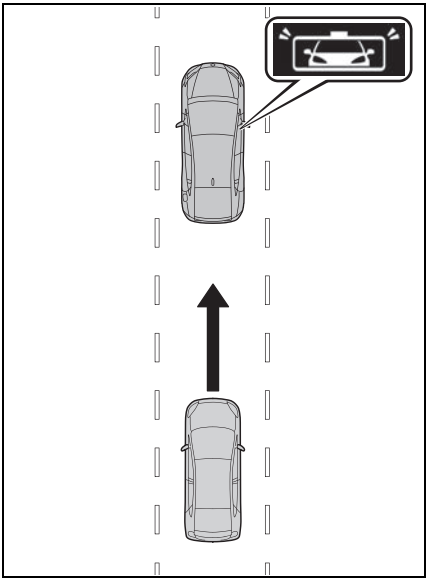
**■カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

### 後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マ

ルチインフォメーションディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

**■後方車両接近告知の作動条件**

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●後方車両接近告知が ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●前回作動から約5分以上経過していること

**■センサーが車両を検知する条件**

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

**■システムが検知しない条件**

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

**■後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況**

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
・後続車が自車から離れていくとき
・後続車が自車を追い越そうとしているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎ

るとき

●特に次のような状況では、後続車の接近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

## 周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）★

**周辺車両接近時サポートは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。**

**ドライブレコーダー★が装着されている車両は、ドライブレコーダーの録画機能を使用して、状況を自動で記録します。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

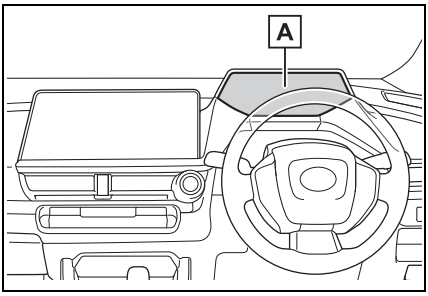
周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■システムを正しく作動させるために**

→P.279

## システムの構成部品




A メーター

・警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。
・周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえます。

## 周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

知識

**■音声の聞こえ方について**

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

## 周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

### ■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイに表示された “YES” の位置でステアリングスイッチを押してください。（→P.98）

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

### ■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。（→P.55）

マルチメディア装着車：ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

## ■ イベント録画（ドライブレコーダー装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダーの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

知識

### ■イベント録画の通知（ドライブレコーダー装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

### ■周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポート機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●周辺車両接近時サポートが ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●前回作動から約10 分以上経過していること

### ■通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

●携帯電話の電波が圏外でないとき

●携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

### ■ヘルプネット接続提案の作動条件

●通報提案がされていないとき

●ヘルプネットの契約がされている

### ■センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

### ■システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

### ■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きが

ずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

## 後方車両への接近警報★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**後方車両への接近警報は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。**

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。
後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

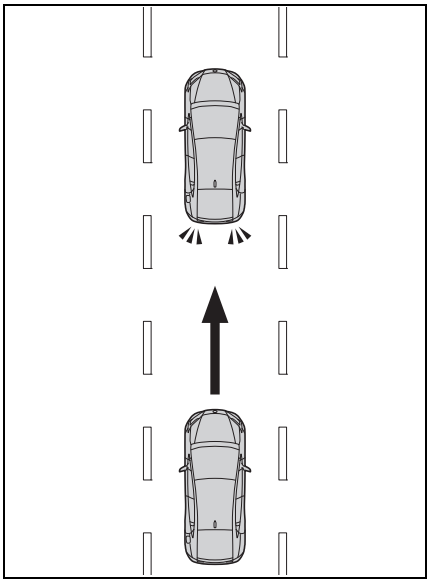
**■システムを正しく作動させるために**

P.279

### 後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。

このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



### 知識

**■後方車両への接近警報の作動条件**

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

**■センサーが車両を検知する条件**

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・ けん引しているとき
・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ けん引しているとき
・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・ 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・ 後方車両が近距離まで急接近したとき
・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

## セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。**

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

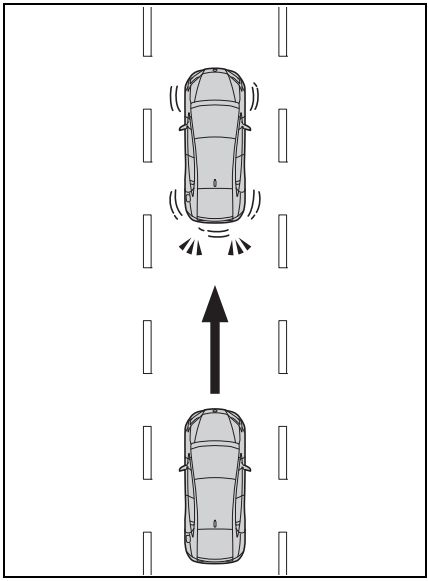
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■システムを正しく作動させるために**

P.279

### セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



### 知識

**■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件**

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき ※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約7分以上経過しているこ

と

●自車から見た後方車の接近速度が約30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

**■センサーが車両を検知する条件**

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

**■システムが検知しない条件**

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

**■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況**

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・停車した直後に後方車両が接近したとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
・走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
・洗車機で洗車しているとき

## 安心降車アシスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。**

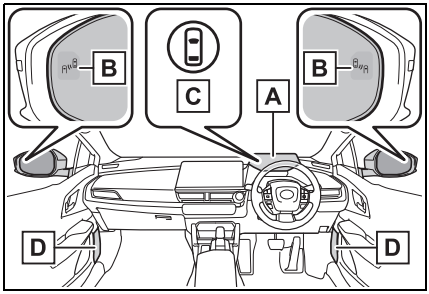
### 警告

**■安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

### 安心降車アシストのシステム構成部品




A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

D スピーカー（音声通知★）

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■音声の通知について★

以下のとき、音声による通知は実施されません。

●車内に乗員がいないと推定されるとき※

●ドアを開いて乗車後、ハイブリッドシステムを始動するまで

●ハイブリッドシステム停止後3分以上経過した場合

●マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されている場合

●外部より全ドアが施錠されている場合

●ハイブリッドシステム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続している場合

●マルチメディアディスプレイの ACC カスタマイズ（→P.512）が ON になっている状態で、ハイブリッドシステムが停止されている場合

●マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっている場合

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.512）

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.279

## 安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえる

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

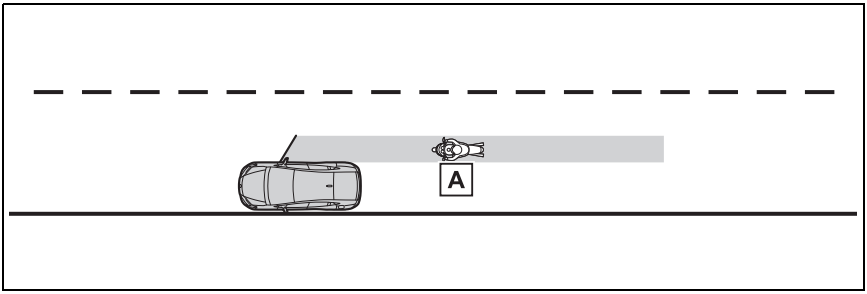
安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。

## 安心降車アシストの作動

### ■ 安心降車アシストが検知できる対象

安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知★によってその車両の存在を乗員に知らせます。

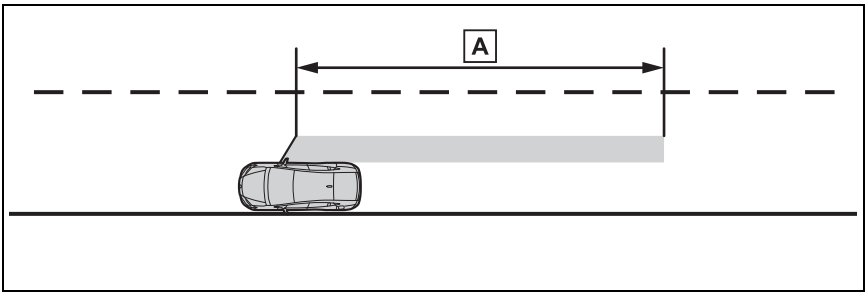



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。




A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

**■安心降車アシストの作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外のとき

**■センサーが車両を検知する条件**

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

**■システムが車両を検知しない条件**

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検

知対象としません。
・接近する車両・自転車の速度が遅いとき※
・ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※
・真うしろから接近する車両・自転車※
・前方から接近する車両・自転車※
・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
・歩行者・動物など※

※状況によっては検知をすることがあります。

●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
・ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・発進した直後の車両や自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

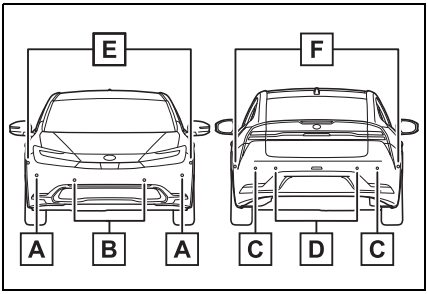
## クリアランスソナー

**クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ（マルチメディア非装着車）、またはマルチメディアディスプレイ（マルチメディア装着車）の距離表示とブザー音、音声案内★で運転者にお知らせします。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### システムの構成部品

#### ■ センサーの種類




A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー ※

F リヤサイドセンサー ※

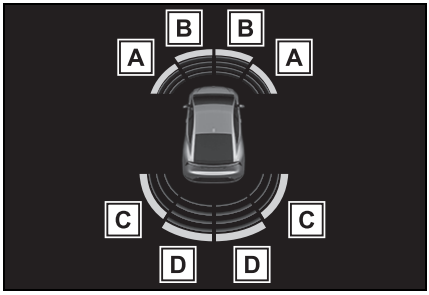
※ アドバンストパーク装着車

#### ■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ（マルチメディア非装着車）、またはマルチメディアディスプレイ（マルチメディア装着車）に表示されます。

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、静止物を検知しているときに、クリアランスソナー検知表示灯が点灯します。（→P.89）

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示（マルチメディア非装着車）




A フロントコーナーセンサー作動表示

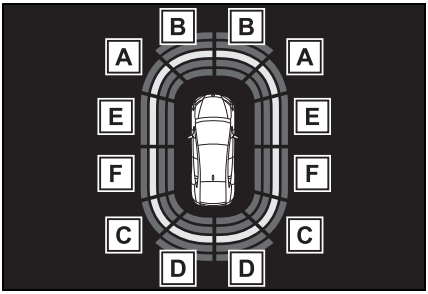
B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

▶ マルチメディアディスプレイの表示（マルチメディア装着車）

表示例：




A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

E フロントサイドセンサー作動表示※

F リヤサイドセンサー作動表示※

※アドバンストパーク装着車

## クリアランスソナーの ON ／ OFF を切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.89）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙からクリアランスソナーを ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ただし、マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このときクリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

### ⚠警告

**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

**■システムを正しく作動させるために**

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。

**警告**

- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

**■洗車時の注意**

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

**■作動条件**

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき
- マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

**■マルチインフォメーションディスプレイに “ 機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています ” が表示されたときは**

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**■マルチインフォメーションディスプレイに “ 機能停止 取扱書を確認 ” が表示されたときは**

大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

**■マルチインフォメーションディスプレイに “ 機能故障 販売店で点検 ” が表示されたときは**

センサーの故障や電圧異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

**■センサーの検知について**

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ★・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場

合があります。

●メーターが故障したときは、ブザーの音が鳴らないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

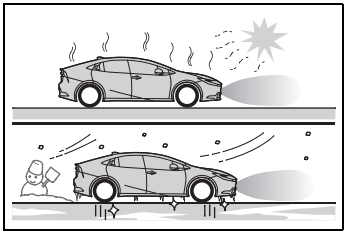
### ■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なと

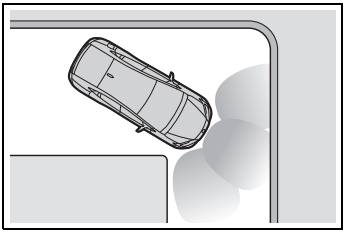
き

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

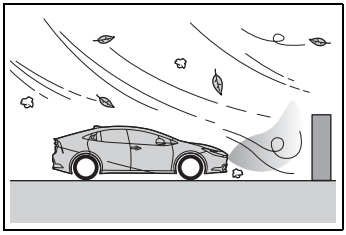
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

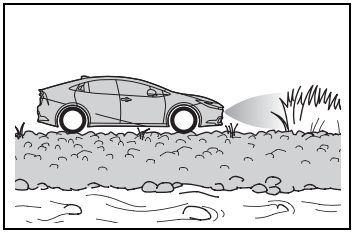
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

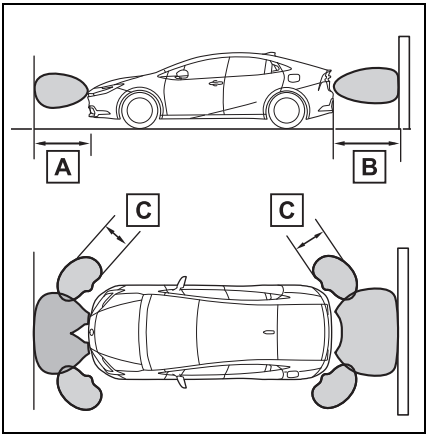


●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

## 距離表示の見方

### ■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車




A 約 100cm

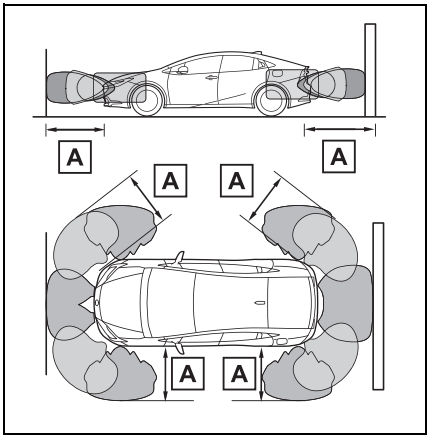
B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ アドバンストパーク装着車




A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

### ■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

| 静止物までのおおよその距離 | ブザー音 |
|---|---|
| フロントセンターセンサー：<br>約 100cm ～ 60cm※<br>リヤセンターセンサー：<br>約 150cm ～ 60cm※ | 断続音 |
| 約 60cm ～ 45cm※ | 速い断続音 |
| 約 45cm ～ 30cm※ | 非常に速い断続音 |
| 約 30cm ～ 15cm | 連続音 |
| 約 15cm 以下 | |

※ 自動ミュート機能あり（→P.305）

▶ アドバンストパーク装着車

| 静止物までのおおよその距離 | ブザー音 |
|---|---|
| フロントセンターセンサー：<br>約 200cm ～ 100cm<br>リヤセンターセンサー：<br>約 200cm ～ 150cm<br>コーナーセンサー：<br>約 200cm ～ 60cm<br>サイドセンサー：<br>約 200cm ～ 165cm | なし（表示のみ） |
| フロントセンターセンサー：<br>約 100cm ～ 60cm※<br>リヤセンターセンサー：<br>約 150cm ～ 60cm※<br>サイドセンサー：<br>約 165cm ～ 60cm※ | 断続音 |
| サイドセンサー以外：<br>約 60cm ～ 45cm※<br>サイドセンサー：<br>約 60cm ～ 40cm※ | 速い断続音 |
| サイドセンサー以外：<br>約 45cm ～ 30cm※<br>サイドセンサー：<br>約 40cm ～ 30cm※ | 非常に速い断続音 |
| 約 30cm ～ 15cm | 連続音 |
| 約 15cm 以下 | |

※ 自動ミュート機能あり（→P.305）

## 音声案内★とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内★を行います。

● 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

● 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **ブザー音量調整について**

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、クリアランスソナー、RCTA★、RCD★の音量を一括で切りかえることができます。（→P.102）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **ブザー音のミュート（消音）について**

● マルチメディア非装着車：マルチインフォメーションディスプレイにミュート可能を示す表示が出ているときに、メーター操作スイッチの OK を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。
クリアランスソナーのブザー音がミュート（消音）されます。

● マルチメディア装着車：マルチメディアディスプレイに上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。
クリアランスソナー・RCTA★・RCD★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

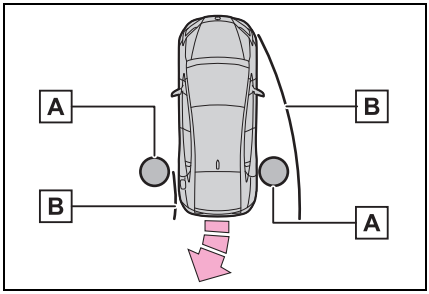
● 次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。

・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・パワースイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

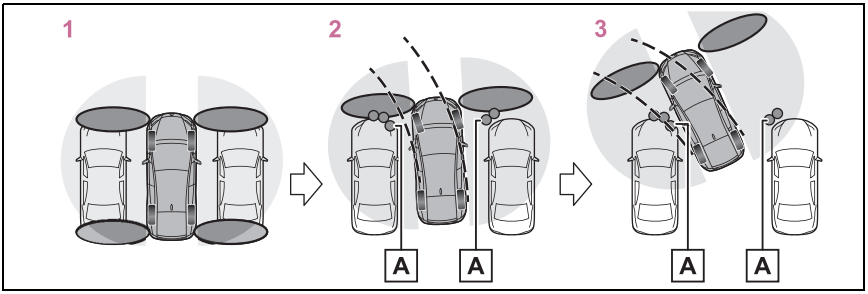
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。




A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。




A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

## 知識

### ■巻き込み警報機能の作動条件

●ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

●VIEWスイッチが押され、マルチメディアディスプレイが表示されているとき

●フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

### ■サイドエリアの静止物の検知について

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

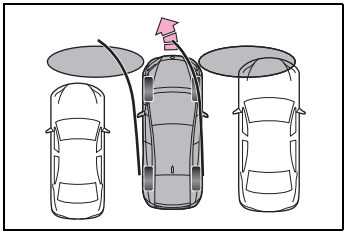
●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

## 警告

### ■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。
下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



**警告**

- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合
- サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。
- ドアミラーが閉じられているときは、障害物を検知できません。
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

## RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。**

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

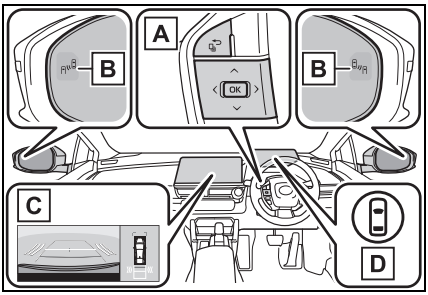
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■システムを正しく作動させるために**

→P.279

## システムの構成部品




A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側のRCTA アイコン（→P.309）が点灯します。

イラスト※ は両後方から車両が接近している例です。

※ 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

## 設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、RCTA の ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

RCTA 機能が OFF のときは、運転支援情報表示灯（→P.89）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

### 知識

**■ ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

**■ RCTA ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

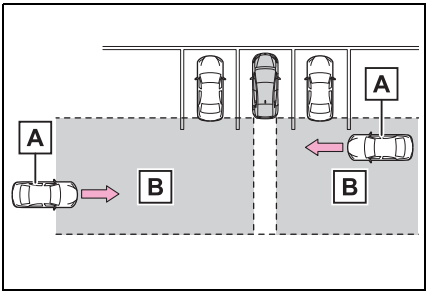
**■ 後側方レーダーセンサーについて**

→P.279

## RCTA 機能

### ■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



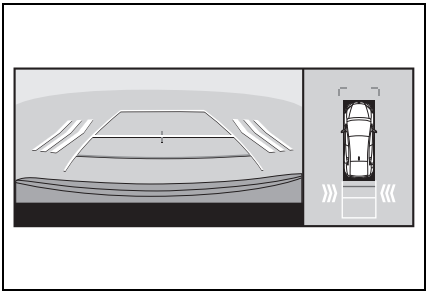

A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

## ■ RCTA アイコンの表示

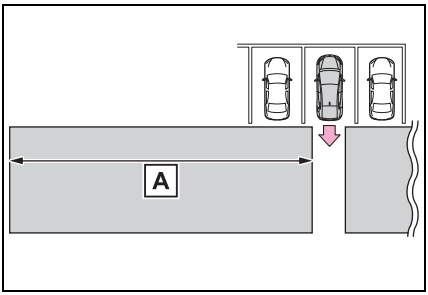
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



## ■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。




速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

| 接近車両の速度 | A 警報距離（概算） |
|---|---|
| 56km/h（速い） | 30m |
| 8km/h（遅い） | 4m |

知識

### ■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

### ■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、RCTA 、クリアランスソナー、RCD ★の音量を一括で切りかえることができます。（→P.512）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD ★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

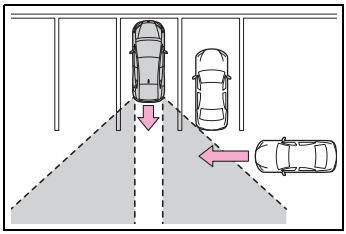
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

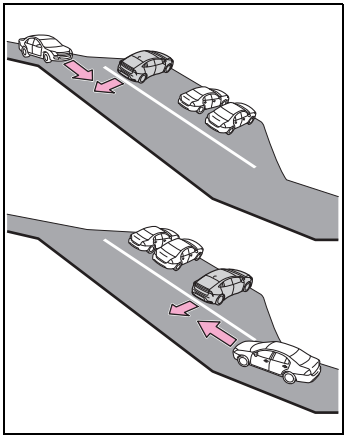
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

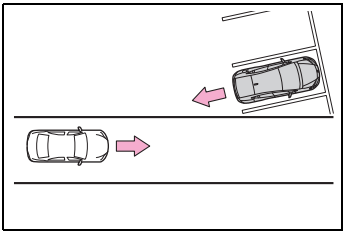
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき

●けん引しているとき

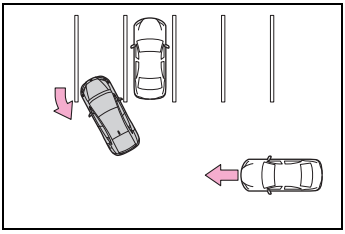
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

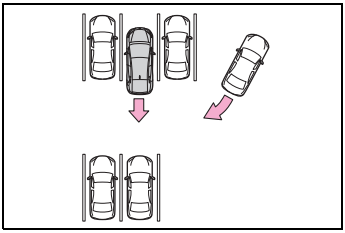
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



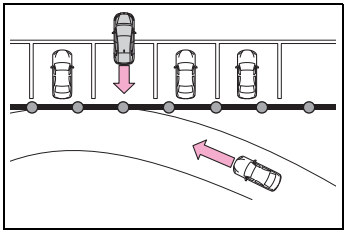
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



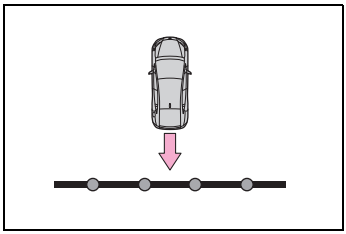
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

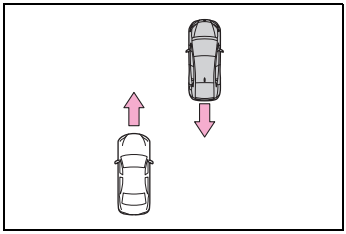


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

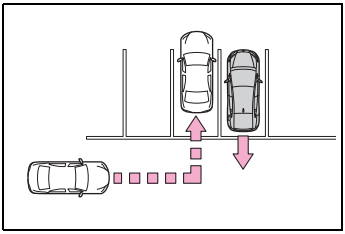


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引しているとき

## RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディアディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。**

### 警告

**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

**■システムを正しく作動させるために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。

**警告**

- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

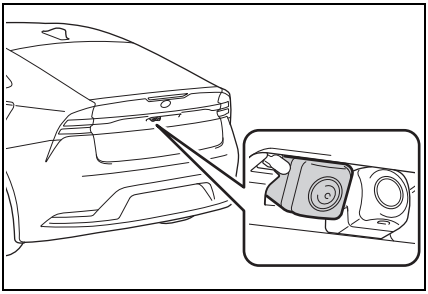
**■RCD の機能を OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

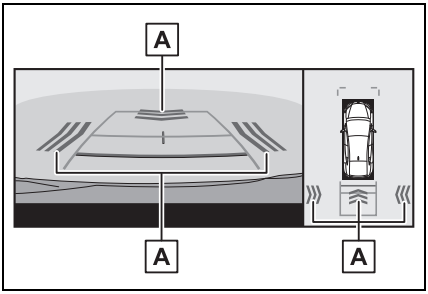
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

## システムの構成部品

### ■ リヤカメラの位置



## RCD の表示




A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

## システムを作動させるには

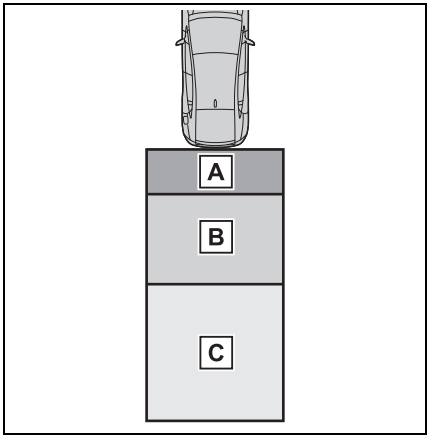
マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、RCD 機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.512）

RCD 機能が OFF の時は、運転支援情報表示灯（→P.89）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

## 歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディアディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がA エリアにいる場合
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がB エリアにいる場合
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

●パワースイッチが ON のとき

●RCD 機能が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

●アドバンストパーク★が作動中でないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.305）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。スイッチを押すとクリアランスソナー・RCTA・RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・けん引しているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れていると

き
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けいるとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・けん引しているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

## PKSB（パーキングサポートブレーキ）

**PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。**

**壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（前後方静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）があります。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.321

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→P.324

- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

→P.325

- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

→P.321

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

**警告**

**■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

**■サスペンションの取り扱いについて**

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

**注意**

**■マルチインフォメーションディスプレイに“機能停止 取扱書を確認”が表示され、運転支援情報表示灯が点灯したときは**

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、センサーやカメラレンズの汚れを取り除いてください。

## システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）を一括で ON（作動）／ OFF（非作動）します。

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、PKSB（パーキングサポートブレーキ）の ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.102）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.89）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが

表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイで ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイ★およびマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

### ● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

### ● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示（RCD機能付きバックガイドモニター、またはパノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

### ● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示（RCD機能付きバックガイドモニター、またはパノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

### ● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示（RCD機能付きバックガイドモニター、またはパノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

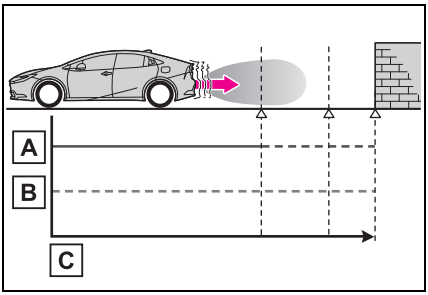
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象※（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）。また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます（ブレーキ制御：図 3）。

※ 機能によって、作動対象が異なります。

● 図 1（PKSB[ パーキングサポートブレーキ ] 非作動時）

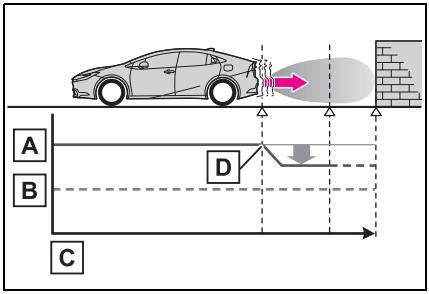



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



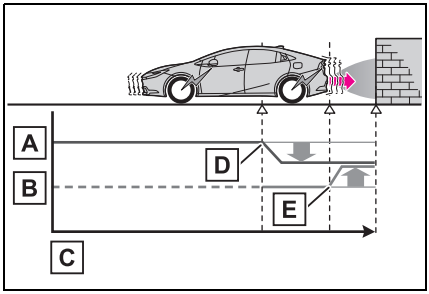

A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）




A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシ

ステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にする（→P.317）か、パワースイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.89）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★を除く

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく（→P.299）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.317）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

## パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）

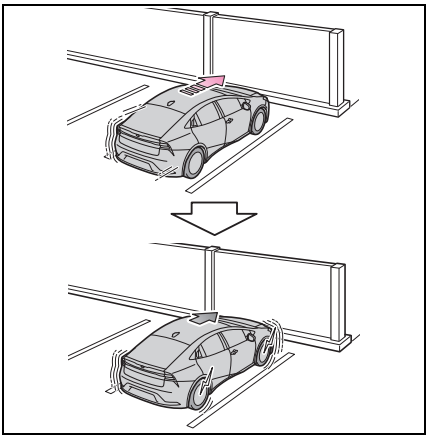
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。**

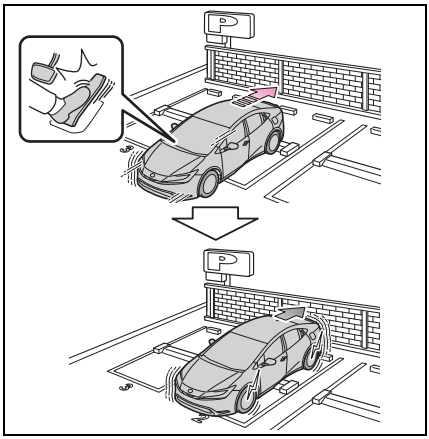
### システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

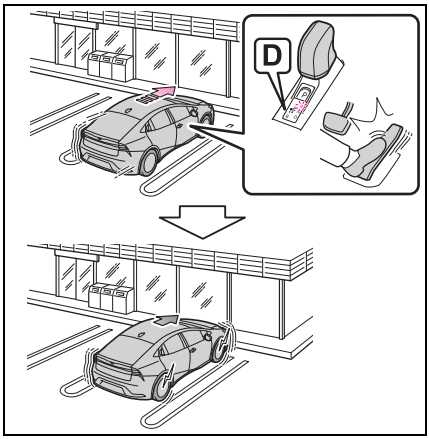
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ **アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき**



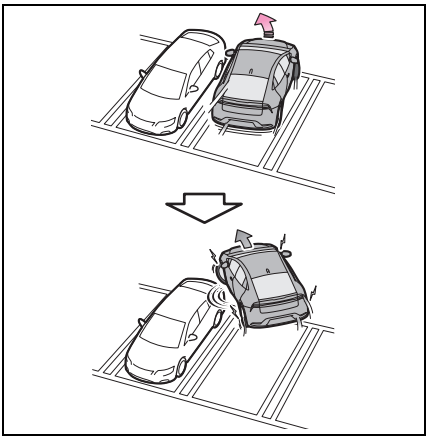
■ **誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき**



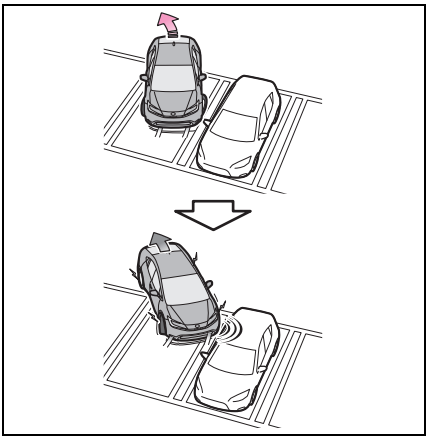

### システム作動例（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



## センサーの種類

→P.298

**警告**

■システムを正しく作動させるために

→P.299

■万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したとき

→P.320

■洗車時の注意

→P.300

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.88, 89）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物※）の作動終了条件

※アドバンストパーク装着車

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物※）の検知範囲について

※アドバンストパーク装着車

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.303）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.301

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.302

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件（→P.322）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しないおそれがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せする場合（→P.346）

■サイドエリアの静止物の検知について（アドバンストパーク装着車）

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

## パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

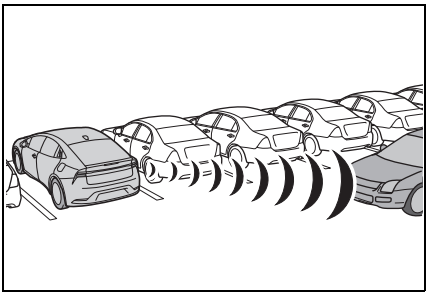
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。**

### システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

**■ 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



### センサーの種類

→P.279

**警告**

**■システムを正しく作動させるために**

→P.279

**知識**

**■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.88, 89）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をON（作動）にしているとき
・車速が約15km/h以下
・後側方から接近する車両の車速が約8km/h以上
・シフトポジションがRのとき
・後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

**■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約2秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.309）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.310

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.311

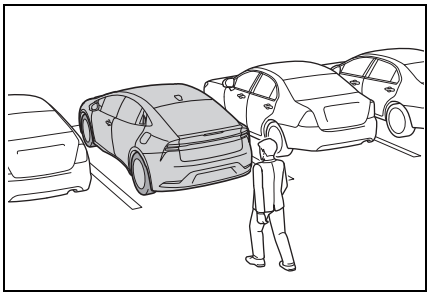
## パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。**

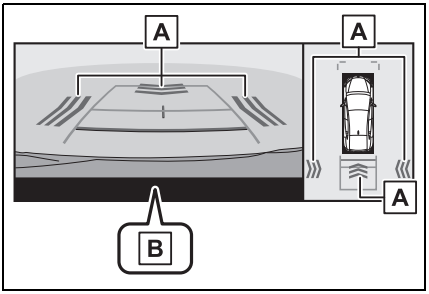
### システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



### 後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディアディスプレイ上に表示され、回避操作を促します。




A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！”

**警告**

**■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは**

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

**■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために**

→P.312

知識

**■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.88, 89）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R にあるとき
・自車後方に歩行者がいる
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

**■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

**■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について**

→P.320

**■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について**

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.313）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

**■システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

→P.314

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.315

## プラスサポート（販売店装着オプション）

**プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。**
**プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。**

### プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ **機能の追加**

● 急アクセル時加速抑制

■ **音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）**

対象機能：

● PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

● RSA（ロードサインアシスト）

● 急アクセル時加速抑制

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ **通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定**

対象機能：

● PCS（プリクラッシュセーフ

ティシステム）

- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リアクロストラフィックアラート）★
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト★
- クリアランスソナー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

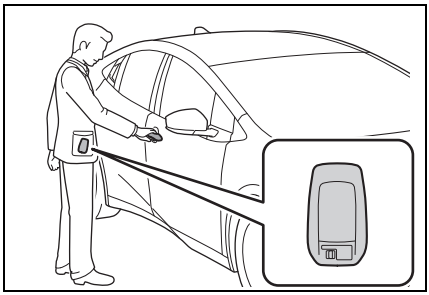
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

## プラスサポートを使用するには

### ■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.114, 120）

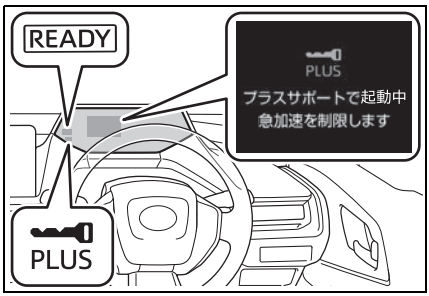
パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→P.183）

3 READY インジケーターが点灯し、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。



**4** メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、または⮌を押すまで、“プラスサポートで始動急加速を制限しています”のメッセージは表示されたままになります。

### ■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

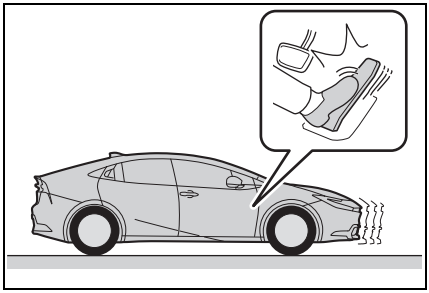
**⚠ 警告**

**■プラスサポートを正しく使用するために**

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.89）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

## 急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



**⚠ 警告**

**■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

**警告**

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■急アクセル時加速抑制が作動したとき**

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

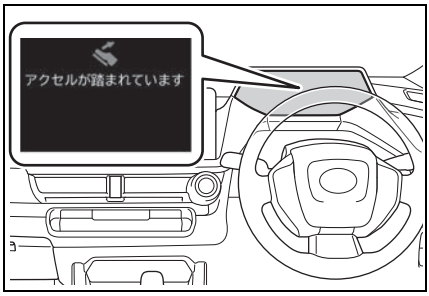
**■右左折・車線変更するとき**

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。




**知識**

**■急アクセル時加速抑制の作動条件**

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

**■急アクセル時加速抑制が作動しないとき**

- 次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

・方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
・ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）
・急な上り坂に自車がいるとき

●アドバンストパーク作動中は、急アクセル時加速抑制が作動しません。

### ■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

### ■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

# トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声★／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ リモート機能

アドバンストパークのリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.359

## 機能一覧

### ■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.342）

### ■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.345）

### ■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.346）

### ■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.349）

### ■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。（→P.351）

## ■ リモート機能

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。（→P.356）

知識

### ■商標について

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

**警告**

### ■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなものは検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
  - ・針金／フェンス／ロープなどの細いもの
  - ・綿／雪などの音波を吸収しやすいもの
  - ・鋭角的な形のもの
  - ・背の低いもの（縁石やブロックなど）
  - ・背が高く上部が張り出しているもの
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。
- 周辺の車両や障害物／車止め／人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
- マルチメディアディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

**警告**

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

**■アドバンストパークを正しく作動させるために**

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜／段差のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに側溝があるとき

・出庫方向に穴や側溝があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

**警告**

・降雪や豪雨の場合

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強くあてて、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**■リモート機能を使用するとき**

●リモート機能はアドバンストパークの関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。

●スマートフォンアプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。

●リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中はアプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。

●一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

●システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。

●リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。

●リモート機能使用中はスマートフォンの連続操作をやめる（指を止める、指をはなすなど）ことで車両を停止することができます。また、アプリで電源ボタンをタッチすることや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。

●障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの連続操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止して下さい。

●スマートフォンの連続操作の動きを速くしたり遅くしても、車両が加速したり減速したりせず、システムで一定の速度となるように制御されます。

**警告**

●スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。

●走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。

●車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。

●万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

●リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の Remote Park アプリが必要です。以下のシステムがサポートされています。

・Android ™

・Apple® iOS

●スマートフォンアプリへの車両登録時は車両と接続しているアプリを OFF にしてください。

●リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay 接続を OFF にして下さい。

●駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●リモート機能作動中は平坦ですべりにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。

●リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。

・アシストを中止する

・車両を停止する

・シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける

・パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください）

・車両が施錠されたままになる

●リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。

●リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近付くとリモート機能を再開できます。

●周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。

●異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。

・ドアを開く

・非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過

●以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。

・ハイブリッドシステム始動中に、アシストモードを選択後

・パワースイッチが OFF の時

・リモート空調★作動中

**警告**

●ワイヤレス機能で解錠後のスマートエントリー＆スタートシステムでの施錠操作時に、施錠が遅れる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**注意**

**■アドバンストパークをお使いいただくために**

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

**■リモート機能を使用するとき**

●使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。

●使用前にスマートフォンの Bluetooth® 通信機能を ON にしてください。Bluetooth® 機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。

●使用中にスマートフォンの Bluetooth® 機能を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth® 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。

●リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合は、リモート機能は中断します。3 分未満で Remote Park アプリの利用を再開すれば、アシストを再開できます。3 分以上経過した場合は、アシストを中止します。

●リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で Remote Park アプリの利用を再開すれば、アシストを再開できます。3 分以上経過した場合は、アシストを中止します。

●リモート機能使用中にアプリを強制終了しないでください。強制終了した場合は、アシストを中止します。

●低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。

●補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。

●下り勾配では、平坦な道路にくらべ、走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。

●システム異常時には、シフトポジションが P または、パーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF して、システムを中止することがあります。その場合は、トヨタ販売店で点検を実施してください。

●システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば、再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い、再開操作をしてください。

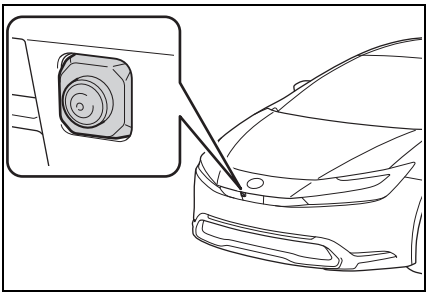
注意

- 用品のリモートスターターが作動している場合はリモート機能を開始できません。
- リモート機能終了時は、法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結により、パーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが、性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

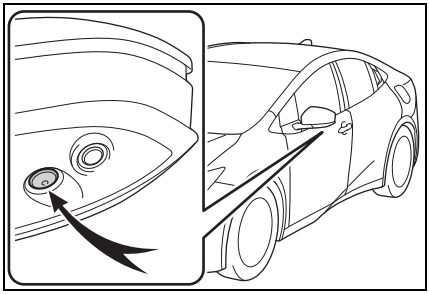
## アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

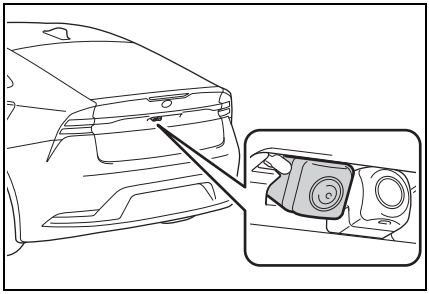
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



リヤカメラは、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

▶ センサー

→P.298

知識

**■カメラの映像について**

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

**■使用上の注意点について**

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱書」／駐車支援システム／バックガイドモニターまたはパノラミックビューモニターを参照してください。

- 画面の映る範囲について
- カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。
・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■センサーの検知について

→P.300

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.301

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.301

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.302

**警告**

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

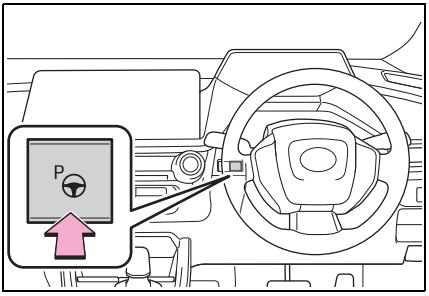
**警告**

- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.299）
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
  - 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

## アドバンストパークの ON/OFF を変更する

### アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。




知識

**■アドバンストパークの作動条件**

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

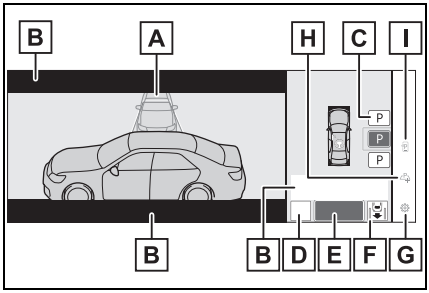
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびバックドアが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS／VSC／TRC／PCS／PKSB が作動していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディアディスプレイのメッセージを確認してください。（→P.364）

## アドバンストパークのガイド画面を使う

### マルチメディアディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）




A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

P：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。（→P.353）

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。（→P.362）

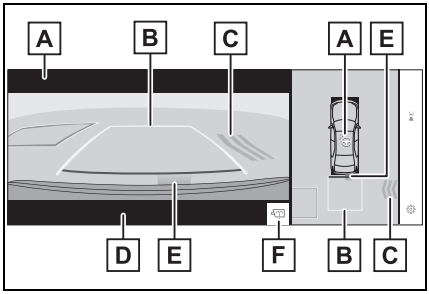
H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。（→P.356）

▶ ガイド画面（後退時）




A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※1 と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.298

F リヤカメラウォッシャースイッチ★ ※2

短く押す：

リヤカメラ洗浄が一定時間作動します。

長押しする：

リヤカメラウォッシャースイッチを押し続けている間、リヤカメラ洗浄が作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

※2 カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱書」／駐車支援

システム／バックガイドモニターまたはパノラミックビューモニターを参照してください。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→P.299）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について（ナビゲーションシステム装着車）

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■アドバンストパーク作動中にマルチメディアディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

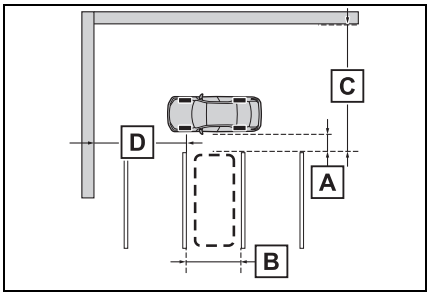
## アドバンストパークの並列前向き／バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

### 並列前向き／バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合




A 約 1m ※

B 約 2.5m ※

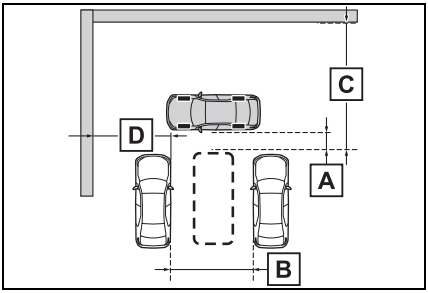
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合




A 約 1m ※

B 約 3m 以上 ※

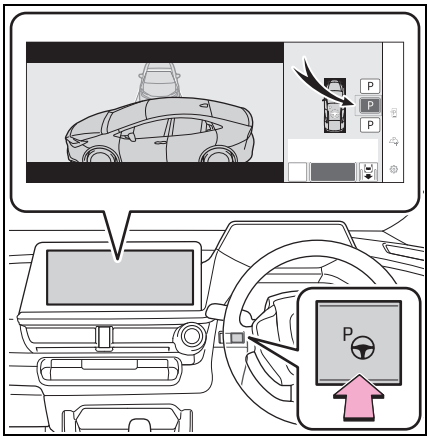
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

**2** アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

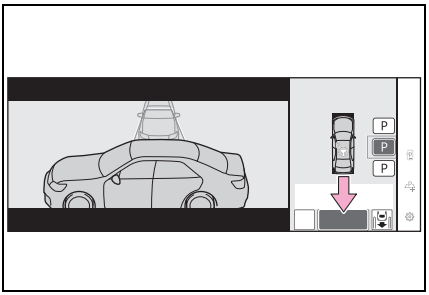



- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Pにタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。
- 入庫向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくはにタッチすると、入庫向きが変更できます。
- 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

**3** “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。




● ブレーキペダルを離すと、“前進します”または“後退します”の音声案内★と表示が出たあと、前進／後退が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

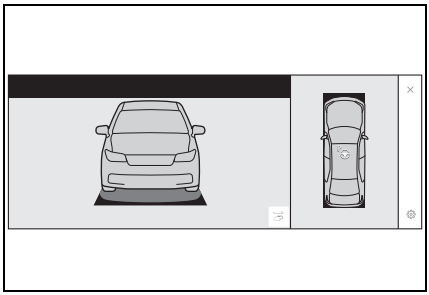
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内★と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.344

**4** 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内★とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内★と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの に タッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 知識

### ■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディアディスプレイの“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

### ■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

## 注意

### ■並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

● 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

注意

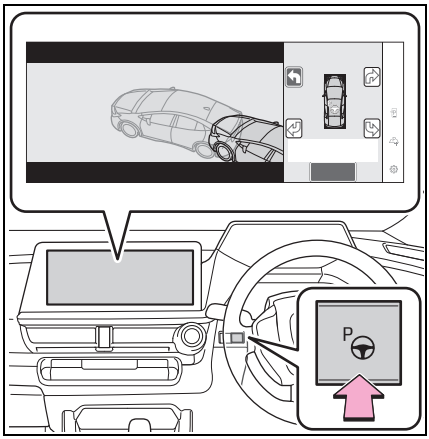
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

## アドバンストパークの並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

### 並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

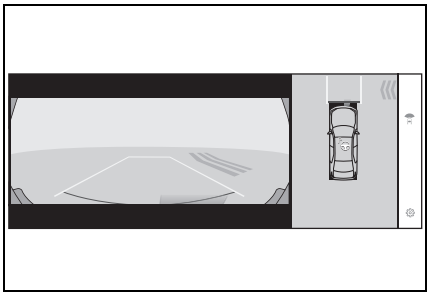



2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで ” 開始 ” スイッチにタッチする

“ ピッ ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



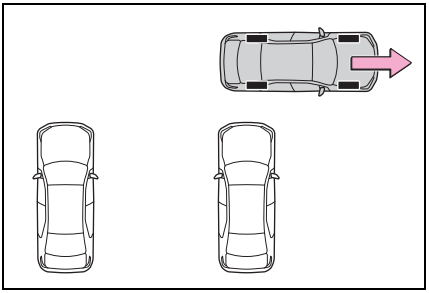
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました ” の音声案内★と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.344

**4** 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内★とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると”ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内★と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■**周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは**

→P.344

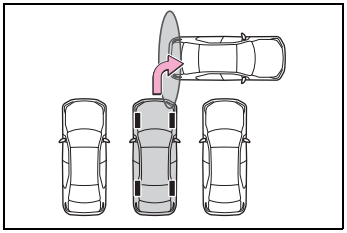
■**並列前向き／バック出庫機能について**

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

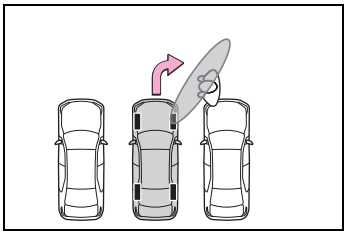
■**並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況**

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両がある場合



●フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



■**ブレーキが作動したとき**

→P.344

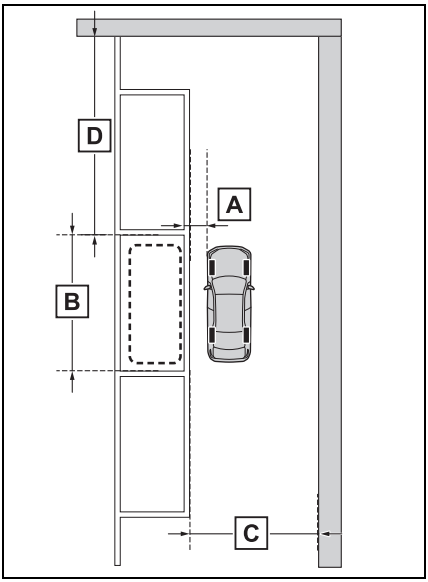
## アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

## 縦列駐車機能を使用して駐車する

**1** 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合




A 約 1m ※

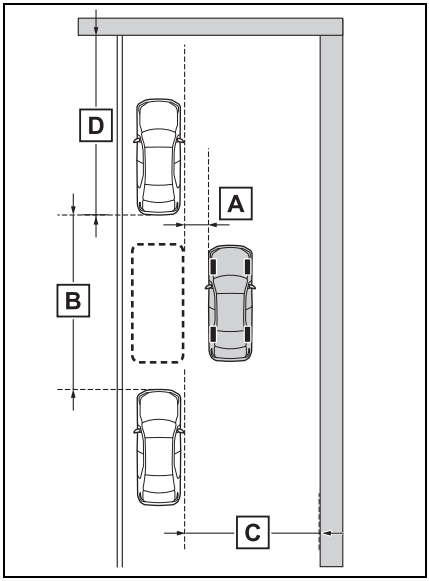
B 約 6m ※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合




A 約 1m ※

B 約 7m 以上 ※

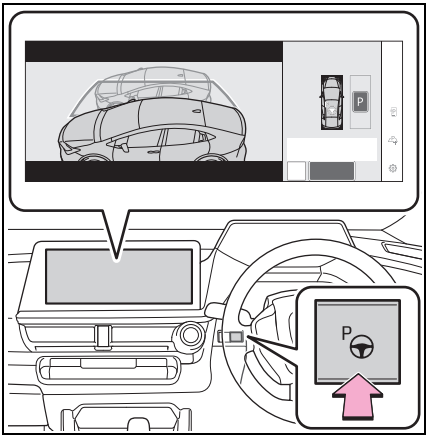
C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

**2** アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なス

ペースが表示されたことを確認する



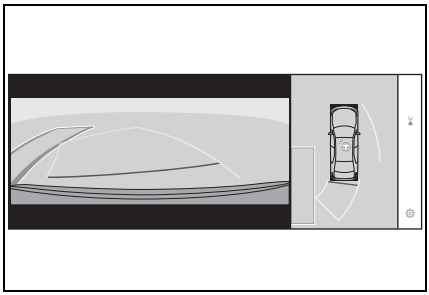
● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列前向き／バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Ⓟにタッチすると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

**3** “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内★と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

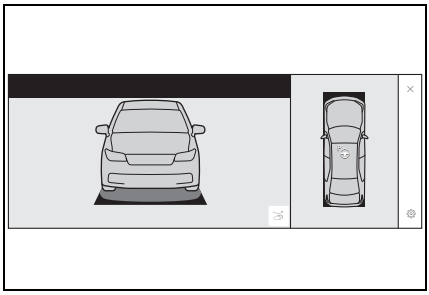
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内★と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.344

**4** 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内★とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内★と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの☞にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

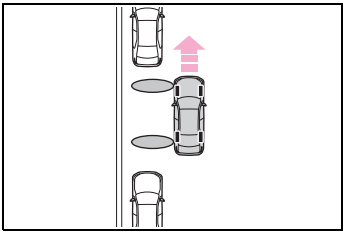
知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.344

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ブレーキが作動したとき

→P.344

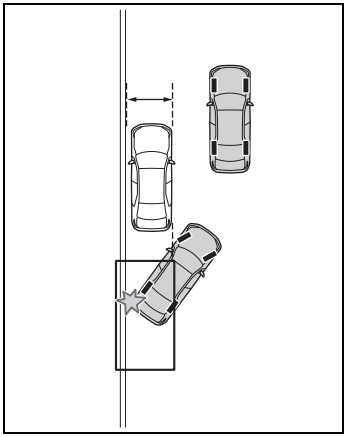
注意

■縦列駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

●隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

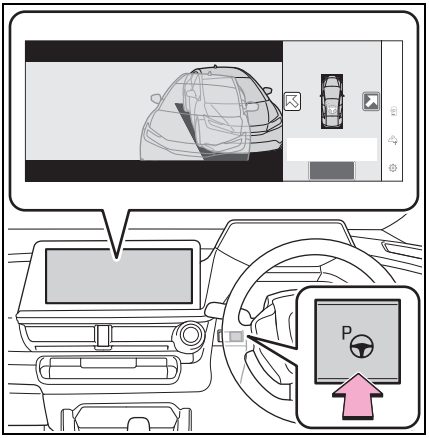
## アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

### 縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態でアドバンストパークメインスイッチを押

し、マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する




**2** マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

**3** ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

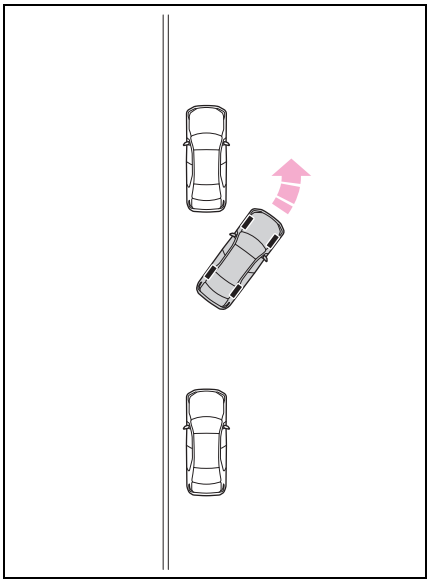
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内★と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.344

**4** 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内★とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内★と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

**■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは**

→P.344

**■縦列出庫機能について**

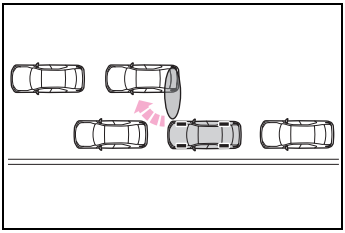
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してく

ださい。

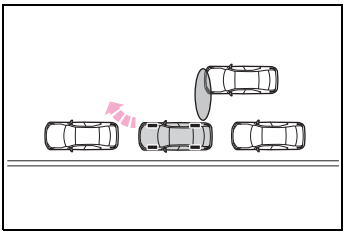
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

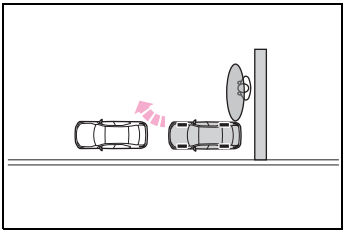
●出庫方向に信号待ちの車両がある場合



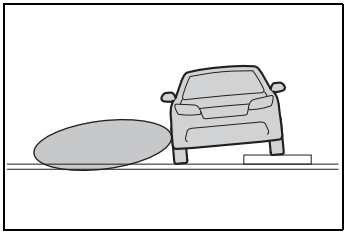
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

■ブレーキが作動したとき

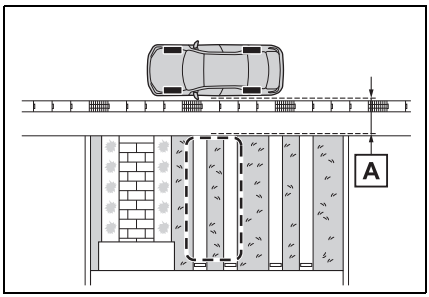
→P.344

## アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。登録できる駐車スペースは 3 つです。

### 駐車スペースの登録

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

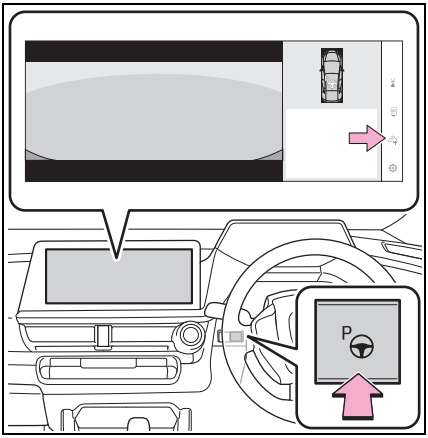



A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、Pにタッチする

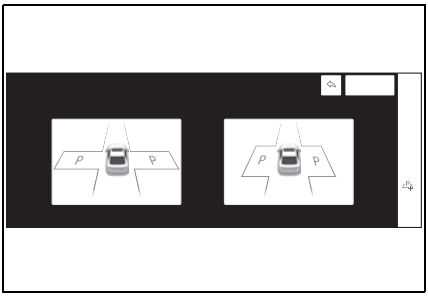
区画線や隣接車両のいない駐車スペース

でアドバンストパークメインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてにタッチしてください。



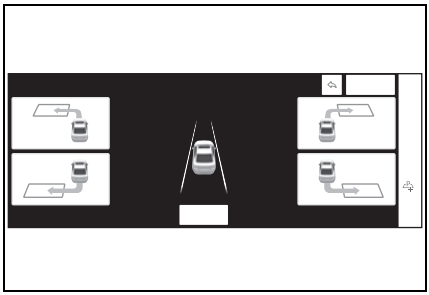
**3** 並列（前向き／バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

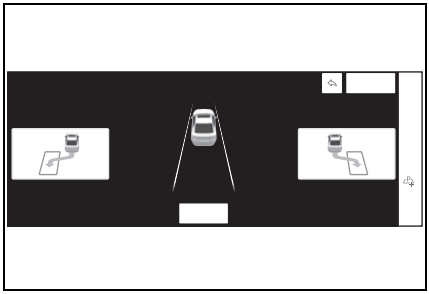


**4** 駐車の向きを選択する

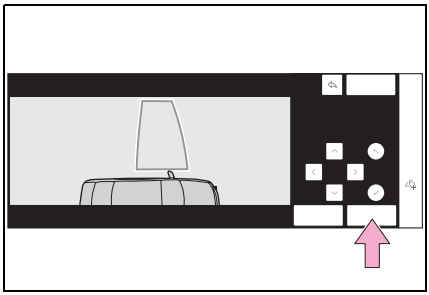
手順 **3** で並列（前向き／バック）駐車を選択した場合：



手順 **3** で縦列駐車を選択した場合：



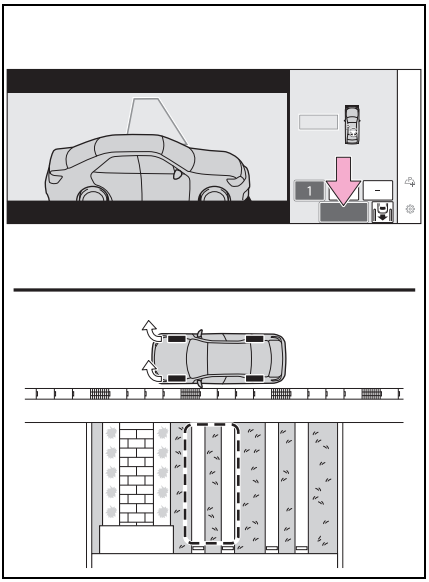
**5** 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチにタッチする



**6** “開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内★と表示が出たあと、前進が始まります。

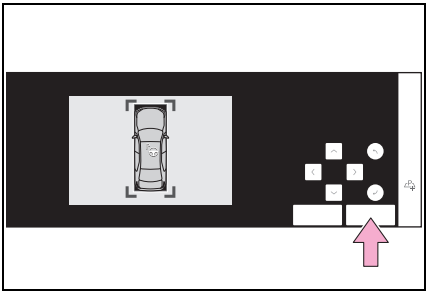
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.344



7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内★とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

マルチメディアディスプレイに“登録を完了しました”と表示されます。



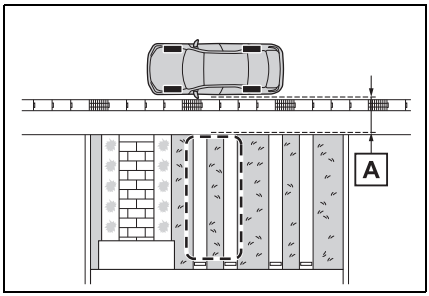
● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

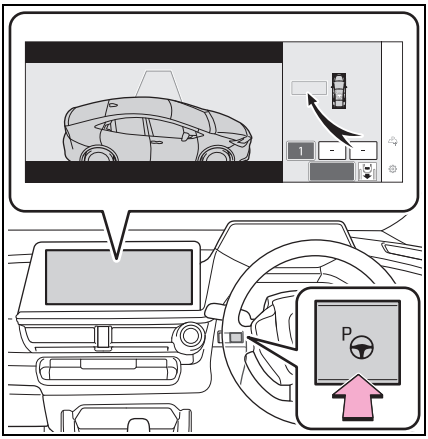



A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができま

す。



**3** 駐車したいスペースを選択し、“開始”スイッチにタッチする

このあとの手順は、並列前向き／バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。
（→P.342）

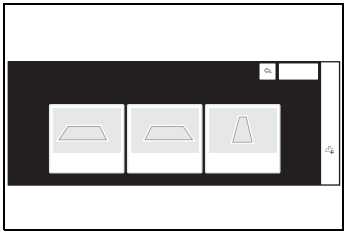
知識

■**周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは**

→P.344

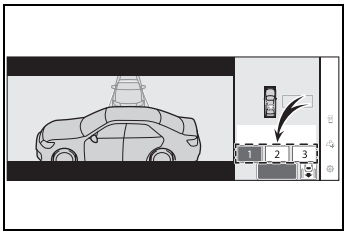
■**登録した駐車スペースを上書きするときは**

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で P をタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■**登録した駐車スペースが複数あるときは**

駐車スペースを選択してから、“開始”にタッチします。



■**ブレーキが作動したとき**

→P.344

注意

■**メモリ機能を使用するときは（→P.344, 349）**

● メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

● 次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・ 雨雪が降っているとき

・ 夜間（周囲が暗いとき）

● 次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

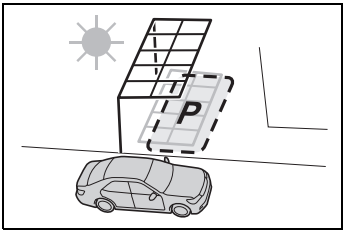
・ 道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

注意

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

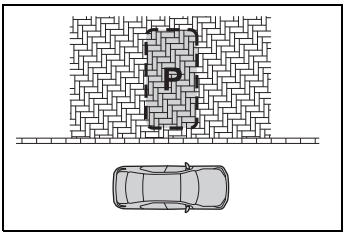
●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）




・駐車スペースに落ち葉／ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）




●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）

・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

・路面の色や明るさが一様でないとき

・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・勾配がある駐車場

・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

注意

- カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。
- カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

## アドバンストパークのリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能／出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

### リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する（→P.342, 347）

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.342, 347）

3 スイッチにタッチし、“並列駐車／縦列駐車”にタッチする

4 “設定完了”にタッチする

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。パイロンは降車後に移動させることもできます。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着すると、シフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■障害物があっても駐車機能を使用できる場合

●白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。

●アドバンストパークでの並列駐車では片側 3 枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

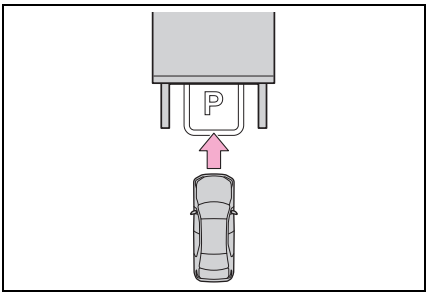
■ブレーキが作動したとき

→P.344

## リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

1 アシストを開始したい場所に車両を停車する




2 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.340）

3 スイッチにタッチし、“前後に移動”にタッチする

4 “設定完了”にタッチする

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

8 スマートフォン画面の電源ボタンにタッチする

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

知識

■進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面の進行方向切りかえスイッチを操作して、車両を少し前進させて荷物を入れたあと、もとの場所にもどすと

いった使い方ができます。

■ブレーキが作動したとき

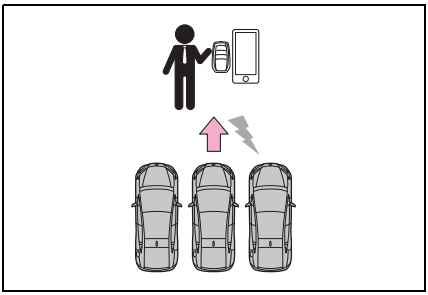
→P.344

## リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列／縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

**1** 駐車中の車両に近付き、電子キーで解錠してからスマートフォンアプリを起動する

スマートフォンアプリが接続できない場合は、電子キーで再度解錠操作を行ってください。



**2** スマートフォン画面の開始スイッチを選択する

車両のパワースイッチが ON になります。

**3** 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する

**4** 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

**5** アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

知識

■リモート空調★について

●リモート空調中も、リモート機能による出庫支援が可能です。

●リモート空調中にリモート機能を開始した場合、スマートフォンのなぞり操作実施前であれば、車両に乗り込みブレーキを踏むことで支援を終了することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブレーキが作動したとき

→P.344

## リモート機能とメモリ機能を使用して駐車する

メモリ機能で事前に登録した駐車スペースの真横で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作でメモリ機能を遠隔操

作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する（→P.353）

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.353）

3 スイッチにタッチし、“並列駐車／縦列駐車”にタッチする

4 “設定完了”にタッチする

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチを押すことでメモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。パイロンなどの障害物が進行方向に存在する場合は、降車後に障害物を移動させてください。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■ **ブレーキが作動したとき**

→P.344

## リモート機能の使用前のご準備

### ■ 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

1 アプリストアから Remote Park アプリをダウンロードする

2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照ください。

3 Remote Park アプリを立ち上げ、車両登録を実施する

4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画

像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

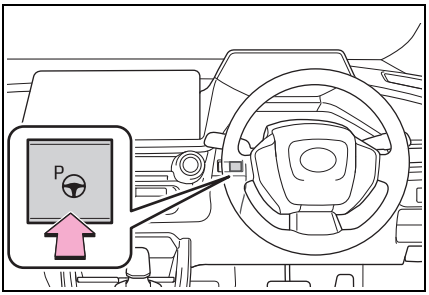
### ■ リモート機能の ON/OFF

1 マルチメディアディスプレイの ⚙ にタッチして、“Advanced Park” にタッチする

2 “Remote Park” の ON ／ OFF を選択する（初期設定は ON）

3 アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



4 マルチメディアディスプレイに表示される スイッチにタッチする

⚠ 注意

**■リモート機能について**

●電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。

●電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。

●デジタルキー装着車：デジタルキーのみの携帯ではリモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。

●車に乗り込んでリモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。
パワーイージーアクセスシステム搭載車：車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。

●リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。

●リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

**■機能が正常に働かないおそれのある状況**

●スマートエントリー＆スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき（→P.139）

●近くにインバータ式蛍光灯がある場合

**■電波が及ぼす影響について**

→P.142

**■電子キーの電池の消耗について**

●リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信を行うため、電池を消耗します。

●電池が切れたとき：→P.441

注意

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況（→P.301）

●リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

・車両と車両の周囲が最もよく見えること

・車両の進路に人／動物、または物体がないこと

・車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと

・車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと

・必要に応じて、リモート機能を中止すること

## アドバンストパークを中止／中断する

### ■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● アドバンストパークメインスイッチを押した

● シフトポジションを P に変更した

● パーキングブレーキをかけた

● ドアまたはバックドアを開けた

● 運転席シートベルトをはずした

● ドアミラーを格納した

● TRC ／ VSC を OFF にした

● TRC ／ VSC ／ ABS が作動した

● パワースイッチを押した

● システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

● システム異常

● 停止中にマルチメディアディスプレイ上で “ 中止 ” にタッチした

### ■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディアディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。
また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

● ハンドルを操作した

● アクセルペダルを踏んだ

● シフトポジションを変更した

● 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した

● カメラスイッチを押した

■ リモート機能のアシストが中止されるとき

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークのアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトをはずした場合は中断します。
- リモート空調★中にリモート機能を作動し、リモート空調が終了する前にパワースイッチをONにしたとき
- リモート機能を起動してから5分以上が経過したとき
- 何も操作をせずに3分が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30秒が経過したとき
- スマートフォン画面の電源ボタンをタッチしたとき
- スマートフォンアプリが強制終了されたとき
- 急勾配のとき
- リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- 外気温がマイナス10℃以下のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リモート機能のアシストが中断されるとき

次のとき、アシストを中断します。

- スマートフォンとマルチメディアシステムとのBluetooth® 通信が切断されたとき
- スマートフォンの連続操作が中断されたとき
- スマートフォンアプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき
- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解錠操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

## アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディアディスプレイの ⚙ にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ Remote Park

リモート機能のON／OFFを設定できます。

■ 音声案内★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内のON／OFFを設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能なときに、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

注意

●「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。

●周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

## Remote Park アプリの設定を変更する

### ■ クリアランスソナー警告音のON ／ OFF（スマートフォンでの設定）

スマートフォンアプリからクリアランスソナー警告音の ON ／ OFF を設定できます。

### ■ クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

スマートフォンアプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

## マルチメディアディスプレイに表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディアディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

### ■ “ 駐車できる場所が見つかりません ” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

### ■ “ この環境では使用できません ” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

### ■ “ 出庫可能なスペースがありません ” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

### ■ “ 速度が調整できません ” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

### ■ “ 障害物を検知しました ” が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディアディスプレイの “ 再開 ” スイッチにタッチしてください。

### ■ “ 登録に必要な駐車目標が見つかりません ” が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で

にタッチしたときに表示されます。

システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.354）

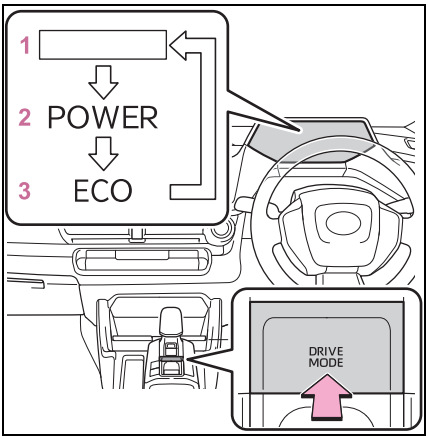
## ドライブモードセレクトスイッチ

**走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。**

### 走行モードを選択するには

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

スイッチを押すごとに、走行モードがノーマルモード・パワーモード・エコドライブモードの順に切りかわります。




**1** ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

**2** パワーモード

トランスミッションとハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

パワーモード表示灯が点灯します。

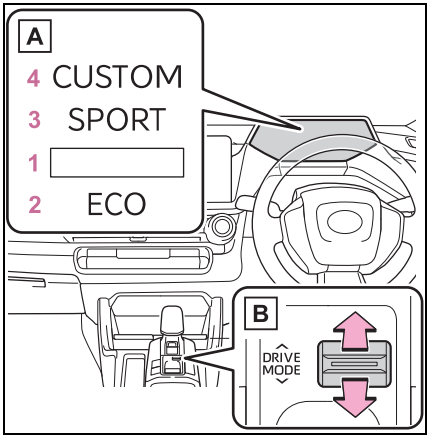
**3** エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

ドライブモードセレクトスイッチを前後に操作し、ドライブモードを選択します。




A 表示灯

B ドライブモードセレクトスイッチ

**1** ノーマルモード

燃費性能・静粛性・運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

**2** エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

**3** スポーツモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。また、アクセル操作で実現可能な減速度を拡大し、ドライバーの意図に沿った加減速コントロールが可能です。ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適して

います。

スポーツモード表示灯が点灯します。

### 4 カスタムモード★

パワートレーン制御・ステアリング制御・エアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、マルチメディアディスプレイで設定します。（→P.512）

カスタムモード表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

**■エコドライブモード時のエアコン作動について**

走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。（→P.382）

エコ空調モードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- 風量を調整する（→P.381）
- エコドライブモードを解除する
- マルチメディア装着車：エコ空調モードを OFF にする（→P.385）

**■走行モードの自動解除**

- パワーモード※1・スポーツモード※2・カスタムモード※2は、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。

※1 2ZR-FXE エンジン搭載車

※2 M20A-FXS エンジン搭載車

- ノーマルモード、およびエコドライブモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

**■カスタマイズ機能★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カスタムモードの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

## 運転を補助する装置

**走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。**

### 運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS ・TRC ・VSC ・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側にふくらむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four（電気式 4WD システム）（4WD 車）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

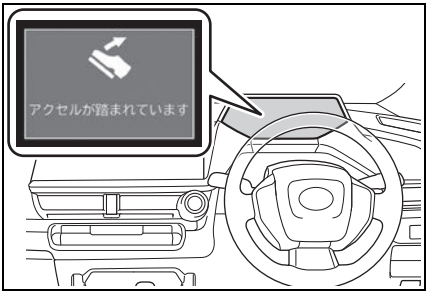
### ■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

### ■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるパワー出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

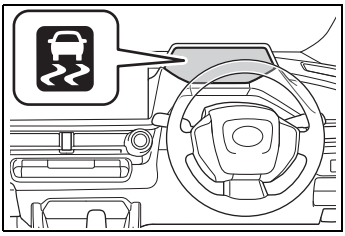
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。




知識

### ■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

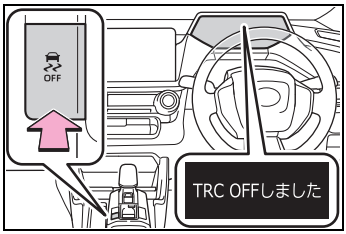


### ■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す




マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

### ■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に OFF を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します（衝突警報のみ作動可能状態になります）。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.225）

■ OFF を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●パワースイッチを OFF にした

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ

※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

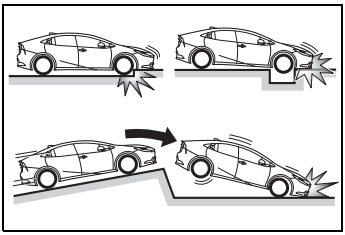
※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。

・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側にふくらんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。
10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 0km/h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき（4WD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

● “4WD 高負荷走行を 控えてください 2WD 走行に 切り替わります ”

4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム高温 2WD 走行に切替わりました ”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検 ”

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

**警告**

**■ABS の効果を発揮できないとき**

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

**■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

**■TRCやVSCの効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

**■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき**

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

**■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## 警告

**■スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

**■TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

**■タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.510）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

**■タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

**■セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■衝突時の急加速抑制**

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

## ハイブリッド車運転のアドバイス

**環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。**

### エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
（→P.365）

### ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。
（→P.94）

### シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

### アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

### 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

### 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

### 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早

めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

## エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は冷房・除湿スイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

## タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

## 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

## 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

## 寒冷時の運転

**寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。**

### 冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）※ を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.433）

※ 195/50R19 タイヤは、周辺部品と十分なすき間が確保できないため、タイヤチェーンを取り付けないでください。

知識

**■タイヤチェーンについて（195/50R19 タイヤ非装着車）**

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後0.5 ～ 1.0km走行したら締め直しを行う

**警告**

**■冬用タイヤを装着するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

**■タイヤチェーンを装着するとき（195/50R19 タイヤ非装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

●LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について（195/50R19 タイヤ非装着車）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

## 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

## 運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

## 駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム
・アドバンストパーク（リモート機能付）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐

車し、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションをPにしたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.195）
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションをPにした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

# 室内装備・機能

5


## 5-1. エアコンの使い方

オートエアコン ..... 380

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 387

## 5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 ..... 390

## 5-3. 収納装備

収納装備一覧 ..... 393

ラゲージルーム内装備 ..... 397

## 5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 ..... 400

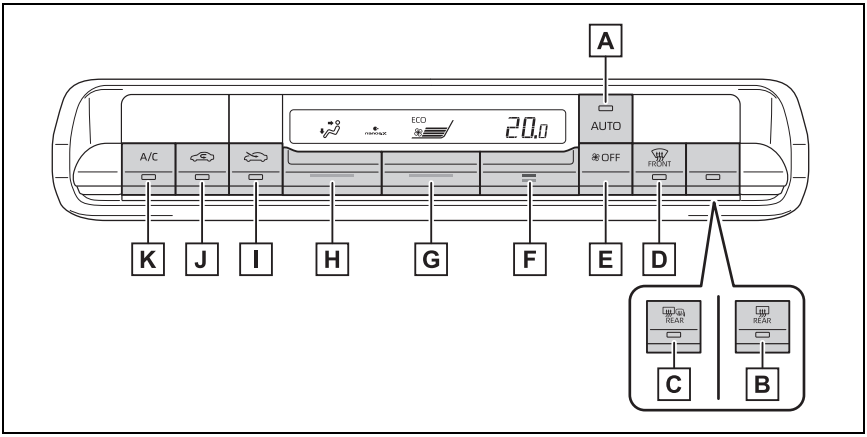
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム ..... 410

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは ..... 418

# オートエアコン

**設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。**

## エアコン操作スイッチについて




A AUTO スイッチ

B リヤウインドウデフォッガースイッチ★

C リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ★

D フロントデフロスタースイッチ

E OFF スイッチ

F 温度調整スイッチ

G 風量切りかえスイッチ

H 吹き出し口切りかえスイッチ

I 外気導入スイッチ

J 内気循環スイッチ

K 冷房・除湿スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

### ■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量切りかえスイッチを上に、減らすときは下に操作する

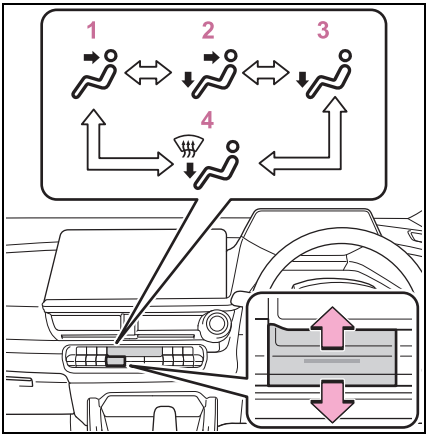
風量は 7 段階に調整できます。

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

### ■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

操作するたびに、次のように吹き出し口が切りかわります。




1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

### ■ 内気循環／外気導入を切りかえる

● 内気循環に切りかえるときは内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの表示灯が点灯します。

● 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

### ■ 冷房・除湿機能を使用する

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

### ■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

### ■ リヤウインドウデフォッガー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤウインドウガラスの曇りを取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

### ■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤウインドウガラスの曇りを取

るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

### リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

## 知識

**■ガラスの曇りについて**

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

**■外気導入・内気循環について**

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

**■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき**

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

**■電子キーによるエアコン設定の記憶制御**

●電子キーでドアを解錠してパワースイッチを ON にすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

●パワースイッチを OFF にすると、そのときのエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

●複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、助手席のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

**■エコ空調モードのエアコン作動について**

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●マルチメディア装着車：エアコン操作画面のオプション画面からエコ空調モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.385）

●走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。（→P.365）

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する

・エコドライブモードを解除する（→P.365）

・マルチメディア装着車：エコ空調モードを OFF にする（→P.385）

**■「ナノイー X」※1 について★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席外側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導き

ます※2。

●「ナノイー X」が ON のときファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風または足元に送風のとき
・運転席外側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー X」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

●「ナノイー X」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

●作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく足元からの送風に切りかわったり、送風が停止したりする場合があります。

●駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■音声対話サービスについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.436

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

**警告**

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★が作動しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

**警告**

**■「ナノイー X」について★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

**注意**

**■補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

**■「ナノイー X」の損傷を防ぐために★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席外側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

## オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

2 温度を設定する

3 冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON ／ OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

**知識**

**■オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

## ウインドシールドデアイサー★

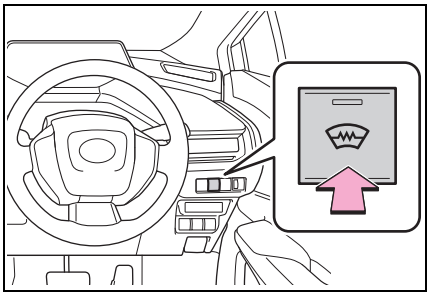
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサースイッチを押す

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



**警告**

■ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

## エアコン操作画面について（マルチメディア装着車）

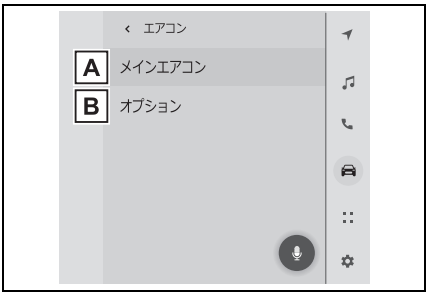
マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

### ■ 表示のしかた

1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから にタッチする

2 サブメニューの “エアコン” にタッチする

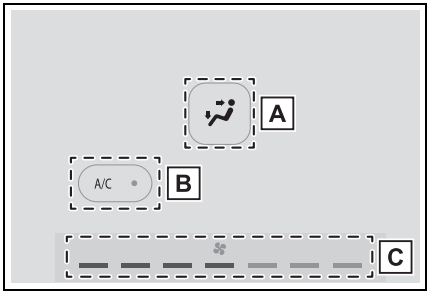
3 各画面を選択する




A エアコン操作画面を表示する

B オプション画面を表示する

### ■ エアコン操作画面




A 吹き出し口を切りかえる

タッチするたびに、吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

B 冷房・除湿機能の ON ／ OFF を切りかえる

タッチするたびに、機能の ON ／ OFF が切りかわります。

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

C 風量表示

現在の風量が表示されます。

### ■ オプション画面

各機能の（作動）／（非作動）を切りかえることができます。

A エコ空調モード（→P.382）

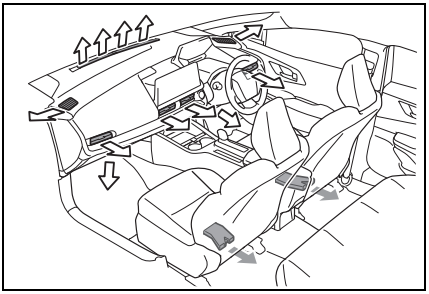
B ウインドシールドデアイサー★（→P.384）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 吹き出し口の配置・操作

### ■ 吹き出し口の位置

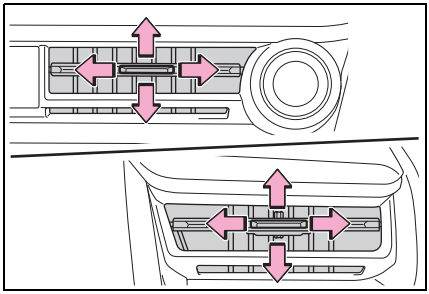
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



⬅：仕様により設定の有無あり

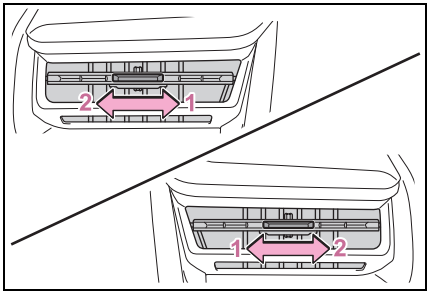
### ■ 風向きの調整

ノブを上下左右に動かす



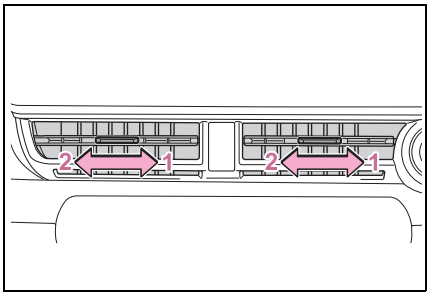
### ■ 吹き出し口の開閉

▶ 助手席外側／運転席外側




1 開ける
2 閉める

▶ 中央

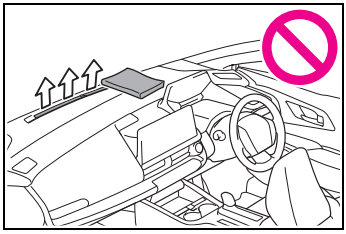



1 開ける
2 閉める

**警告**

**■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために**

吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



## ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

フロントシートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、フロントシート表面の通気をよくすることができます。

**警告**

**■低温やけどについて**

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

**注意**

**■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

注意

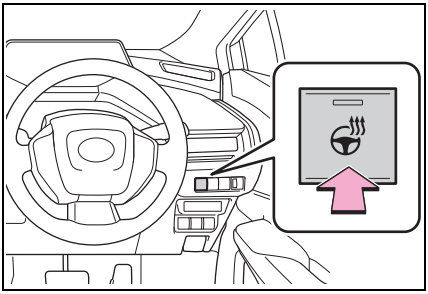
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

## ステアリングヒーターを使うには

### スイッチを押してシステムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

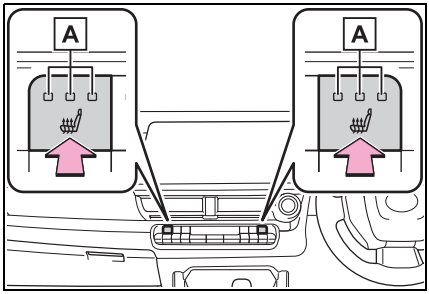
## シートヒーターを使うには

### スイッチを押してシートヒーターの作動を切りかえる

作動中は、レベルインジケーター A が黄色に点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF




知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

警告

■異常過熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しない

●毛布・クッションなどを使用しない

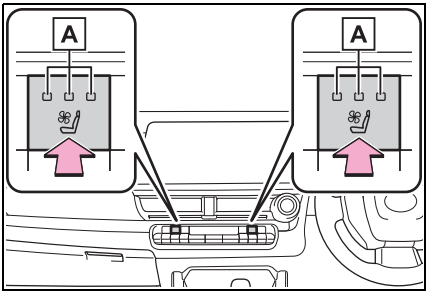
## シートベンチレーターを使うには

### スイッチを押してシートベンチレーターの作動を切りかえる

作動中は、レベルインジケーター A が緑色に点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF




知識

■作動条件

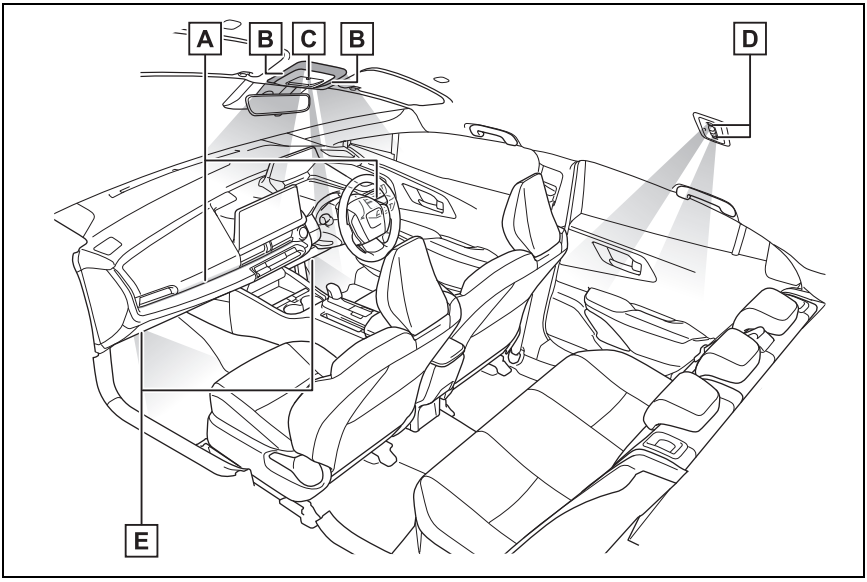
パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターを強で使用しているとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの作動が強くなります。

# 室内灯一覧

## 室内灯の位置




A インストルメントパネルオーナメント照明★（→P.392）

B インテリアランプ（→P.391）／フロントパーソナルランプ（→P.391）

C シフトレバー照明※

D リヤパーソナルランプ（→P.391）

E 足元照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 車幅灯に連動して点灯します。

知識

**■イルミネーテッドエントリーシステム**

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

**■補機バッテリーあがりを防ぐために**

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

**■室内灯の自動点灯について**

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。
手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できる

までは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

## インテリアランプを操作するには

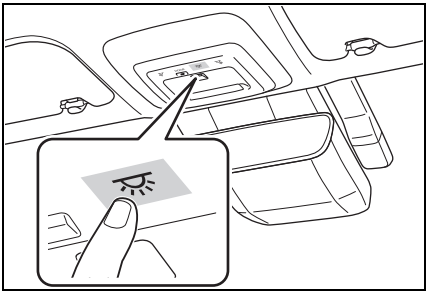
### ■ インテリアランプを点灯・消灯する

スイッチにタッチする

タッチするたびに点灯・消灯が切りかわります。

リヤパーソナルランプも連動して点灯・消灯します。

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



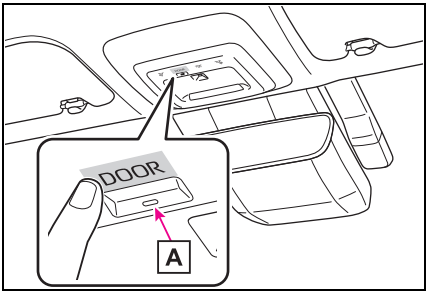
### ■ ドアポジション（ドア連動）の ON ／ OFF を切りかえる

ドア連動スイッチにタッチする

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

タッチするたびにドアポジションの ON ／ OFF が切りかわります。

ドアポジションが ON のとき、スイッチ上の表示灯 A が点灯します。




知識

■インテリアランプのスイッチ・ドア連動スイッチが正常に反応しない状況について

●スイッチに水や汚れなどが付着しているとき

●ぬれた手で操作したとき

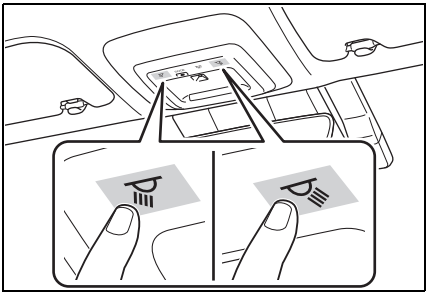
●手袋などを装着しているとき

## パーソナルランプを操作するには

### ■ フロントパーソナルランプを点灯・消灯する

スイッチにタッチする

タッチするたびに点灯・消灯が切りかわります。

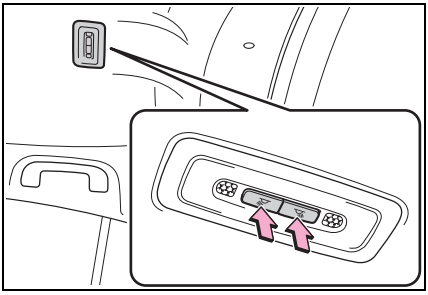


### ■ リヤパーソナルランプを点灯・消灯する

スイッチを押す

押すたびに点灯・消灯が切りかわります。

インテリアランプに連動してランプが点灯・消灯します。インテリアランプに連動して点灯している場合、スイッチを押しても消灯しません。



知識

**■フロントパーソナルランプのスイッチが正常に反応しない状況について**

- スイッチに水や汚れなどが付着しているとき
- ぬれた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

## イルミネーション通知★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のような場合、インストルメントパネルオーナメント照明が 2 回点滅してお知らせします。

### ■ 先行車発進通知

前の車に続いて停車しているとき、先行車の発進や加速をお知らせします。

停車直前の極低速走行時にも作動することがあります。

### ■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の障害物先読みアシスト連動通知

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の障害物先読みアシストが作動対象を検出した場合にお知らせします。（→P.245）

知識

**■イルミネーション通知の作動について**

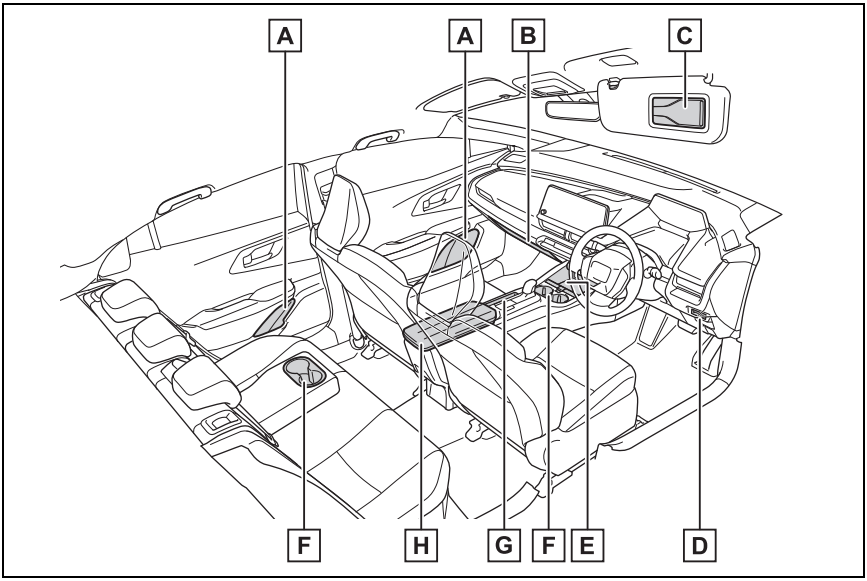
- 先行車発進通知は、カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の先行車発進告知機能を非作動に設定しても作動します。（→P.253）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の障害物先読みアシスト連動通知は、カスタマイズ設定から PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の障害物先読みアシストを非作動に設定すると作動しません。（→P.245）
- 停車時に先行車との距離が近いときは、先行車発進通知でお知らせするタイミングが遅れる場合があります。
- 悪天候などにより前方カメラ・前方レーダーが正しく作動しないときは、作動しません。
- 停車後、約 3 秒以内に先行車が発進したとき、イルミネーション通知は作動しません。ただし、レーダークルーズコントロール使用中の場合はイルミネーション通知が作動し、追従走行にもどります。

**■カスタマイズ機能**

イルミネーション通知の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.512）

# 収納装備一覧

## 収納装備の位置




A ボトルホルダー（→P.395）

B グローブボックス（→P.394）

C チケットホルダー（→P.396）

D カードホルダー★（→P.395）

E オープントレイ（→P.396）

F カップホルダー（→P.395）

G サイドトレイ（→P.396）

H コンソールボックス（→P.394）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

**■収納装備に放置してはいけないもの**

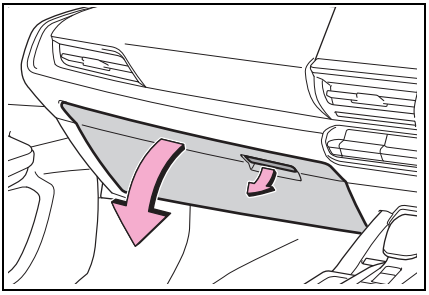
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

## グローブボックスを使うには

レバーを引き上げて開ける



知識

**■グローブボックスランプ**

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

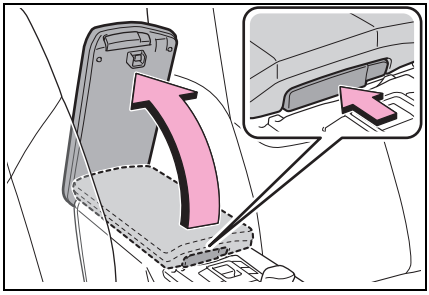
**警告**

**■グローブボックスを使用しないとき**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## コンソールボックスを使うには

ボタンを押してロックを解除し開ける



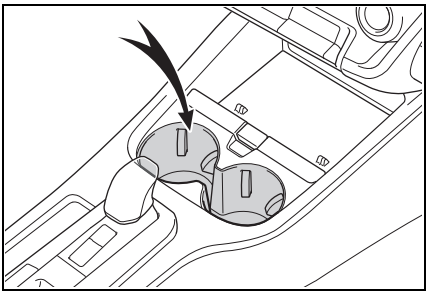
**警告**

**■コンソールボックスを使用しないとき**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## カップホルダーを使うには

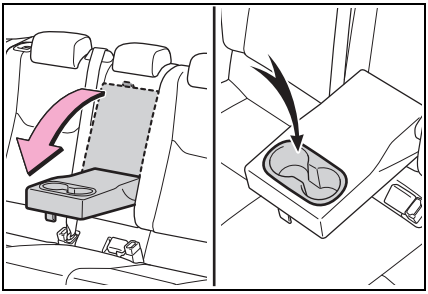
### ■ フロント



### ■ リヤ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤアームレストを手前に倒す



**警告**

**■収納してはいけないもの**

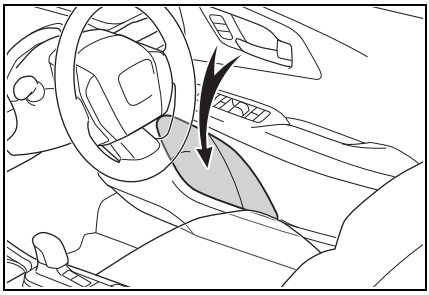
カップホルダーにはカップ・缶・ペットボトル※以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

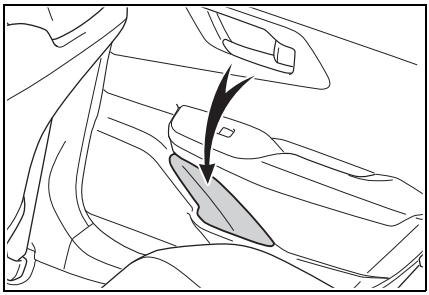
※フロントカップホルダーのみ

## ボトルホルダーを使うには

### ■ フロント



### ■ リヤ



知識

**■ボトルホルダーについて**

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

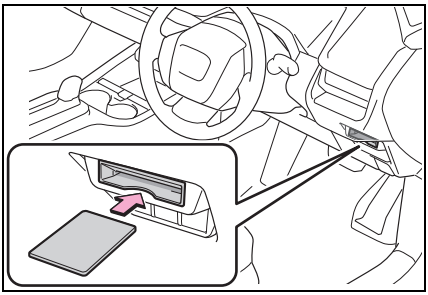
**■収納してはいけないもの**

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

## カードホルダーを使うには★

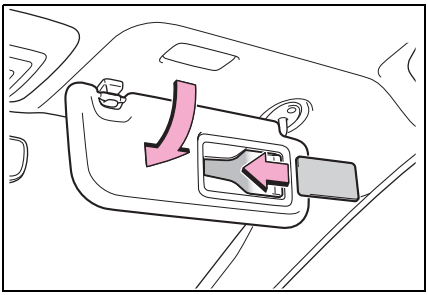
★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。



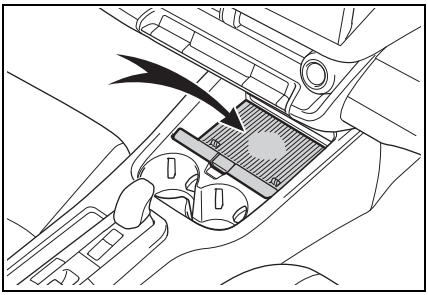
## チケットホルダーを使うには

サンバイザーを下ろして使用する



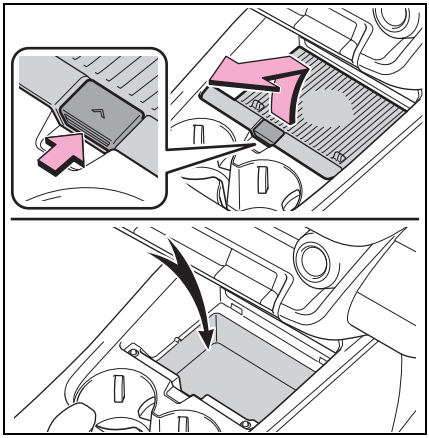
## オープントレイを使うには

### ■ 上段トレイを使用する



### ■ 下段トレイを使用する

ノブを押して上段トレイを取りはずす



**警告**

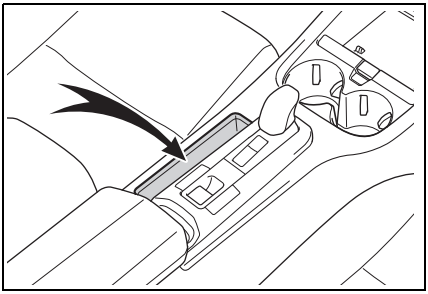
**■収納してはいけないもの**

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

## サイドトレイを使うには

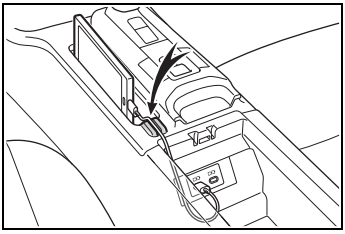
スマートフォンなどを収納することができます。



知識

■コンソールボックス内の充電用 USB Type-C 端子を使用するとき

コンソールボックスを閉じた状態で配線を外に引き出すことができます。



**警告**

■収納してはいけないもの

サイドトレイには、転がりやすいものやトレイから飛び出すおそれがあるものを置かないでください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

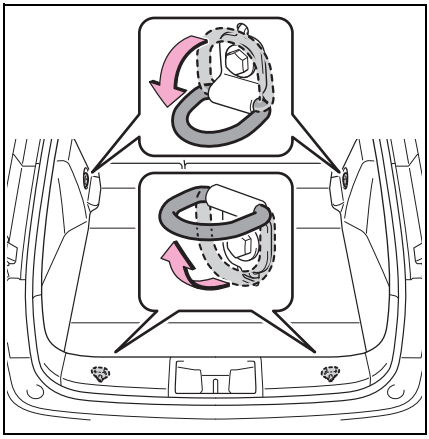
# ラゲージルーム内装備

## デッキフックを使うには

フックを使って荷物を固定することができます。

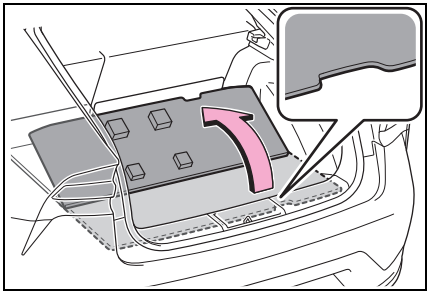
▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

フックを起こして使用する

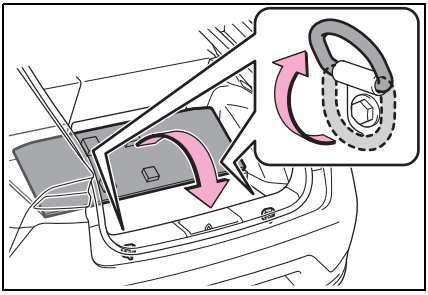


▶ 応急用タイヤ装着車

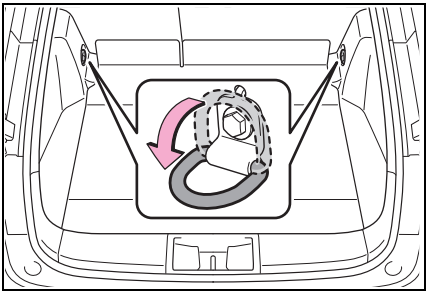
1 手前のフックを使用するときは、デッキボードを持ち上げる



**2** フックを起こし、デッキボードをもとどおりに閉じる



**3** 奥側のフックを使用するときは、デッキボードを持ち上げずそのままフックを手前に倒す



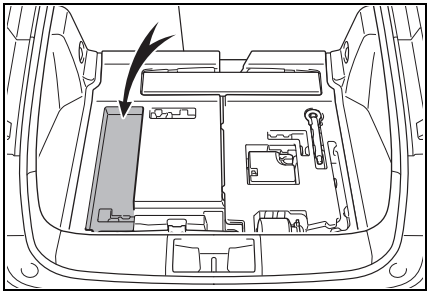
**警告**

**■フックを使用しないとき**

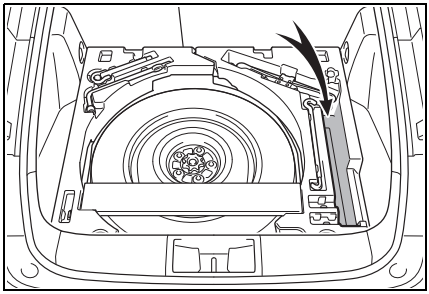
けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

## 停止表示板収納スペース

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



▶ 応急用タイヤ装着車



知識

**■停止表示板について**

●停止表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

●ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

**警告**

**■走行中の警告**

デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

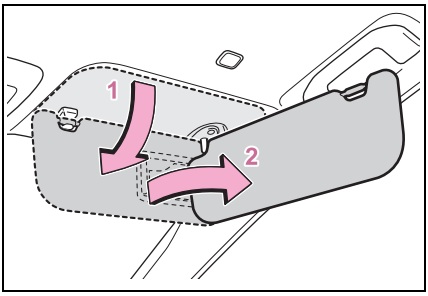
**警告**

**■停止表示板を収納するとき**

確実に収納されていることを確認してください。
確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに停止表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

# その他の室内装備

## サンバイザーを使うには



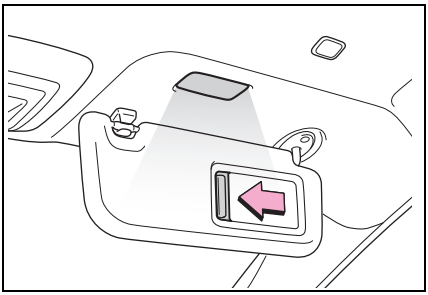

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

## バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

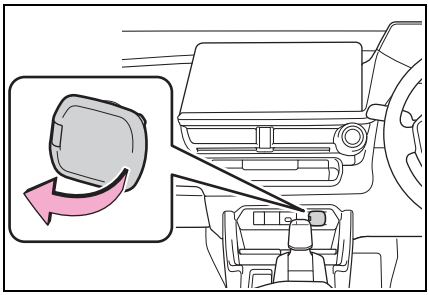
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

## アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開ける



知識

■作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■アクセサリーソケットを使用しないとき

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12 V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

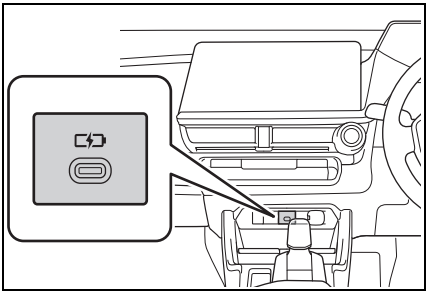
ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

## 充電用 USB Type-C 端子を使うには

DC5V/3.0A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。

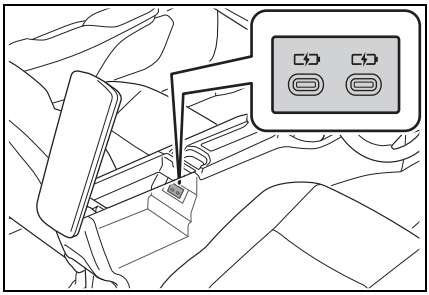
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

### ■ フロントコンソール



### ■ コンソールボックス内

コンソールボックスを開ける



知識

■作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

⚠注意

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

## ワイヤレス充電器を使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

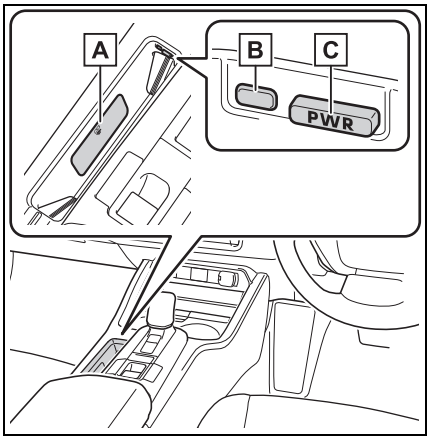
ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンを充電エリアに置くだけで、充電することができます。

ワイヤレス充電器より大きいスマートフォンには本機能を使用できません。また、スマートフォンによっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になるスマートフォンに付属の取扱説明書もお読みください。

### ■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。

### ■ 各部の名称




A 充電エリア ※

B 作動表示灯

C 電源スイッチ

※ スマートフォンおよびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。充電エリア上でスマートフォン内の充電用コイルが検出されると、充電を開始します。スマートフォン内の充電用コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上のスマートフォンを同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

### ■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

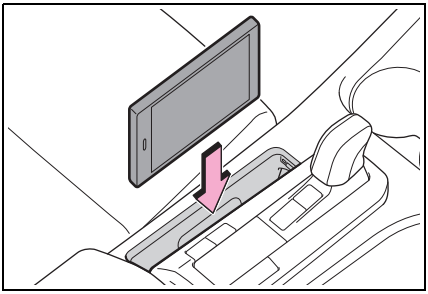
**2** スマートフォンを置く

スマートフォンの充電面がワイヤレス充電器の充電エリアに接するように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

作動表示灯が橙色に点滅したときは、充電が行われません。その場合、スマートフォンをいったん取り出し、充電エリアの中央付近に置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



## ■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● スマートフォンが充電エリア外まで動くと、充電が停止します。このとき、作動表示灯が橙色に点滅します。充電エリアの中央付近にスマートフォンを置き直してください。

## ■ 急速充電機能

● 次のスマートフォンに対しては急速充電が行えます。

・ WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応したスマートフォン

・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

● 急速充電に対応したスマートフォンを充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

## ■ 作動表示灯の点灯状況

| 作動表示灯 | 状況 |
|---|---|
| 消灯 | ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき |
| 緑（点灯） | 待機中（充電可能状態）※1 |
| | 充電完了時 ※2 |
| 橙（点灯） | 充電エリアにスマートフォンを置いたとき（スマートフォンを検出中） |
| | 充電中 ※3 |

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリアに置いても、加熱されることはありません。

※2 スマートフォンによっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

※3充電中にスマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っていると、作動表示灯が緑色に点灯することがあります。

## ■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

| 作動表示灯 | 想定される原因・対処方法 |
|---|---|
| 橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す） | **車両とワイヤレス充電器の通信不良**<br>**→ ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。**<br>パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.183） |
| 緑（点灯） | **スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っている。**<br>**→ 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。** |
| 橙（3 回連続の点滅をくり返す） | **異物検知：**<br>**充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた**<br>**→ 充電エリア内にある異物を取り除いてください。** |
| | **スマートフォンのずれ：**<br>**スマートフォンの充電用コイルが充電エリアからはずれたことで、異物の異常過熱防止機能が働いた**<br>**→ スマートフォンを充電エリアから取り出し、作動表示灯が緑にもどったことを確認して、充電エリアの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーをスマートフォンに装着している場合は、はずしてください。「機能が正常に働かないおそれのある状況」も併せて参照してください。（→P.405）** |
| 橙（4 回連続の点滅をくり返す） | **ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止**<br>**→ スマートフォンを充電エリアから取り出して、作動表示灯が緑にもどるまで待ってから充電を開始してください。** |

知識

**■使用条件**

パワースイッチが ACC または ON のとき

**■使用できるスマートフォンについて**

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。
- スマートフォンを対象とした5W以下の低電力給電を対象としています。

●ただし、次のスマートフォンに対しては、5W をこえる充電に対応しています。
・7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
・WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されている EPP 出力に準拠したスマートフォンに対しては、10W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

電子キーが車外に持ち出されたときなど、充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行うために、充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■スマートフォンにカバーやアクセサリーを付けるときは

スマートフォンに、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアにスマートフォンを置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■スマートフォンを充電エリアに置いたとき

スマートフォン側面のスイッチが押されるなどして、意図せずアプリが起動する場合があります。必要に応じて、スマートフォンの設定を変更するなど対処してください。

■充電中にAMラジオにノイズが入るとき

●ワイヤレス充電器の電源をOFFにして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

●iPhone の急速充電は、特定の周波数で行っています。周波数の切りかえ中は、iOS のバージョンによっては、急速充電動作を行わない場合があります。

■充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器とスマートフォンが温かくなりますが、異常ではありません。充電中にスマートフォンが温かくなったときは、スマートフォン側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、スマートフォンの温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■清掃について

→P.426

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●スマートフォンが満充電のとき
●有線接続でスマートフォンを充電中のとき
●充電エリアとスマートフォンのあいだに異物があるとき
●充電により、スマートフォンの温度が高温になっているとき
●炎天下などにより、充電エリア付近の温度が 35 ℃以上になっているとき
●スマートフォンの充電面を充電エリアに接しないように置いたとき
●スマートフォンの置き場所が充電エリアからずれているとき
●折りたたみ式のスマートフォンを充電エリアの外に置いたとき
●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・

空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが車内にないとき

●スマートフォンの充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したりして、あいだが 2mm 以上となるとき
・厚みがあるケースやカバー
・充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション
・指リングやストラップなどのアクセサリー

●スマートフォンの充電面にカメラなどの突起があり、スマートフォンの充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき

●スマートフォンが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア
・金属製のデコレーション
・金属製のケースやカバー
・スマートフォンの充電面側に磁石が入った手帳型ケース

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●2つ以上のスマートフォンを同時に充電エリアに置いたとき

●スマートフォン内の充電コイルがスマートフォン中央付近にない機種のとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■商標について

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

**警告**

■運転中の注意

スマートフォンを充電する場合、安全のため、運転者は運転中にスマートフォン本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

●本製品はスマートフォン専用の充電器のため、スマートフォン以外のものを充電しない

●充電中に、充電エリアとスマートフォンのあいだに金属物を挟まない

●充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

**警告**

- スマートフォン本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定されたスマートフォン以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 布などをかぶせて充電しない

**注意**

**■故障やデータ破損を防止するために**

- スマートフォン収納部に飲料水などの液体をこぼさないよう注意してください。誤ってこぼしてしまったり、液体が付着したりしているときは、乾いた布などでふいて乾燥させてから使用してください。
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- スマートフォンの充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、スマートフォンや IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーをスマートフォンに装着したまま充電しないようにご注意ください。
- スマートフォンは車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

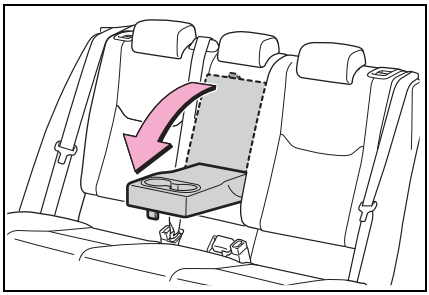
**■補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

## アームレストを使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手前に倒して使用する



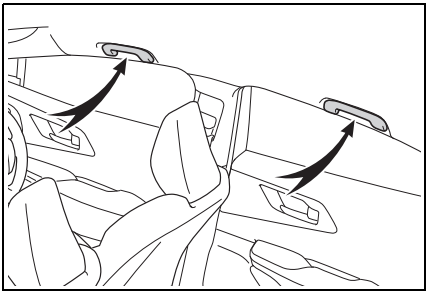
**注意**

**■アームレストの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

## アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



**警告**

**■アシストグリップについて**

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

**注意**

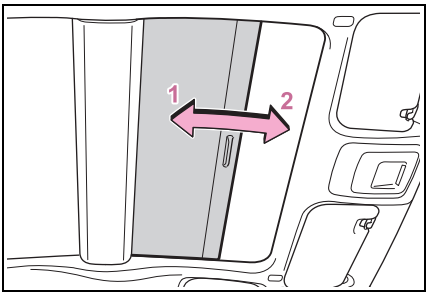
**■アシストグリップの破損を防ぐために**

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

## サンシェード★を使うには

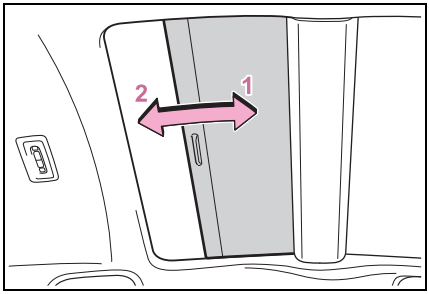
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ フロント




1 開ける
2 閉める

### ■ リヤ



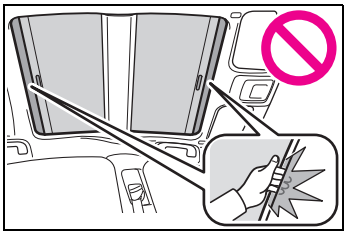

1 開ける
2 閉める

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■サンシェードを開閉するとき**

●サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●お子さまには、サンシェードの操作をさせないでください。
サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

**警告**

**■やけどやけがを防ぐために**

ルーフの下側とサンシェードのすき間にはふれないでください。手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

**注意**

**■正常に機能させるために**

次のことをお守りください。

●開閉のさまたげになる部分にものを置かない

●サンシェードにものを貼らない

**■サンシェードの破損を防ぐために**

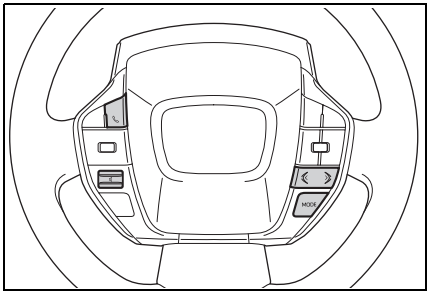
破損を防ぐために、サンシェードに過度の負荷をかけないでください。

## ステアリングスイッチを使うには

マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。




**警告**

**■運転中の操作について**

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

## アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.415）

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.416）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.416）

知識

### ■アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

### ■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

### ■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

### ■駐車中または停車中に使用するとき

- 非常時給電システムの使用中は、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●ワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することができます（→P.120）。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりませんキーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.200 を参照してください。

**⚠ 警告**

**■安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

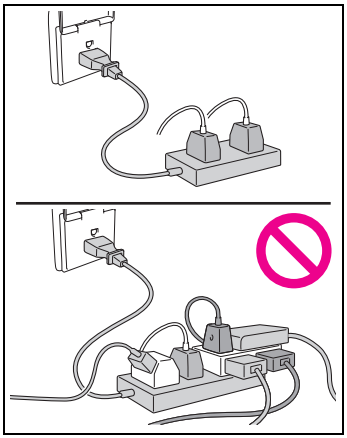
●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

**警告**

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

**■接続する電気製品について**

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

**■電源周波数について**

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

**■駐車中または停車中に使用するとき**

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

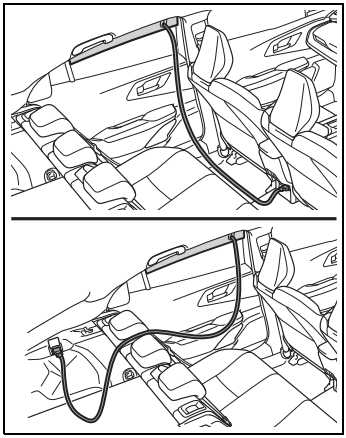
**警告**

・雨水の侵入などに注意する

コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●給油や洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。

●駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

**■走行中に使用するとき**

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

注意

**■ショートや故障を防ぐために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

**■駐車中または停車中の使用について**

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

●特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

**■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき**

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

## 駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

● システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること

● 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

● ボンネットが閉まっていること

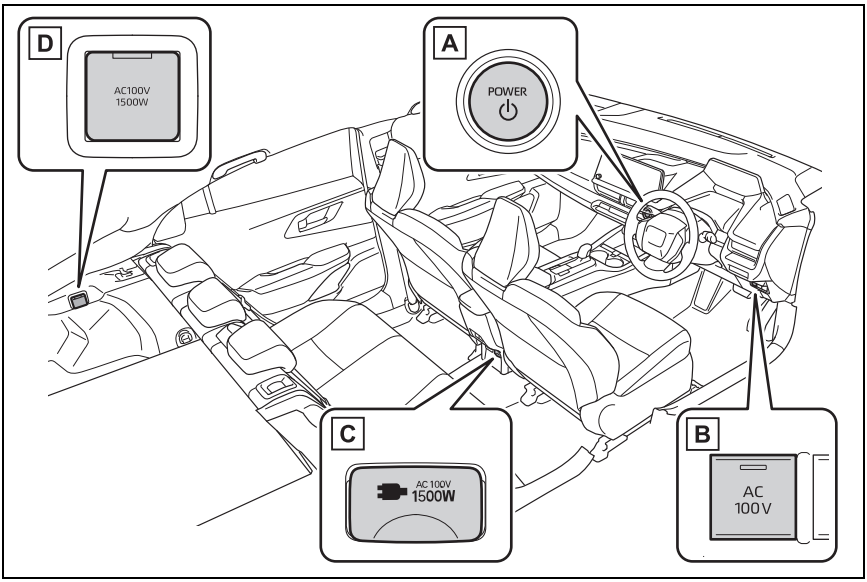
● パーキングブレーキがかかっていること

● シフトポジションが P になっていること

● パワースイッチが OFF になっていること

● 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

## 各部の名称




A パワースイッチ（→P.183）

B AC100V スイッチ

C 室内コンセント（コンソールボックス後方）

D ラゲージルーム内コンセント（助手席側）

## アクセサリーコンセントを使用するには

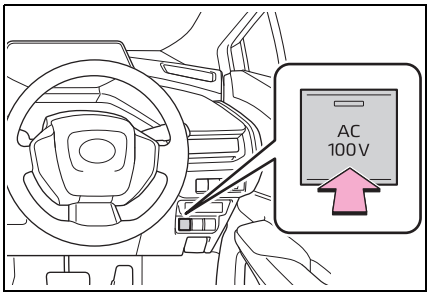
### ■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.183）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。




3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.416）

### ■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

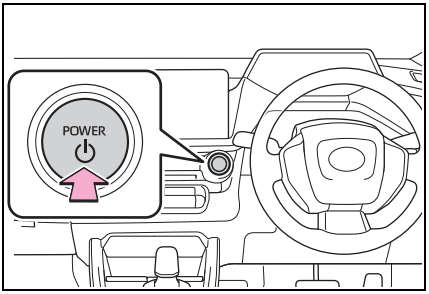
1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める

## 非常時給電システムを使用するには

### ■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（→P.186）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

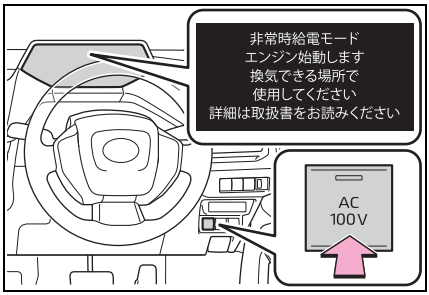



2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。




3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.416）

### ■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める
5 パワースイッチを OFF にする

## 電気製品の電源プラグを接続するには

### ■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってくださ

い。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

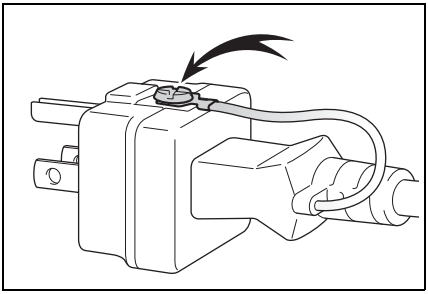
1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

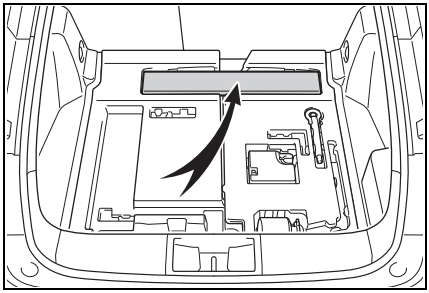


■ **車外にコードを引いて使用するとき**

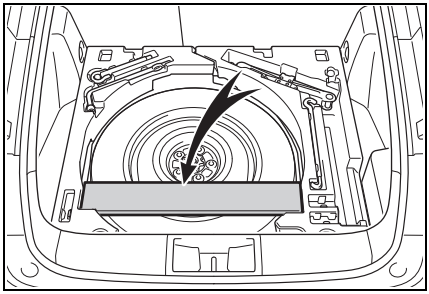
付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

外部給電アタッチメントは、ラゲージルームに搭載されています。

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



▶ 応急用タイヤ装着車



# 正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

**正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。**

## 正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

### ■ アクセサリーコンセントが使用できない

| 考えられる原因 | 対処法 |
|---|---|
| 燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している | 燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。 |
| 特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている | 車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。 |
| 特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている | しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。 |
| 電気製品が作動しない | 電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。 |
| 消費電力の合計が 1500W を超えている | 電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 |
| コンセントがショートしている | 電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。<br>・ピンなどの異物が挿さっていないか<br>・飲料水、雨水、雪などが付着していないか<br>・ほこりやゴミが付着していないか |

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

## 正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

### ■ 非常時給電システムが使用できない

| 考えられる原因 | 対処法 |
|---|---|
| ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している | ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。 |
| パワースイッチがACC になっている | パワースイッチがOFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。(→P.186)<br>メーターに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。 |
| AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、またはAC100V スイッチを 3 回よりも多く押している | AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。 |
| 特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている | 車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 |
| 特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている | しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFF にし、はじめから操作をやり直してください。 |
| 電気製品が作動しない | 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチをOFF にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。 |

| 考えられる原因 | 対処法 |
|---|---|
| 消費電力の合計が1500W を超えている | 電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 |
| コンセントがショートしている | 電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。<br>・ピンなどの異物が挿さっていないか<br>・飲料水、雨水、雪などが付着していないか<br>・ほこりやゴミが付着していないか |

## 非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

### ■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処法 |
|---|---|
| 燃料が少なくなった | 燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。 |

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

# お手入れのしかた

6

## 6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ ..... 422
内装の手入れ ..... 426

## 6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット ..... 429
ガレージジャッキ ..... 431
ウォッシャー液の補充..... 432
タイヤについて ..... 433
タイヤ空気圧について..... 435
エアコンフィルターの交換..... 436
駆動用電池冷却用吸入口の清掃
..... 438
電子キーの電池交換..... 441
ヒューズの点検・交換 ..... 443
外装のランプの交換..... 446

# 外装の手入れ

**お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。**

## 手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

### 知識

**■自動洗車機を使うとき**

●お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

●Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.192 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■高圧洗浄機を使うとき**

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

**■スマートエントリー＆スタートシステムについて**

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.138）

**■ホイール・ホイールキャップについて**

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱

いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

**警告**

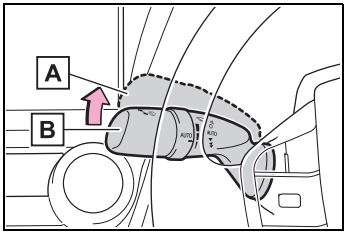
■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。




A OFF

B AUTO

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

**警告**

**■排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

**■リヤバンパー・フロントバンパーについて**

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

・BSM

・後方車両への接近警報

・RCTA

・安心降車アシスト

・クリアランスソナー

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）

**注意**

**■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

**■ワイパーアームの損傷を防ぐために**

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

**■ランプの清掃**

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

**■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

**■フロントグリルの清掃**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、フロントグリルの表面を損傷するおそれがあります。

●硬いブラシは使用せず、やわらかいもので洗ってください。

●汚れを落とすときは中性洗剤を使用し、ワックスなどの油脂類・ガラスクリーナーなどのアルコール類は使用しないでください。

●洗車後は、洗剤が残らないように水をかけて洗い流してください。

注意

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■アルミ部品の清掃について

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

## 内装の手入れ

**お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。**

### 車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

**■カーペットの洗浄について**

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

**■シートベルトの取り扱いについて**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

**■スーパー UV カットガラス★について**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

**警告**

**■車両への水の浸入**

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→P.81）駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.32）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→P.402）をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.216）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

## サテン仕上げ金属コーティング★部分の手入れをするには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

## 本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

## 合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

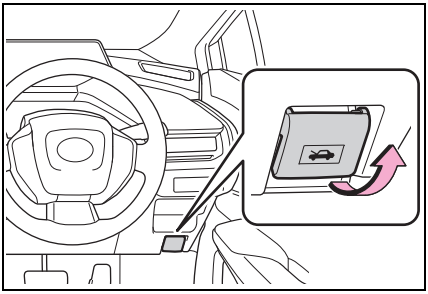
● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

# ボンネット

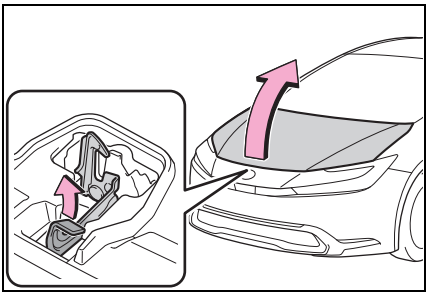
## ボンネットを開けるには

**1** ボンネット解除レバーを引く

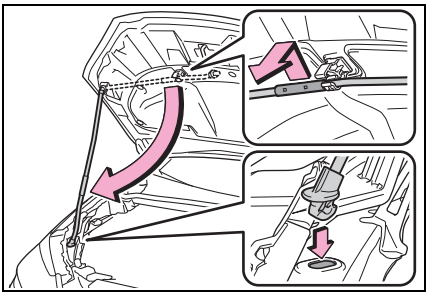
ボンネットが少し浮き上がります。



**2** レバーを引いてボンネットを開ける



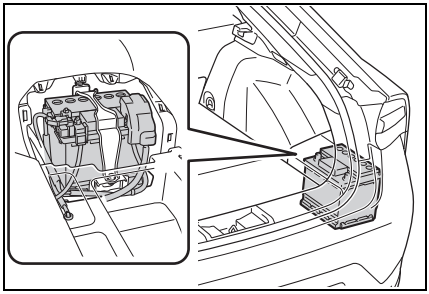
**3** ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

**■補機バッテリーについて（M20A-FXSエンジン搭載車のみ）**

●この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のラゲージサイドトレイ内にあり、エンジンルームには搭載されていません。



●補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.493）

**警告**

**■走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## 警告

**■ボンネットを開けるとき**

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

**■けがを防ぐために**

●走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

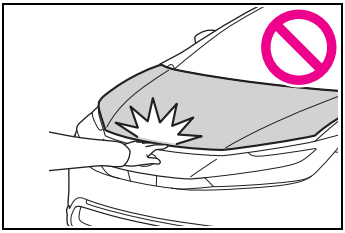
●走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

**■エンジンルーム点検後の確認**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

**■ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



**■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

**■補機バッテリーの取り扱いについて**

→P.429

## 注意

**■ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

**■ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

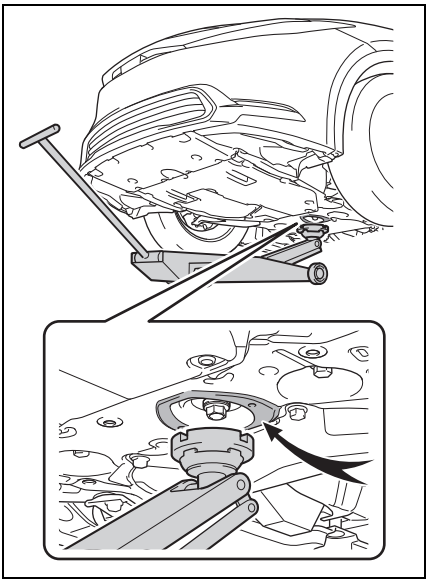
## ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

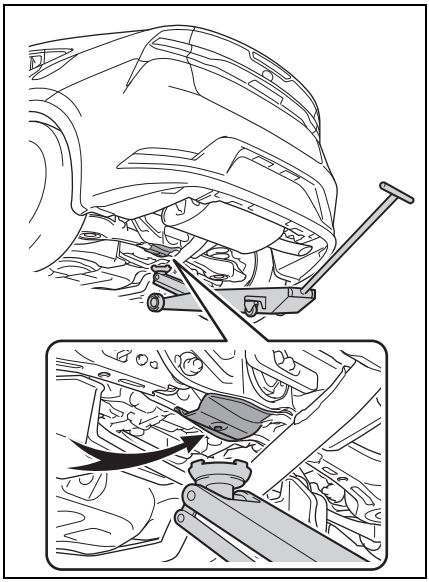
### ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

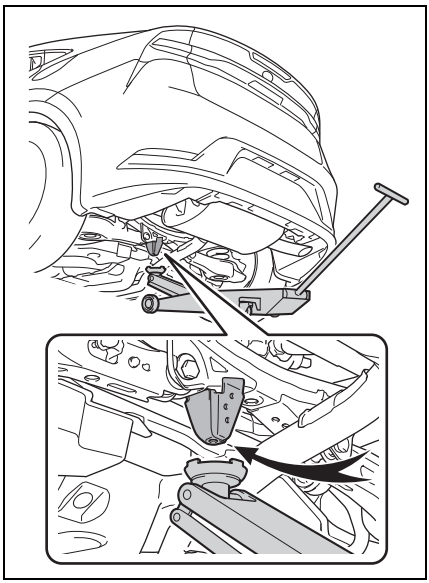


■ リヤ側

▶ 4WD 車



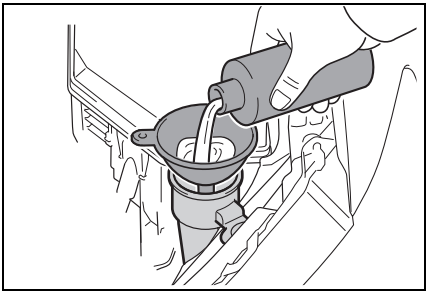
▶ 2WD 車



# ウォッシャー液の補充

## 補充するには

ウォッシャー液が減っているときは、ウォッシャー液を補充してください。

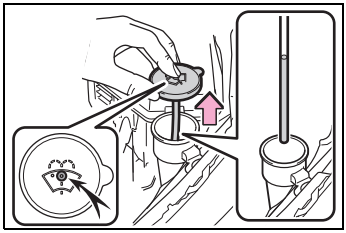


知識

■ウォッシャー液量の確認

キャップの中央部を指で押さえたまま、まっすく引き上げると、ウォッシャー液量を確認することができます。

ウォッシャー液がチューブ下端につかないときは、ウォッシャー液を補充してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

## タイヤについて

**タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。**
**タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。**

### タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

**■タイヤ空気圧について**

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 195/60R17 90H

前輪：250kPa（2.5kg/cm$^2$）※

後輪：240kPa（2.4kg/cm$^2$）※

▶ 195/50R19 88H

前輪：240kPa（2.4kg/cm$^2$）※

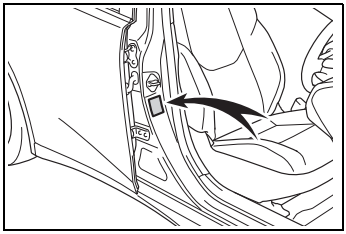
後輪：230kPa（2.3kg/cm$^2$）※

▶ 応急用★

420kPa（4.2kg/cm$^2$）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



**■タイヤ関連の部品を交換するとき**

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

**■低偏平タイヤについて（195/50R19 タイヤ装着車）**

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

また、雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

## 警告

**■点検・交換時について**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド＆スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

**■異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

**■異常があるホイールの使用禁止**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■タイヤ交換時の注意**

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→P.486）
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

## 注意

**■低偏平タイヤについて（195/50R19 タイヤ装着車）**

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

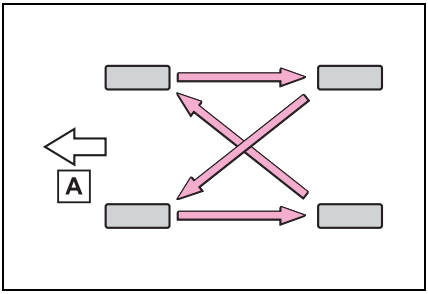
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

## タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。




A 前側

## タイヤ空気圧について

**タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。**

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

**警告**

**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

**注意**

**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

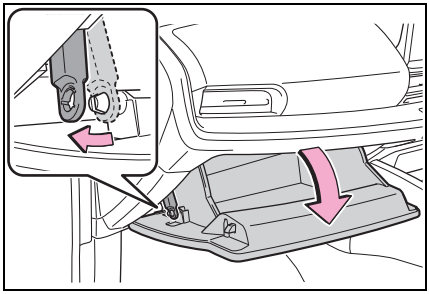
## エアコンフィルターの交換

**エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。**

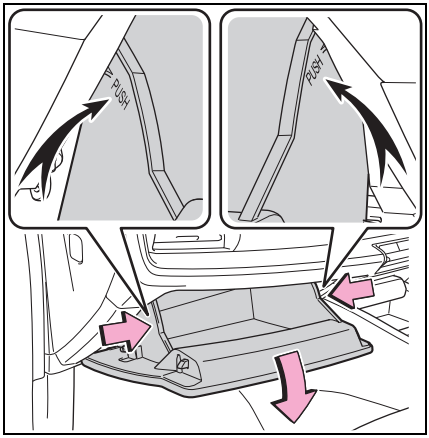
### 交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



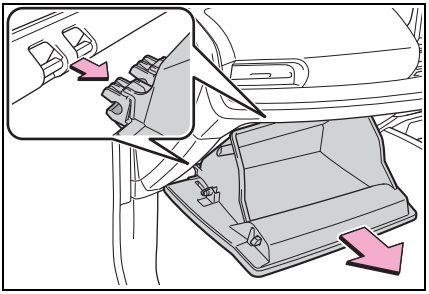
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



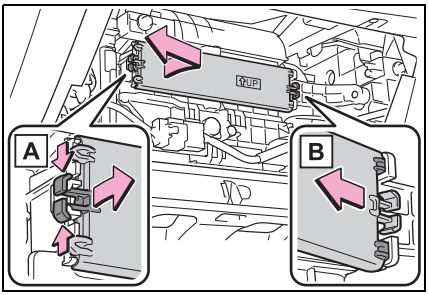

4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持

ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

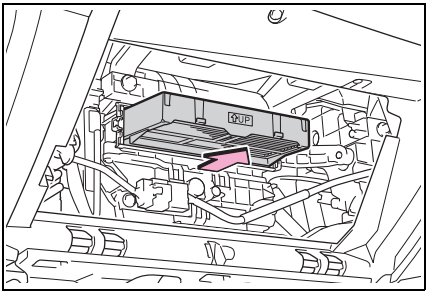
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



**5** フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

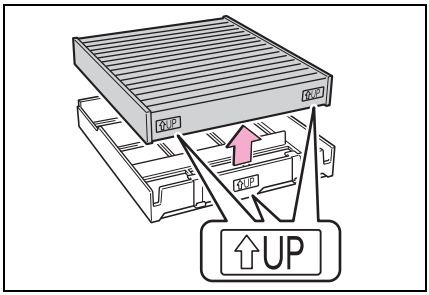



**6** フィルターケースを取りはずす



**7** フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「⇧ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。




**8** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

**■エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km※1] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

**■エアコンの風量が減少したときは**

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

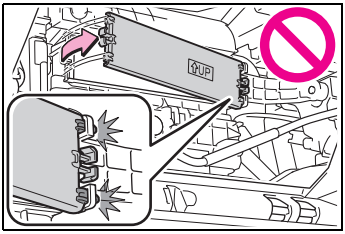
●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P.436）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷すおそれがあります。




## 駆動用電池冷却用吸入口の清掃

**燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。**

**ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。**

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

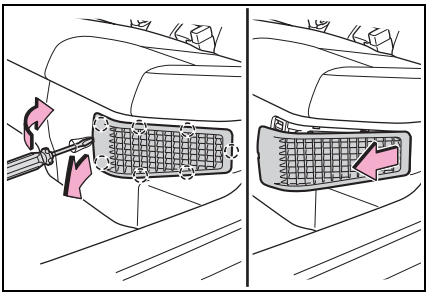
すみやかに清掃してください。
警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

## 清掃のしかた

**1** パワースイッチを OFF にする

**2** 吸入口カバーを取りはずす

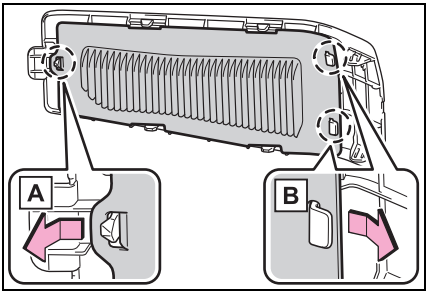
吸入口カバーを手前に引いて、図で示す7ヶ所のツメを右端からはずし、吸入口カバーを手前に引いて取りはずします。



**3** 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

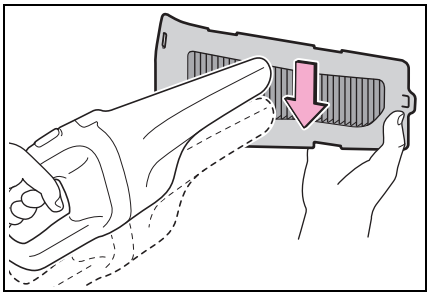
吸入口カバーのツメ A 部をはずしてから B 部をはずし、フィルターを取りはずします。

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。



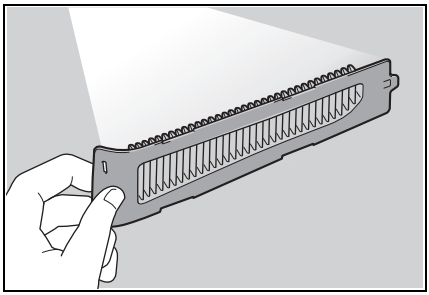

**4** フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



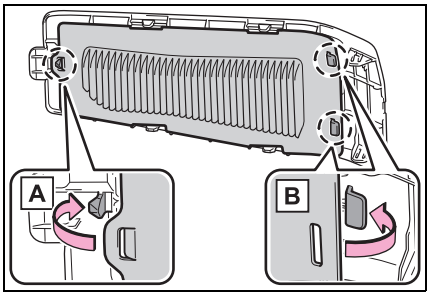
**5** フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



**6** 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

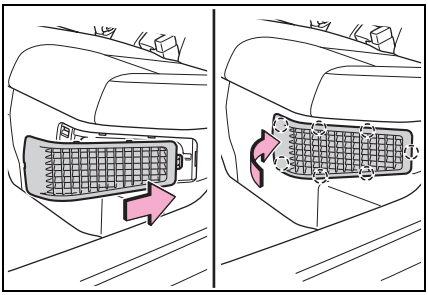
フィルターを吸入口カバーのツメ B 部に取り付けてから A 部を取り付けます。




フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

**7** 吸入口カバーを取り付ける

吸入口カバーの左端のツメを挿し込み、図で示す 7ヶ所のツメを取り付けてください。



▶ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」と表示されていたとき

**8** ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

**■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは**

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

**警告**

**■吸入口の清掃をするときは**

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

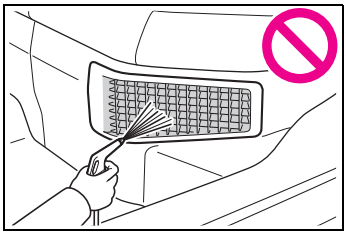
●清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

●吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

**■吸入口の清掃をするときは**

エアブローなどを使用しないでください。
ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



**■車両の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●吸入口に水や異物などが入らないように注意する

●清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

●この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

**■フィルターの損傷を防ぐために**

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

●エアブローなどを使用しない

注意

- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

## 電子キーの電池交換

**電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。**

知識

**■電子キーの電池が消耗していると**

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

### 事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

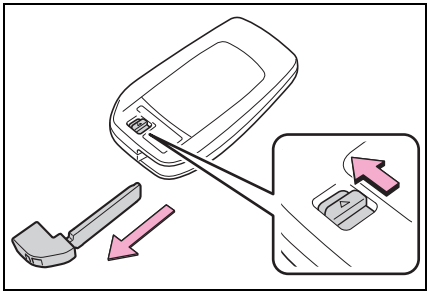
知識

**■リチウム電池 CR2450 の入手**

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

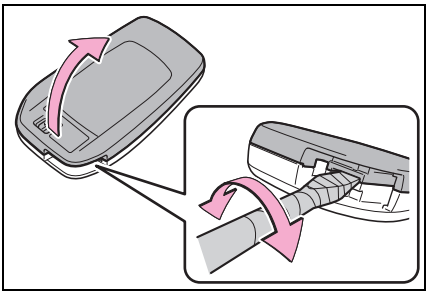
### 電池を交換するには

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



**2** カバーをはずす

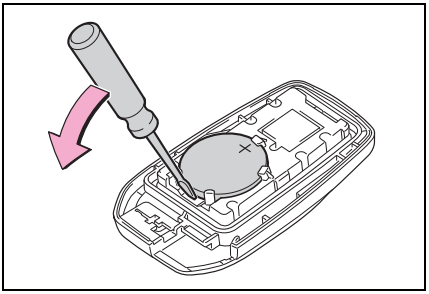
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



**3** 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



**4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

**警告**

**■電子キーの電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

**■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

## ヒューズの点検・交換

**ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。**

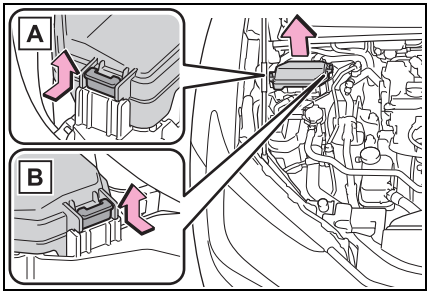
### ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）★

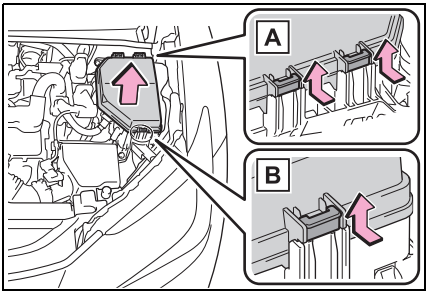
ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。




★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

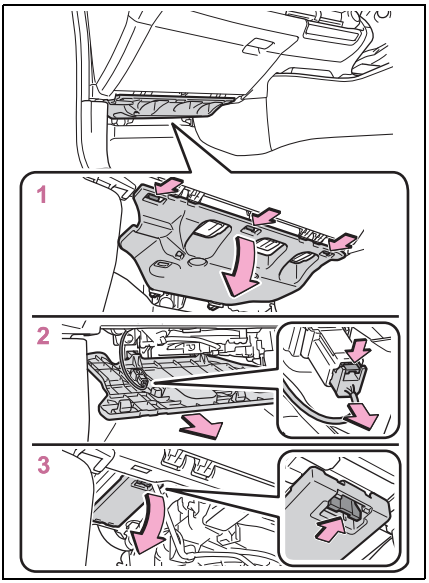
▶ エンジンルーム（助手席側）

ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。




▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずします。




1 ツメを押してアンダーカバーを取りはずします。

2 ツメを押してコネクター★を取りはずします。

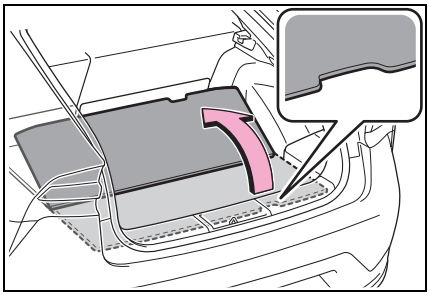
3 ツメを押してロックをはずし、カバーを取りはずします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

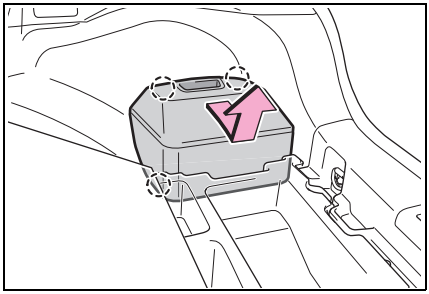
▶ ラゲージルーム（M20A-FXSエンジン搭載車のみ）

デッキボードを引き上げます。

（→P.397）

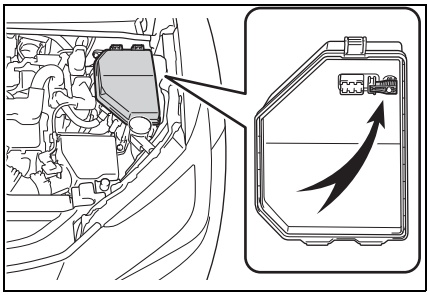


3ヵ所のクリップを引いてはずし、補機バッテリーカバーを取りはずします。



3 ヒューズを引き抜く

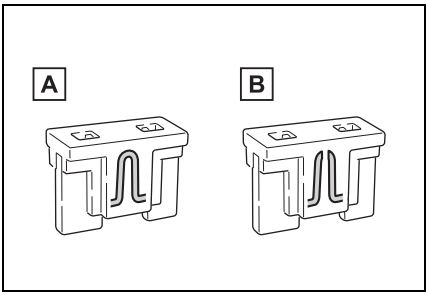
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容

量のヒューズに交換します。




A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、ランプを交換してください。（→P.446）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンルームのヒューズボックスの損傷を防ぐために

ヒューズボックスを開けるときは、ツメのロックを完全にはずしてからカバーを持ち上げてください。ツメが損傷するおそれがあります。

## 外装のランプの交換

**外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。**

知識

**■LED ランプについて**

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

**■レンズ内の水滴と曇り**

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

**■ランプなどの電装部品を交換するとき**

→P.445

# 万一の場合には

7

## 7-1. まず初めに

故障したときは ..... 448
非常点滅灯（ハザードランプ）449
発炎筒..... 449
車両を緊急停止するには..... 450
水没・冠水したときは..... 451

## 7-2. 緊急時の対処法

けん引について ..... 453
警告灯がついたときは..... 458
警告メッセージが表示されたときは ..... 464
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 472
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 482
ハイブリッドシステムが始動できないときは ..... 489
キーをなくしたときは..... 490
電子キーが正常に働かないときは ..... 491
補機バッテリーがあがったときは ..... 493
オーバーヒートしたときは..... 498
スタックしたときは..... 503

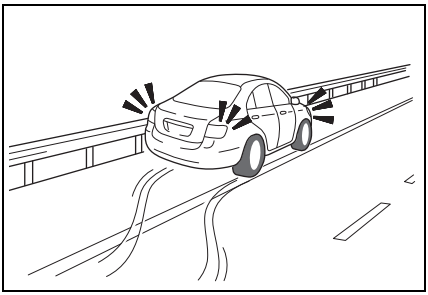
## 故障したときは

**故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。**

### 対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.449）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



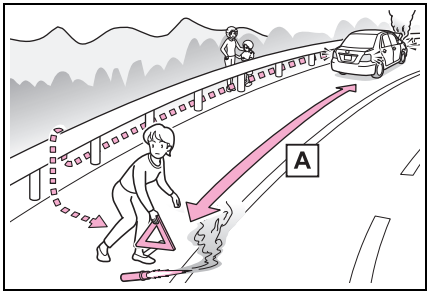
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.449）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

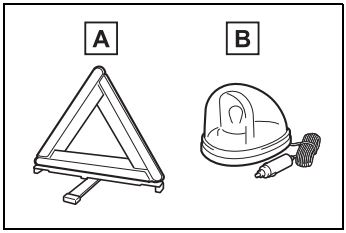



3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

**■停止表示板・停止表示灯について**

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。




A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

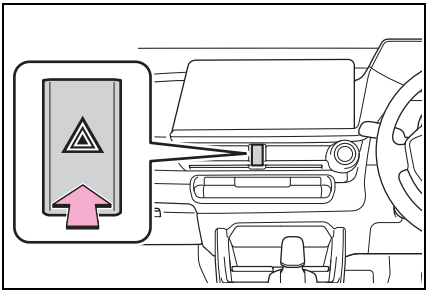
## 非常点滅灯（ハザードランプ）

**故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。**

### 点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

**■非常点滅灯について**

●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります

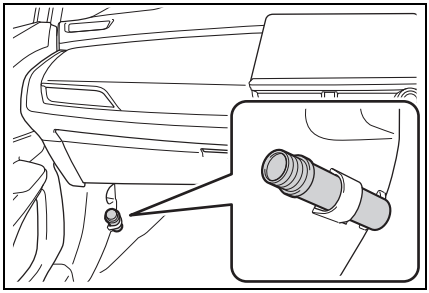
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

## 発炎筒

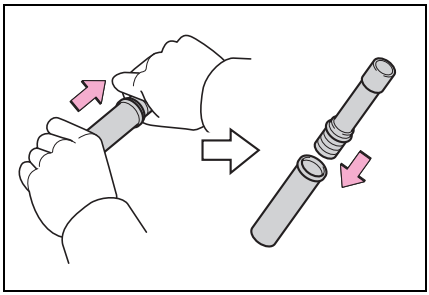
**高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。**

### 発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



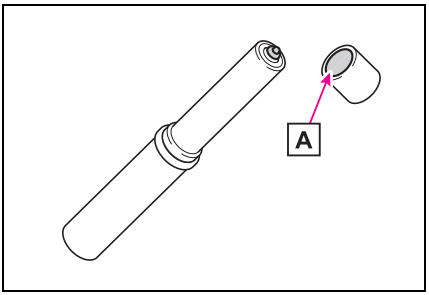
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。




知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

**警告**

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

## 車両を緊急停止するには

**万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。**

### 車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N に入れる

▶ シフトポジションが N に入った場合

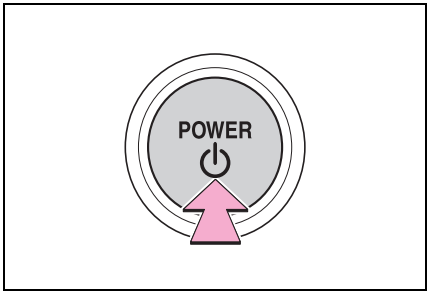
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する




5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

## 水没・冠水したときは

**この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。**

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

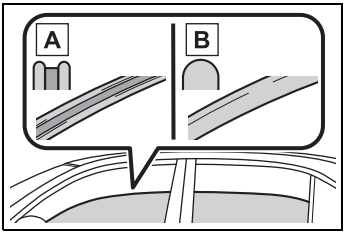
この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2 枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。




A 合わせガラス

B 強化ガラス

**警告**

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

## けん引について

**けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。**

**その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。**

注意

**■長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

### 他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.185）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.83）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.491）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.493）

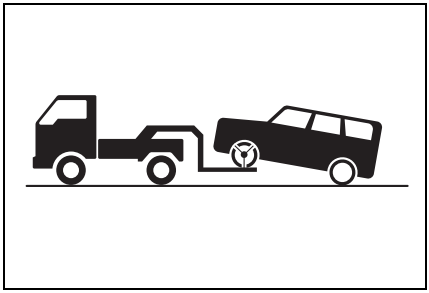
### けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

### レッカー車でけん引するとき

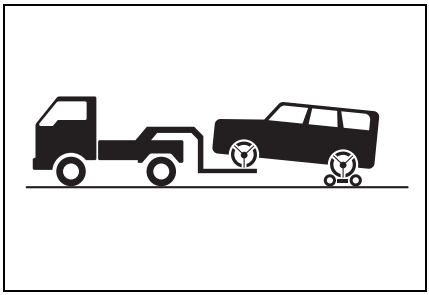
▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



パーキングブレーキを解除する

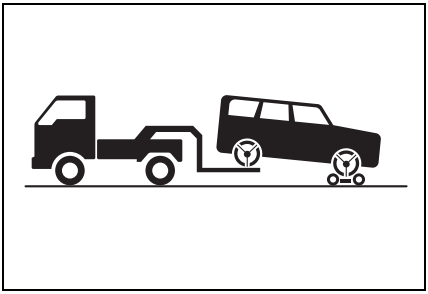
オートモードを OFF にしてください。（→P.195）

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

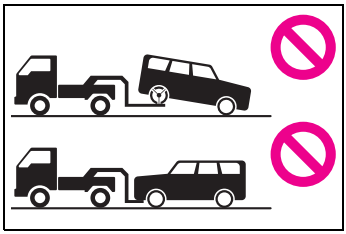
**警告**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■レッカー車でけん引するとき**

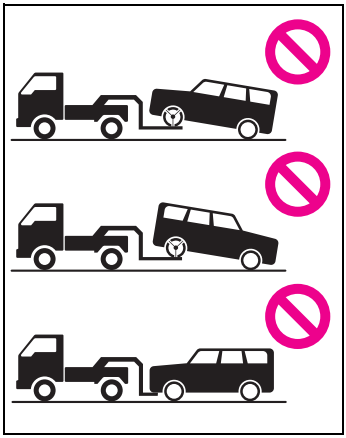
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ 4WD 車

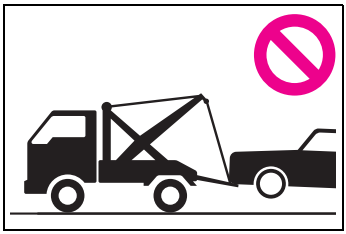
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



**注意**

**■レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



## 車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の

取扱説明書を確認してください。

運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

## 他車にけん引してもらうとき

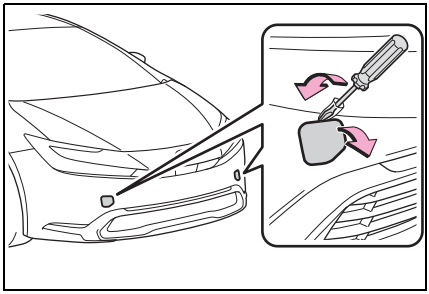
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

**1** ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す（→P.473, 483）

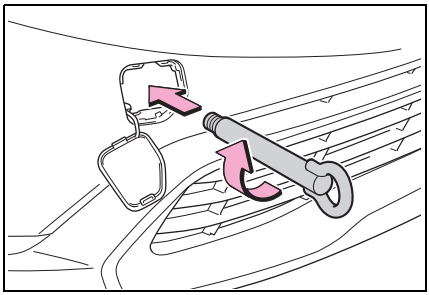
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**2** マイナスドライバーを使ってフタをはずす

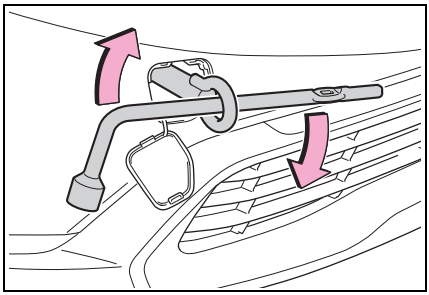
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



**3** けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



**4** ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



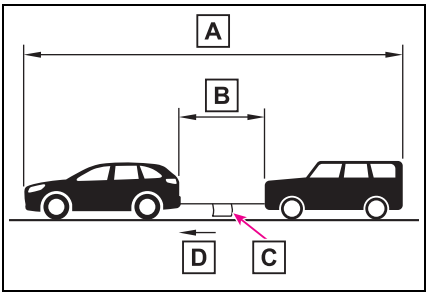
**5** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

**6** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方（30cm×30cm）以上




A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

パーキングサポートブレーキ★を OFF にしてください。（→P.317）

**8** けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.195）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

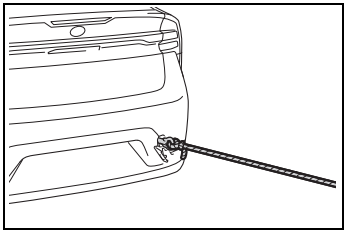
■ホイールナットレンチについて

●ホイールナットレンチ装着車：ラゲージルームに搭載されています。（→P.473, 483）

●ホイールナットレンチ非装着車：トヨタ販売店で購入することができます。

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■リヤ側けん引フックを取り付けるには

リヤ側けん引フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

**警告**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

**■他車にけん引してもらうときの運転について**

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。

パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

**注意**

**■車両の損傷を防ぐために**

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

**■リヤ側フックについて**

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

# 警告灯がついたときは

**警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。**

## 警告灯・警告ブザーへの対応

### ■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （赤色） | ●ブレーキ液の不足<br>●ブレーキ系統の異常<br>→ **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。** |

### ■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （黄色） | ●パーキングブレーキシステムの異常<br>●電子制御ブレーキシステムの異常<br>●回生ブレーキシステムの異常<br>→ **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

### ■ 充電警告灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 充電系統の異常<br>→ **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** |

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

### ■ 高水温警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | エンジン冷却水の高温異常<br>→ **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.498）に従ってください。** |

## ■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | エンジンオイル圧力の異常<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** |

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ハイブリッドシステムの過熱<br>**→ 安全な場所に停車し、対処方法（→P.498）に従ってください。** |

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ エンジン警告灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●ハイブリッドシステムの異常<br>●エンジン電子制御システムの異常<br>●電子制御スロットルの異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

## ■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●SRS エアバッグシステムの異常<br>●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

## ■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●ABS の異常<br>●ブレーキアシストの異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

## ■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （赤色）<br>（黄色） | EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

## ■ PCS 警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| OFF | PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**<br>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 |

## ■ LTA 表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （橙色） | LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** |

## ■ LDA 表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （橙色） | LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** |

## ■ PDA 表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （橙色） | PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** |

## ■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （橙色） | クルーズコントロールの異常が考えられます。<br>→ **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** |

## ■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （橙色） | レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。<br>→ **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** |

## ■ 運転支援情報表示灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 次のシステムに異常が考えられます。<br>●PCS（プリクラッシュセーフティ）<br>●LDA（レーンディパーチャーアラート）<br>●後方車両への接近警報★<br>●後方車両接近告知★<br>●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★<br>→ **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**<br>次のシステムのいずれかかが異常、または停止しています。<br>●PKSB（パーキングサポートブレーキ）<br>●RCD（リヤカメラディテクション）★<br>●BSM（ブラインドスポットモニター）★<br>●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★<br>●安心降車アシスト★<br>→ **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| P OFF | クリアランスソナーの異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**<br>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.300）** |

## ■ スリップ表示灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●VSC システムの異常<br>●TRC システムの異常<br>●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

## ■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ブザーが鳴った場合：<br>●ブレーキオーバーライドシステムの異常<br>●ドライブスタートコントロールの異常<br>●ドライブスタートコントロール作動時<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**<br>ブザーが鳴らなかった場合：<br>ブレーキオーバーライドシステム作動時<br>**→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。** |

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| HOLD<br>（点滅） | ブレーキホールドシステムの異常<br>**→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** |

## ■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （点滅） | パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある<br>**→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。**<br>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 |

## ■ 燃料残量警告灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 燃料の残量が約 6.4L 以下になった<br>**→ 燃料を補給する** |

## ■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 運転席・助手席シートベルトの非着用<br>**→ シートベルトを着用する** |

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

## ■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1（警告ブザー ※2）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | リヤ席シートベルトの非着用<br>**→ シートベルトを着用する** |

※1 リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席ドアが開閉された場合にも一定時間点灯します。

※2 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

### 知識

**■警告ブザーについて**

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

**■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を

検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

このとき、補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンのなど一部機能の作動を制限することがあります。

**警告**

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき ※

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

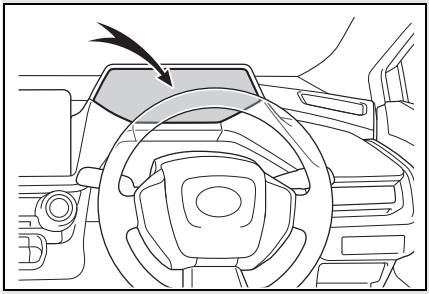
※ 警告灯は赤色と黄色が、警告ブザーは単発音と断続音があります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

## 警告メッセージが表示されたときは

**マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。**



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

## メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

| 警告灯 | 警告ブザー※ | 警告内容 |
|---|---|---|
| ― | あり | ・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。<br>・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。 |
| 点灯または点滅 | あり | 表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。 |
| ― | なし | ・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。<br>・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。 |

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

### 知識

**■警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

**■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは**

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.176, 471）

・ドライブスタートコントロール・パーキングサポートブレーキが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.181, 316）。
画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

### ■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

### ■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

● “ エンジン冷却水高温 ” が表示されたときは、対処方法に従ってください。（→P.498）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ “ ハイブリッドシステム故障 ”
・ “ エンジン系故障 ”
・ “ バッテリー系故障 ”
・ “ アクセル系故障 ”
・ “ スマートエントリー＆スタートシステム故障 ”
・ “ シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキをかけ 取扱書確認 ”
・ “P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキをかけ 取扱書確認 ”
・ “ シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキをかけ 取扱書確認 ”
・ “ シフトシステム故障 取扱書確認 ”
・ “ シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認 ”
・ “ バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認 ”

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・ “ エンジン油圧不足 ”
・ “ 故障のためブレーキ力が低下 ”

●次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、ガス欠の可能性があります。安全な場所に停車し、燃料残量を確認してください。燃料残量が少ない場合は、すみやかに給油してください。

・ “ ハイブリッドシステム停止 ”
・ “ エンジン停止 ”

● “ 駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認 ” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

・ 駆動用電池冷却用吸入口を清掃する（→P.438）

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “ 補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください ” が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。

・ 数秒後※に表示が消えたときは：
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
・ 表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.493）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

● “ 補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し取扱書を確認 ” が表

示されたときは

充電系統が故障している可能性があります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。メッセージが表示されているときは、補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

■ **“駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは**

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■ **“ハイブリッドシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは**

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.498

■ **“駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは**

一定時間シフトポジションが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ **“N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは**

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ **“停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは**

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ **“シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し停車” または “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは**

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **“バッテリー保護のため自動で電源を off しました” が表示されたときは**

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ **“機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

● RCD（リヤカメラディテクション）★

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
●BSM（ブラインドスポットモニター）★
●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
●後方車両接近告知★
●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★
●後方車両への接近警報★
●周辺車両接近時サポート★
●安心降車アシスト★
●クリアランスソナー
●PKSB（パーキングサポートブレーキ）
●RCD（リアカメラディテクション）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
●BSM（ブラインドスポットモニター）★
●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
●後方車両接近告知★
●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★
●後方車両への接近警報★
●周辺車両接近時サポート★
●安心降車アシスト★
●クリアランスソナー
●PKSB（パーキングサポートブレーキ）
●RCD（リアカメラディテクション）★

次の対処法に従ってください。
・補機バッテリー電圧を確認する
・Toyota Safety Senseで使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.216）
・RCD（リヤカメラディテクション）装着車：バックドアが開いていないか確認してください。

センサーが正しく作動していないおそれがあります。（→P.219, 282, 285, 288, 291, 293, 297, 301, 310, 314, 323, 325, 326）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★、後方車両接近告知★、セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★、後方車両への接近警報★、周辺車両接近時サポート★、安心降車アシスト★で使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。（→P.282, 310）
・クリアランスソナー、PKSB（パーキングサポートブレーキ）、RCD（リアカメラディテクション）★で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.300, 314）
・センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■“機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。
・ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
・エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。
・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■“機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●RSA（ロードサインアシスト）
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。
・炎天下での駐車時など、前方カメラが

高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。
・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.217）
・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。
車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

レーダー周辺の温度が作動条件外です。
適切な温度になるまでお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●LTA（レーントレーシングアシスト）
●LCA（レーンチェンジアシスト）★
●AHB（オートマチックハイビーム）
●レーダークルーズコントロール
●発進遅れ告知
●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。
・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.217）

・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” が表示されたときは**

LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.236）

すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

■ **“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●レーダークルーズコントロール

●クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ **“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは**

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ **“アクセルを戻してください” が表示されたときは**

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

・ドライブスタートコントロール（→P.181）

・プラスサポート（販売店装着オプション）（→P.327）

■**警告ブザーについて**

→P.463

**警告**

■**警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは**

→P.464

**注意**

■ **“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” がひんぱんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■ **“駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたときは**

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。

●万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

## パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

**タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。**

**タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.472）**

**タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。**

### 警告

**■タイヤがパンクしたとき**

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

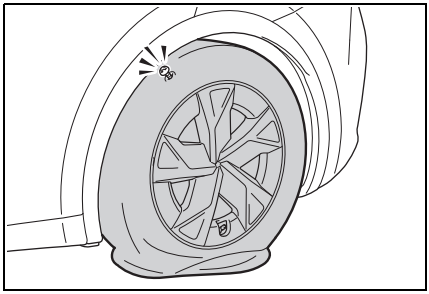
### 応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.449）
- パワーバックドア装着車はパワーバックドアの設定を OFF にする（→P.136）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



### 知識

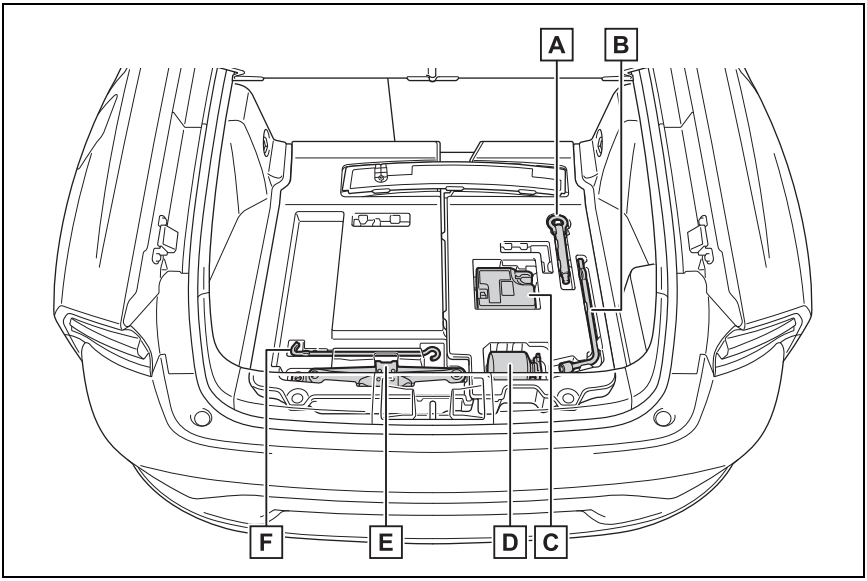
**■応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき

●2本以上のタイヤがパンクしているとき
●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
●補修液の有効期限が切れているとき

## タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置




A けん引フック

B ホイールナットレンチ ※1

C タイヤパンク応急修理キット（コンプレッサー）

D タイヤパンク応急修理キット（ボトル）

E ジャッキ ※1, 2

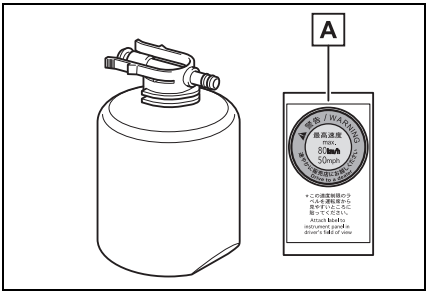
F ジャッキハンドル ※1

※1 ホイールナットレンチ、ジャッキ、ジャッキハンドルは工場出荷時には搭載されていませんが、トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

※2 ホイールナットレンチ、ジャッキ、ジャッキハンドルの使い方（→P.484）

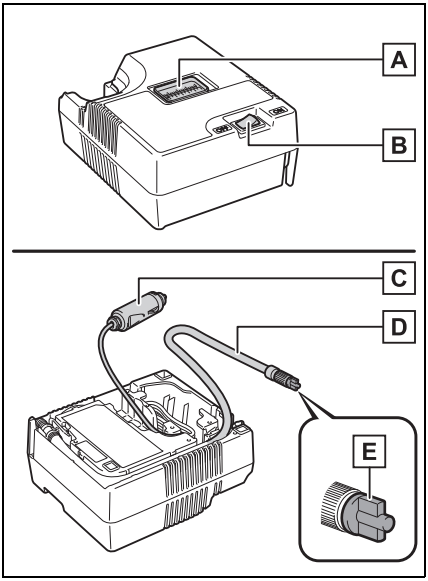
## タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

### ■ ボトル




A 速度制限ラベル

### ■ コンプレッサー




A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

## 知識

### ■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

### ■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

### ■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、ま

たは都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

**警告**

**■タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

**■応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出して破損し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■パンク補修液について**

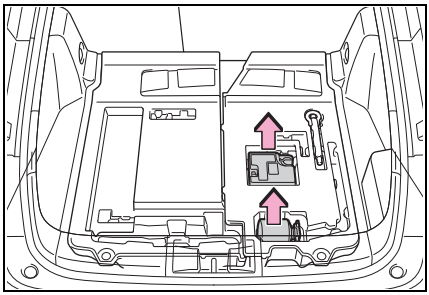
●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

## タイヤパンク応急修理キットを取り出すには

**1** デッキボードを開く
(→P.397)

**2** 応急修理キットを取り出す

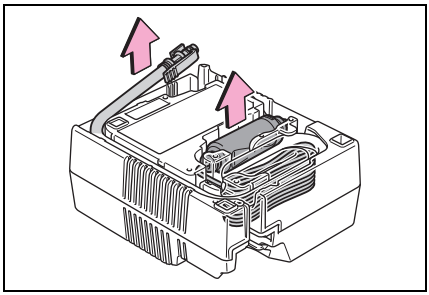


## 応急修理するときは

**1** 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 **10** へ)

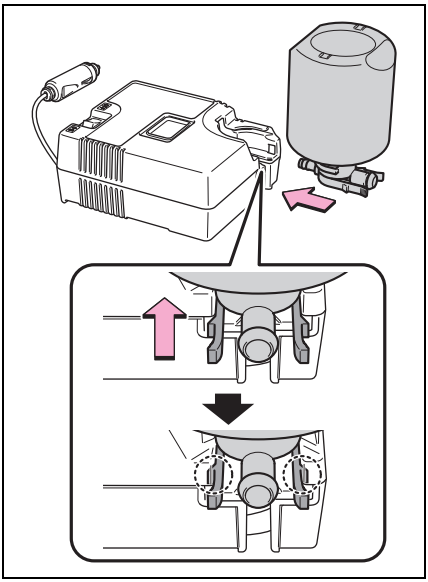
**2** コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



**3** ボトルをコンプレッサーに接続する

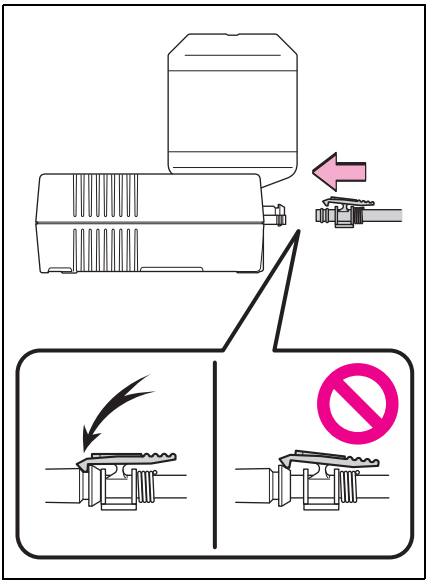
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してくださ

い。

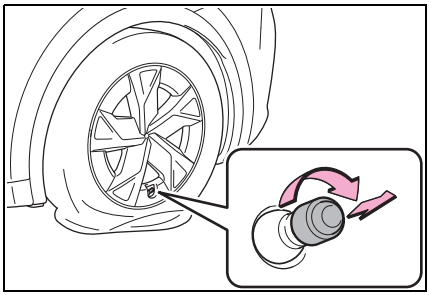


**4** ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

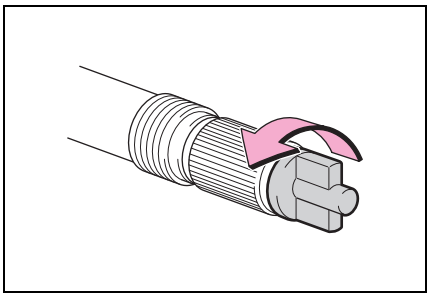


**5** パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



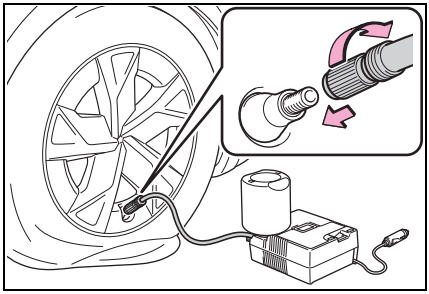
**6** ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

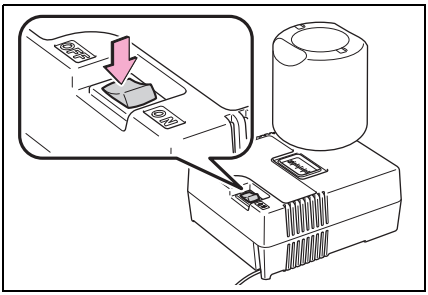


**7** ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

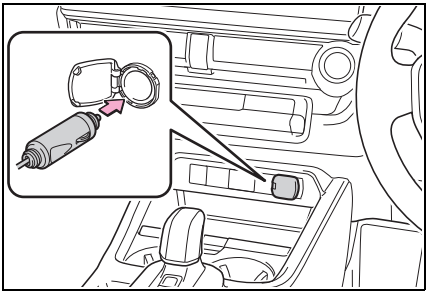
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



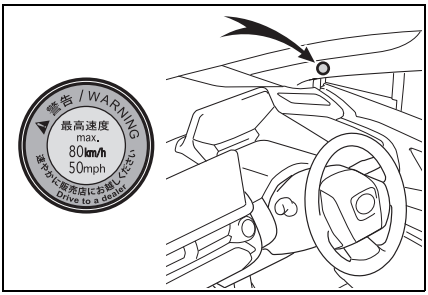
**8** コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する




**9** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.400）

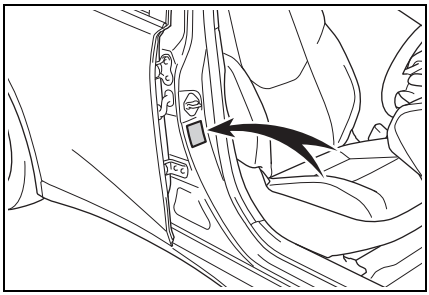


**10**運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



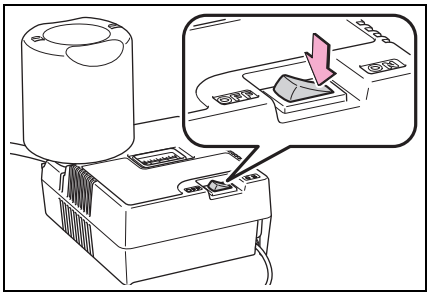

**11**タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.433）

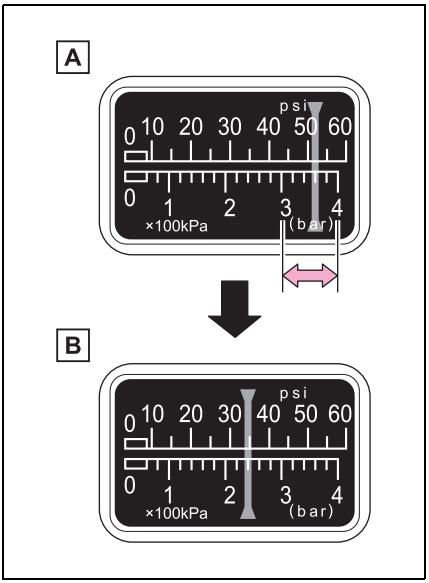


**12**ハイブリッドシステムを始動する（→P.183）

**13**コンプレッサーのスイッチをON にし、パンク補修液と空気を充填する



**14** 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する




A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm$^2$）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

（→P.433, 479）

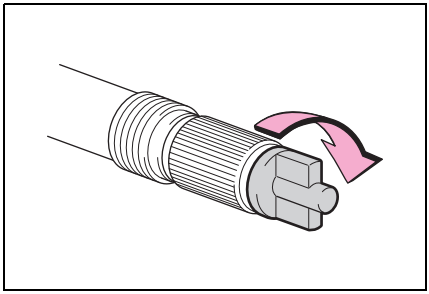
**15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

**16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

**17** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



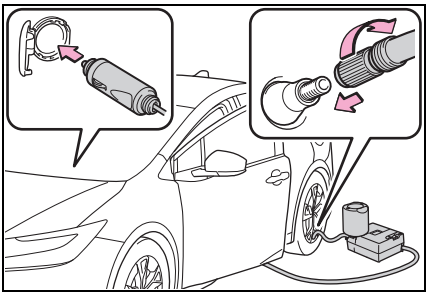
**18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

**19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

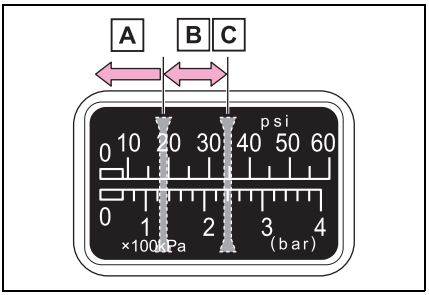
**20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください。



**21** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する




A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm$^2$）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

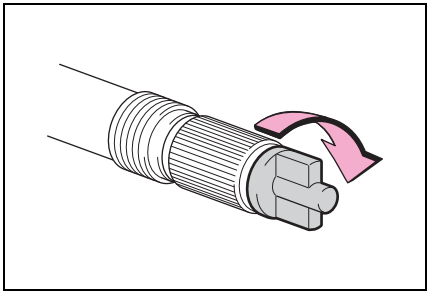
B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm$^2$）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.433）の場合：手順 **23** へ

**22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

**23** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



**24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

**25** 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

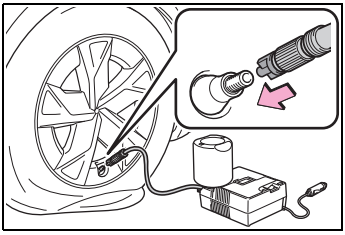
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

**■空気を入れすぎてしまったとき**

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

### ■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

**警告**

**■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

**■補修液を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

**警告**

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm$^2$）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

**注意**

**■応急修理をするとき**

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

**■応急修理キットについて**

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

## パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

**パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。**
**（タイヤについての詳しい説明は P.433 を参照してください）**

**警告**

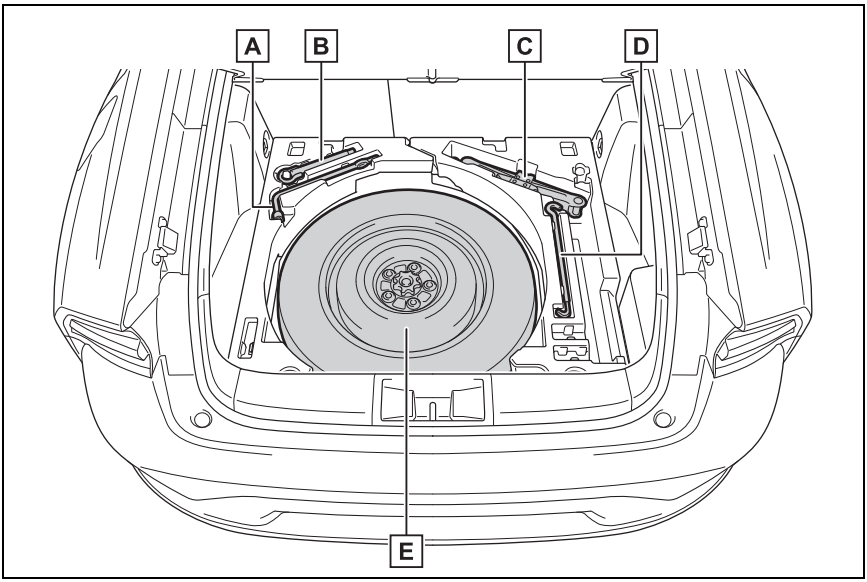
**■タイヤがパンクしたとき**

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.449）
- パワーバックドア装着車はパワーバックドアの設定を OFF にする（→P.136）

## 工具とジャッキの位置




A ホイールナットレンチ

B けん引フック

C ジャッキ

D ジャッキハンドル

E 応急用タイヤ

**警告**

**■ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない

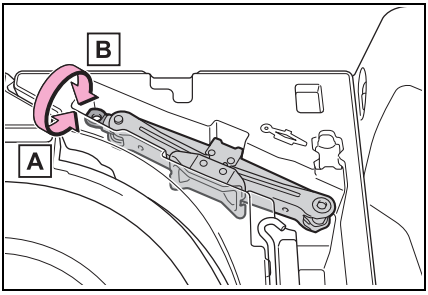
**警告**

- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

## ジャッキを取り出すには

1 デッキボードを開く（→P.397）

2 ジャッキをゆるめて取りはずす



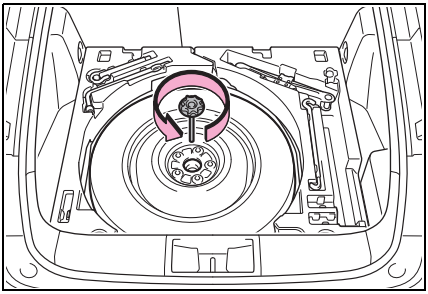

A 締まる

B ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

## 応急用タイヤを取り出すには

1 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



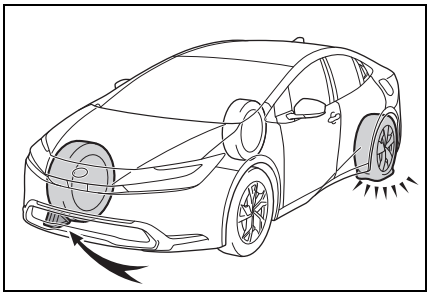
**警告**

**■応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

## パンクしたタイヤを交換するには

1 輪止め※をする



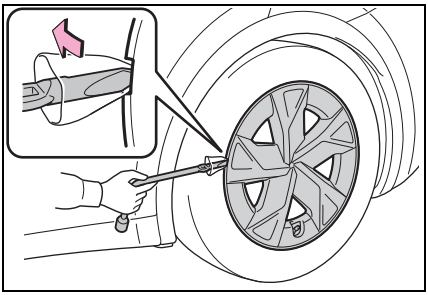
| パンクしたタイヤ | 輪止めの位置 |
|---|---|
| 左前輪 | 右側後輪うしろ |
| 右前輪 | 左側後輪うしろ |
| 左後輪 | 右側前輪前 |
| 右後輪 | 左側前輪前 |

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

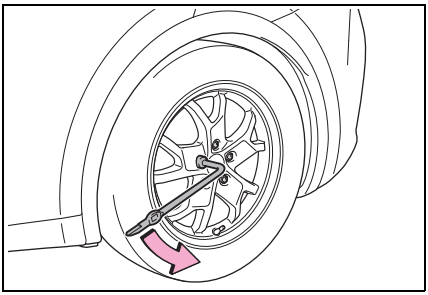
2 ホイールキャップ装着車：ホイールキャップを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してく

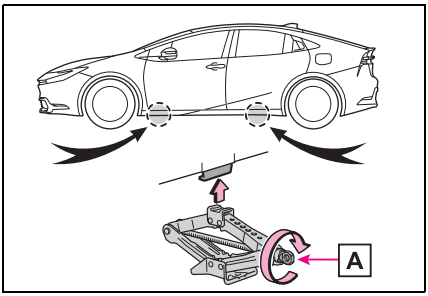
ださい。



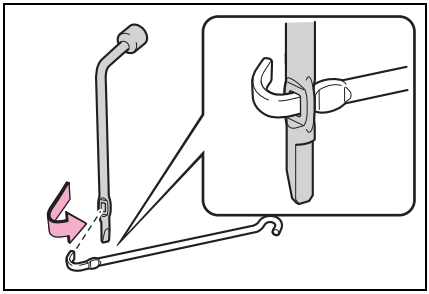
**3** ホイールナットレンチを使用し、すべてのホイールナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



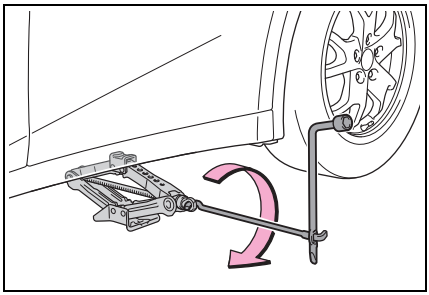
**4** ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける




**5** ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

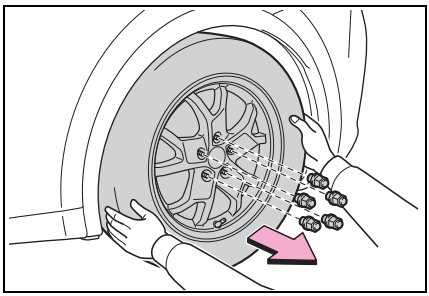


**6** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



**7** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



**警告**

**■タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

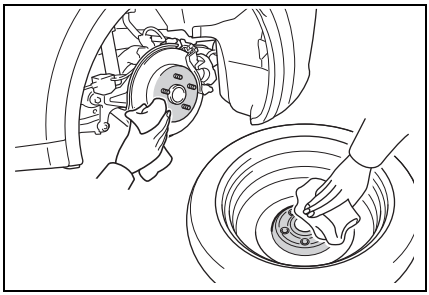
**■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について**

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.136）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

## 応急用タイヤを取り付けるには

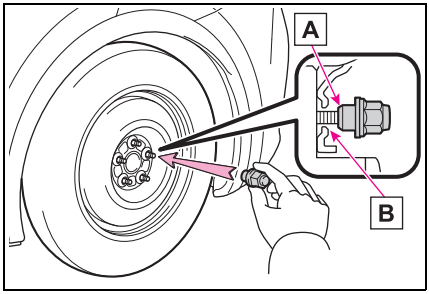
**1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



**2** 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

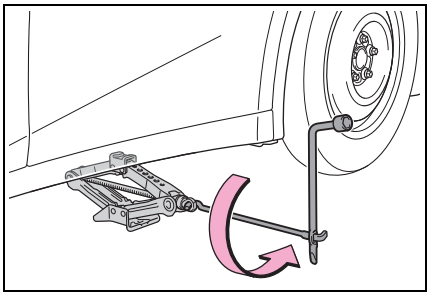
アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部（A）がホイールのシート部（B）に軽くあたるまでまわします。




A テーパー部

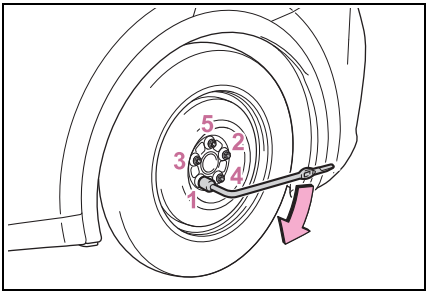
B シート部

**3** 車体を下げる



**4** 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

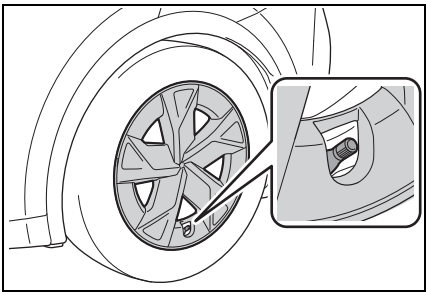
締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）




**5** ホイールキャップ装着車：車両に装着されていたホイールにもどしたときは、ホイールキャップを取り付ける ※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ 応急用タイヤに取り付けることはできません。



**6** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

**■応急用タイヤについて**

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P.510）

**■応急用タイヤを装着しているとき**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

**■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき**

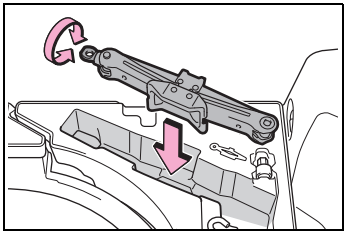
**1** 後輪を応急用タイヤと交換する

**2** パンクした前輪をはずした後輪と交換する

**3** タイヤチェーンを前輪に装着する

**■ジャッキを収納するときは**

ジャッキを収納するときは、収納場所の形状に合わせてジャッキの高さを調整してください。



**警告**

**■応急用タイヤを使用するとき**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

**警告**

**■応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・S-VSC
・TRC
・EPS
・AHB（オートマチックハイビーム）
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・レーダークルーズコントロール
・BSM（ブラインドスポットモニター）★
・ナビゲーションシステム★
・バックガイドモニター★
・パノラミックビューモニター★
・クリアランスソナー
・パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）
・LDA（レーンディパーチャーアラート）
・RSA（ロードサインアシスト）
・後方車両接近告知★
・安心降車アシスト★
・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
・トヨタチームメイトアドバンストパーク★

また、4WD システム★は、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

**注意**

**■応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

**■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

## ハイブリッドシステムが始動できないときは

**ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。**

### 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.183）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.491）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.83）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.185）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.489）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－ 30 ℃以下）可能性があります。（→P.79, 184）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

### 室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.493）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→P.429）

### 室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.493）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→P.429）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

### 緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.194）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯します。

2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチを ACC※ にする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ カスタマイズメニューから ACC カスタマイズの ON/OFF を切りかえることができます。（マルチメディアシステム装着車）

## キーをなくしたときは

**キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。**

**キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。**

注意

**■電子キーを紛失したとき**

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

## 電子キーが正常に働かないときは

**電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.139）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。**

知識

**■電子キーが正常に働かないとき**

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.515）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.138）

●電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.139）

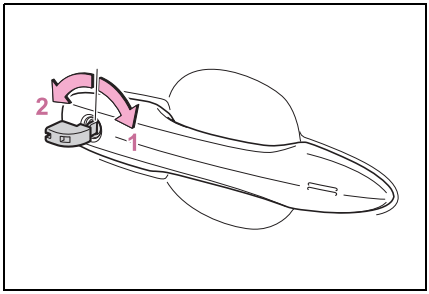
注意

**■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき**

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

### ドアを施錠・解錠するには

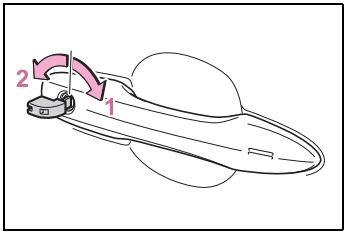
メカニカルキー（→P.116）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）




1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

知識

**■キー連動機能**




1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
2 ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

警告

**■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

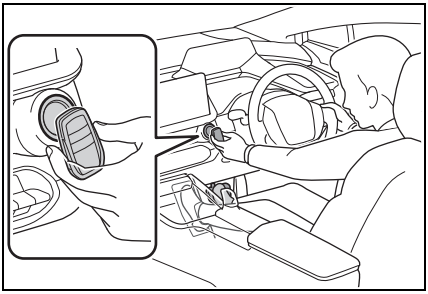
## ハイブリッドシステムを始動するには

1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

### 知識

**■ハイブリッドシステムの停止方法**

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

**■電子キーの電池交換**

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.441）

**■オートアラームについて**

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.84）

**■パワースイッチのモードの切りかえ**

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.186）

## 補機バッテリーがあがったときは

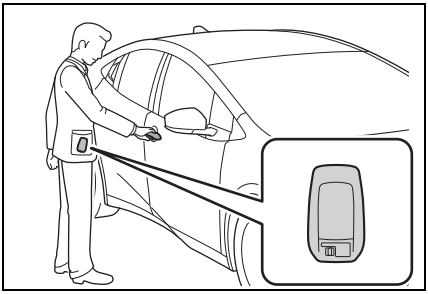
**補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。**

### ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

**1** 電子キーを携帯していることを確認する

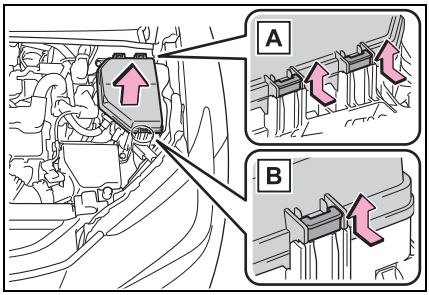
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.85）



**2** ボンネットを開ける（→P.429）

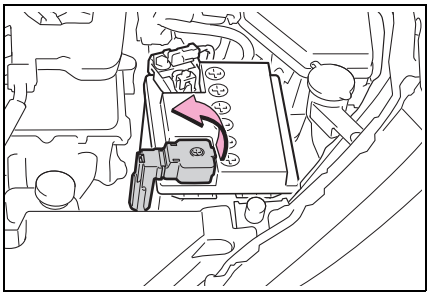
▶ M20A-FXS エンジン搭載車

ヒューズボックスのツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。

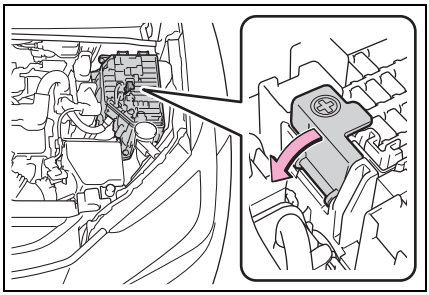



**3** 救援用端子のカバーを開ける

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



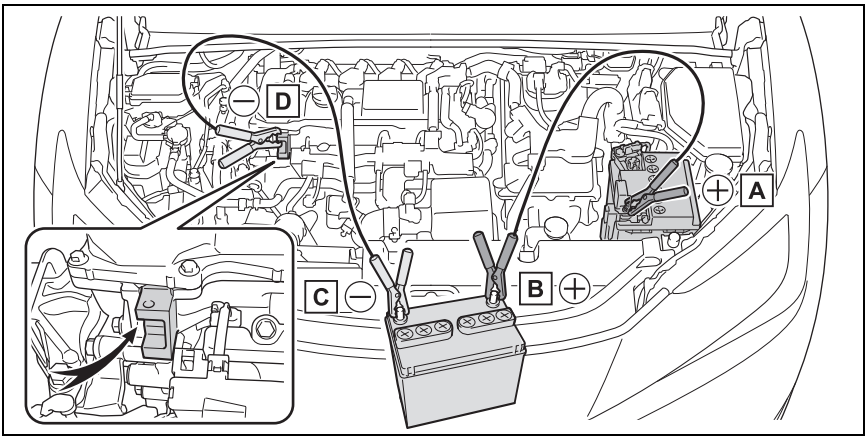
▶ M20A-FXS エンジン搭載車



**4** 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を金属部 D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



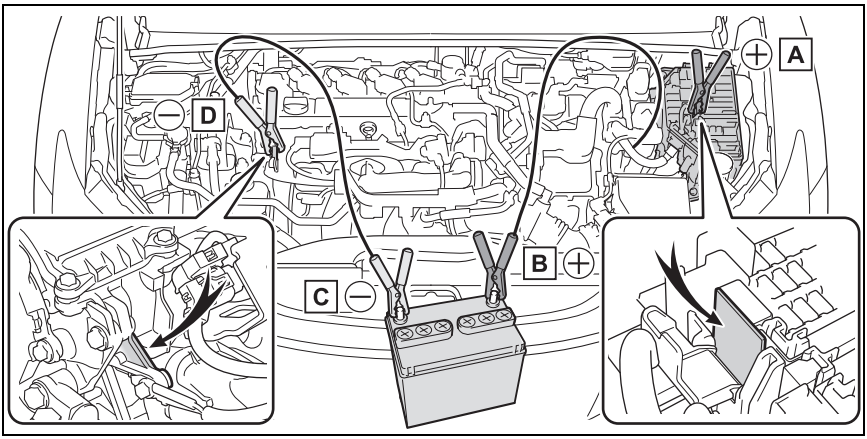

A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

▶ M20A-FXS エンジン搭載車




A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.526）

■補機バッテリー端子をはずすとき

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.429

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作でハイブリッドシステムを始動できなかった場合は、電子キーが正常に働かないときの手順（→P.492）で、始動操作を行ってください。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり

時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

■補機バッテリーを交換するとき

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（2ZR-FXE エンジン搭載車：286A、M20A-FXS エンジン搭載車：285A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。

・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

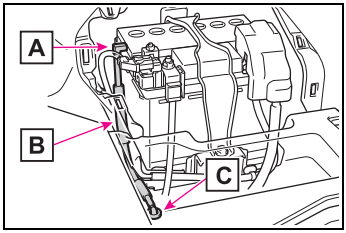
●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●M20A-FXS エンジン搭載車：交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。

・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。




A 排気穴

B 排気ホース

C 車両穴部

**警告**

■補機バッテリー端子をはずすとき

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

**警告**

- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

**■補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

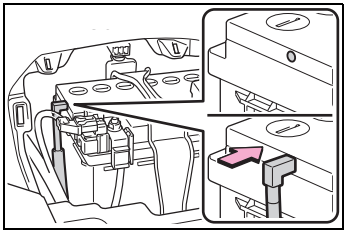
- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

**■補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

**■補機バッテリーを交換するときは**

- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- M20A-FXS エンジン搭載車：交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



**注意**

**■ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

注意

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

## オーバーヒートしたときは

**次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。**

- 高水温警告灯（→P.88, 458）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

### 対処するには

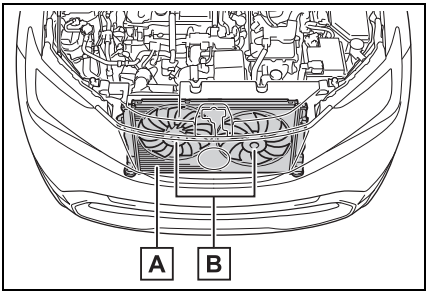
■ **高水温警告灯が点滅または点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたとき**

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

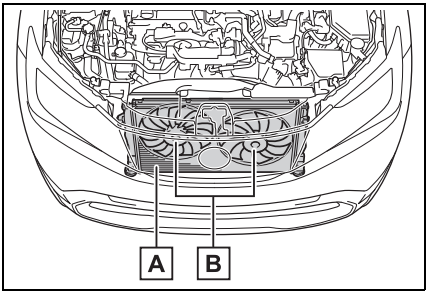
▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車




A ラジエーター

B ファン

▶ M20A-FXS エンジン搭載車



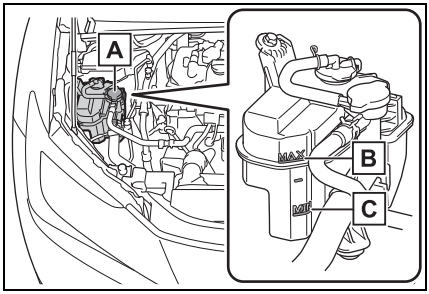

A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

**4** 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

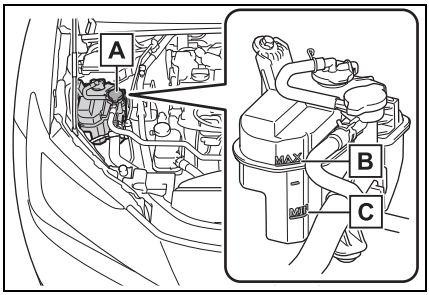



A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

▶ M20A-FXS エンジン搭載車




A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

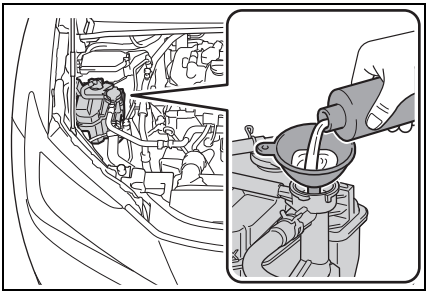
C “MIN”（下限）

**5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

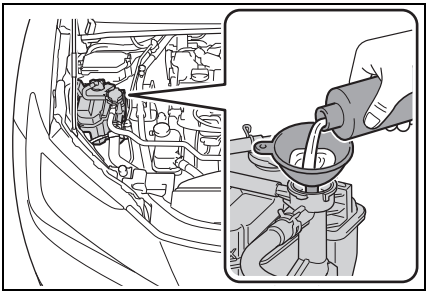
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



▶ M20A-FXS エンジン搭載車



**6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

**7** ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

**8** マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温」表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。
表示が消えてる場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

### ■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示されたとき

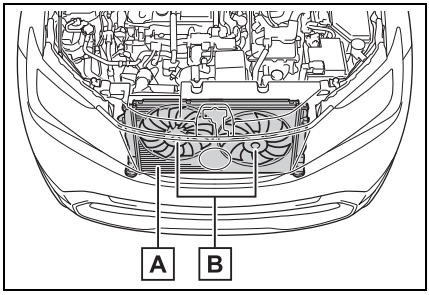
**1** 安全な場所に停車する

**2** ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

**3** ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

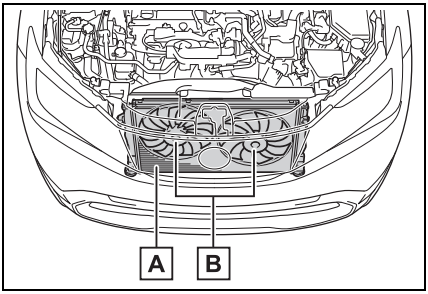
▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車




A ラジエーター

B ファン

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

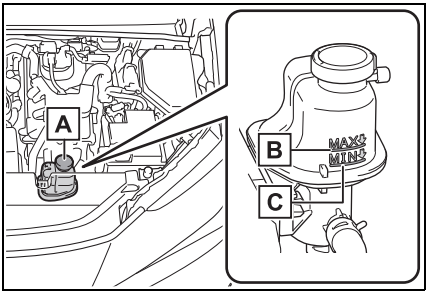



A ラジエーター

B ファン

**4** 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”/“F”（上限）と“MIN”/“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

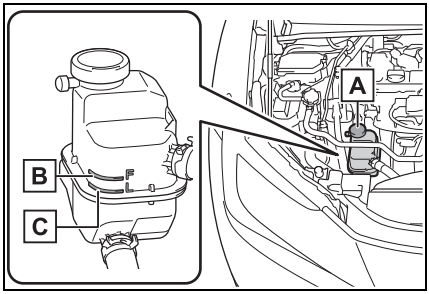



A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

▶ M20A-FXS エンジン搭載車




A リザーバータンク

B “F”（上限）

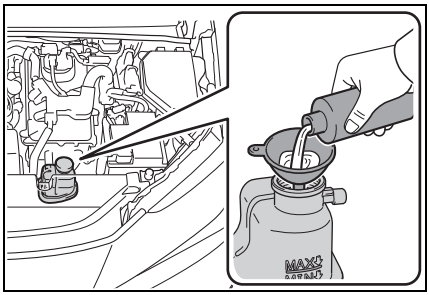
C “L”（下限）

**5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

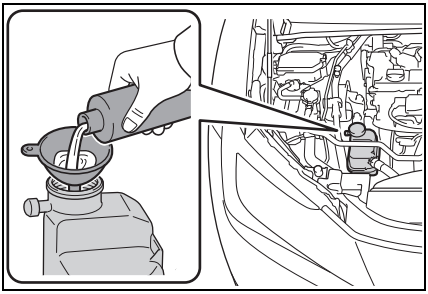
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



▶ M20A-FXS エンジン搭載車



**6** ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

**警告**

**■エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや、ラジエーターのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

**注意**

**■冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

**■冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

## スタックしたときは

**ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。**

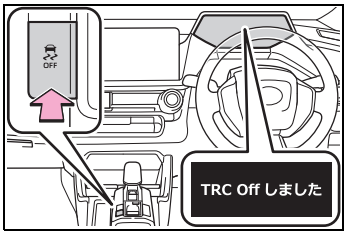
### 脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 ハイブリッドシステムを再始動する
5 シフトポジションを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

**■脱出しにくいとき**

OFF を押して TRC を OFF にしてください。




警告

**■脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

**■シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

**■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

# 車両情報 8


## 8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 506

## 8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 ..... 512

## 8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 526

# メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

**使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。**
**トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。**

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

## 燃料

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

| 指定燃料 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| ・無鉛レギュラーガソリン<br>・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ | 43 |

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

| 指定燃料 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| ・無鉛レギュラーガソリン<br>・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ | 43 |

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

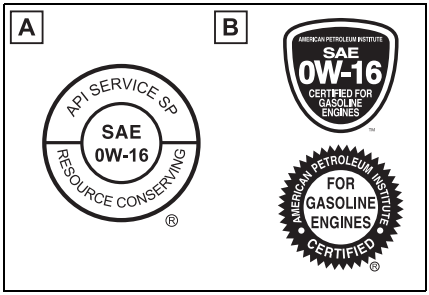
## エンジンオイル

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値※） | |
|---|---|---|
| | オイルのみ交換 | オイルとオイルフィルター交換 |
| 推奨：<br>トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16<br>ー API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16<br>適合：<br>トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20<br>ー API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20<br>トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30<br>ー API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30 | 3.9 | 4.2 |

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

### ■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

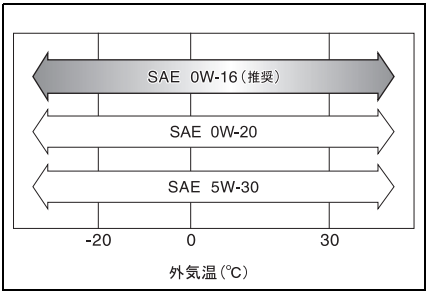



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

### ■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。




オイル粘度について（例として0W-16 で説明します）：

・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

## ラジエーター

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） | |
|---|---|---|
| | エンジン | パワーコントロールユニット |
| トヨタ純正スーパーロングライフクーラント<br>凍結保証温度<br>濃度 30%　－ 12 ℃<br>濃度 50%　－ 35 ℃ | 5.5 | 1.5 |

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） | |
|---|---|---|
| | エンジン | パワーコントロールユニット |
| トヨタ純正スーパーロングライフクーラント<br>凍結保証温度<br>濃度 30%　－ 12 ℃<br>濃度 50%　－ 35 ℃ | 6.1 | 1.6 |

## トランスミッション

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値 ※） |
|---|---|
| トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE | 3.0 |

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値 ※） |
|---|---|
| トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE | 3.7 |

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

**■トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

## リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター［4WD 車のみ］）

| 指定銘柄 | 容量［L］（参考値 ※） |
|---|---|
| トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE | 1.39 |

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

**■リヤディファレンシャルフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

## ブレーキ

### ■ ブレーキフルード

| 指定銘柄 |
|---|
| トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A |

### ■ ブレーキペダル ※1

| 項目 | 基準値 [mm] |
|---|---|
| 遊び | 1 ～ 6 |
| 踏み込んだときの床板とのすき間 ※2 | 129 |

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、ハイブリッドシステムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.458 を参照してください）

※2 ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけた

ときの床板とのすき間の最小値

### ■ パーキングブレーキ

| 項目 | パーキングブレーキ表示灯の状態 |
|---|---|
| パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき | 消灯 |
| パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき | 点灯 |

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.458 を参照してください）

## ウォッシャータンク

| 容量 [L]（参考値） |
|---|
| 4.8 |

## タイヤ・ホイール

### ■ サイズ・空気圧

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

| タイヤサイズ | | ホイールサイズ | タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm$^2$） | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 前輪 | 後輪 |
| 標準タイヤ | 195/60R17 90H | 17×6 1/2J | 250（2.5） | 240（2.4） |
| 応急用タイヤ★ | T145/90D16 106M | 16 × 4 T | 420（4.2） | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

| タイヤサイズ | | ホイールサイズ | タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm$^2$） | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 前輪 | 後輪 |
| 標準タイヤ | 195/60R17 90H | 17×6 1/2J | 250（2.5） | 240（2.4） |
| | 195/50R19 88H | 19×6 1/2J | 240（2.4） | 230（2.3） |
| 応急用タイヤ★ | T145/90D16 106M | 16 × 4 T | 420（4.2） | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ホイールナット締め付けトルク

| トルク［N・m（kgf・cm）］ | |
|---|---|
| 標準タイヤ | 103（1050） |
| 応急用タイヤ★ | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 車両仕様

| 名称 | 型式 | エンジン | 電動機型式 | | 駆動方式 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | フロント | リヤ | |
| PRIUS | ZVW60 | 2ZR-FXE（1.8L ガソリン） | 1VM | — | FF（前輪駆動） |
| | ZVW65 | | | 1WM | 4WD（4 輪駆動） |
| | MXWH60 | M20A-FXS（2.0L ガソリン） | 1VM | — | FF（前輪駆動） |
| | MXWH65 | | | 1WM | 4WD（4 輪駆動） |

## ユーザーカスタマイズ機能一覧

**お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアディスプレイ★の操作により、設定を変更することができる機能もあります。**

**一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。(→P.168)**

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 設定を変更するには

#### ■ マルチメディアディスプレイ★で設定するには

▶ アドバンストパーク以外

1 マルチメディアディスプレイの⚙にタッチする

2 “車両カスタマイズ”にタッチする

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、(作動)・(非作動)を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

▶ アドバンストパーク★

1 アドバンストパークメインスイッチを押す

2 マルチメディアディスプレイの⚙にタッチし、“Advanced Park”にタッチする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

メーター操作スイッチを使ってカスタマイズ設定を変更します。(→P.98)

1 メーター操作スイッチを操作して⚙を選択する(→P.102)

2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する

3 画面の表示に従って機能の作動内容を選択する

前の画面にもどったり設定を終了したりする場合は、メーター操作スイッチの↩を押します。

知識

**■カスタマイズ設定を行うとき**

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

**警告**

**■カスタマイズ設定を行うとき**

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

**■カスタマイズ設定を行うとき**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

## 車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアディスプレイ★で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ オートアラーム（→P.84）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除 | なし | あり | — | — | ○ |

### ■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.92, 98）

| 機能の内容 ※1 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 時計（時刻合わせ） | — | — | ○ ※2 | ○ ※3 | — |
| 時計（表示の切りかえ）※4 | 12 時間表示 | 24 時間表示 | ○ ※2 | ○ ※3 | — |
| 言語 ※4 | 日本語 | 英語 | — | ○ | — |
| 単位 | km/L | L/100km | ○ ※2 | ○ | — |
| ハイブリッドシステムインジケーター | 表示 | 非表示 | — | ○ | — |

| 機能の内容 ※1 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| EV インジケーター ※4 | あり（自動点灯） | なし | — | ○ | — |
| アクセルガイド（エコアクセルガイド）※4 | 表示 | 非表示 | — | ○ | — |
| 燃費グラフ | リセット間平均燃費 | 始動後平均燃費 | — | ○ | — |
| | | 給油後平均燃費 | | | |
| オーディオ表示★ ※4 | 表示 | 非表示 | — | ○ | — |
| 4WD 作動状態表示 ※4, 5 | 表示 | 非表示 | — | ○ | — |
| ドライブインフォタイプ ※4 | 始動後 | リセット間 | — | ○ | — |
| ドライブインフォ項目選択（上段）※4 | 走行距離 | 平均車速 | — | ○ | — |
| | | 走行時間 | | | |
| ドライブインフォ項目選択（下段）※4 | 走行時間 | 平均車速 | — | ○ | — |
| | | 走行距離 | | | |
| 割込表示 ※4 | あり | なし | — | ○ | — |
| 表示設定初期化 | — | — | — | ○ | — |
| 提案サービス ※4 | あり | あり（停車中のみ） | ○ | — | ○ |
| | | なし | | | |
| 制動灯表示灯 | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1機能についての詳しい説明は P.102 を参照してください。

※2設定は ⚙ の “共通設定” で変更できます

※3マルチメディア非装着車のみ

※4マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※5 4WD 車のみ

## ■ ドアロック（→P.491）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキーによる解錠 | 1 回で全ドア解錠 | 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 | — | — | ○ |

## ■ リヤシートリマインダー（→P.124）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| リヤシートリマインダー ※ | あり | なし | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.120, 126, 137）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 作動の合図（ブザー音量調整）※ | 標準 | 任意の音量 | ○ | — | ○ |
| 作動の合図（非常点滅灯）※ | あり | なし | ○ | — | ○ |
| 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※ | 30 秒 | 60 秒 | — | — | ○ |
| | | 120 秒 | | | |
| 半ドア警告ブザー | あり | なし | — | — | ○ |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.120, 126, 137）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| スマートエントリー＆スタートシステム | あり | なし | ○ | — | ○ |
| 解錠されるドアの選択 ※1 | 全席解錠 | 運転席のみ解錠 | ○ | — | ○ |
| 全席解錠までのドアハンドル保持時間 ※2 | 非作動 | 1.5 秒 | — | — | ○ |
| | | 2.0 秒 | — | — | ○ |
| | | 2.5 秒 | — | — | ○ |
| 連続ロック操作の有効回数 | 2 回 | 無制限 | — | — | ○ |
| 降車オートロック機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能★ | なし | あり | — | — | ○ |
| 接近時オートアンロック機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| パワースイッチ文字照明 | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

## ■ ワイヤレスドアロック（→P.114, 120, 126）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 解錠時の操作 ※ | 1 回で全ドア解錠 | 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 | ○ | — | ○ |
| ドアが施錠されている状態で🚗を操作したときのドアロック解錠作動（パワーバックドア装着車）（→P.129） | なし | あり（全ドア解錠） | — | — | ○ |
| | | あり（バックドアのみ解錠） | | | |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ パワーバックドア★（→P.129）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| パワーバックドア機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| ブザー音量 | 大 | 小 | — | ○ | — |
| | | 中 | | | |
| パワーバックドア全開時の開度 | 5 | 1 ～ 4 | — | ○ | — |
| | | お好みの位置（高さ）※3 | | | |
| 車内のスイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作 | 1 回押し続ける | 1 回押し | — | — | ○ |
| ワイヤレスリモコンの🚗を押してパワーバックドアを開くときの操作 | 1 回押し続ける | 1 回押し | — | — | ○ |
| | | 2 回押し | | | |
| | | 非作動 | | | |
| パワーバックドア作動中のブザー吹鳴 ※2 | あり | なし | — | — | ○ |
| 全閉時にバックドアオープンスイッチを押したときのバックドア開作動 | あり | なし | — | — | ○ |
| バックドアクローズアシスト | あり | なし | — | — | ○ |
| クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能 | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1マルチメディア非装着車のみ

※2作動開始時のブザーを非吹鳴にすることはできません。

※3バックドア下部のスイッチ操作で設定します。（→P.136）

## ■ パワーイージーアクセスシステム★（→P.164）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 降車時の運転席シート前後移動量 ※ | 標準 | OFF | ○ | — | ○ |
| | | 少ない | | | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ ドアミラー（→P.159）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| オート電動格納作動 | ドアの施錠・解錠と連動 | OFF | — | — | ○ |
| | | パワースイッチと連動 | | | |

## ■ パワーウインドウ（→P.161）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキー連動開機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| メカニカルキー連動閉機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動開機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動閉機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー） | あり | なし | — | — | ○ |

## ■ マイセッティング（→P.168）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| マイセッティング機能 | あり | なし | — | ○ ※ | — |
| ドライバーの切りかえ | ゲスト | ドライバー１ | ○ | ○ ※ | — |
| | | ドライバー２ | | | |
| | | ドライバー３ | | | |

※ マルチメディア非装着車のみ

## ■ ドライブスタートコントロール（→P.181）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 後退速度の抑制制御 | あり | なし ※ | — | ○ | — |

※ “なし” に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに “あり” に戻ります。

## ■ パワースイッチ（→P.186）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| ACC カスタマイズ（マルチメディア装着車のみ）<br>ACC の ON ／ OFF を切りかえる | ON ／ OFF | ○ | — | ○ |

## ■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.200）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ライトセンサーの感度調整（コンライト点灯照度）※ | より暗い | より明るい | ○ | — | ○ |
| | | 明るい | | | |
| | | 標準 | | | |
| | | 暗い | | | |
| ランプ消し忘れ防止機能 | パワースイッチを OFF にする | 運転席ドアを開ける | — | — | ○ |
| ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能 | なし | あり | — | — | ○ |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ ランプ（→P.200）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| LED デイライト★ | あり | なし | — | — | ○ |

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.222）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| プリクラッシュセーフティ ※1 | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 警報タイミング ※2 | 遅い／標準／早い | — | ○ | — |

※1パワースイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ LCA（レーンチェンジアシスト）★（→P.236）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| レーンチェンジアシスト ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.240）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| レーンディパーチャーアラート ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 警報タイミング ※ | 標準／早い | — | ○ | — |
| 警報手段 ※ | 振動／ブザー | — | ○ | — |
| 低車速支援 ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ 休憩提案（→P.240）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| 休憩提案 | ON ／ OFF | — | ○ | — |

## ■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.245）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| プロアクティブドライビングアシスト（PDA）※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 支援感度 ※ | 低い／中間／高い | — | ○ | — |
| 操舵アシスト（SA）※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 減速アシスト（DA）※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 障害物先読みアシスト（OAA）※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★（→P.251）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| フロントクロストラフィックアラート | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 注意喚起タイミング ※ | 遅い／標準／早い | — | ○ | — |

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ 発進遅れ告知機能（→P.253）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| 先行車 ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 信号 ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 告知タイミング ※ | 早い／標準／遅い | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.254）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| ロードサインアシスト ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| 速度標識超過告知方法 ※ | 無／表示／表示とブザー | — | ○ | — |
| その他の告知方法 ※ | 無／表示／表示とブザー | — | ○ | — |
| 速度超過告知車速 ※ | 10 km/h ／ 5 km/h ／ 2 km/h | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ レーダークルーズコントロール（→P.257）

| 機能の内容 | カスタマイズ設定 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| 加速度設定 ※ | 弱／中／強 | — | ○ | — |
| 速度設定（短押し）※ | 1km/h ／ 5km/h ／ 10km/h | — | ○ | — |
| 速度設定（長押し）※ | 1km/h ／ 5km/h ／ 10km/h | — | ○ | — |
| ガイド文言表示 ※ | ON ／ OFF | — | ○ | — |
| カーブ速度抑制 ※ | OFF ／弱／中／強 | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ ITS Connect★（→P.271）

| 機能の内容※ | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 信号情報 | ON | OFF | — | ○ | — |
| 道路環境情報 | ON | OFF | — | ○ | — |
| 緊急車両通知 | ON | OFF | — | ○ | — |
| 通知感度 | 高い | 低い | — | ○ | — |
| クルーズ（ITS） | ON | OFF | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 機能についての詳しい説明は P.277 を参照してください。

## ■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.278）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ブラインドスポットモニター機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| ドアミラーインジケーターの明るさ※ | 明るい | 暗い | — | ○ | — |
| 接近車両を知らせるタイミング（感度）※ | 普通 | 早い | — | ○ | — |
| | | 遅い | | | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ 後方車両接近告知★（→P.284）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 後方車両接近告知機能※ | あり | なし | — | ○ | — |
| 接近車両を知らせるタイミング（感度）※ | 中間 | 早い | — | ○ | — |
| | | 遅い | | | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ 周辺車両接近時サポート★（→P.286）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 周辺車両接近時サポート機能※ | あり | なし | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ 安心降車アシスト★（→P.294）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 安心降車アシスト機能 | ON | OFF | — | ○ | — |
| ドアミラーインジケーター表示 ※ | あり | なし | — | ○ | — |
| 接近車両検知の感度 ※ | 普通 | 高い | — | ○ | — |
| | | 低い | | | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ クリアランスソナー（→P.298）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| クリアランスソナー機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| クリアランスソナー作動時のブザー音量 ※1 | レベル 2 | レベル 1 | — | ○ | ○ |
| | | レベル 3 | | | |
| フロントセンターセンサーの検知開始距離 | 標準 | 近い | ○ ※2 | — | ○ |
| リヤセンターセンサーの検知開始距離 | 標準 | 近い | ○ ※2 | — | ○ |
| コーナーセンサーの検知開始距離 | 標準 | 近い | — | — | ○ |

※1 クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート★、リヤカメラディテクション★の音量調整は連動しています。

※2 パノラミックビューモニター装着車のみ、パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。トヨタ販売店で設定を変更した場合は、パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更することはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.307）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| リヤクロストラフィックアラート機能 | ON | OFF | — | ○ | — |
| リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2 | レベル 2 | レベル 1 | — | ○ | — |
| | | レベル 3 | | | |

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート★、リヤカメラディテクション★の音量調整は連動しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.312）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| RCD 機能 ※ | ON | OFF | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ 駐車支援音量 ※1（→P.298, 307, 312）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 駐車支援音量 ※2 | 中 | 小 | — | ○ | — |
| | | 大 | | | |

※1駐車支援音量は、クリアランスソナー、RCTA★、RCD★のブザー音の一括音量調整機能です。

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.316）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※ | ON | OFF | — | ○ | — |

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ トヨタチームメイト アドバンストパーク★（→P.332）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| Remote Park | あり | なし | ○ | — | — |
| 音声案内 | あり | なし | ○ | — | — |
| 速度モード | 標準 | 遅め | ○ | — | — |
| | | 速め | | | |
| 障害物回避距離 | 標準 | 遠い | ○ | — | — |
| 優先駐車方法 | 並列 | 縦列 | ○ | — | — |

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 優先駐車向き | バック | 前向き | ○ | — | — |
| 優先出庫方向（並列） | 左 | 右 | ○ | — | — |
| 優先出庫方向（縦列） | 右 | 左 | ○ | — | — |
| 駐車時の映像 | ノーマル | ワイド | ○ | — | — |
| 出庫時の映像 | ワイド | ノーマル | ○ | — | — |
| 駐車進路調整 | 0（中央） | -3（内側）～+3（外側） | ○ | — | — |
| 道幅調整 | 標準 | やや狭い | ○ | — | — |
| | | 狭い | | | |
| 駐車位置調整（前向き） | 0（中央） | -3（後）～+3（前） | ○ | — | — |
| 駐車位置調整（バック） | 0（中央） | -3（後）～+3（前） | ○ | — | — |
| 後部取付部品設定 | 取付なし | 10cm | ○ | — | — |
| | | 20cm | | | |
| | | 30cm | | | |
| | | 40cm | | | |
| 登録した場所の消去 | — | — | ○ | — | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.365）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| カスタムモード時のパワートレーン制御★ | NORMAL | SPORT | ○ | — | — |
| | | ECO | | | |
| カスタムモード時のステアリング制御★ | NORMAL | SPORT | ○ | — | — |
| カスタムモード時のエアコン作動★ | NORMAL | ECO | ○ | — | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ エアコン（→P.380）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※ | する | しない | ○ | — | ○ |
| 「ナノイー X」★ | ON | OFF | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

## ■ イルミネーション（→P.390）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 室内灯の消灯までの時間 ※1 | 15 秒 | OFF | ○ | — | ○ |
| | | 7.5 秒 | | | |
| | | 30 秒 | | | |
| パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能 | あり | なし | — | — | ○ |
| 解錠時の照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 接近時の照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 足元照明★ | あり | なし | — | — | ○ |
| インストルメントパネルオーナメント照明★ | あり | なし | — | — | ○ |
| イルミネーション通知★ ※2 | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2インストルメントパネルオーナメント照明が「なし」の場合、「なし」に設定されます。

### 知識

**■車両カスタマイズについて**

- “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

# 初期設定が必要な項目

**次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。**

## 設定が必要な項目

| 項目 | 初期設定が必要なとき | 参照先 |
|---|---|---|
| パワーバックドア★ | ・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時<br>・ヒューズ交換時 | P.133 |
| パワーウインドウ | 正常に働かないとき | P.161 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

# さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 528
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 530
アルファベット順さくいん ..... 532
五十音順さくいん ..... 534

# こんなときは（症状別さくいん）

**お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。**

## 施錠／解錠／ドアの開閉ができない

### キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.490）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.490）

### 施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.441）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.186）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.139）

### リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.125）

## 故障かな？と思ったら

### ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.183）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.189）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.138）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.492）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.493）

### パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.163）

### パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.186）

### 警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.530）をご確認ください。

### 警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.458、464をご確認ください。

## トラブルが発生した

### タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.472）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.482）

### 立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.503）

# 車から音が鳴ったときは（音さくいん）

**次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。**

## 車に乗るとき／降りるとき

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 解錠したとき | 盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※ | P.84 |
| ドアを開閉したとき | シフトポジションがP以外になっている | P.464 |
| | 盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※ | P.84 |
| ハイブリッドシステムを停止したとき | 電子キーの電池残量が少なくなっている | P.441 |
| 施錠しようとしたとき（施錠できないとき） | いずれかのドアが確実に閉まっていない | P.122 |
| | 電子キーを車内に置き忘れている | P.464 |

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

## 走行しているとき

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 走り出したとき | いずれかのドア・ボンネットが確実に閉まっていない | P.124 |
| | パーキングブレーキが解除されていない | P.196 |
| | シートベルトを着用していない※ | P.463 |
| ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音） | ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある | P.178 |
| 先行車に接近したとき | レーダークルーズコントロールを使用している | P.262 |
| 前方の障害物と衝突しそうになったとき | PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した | P.222 |
| 車線から逸脱しそうになったとき | LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している | P.233 |
| 制限速度より一定の速度を超過したとき | RSA（ロードサインアシスト）が作動した | P.255 |
| はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき | | |

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 障害物との距離が近付いたとき | クリアランスソナーが作動した | P.298 |
| 後退時に左右からの車を検知したとき | RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した | P.308 |
| 対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき | ITS Connect★が作動した | P.271 |
| 左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき | | |
| 赤信号の交差点に進入しそうになったとき | | |
| 緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき | | |
| 一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき | | |
| 見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき | | |
| 見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき | | |

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

# アルファベット順さくいん

**A/C**
（エアコン）.....380
**ABS**
（アンチロックブレーキシステム）
.....367
**ACA**
（アクティブコーナリングアシスト）
.....367
**AHB**
（オートマチックハイビーム）..203
**BSM**
（ブラインドスポットモニター）
.....278
**DCM**
（データコミュニケーションモジュール）.....55
**EDR**
（イベントデータレコーダー）.....9
**E-Four**
（電気式 4WD システム）.....367
**EV**
（エレクトリックビークル）.....187
**FCTA**
（フロントクロストラフィックアラート）.....251
**FF**
（フロントエンジンフロントドライブ）.....511
**ILSAC CERTIFICATION**
（イルサックサーティフィケーション）.....507
**ISOFIX**
（アイソフィックス／イソフィックス）.....41
**ITS Connect .....271**
通信利用型レーダークルーズコントロール.....263
**LCA**
（レーンチェンジアシスト）.....236
**LDA**
（レーンディパーチャーアラート）
.....240
**LED**
（ライトエミッティングダイオード）
.....446
**LTA**
（レーントレーシングアシスト）
.....231
**PCS**
（プリクラッシュセーフティ）..222
**PDA**
（プロアクティブドライビングアシスト）.....245
**PKSB**
（パーキングサポートブレーキ）
.....316
**RCD**
（リヤカメラディテクション）..312
**RCTA**
（リヤクロストラフィックアラート）
.....307
**RSA**
（ロードサインアシスト）.....254
**SRS**
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....32
**S-VSC**
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）367
**T-Connect エントリー .....55**
ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）.....58
ヘルプネットボタン.....59
**Toyota Safety Sense .....215**
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....251
LCA（レーンチェンジアシスト）
.....236

LDA（レーンディパーチャーアラート）.....240
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....245
RSA（ロードサインアシスト）254
クルーズコントロール.....266
ソフトウェアアップデートを確認する.....213
ドライバー異常時対応システム.....269
レーダークルーズコントロール.....257
発進遅れ告知機能.....253

**TRC**
（トラクションコントロール）367, 503

**VSC**
（ビークルスタビリティコントロール）.....367

# 五十音順さくいん

## あ


アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）.....493
アームレスト.....407
アウターミラー（ドアミラー）.....159
BSM（ブラインドスポットモニター）278
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....307
安心降車アシスト.....294
格納のしかた.....160
操作.....159
ミラーヒーター.....381
アクセサリーコンセント.....410
アクセサリーソケット.....400
アクセサリーモード.....186
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....367
アシストグリップ.....407
足元照明.....390
アドバンストパーク.....332
カスタマイズ設定.....362
縦列出庫機能.....349
縦列駐車機能.....346
設定.....340
中止／中断.....361
並列前向き／バック出庫機能.....345
並列前向き／バック駐車機能.....342
メモリ機能.....351
リモート機能.....356
アラーム
オートアラーム.....84
音さくいん.....530
警告ブザー.....458, 464
安心降車アシスト.....294
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....367
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯.....459
アンテナ
スマートエントリー＆スタートシステム.....137
通信モジュール（DCM）.....56


## い


イージークローザー
バックドア.....131
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....183
自動電源 OFF 機能.....186
車両を緊急停止するには.....450
モード切りかえ.....186
位置交換（タイヤローテーション）.435
イベントデータレコーダー（EDR）.....9
イモビライザーシステム.....83
イルミネーション通知.....392
イルミネーテッドエントリーシステム.....390
インジケーター（表示灯）.....89
READY.....183
ハイブリッドシステムインジケーター..94
インストルメントパネルオーナメント照明.....390
インテリアランプ.....391
インナーミラー.....150


## う


ウインカー（方向指示灯）.....193
方向指示レバー.....193
ランプの交換.....446
ウインドウ.....161
ウインドシールドデアイサー.....384
ウォッシャー.....207
パワーウインドウ.....161
リヤウインドウデフォッガー.....381
ウインドウロックスイッチ.....163

ウインドシールドデアイサー.....384
ウォーニングランプ（警告灯）.88, 458
ウォッシャー.....207
液の補充.....432
カメラウォッシャー.....207
スイッチ.....207
タンク容量.....510
冬の前の準備・点検.....375
動けなくなったときは（スタック）.503
雨滴感知式ワイパー.....207
運転.....175
雨の日の運転.....176
運転を補助する装置.....367
寒冷時の運転.....375
正しい運転姿勢.....27
手順.....175
ハイブリッド車運転のアドバイス.....373
運転支援機能情報表示画面.....101
運転席シートベルト非着用警告灯...463

## え

エアコン.....380
エコ空調モード.....382
オートエアコン.....380
曇り取り（フロントガラス）.....381
曇り取り（リヤウインドウ）.....381
「ナノイー X」.....382
フィルターの清掃.....436
エアバッグ.....32
SRS エアバッグ警告灯.....459
改造・廃棄.....37
作動条件.....33
正しい姿勢.....27
配置.....32
エコドライブモード.....365
エネルギーモニター.....108
エレクトリックパワーステアリング
（EPS）.....367
機能.....367
パワーステアリング警告灯.....460
エンジン
イモビライザーシステム.....83
エンジン警告灯.....459
オーバーヒート.....498
緊急時の停止方法.....450
ハイブリッドシステムが始動できない489
ハイブリッドシステムの始動方法.....183
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）.....183
ボンネット.....429
エンジンオイル.....507
冬の前の準備・点検.....375
メンテナンスデータ.....507
油圧警告灯.....459
容量.....507
エンジンスイッチ（パワースイッチ）.....183
自動電源 OFF 機能.....186
車両を緊急停止するには.....450
モード切りかえ.....186
エンジンフード（ボンネット）.....429
開け方.....429
警告音.....124
エンジンルーム.....429
エンジンルームから蒸気が出ている...498

## お

オイル（エンジンオイル）.....507
応急用タイヤ
空気圧.....510
交換方法.....482
オーディオ連携画面.....101
オートアラーム.....84
オートエアコン.....380
エコ空調モード.....382

曇り取り（フロントガラス）.....381
曇り取り（リヤウインドウ）.....381
「ナノイー X」.....382
フィルターの清掃.....436
オートマチックハイビーム（AHB）203
オーバーヒート.....498
オープナー
給油扉.....212
ボンネット.....429
リヤドア.....123
オープントレイ.....396
お子さまを乗せるとき.....40
ウインドウロックスイッチ.....163
お子さまの安全のために.....40
シートヒーターに関する警告.....387
シートベルトの着用.....30
ステアリングヒーターに関する警告...387
チャイルドシート.....41
チャイルドシートの取り付け.....41
チャイルドプロテクター.....125
発炎筒の取り扱いに関する警告.....450
パワーウインドウに関する警告.....162
補機バッテリーに関する警告.....497
オドメーター.....92
ODO TRIP スイッチ.....96

## か

カーテンシールドエアバッグ.....32
カードホルダー.....395
カーペット
洗浄.....426
フロアマットの取り付け方.....26
外気温度表示.....92
回生ブレーキ.....73
外装のランプ
交換.....446
ガス欠になったとき.....78
カスタマイズ機能.....512
カスタムモード.....365
型式.....511
カップホルダー.....395
カメラ
カメラウォッシャー.....207
サイドカメラ.....338
前方カメラ.....216
デジタルインナーミラー.....155
フロントカメラ.....338
リヤカメラ.....338
ガラスの曇り取り
前方カメラ取り付け部.....219
フロントウインドウガラス.....381
リヤウインドウガラス.....381
ガレージジャッキ.....431
冠水路走行.....180
寒冷時の運転.....375

## き

キー.....114
キーナンバープレート.....114
キーの構成.....114
キーレスエントリー.....116, 137
キーをなくした.....490
正常に働かない.....491
施錠・解錠ができない.....491
電子キー.....114
電池が切れた.....441, 491
ハイブリッドシステムが始動できない489
メカニカルキー.....116
ワイヤレスリモコン.....116
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム
.....137
ワイヤレスドアロック.....116
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレー

キパッドウェアインジケーター）...178
急発進の抑制制御（ドライブスタートコントロール）.....181
給油.....211
給油のしかた.....211
燃料.....506
緊急時シートベルト固定機構.....30
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）.....489
緊急時の対処
オーバーヒートした.....498
キーの電池が切れた.....441, 491
キーをなくした.....490
警告灯がついた.....458
警告メッセージが表示された.....464
けん引.....453
故障したときは.....448
車両を緊急停止する.....450
水没・冠水したときは.....451
スタックした.....503
電子キーが正常に働かない.....491
ハイブリッドシステムが始動できない489
発炎筒.....449
パンクした.....472, 482
補機バッテリーがあがった.....493
緊急通報.....62
緊急停止システム.....81
緊急ブレーキシグナル.....367

## く

空気圧（タイヤ）.....510
クーラー.....380
区間距離計（トリップメーター）.....92
ODO TRIP スイッチ.....96
駆動用電池.....72
警告メッセージ.....82
充電について.....74
搭載位置.....77
冷却用吸入口.....81, 438
曇り取り
前方カメラ取り付け部.....219
フロントデフロスター.....381
ミラーヒーター.....381
リヤウインドウデフォッガー.....381
クラクション（ホーン）.....149
クリアランスソナー.....298
クリアランスランプ（車幅灯）.....200
ランプスイッチ.....200
ランプの交換.....446
クリップ
フロアマット.....26
クルーズコントロール
クルーズコントロール.....266
レーダークルーズコントロール.....257
グローブボックス.....394

## け

警音器（ホーン）.....149
計器類（メーター）.....92
マルチインフォメーションディスプレイ.....98
メーター.....92
警告灯.....88
ABS ＆ブレーキアシスト.....459
LDA 表示灯.....460
LTA 表示灯.....460
PCS.....460
PDA 表示灯.....460
SRS エアバッグ.....459
運転支援情報表示灯.....461
エンジン.....459
クリアランスソナー OFF 表示灯.....462
クルーズコントロール表示灯.....461
高水温.....458
シートベルト非着用.....463
充電.....458

スリップ表示灯.....462
燃料残量.....463
パーキングブレーキ表示灯.....463
ハイブリッドシステム過熱.....459
パワーステアリング.....460
プリテンショナー.....459
ブレーキ.....458
ブレーキホールド作動表示灯.....462
ペダル誤操作.....462
油圧.....459
レーダークルーズコントロール表示灯461
警告ブザー
LDA.....460
LTA.....460
PCS.....460
PDA.....460
PKSB.....318
クルーズコントロール.....461
高水温.....458
シートベルト非着用.....463
車線逸脱警報（LDA）.....240
衝突警報（PCS）.....222
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....262
手放し運転警告（LCA）.....237
手放し運転警告（LDA）.....242
手放し運転警告（LTA）.....233
手放し運転警告（PDA）.....250
パーキングブレーキ未解除走行時.....196
ハイブリッドシステム過熱.....459
パワーステアリング.....460
半ドア.....122
半ドア走行時.....124
ブレーキ.....458
ブレーキホールド.....462
ボンネット開.....124
油圧.....459
リバース.....191
レーダークルーズコントロール.....461
警告メッセージ.....464
警告メッセージ表示画面.....107
化粧ミラー（バニティミラー）.....400
けん引
けん引のしかた.....453

## こ

交換
キーの電池.....441
タイヤ.....482
ヒューズ.....443
ランプ.....446
工具（ツール）.....473, 483
降車オートロック機能.....120
航続可能距離.....94, 99, 110
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）.....181
後退灯（バックアップランプ）
ランプの交換.....446
高電圧部位.....77
後方車両接近通知.....284
作動条件.....285
後方車両への接近警報.....290
コーションラベル.....77
コンセント
アクセサリーコンセント.....410
非常時給電システム.....410
コンソールボックス.....394
コンライト（自動点灯・消灯装置）.200

## さ

サービスプラグ.....77
サイドエアバッグ.....32
サイドドア.....120
サイドトレイ.....396
サイド方向指示灯.....193

方向指示レバー.....193
ランプの交換.....446
サイドミラー（ドアミラー）.....159
BSM（ブラインドスポットモニター）278
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
.....307
安心降車アシスト.....294
格納のしかた.....160
操作.....159
ミラーヒーター.....381
三角表示板（停止表示板）
収納スペース.....398
サンシェード.....408
サンバイザー.....400

## し

シート.....143, 144
シートヒーター.....388
シートベンチレーター.....388
正しい運転姿勢.....27
チャイルドシート.....41
調整.....143
手入れ.....426
パワーイージーアクセスシステム.....164
ヘッドレスト.....146
ポジションメモリー.....165
メモリーコール機能.....166
シートヒーター.....388
シートベルト.....29
お子さまの着用.....29, 30
緊急時シートベルト固定機構.....30
高さ調節.....31
正しく着用するには.....30
着け方・はずし方.....30
手入れ.....426
妊娠中の方の着用.....29
非着用警告灯.....463
シートベルト非着用警告灯.....463
シートベルトプリテンショナー.....31
機能.....31
プリテンショナー警告灯.....459
シートベンチレーター.....388
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....79
室内灯.....390
始動のしかた.....183
シフトポジション.....189
シフトレバー.....189
シフトポジションの切りかえ.....190
シフトレバー照明.....390
操作.....190
リバース警告ブザー.....191
締め付けトルク（ホイール）..486, 511
ジャッキ
ガレージジャッキ.....431
車載ジャッキ.....473, 483
ジャッキハンドル.....473, 483
車幅灯.....200
ランプスイッチ.....200
ランプの交換.....446
車両型式.....511
車両仕様（スペック）.....506
車両情報表示画面.....101
車両接近通報装置.....75
車両を緊急停止するには.....450
充電用 USB Type-C 端子.....401
収納装備.....393
周辺車両接近時サポート.....286
作動条件.....288
瞬間燃費.....99, 110
仕様（車両仕様）.....511
初期設定.....526
パワーウインドウ.....161
パワーバックドア.....133
助手席シートベルト非着用警告灯...463

信号切替り告知機能 .....253

## す

水温計.....92
スイッチ
AC100V .....410
EV ドライブモード .....187
LTA.....233
ODO TRIP.....96
P ポジション.....190
TRC OFF.....368
VSC OFF.....368
イグニッション.....183
インテリアランプ.....391
ウインドウロック.....163
ウインドシールドデアイサー .....384
ウォッシャー.....207
エアコン操作.....380
オートマチックハイビーム .....203
カメラウォッシャー.....207
給油扉オープナー.....212
クルーズコントロール.....266
シート調整 .....143
シートヒーター.....388
シートベンチレーター.....388
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....260
ステアリング.....409
ステアリングヒーター.....388
デジタルインナーミラー .....151
ドアミラー .....159
ドアロック .....123
ドライブモードセレクト .....365
パーキングブレーキ.....194
パーソナルランプ.....391
ハザードランプ.....449
バックドアオープン .....128, 130
パワー .....183
パワーウインドウ.....161
パワーバックドア.....129
非常点滅灯（ハザードランプ）.....449
ブレーキホールド.....197
ヘルプネットボタン .....59
方向指示レバー.....193
ホーン（警音器）.....149
ポジションメモリー.....165
メーター操作.....98
ランプ .....200
リヤウインドウデフォッガー.....380
リヤドア開.....123
リヤフォグランプ.....206
レーダークルーズコントロール257, 260
ワイパー .....207
ワイヤレス充電器.....402
スタック.....503
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.367
ステアリングヒーター .....388
ステアリングホイール（ハンドル）.149
位置調整 .....149
スイッチ .....409
ステアリングヒーター .....388
メーター操作スイッチ .....98
ストップランプ（制動灯）
表示灯 .....89
ランプの交換.....446
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....375
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 .....433, 510
交換方法 .....482
スペック（車両仕様）.....506
スポーツモード.....365
スマートエントリー＆スタートシステム .....137
アンテナの位置.....137
カスタマイズ設定.....512

緊急始動機能.....489
警告メッセージ.....464
作動範囲.....138
正常に働かないとき.....491
節電機能.....138
電波がおよぼす影響について.....142
ドアの解錠・施錠.....120
ハイブリッドシステムの始動.....183
バックドアの解錠・施錠.....127
スモールランプ（車幅灯）.....200
ランプスイッチ.....200
ランプの交換.....446

## せ

清掃
アルミホイール.....422
外装.....422
シートベルト.....426
内装.....426
フロントグリル.....424
レーダーセンサー.....217, 279
制動灯
表示灯.....89
ランプの交換.....446
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）.....292
セカンダリーコリジョンブレーキ...368
積算距離計（オドメーター）.....92
ODO TRIP スイッチ.....96
セキュリティインジケーター.....83, 84
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....262
設定画面.....102
先行車発進告知機能.....253
センサー
雨滴感知センサー.....209
クリアランスソナー.....298
後側方レーダー.....216
後方車両接近通知.....279
周辺車両接近時サポート.....279
前側方レーダー.....216
前方カメラ.....216
前方レーダー.....216
デジタルインナーミラー.....154
ドアハンドル.....120
パワーバックドア.....132
ライトセンサー.....201
洗車.....422
前照灯（ヘッドランプ）.....200
手動光軸調整ダイヤル.....203
ライトセンサー.....201
ランプ消し忘れ防止機能.....202
ランプスイッチ.....200
ランプの交換.....446

## そ

走行距離.....101
走行時間.....101
走行情報表示画面.....99
走行モード（ドライブモード）.....365

## た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）.....193
方向指示レバー.....193
ランプの交換.....446
タイヤ.....433
応急用タイヤ.....482
空気圧.....435
交換.....433, 482
チェーン.....375
低偏平タイヤ.....433
点検.....433
パンクしたときは.....472, 482
パンク応急修理キット.....472

冬用タイヤ ..... 375
ホイールサイズ ..... 510
ローテーション（位置交換）..... 435
タイヤが空まわりする（スタックした）
..... 503
タイヤチェーン ..... 375

## ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 375
チケットホルダー ..... 396
チャイルドシート ..... 41
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け52
シートベルトでの固定 ..... 50
選択方法 ..... 41
チャイルドプロテクター ..... 125
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
..... 194
操作 ..... 194
冬季の注意 ..... 376
パーキングブレーキ表示灯 ..... 463
ブレーキ警告灯 ..... 458
未解除走行時警告ブザー ..... 196
メンテナンスデータ ..... 510

## つ

通信利用型レーダークルーズコントロール ..... 263
ツール（工具）..... 473, 483

## て

提案サービス機能 ..... 107
停止表示板（三角表示板）
収納スペース ..... 398
ディスプレイ
クルーズコントロール ..... 266
マルチインフォメーションディスプレイ
..... 98
低偏平タイヤ ..... 433
デイライト ..... 201
手入れ ..... 422, 426
アルミホイール ..... 422
外装 ..... 422
シートベルト ..... 426
デジタルインナーミラー ..... 155
内装 ..... 426
フロントグリル ..... 424
レーダーセンサー ..... 217, 279
テールランプ（尾灯）..... 200
ランプスイッチ ..... 200
ランプの交換 ..... 446
デジタルインナーミラー ..... 151
デジタルキー ..... 117
デッキフック（荷物固定用フック）. 397
デッキボード ..... 397
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 381
電気式 4WD システム（E-Four）.... 367
電気モーター ..... 72
点検基準値（メンテナンスデータ）. 506
電子キー ..... 114
作動範囲 ..... 138
正常に働かないとき ..... 491
節電機能 ..... 138
電池が切れた ..... 441
電池交換（キー）..... 441
電動パーキングブレーキ ..... 194
操作 ..... 194
冬季の注意 ..... 376
パーキングブレーキ表示灯 ..... 463
ブレーキ警告灯 ..... 458
未解除走行時警告ブザー ..... 196

## と


ドア ..... 120, 126
降車オートロック機能 ..... 120
スマートエントリー＆スタートシステム ..... 137
チャイルドプロテクター ..... 125
ドアガラス ..... 161
ドアロックスイッチ ..... 123
バックドア ..... 126
ロックレバー ..... 123
ワイヤレスリモコン ..... 120
ドアミラー ..... 159
BSM（ブラインドスポットモニター）278
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 307
安心降車アシスト ..... 294
格納のしかた ..... 160
操作 ..... 159
ミラーヒーター ..... 381
盗難防止装置
イモビライザーシステム ..... 83
オートアラーム ..... 84
時計 ..... 92, 97
トップテザーアンカレッジ ..... 53
ドライバー異常時対応システム ..... 269
ドライビングポジション ..... 164
ドライブスタートコントロール ..... 181
急発進の抑制制御 ..... 181
後退速度の抑制制御 ..... 181
ドライブモードセレクトスイッチ ... 365
トラクションコントロール（TRC）. 367
トランスミッション ..... 189
操作 ..... 190
メンテナンスデータ ..... 508
トリップメーター ..... 92
ODO TRIP スイッチ ..... 96


## な


内装
収納装備 ..... 393
手入れ ..... 426
「ナノイー X」..... 382


## に


ニーエアバッグ ..... 32
荷物
積むときの注意 ..... 182
デッキフック ..... 397
荷室内装備 ..... 397


## ぬ


ぬかるみにはまった（スタック）..... 503


## ね


燃費
エネルギーモニター ..... 108
瞬間燃費 ..... 99, 110
燃費グラフ ..... 99
燃費情報 ..... 99, 110
平均燃費 ..... 99, 110
燃料 ..... 506
給油 ..... 211
種類 ..... 506
燃料残量警告灯 ..... 463
容量 ..... 506
燃料計 ..... 92


## の


ノーマルモード ..... 365

## は


パーキングサポートブレーキ（PKSB）.....316
後方接近車両.....324
後方歩行者.....325
前後方静止物／周囲静止物.....321
パーキングブレーキ.....194
操作.....194
冬季の注意.....376
パーキングブレーキ表示灯.....463
ブレーキ警告灯.....458
未解除走行時警告ブザー.....196
メンテナンスデータ.....510
パーソナルランプ.....391
排気ガス.....38
ハイビーム（ヘッドランプ）.....202
AHB（オートマチックハイビーム）.....203
ランプスイッチ.....200, 202
ランプの交換.....446
ハイブリッドシステム.....72
EV ドライブモード.....187
運転のアドバイス.....373
エネルギーモニター.....108
オーバーヒート.....498
回生ブレーキ.....73
ガス欠になったとき.....78
緊急始動機能.....489
緊急時の停止方法.....450
緊急停止システム.....81
駆動用電池冷却用吸入口.....81, 438
高電圧部位.....77
サービスプラグ.....77
事故が発生したとき.....79
始動できないときは.....489
始動方法.....183
車両接近通報装置.....75
充電.....74
注意.....77
特徴.....72
特有の音と振動.....74
ドライブスタートコントロール.....181
パワー（イグニッション）スイッチ.....183
ブレーキオーバーライドシステム.....176
補機バッテリーがあがった.....493
メンテナンス・修理・廃車するとき.....75
ハイブリッドシステムインジケーター.....94
ハイマウントストップランプ
ランプの交換.....446
ハザードランプ（非常点滅灯）.....449
緊急ブレーキシグナル.....367
スイッチ.....449
ランプの交換.....446
挟み込み防止機能
パワーイージーアクセスシステム.....165
パワーウインドウ.....161
パワーバックドア.....132
ポジションメモリー.....165
メモリーコール機能.....167
発炎筒.....449
バックアップランプ（後退灯）
ランプの交換.....446
バックドア.....126
イージークローザー.....131
オープンスイッチ.....128, 130
バックドアが開かないとき.....128, 133
バックドアハンドル.....131
パワーバックドア.....129
ラゲージルームランプ.....128, 131
発進遅れ告知機能.....253
バッテリー（駆動用電池）
警告メッセージ.....82
充電について.....74
搭載位置.....77
冷却用吸入口.....81, 438

バッテリー（補機バッテリー）
充電警告灯 ..... 458
搭載位置 ..... 493
補機バッテリーがあがった ..... 493
補機バッテリーを交換する ..... 496
バニティ（化粧用）ミラー ..... 400
バニティミラーランプ ..... 400
パワーイージーアクセスシステム ... 164
パワーウインドウ ..... 161
ウインドウロックスイッチ ..... 163
閉めることができないときは ..... 161
操作 ..... 161
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ... 162
挟み込み防止機能 ..... 161
巻き込み防止機能 ..... 161
パワーコントロールユニット ..... 77
パワースイッチ ..... 183
自動電源 OFF 機能 ..... 186
車両を緊急停止するには ..... 450
モード切りかえ ..... 186
パワーステアリング ..... 367
EPS ..... 367
パワーステアリング警告灯 ..... 460
パワーバックドア ..... 129
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能 ..... 130
パワーバックドアスイッチ ..... 129
パワーモード ..... 365
パンクした
応急用タイヤ装着車 ..... 482
タイヤパンク応急修理キット装着車 ... 472
番号灯（ライセンスプレートランプ）
..... 200
ランプスイッチ ..... 200
ランプの交換 ..... 446
ハンドル（ステアリングホイール）. 149
位置調整 ..... 149
ステアリングヒーター ..... 388
メーター操作スイッチ ..... 98

## ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）..... 367
ヒーター
オートエアコン ..... 380
シートヒーター ..... 388
ステアリングヒーター ..... 388
前方カメラ ..... 219
ミラーヒーター ..... 381
非常時給電システム ..... 410
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 449
緊急ブレーキシグナル ..... 367
スイッチ ..... 449
ランプの交換 ..... 446
尾灯（テールランプ）..... 200
表示灯 ..... 89
ランプスイッチ ..... 200
ランプの交換 ..... 446
ヒューズ ..... 443
表示灯 ..... 89
日よけ（サンバイザー）..... 400
ヒルスタートアシストコントロール 367

## ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 ..... 493
フォグランプ ..... 206
スイッチ ..... 206
ランプの交換 ..... 446
ブザー
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 251
PKSB ..... 318
RCD（リヤカメラディテクション）.... 313
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 308

音さくいん ..... 530
休憩提案機能（LDA）..... 241
クリアランスソナー ..... 303
高水温 ..... 458
シートベルト非着用警告 ..... 463
車線逸脱警報機能（LDA）..... 240
衝突警報（PCS）..... 222
スマートエントリー＆スタートシステム ..... 138
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 262
手放し運転警告（LCA）..... 237
手放し運転警告（LDA）..... 242
手放し運転警告（LTA）..... 233
手放し運転警告（PDA）..... 250
ドライバー異常時対応システム..... 269
パーキングブレーキ未解除走行時警告196
発進遅れ告知機能..... 253
パワーステアリング ..... 460
パワーバックドア ..... 129
半ドア警告 ..... 122
半ドア走行時警告..... 124
ブレーキ ..... 458
ブレーキホールド..... 462
油圧 ..... 459
リバース警告..... 191
フック
デッキフック..... 397
フロアマット固定フック ..... 26
フューエルリッド（給油口）..... 211
給油のしかた..... 211
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 375
冬用タイヤ..... 375
ブラインドスポットモニター（BSM）..... 278
プラスサポート ..... 327
プリクラッシュセーフティ（PCS）222
PCS 警告灯 ..... 460
機能 ..... 222
ブレーキ
回生ブレーキ..... 73
緊急ブレーキシグナル ..... 367
パーキングブレーキ ..... 194
ブレーキ警告灯..... 458
ブレーキホールド..... 197
メンテナンスデータ ..... 509
ブレーキアシスト ..... 367
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯..... 459
機能 ..... 367
ブレーキオーバーライドシステム ... 176
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる ..... 178
ブレーキフルード ..... 509
ブレーキホールド ..... 197
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）..... 245
フロアマット..... 26
フロントクロストラフィックアラート（FCTA）..... 251
フロントシート..... 143
シートヒーター..... 388
シートベンチレーター ..... 388
正しい運転姿勢..... 27
調整 ..... 143
手入れ ..... 426
パワーイージーアクセスシステム..... 164
ヘッドレスト..... 146
ポジションメモリー ..... 165
メモリーコール機能 ..... 166
フロントドア..... 120
フロント方向指示灯 ..... 193
方向指示レバー..... 193
ランプの交換..... 446

## へ


平均車速.....99, 101, 110
平均燃費.....99, 110
ヘッドランプ.....200
手動光軸調整ダイヤル.....203
ライトセンサー.....201
ランプ消し忘れ防止機能.....202
ランプスイッチ.....200
ランプの交換.....446
ヘッドレスト.....146
ヘルプネット.....58
表示灯.....66
保守点検.....64
ベンチレーター（シートベンチレーター）
.....388


## ほ


ホイール
交換（タイヤ）.....482
メンテナンスデータ.....510
ホイールナットレンチ.....473, 483
方向指示灯.....193
方向指示レバー.....193
ランプの交換.....446
ホーン（警音器）.....149
補機バッテリー
充電警告灯.....458
搭載位置.....429
補機バッテリーがあがった.....493
補機バッテリーを交換する.....496
ポジションメモリー.....165
保証.....10
ボトルホルダー.....395
ボンネット（エンジンフード）.....429
開け方.....429
警告音.....124


## ま


マイセッティング.....168
巻き込み防止機能
パワーウインドウ.....161
マルチインフォメーションディスプレイ
.....98
運転支援機能情報表示.....101
エネルギーモニター.....108
オーディオ連携.....101
警告メッセージ.....464
車両情報表示.....101
設定.....102
走行情報表示.....99
提案サービス機能.....107
時計.....97
ドライブインフォメーション.....101
メーター操作スイッチ.....98
メニューアイコン.....99


## み


ミラー
インナーミラー.....150
デジタルインナーミラー.....151
ドアミラー.....159
バニティミラー.....400
ミラーヒーター.....381


## め


メーター（計器類）.....92
ODO TRIP スイッチ.....96
警告灯.....88, 458
警告メッセージ.....464
ハイブリッドシステムインジケーター..94
表示灯.....89
マルチインフォメーションディスプレイ
.....98

メーター操作スイッチ ..... 98
メカニカルキー ..... 116
メニューアイコン ..... 99
メモリーコール機能 ..... 166
メンテナンスデータ ..... 506

## も

モーター（電気モーター）..... 77
モーターでの走行（EV ドライブモード）
..... 187

## ゆ

ユーザーカスタマイズ機能..... 512
雪道ですべって動けない（スタックした）
..... 503
油脂類..... 506

## ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
..... 200
ランプスイッチ..... 200
ランプの交換..... 446
ラゲージルーム ..... 397
ラゲージルームランプ..... 128, 131
ラジエーター
オーバーヒート..... 498
メンテナンスデータ ..... 508
ランプ
AHB（オートマチックハイビーム）.... 203
インテリアランプ..... 391
交換 ..... 446
室内灯 ..... 390
パーソナルランプ..... 391
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 449
ヘッドランプ（前照灯）..... 200
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 193
ライトセンサー..... 201
ラゲージルームランプ ..... 128, 131
ランプ消し忘れ防止機能 ..... 202
ランプスイッチ..... 200
リヤフォグランプ..... 206
ランプ消し忘れ防止機能..... 202

## り

リヤアームレスト ..... 407
リヤウインドウデフォッガースイッチ
..... 381
リヤカメラデテクション（RCD）.... 312
リヤシート..... 144
背もたれの前倒し ..... 144
ヘッドレスト..... 146
リヤシートリマインダー機能..... 124
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ... 463
リヤドア..... 120
チャイルドプロテクター ..... 125
ドア開スイッチ..... 123
リヤシートリマインダー機能..... 124
リヤフォグランプ ..... 206
スイッチ ..... 206
ランプの交換..... 446
リヤ方向指示灯 ..... 193
方向指示レバー..... 193
ランプの交換..... 446

## る

ルームミラー（インナーミラー）..... 150

## れ

冷却水
冬の前の準備..... 375
メンテナンスデータ ..... 508

冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート.....498
メンテナンスデータ.....508
レーダークルーズコントロール.....257
接近警報.....262
レーダー.....216
レーンチェンジアシスト（LCA).....236
レーンディパーチャーアラート（LDA）
.....240
レーントレーシングアシスト（LTA）
.....231
レバー
シフト.....189
ハンドル位置調整.....149
方向指示.....193
ボンネット解除.....429
ロック（ドア）.....123
ワイパー.....207

## ろ

ロードサインアシスト（RSA).....254
ロック
ウインドウロック.....163
スマートエントリー＆スタートシステム
.....137
チャイルドプロテクター.....125
ドア.....120
バックドア.....127
ワイヤレスリモコン.....116

## わ

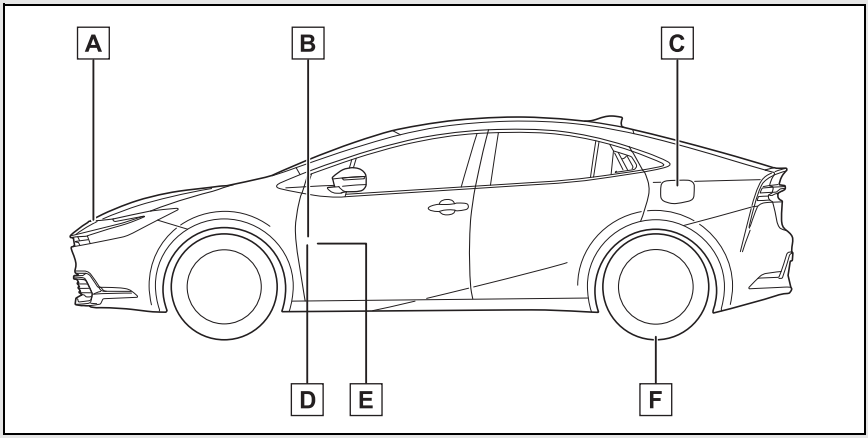
ワイパー＆ウォッシャー.....207
ウォッシャー液の補充.....432
カメラウォッシャー.....207
フロント.....207
ワイパーブレード（寒冷地用）.....376
ワイヤレス充電器.....402
ワイヤレスリモコン.....116
作動の合図.....122
操作.....116
電池の交換.....441
半ドア警告ブザー.....122
ワックス.....422

**次の装備は、「マルチメディア取扱書」をお読みください。**

- 音声対話サービス
- ナビゲーション
- オーディオシステム
- ハンズフリー電話
- T-Connect
- バックガイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ETC2.0 システム
- ドライブレコーダー

## ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。




A ボンネットフック（→P.429）

B パワーバックドアスイッチ★（→P.129）

C 給油口（→P.212）

D 給油扉オープナースイッチ（→P.212）

E ボンネット解除レバー（→P.429）

F タイヤ空気圧（→P.510）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| | |
|---|---|
| 燃料の容量（参考値） | 43L |
| 燃料の種類 | ・無鉛レギュラーガソリン<br>・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※<br>※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22 %以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。 |
| タイヤが冷えているときの空気圧 | P.510 |
| エンジンオイル容量（参考値） | オイルのみ交換時：3.9L<br>オイルとオイルフィルター交換時：4.2L |
| エンジンオイルの種類 | トヨタ純正モーターオイル<br>推奨：<br>・SP 0W-16 (API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16)<br>適合：<br>・SP 0W-20 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20)<br>・SP 5W-30 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30) |

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

**トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター**

**全国共通・フリーコール**

**0800-700-7700**

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

**所在地　〒450－8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号**

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

**トヨタ自動車株式会社**
**https://toyota.jp**

TOYOTA

M 47E40V
2023年 1 月26日
2023年10月16日　2
プリウス